

西ノ辻遺跡第27次・鬼虎川遺跡第32次
発掘調査報告書

1994

財団法人 東大阪市文化財協会

は し が き

大阪府と奈良県を結ぶ幹線道路は、北から国道163号線、府道大阪生駒奈良線(通称阪奈道路)、国道308号線などがありますが、交通渋滞が頻繁に発生したり、狭い山間道路で自動車の対向が困難であるなどの問題があり、大阪都心部及び東大阪市と奈良県北部を最短距離で結ぶ新道路が切望されていました。さらに、新道路は、関西新空港、関西文化学術研究都市へのアクセス道路としての機能を果たすことなど、両府県にとって産業・経済の発展に大きな役割を担うことが期待されています。

しかし、新道路予定地には神並遺跡、西ノ辻遺跡、鬼虎川遺跡など、縄文時代から歴史時代(江戸時代)まで断続的に営まれてきた集落跡が存在するため、本協会が発掘調査を実施することとなりました。

その結果、昭和63年度の神並遺跡の調査では、古墳時代後期のミニチュア土器、滑石製模造品など祭祀関係の遺物、鍛冶関係の遺物、13世紀～15世紀の溝、土坑、井戸、柱穴などが多数検出され、当該期の神並遺跡を考える大きな手がかりを得ることができました。

平成元年・2年度は、西ノ辻遺跡と鬼虎川遺跡について実施いたしました。西ノ辻遺跡では、弥生時代から古墳時代の旧河道、弥生時代の土器棺、歴史時代の土坑、柵列、鋤跡を、鬼虎川遺跡では旧石器時代の河道、縄文時代の埋没海岸線、弥生時代中期の溝、方形周溝墓9基、土器棺墓2基、土壙墓5基、古墳時代の土坑3基、溝、方形周溝、歴史時代の鋤跡、水路などを検出しました。

特に鬼虎川遺跡の弥生時代の墓については層位的に確認することができ、埋葬方法などとともに、鬼虎川遺跡における埋葬形態、墓地の築造方法などの推移を推定できる一資料となりました。これらの成果が弥生時代研究の一助となるとともに、広く活用されることを願うものであります。

最後に、調査および報告書作成にあたってご協力・ご指導をいただいた方々、関係諸機関に感謝の意を表するとともに、本書が歴史学研究のみならず、文化財保護普及の冊子としても活用されることを切に願うものであります。

平成6年3月31日

財団法人東大阪市文化財協会
理事長 新庄孝臣

例 言

1. 本書は、財団法人東大阪市文化財協会が大阪府道路公社の委託を受けて平成元年・2年度に実施した、第二阪奈有料道路建設工事に伴う西ノ辻遺跡第27次・鬼虎川遺跡第32次発掘調査の概要報告書である。
2. 現地調査は、西ノ辻遺跡第27次調査が平成元年6月26日から8月11日まで、鬼虎川遺跡第32次調査が平成元年11月7日から平成2年11月6日まで実施した。

3. 調査・整理は以下の事務局体制のもとに進めた。(平成6年3月1日現在)

理事長 新庄孝臣 (東大阪市教育委員会教育長)
常務理事 西脇 実
事務局長 巽 信二 (東大阪市教育委員会文化財課長)
庶務部長 吉川正光 (東大阪市教育委員会文化財課長代理)
調査部長 原田 修 (東大阪市教育委員会文化財課主幹)
調査部 松田順一郎(副部長) 上野節子
庶務部 大林 亨 朝田直美 村田周亮

4. 現地調査および整理は、以下の者があたった。

調査・整理担当 勝田邦夫 (東大阪市立郷土博物館主任) 曾我恭子
調査補助 上田佳世 奥田千愛 大庭みゆき 治川政美 佐藤武 和田英郎 中切孝彦
中村真 木村功 岡野明広 東舎利樹 小路克子 西川昌宏 瀬川天伸王 森井孝治
楫野優子 千葉真弓 米田正雄 板倉悦子 辻本美樹 一ノ瀬琴美 豊田容子 石橋健一
植村雅典 山本祐子 渡辺政子 木下美佐 浅山清香 八田圭司 水潤俊広 田中かをる
李隆司 竹内紀子 藤崎博子 武智あゆみ 堀智美

5. 本書は、遺構を勝田、遺物を曾我が執筆し、編集は本田けい子、藤井文子の協力を得た。
6. 第VI章は大阪市立大学医学部解剖学第二講座 多賀谷 昭氏より玉稿を賜った。

大阪市立自然史博物館第四紀研究室 那須孝悌、大阪千代田短期大学 粉川昭平両氏には、植物遺体を同定していただいた。動物遺体は、大阪市立自然史博物館地史研究室の樽野博幸氏に同定していただいた。また、縄文時代の海岸地形とその堆積物、始良Tn火山灰を含む最終氷期の地質について、以下の方々からは、現地調査で様々なご助言を賜った。

大阪市立大学 吉川周作、奈良教育大学 西田史朗、通産省工業技術院地質調査所 寒川 旭、
関西大学 木庭元晴、天理大学付属参考館 金原正明(敬称略、順不同)

以上の方々に、心より感謝する次第である。

7. 第VII章の土層の記載(柱状図作成)と、資料採集は、松田順一郎が行ない、パリノ・サーヴェイ株式会社分析を委託した。現地の写真測量は、国際航業株式会社委託し、遺物写真はスタジオ G.F. プロに委託した。
8. 現地調査の実施にあたっては、大阪府道路公社、近畿日本鉄道株式会社、第二阪奈有料道路第1工区・第2工区作業所、安西工業株式会社の方々の協力を得た。記して謝意を表する。

本文目次

はしがき

例言

I 調査に至る経過	1
II 位置と環境	2
III 西ノ辻遺跡第27次調査	4
1. 層序	5
2. 縄文時代の遺物	7
3. 弥生時代の遺構と遺物	7
4. 古墳時代の遺構と遺物	31
5. 歴史時代の遺構と遺物	35
6. 弥生土器について	
1. 土器胎土	39
2. 土器の形態、文様の概略	39
IV 鬼虎川遺跡第32次調査	
1. 層序	48
2. 縄文時代の埋没海岸地形と遺物	
1. 埋没海岸地形	50
2. 出土遺物	53
3. 弥生時代の遺構と遺物	
1. 前期の土器	56
2. 第10層下面の遺構	58
3. 第10層上面の遺構と遺物	58
4. 第9層上面の遺構と遺物	66
5. 第8層上面の遺構と遺物	84
6. 遺構・包含層内出土の弥生土器	90
4. 古墳時代の遺構と遺物	
1. 第6層上面の遺構と遺物	99
2. 包含層内出土の遺物	101
5. 歴史時代の遺構と遺物	109
V まとめ	
1. 遺構について	
1. 鬼虎川遺跡の火山灰	116
2. 鬼虎川遺跡の旧石器時代の河道	116
3. 縄文時代の埋没海岸地形	116

4. 弥生時代の墓	117
2. 出土遺物について	126
1. 縄文時代	126
2. 弥生時代	126
3. 古墳時代(特に韓式系土器について)	129
VI 鬼虎川遺跡第32次調査出土の人骨について	131
VII 鬼虎川遺跡第32次調査の花粉・珪藻分析報告	133

挿図目次

第 1 図 遺跡周辺図	3
第 2 図 調査地点位置図(1/2500)	4
第 3 図 西ノ辻遺跡第27次調査土層断面図	6
第 4 図 旧河道IV出土縄文土器実測図	7
第 5 図 旧河道VI実測図	7
第 6 図 旧河道V-5・V-4・V-3出土弥生時代中期土器実測図	8
第 7 図 旧河道VI-2・VI-1出土弥生時代中期土器実測図	13
第 8 図 旧河道V-2出土弥生時代中期土器実測図	14
第 9 図 旧河道V-2出土弥生時代中期土器実測図	15
第 10 図 旧河道V-2出土弥生時代中期土器実測図	16
第 11 図 旧河道V-1出土弥生時代中期土器実測図	17
第 12 図 旧河道IV-5出土弥生時代中期土器実測図	18
第 13 図 旧河道IV-5・IV-4出土弥生時代中期土器実測図	19
第 14 図 旧河道IV-3出土弥生時代中期土器実測図	20
第 15 図 旧河道IV-3出土弥生時代中期土器実測図	21
第 16 図 旧河道IV-3出土弥生時代中期土器実測図	22
第 17 図 旧河道IV-3出土弥生時代中期土器実測図	23
第 18 図 旧河道IV-3・IV-2出土弥生時代中・後期土器実測図	24
第 19 図 旧河道IV-2出土弥生時代中・後期土器、土師器(275)実測図	25
第 20 図 旧河道IV-1出土弥生時代中期土器実測図	26
第 21 図 各地区出土打製石器実測図	27
第 22 図 旧河道V-2出土石庖丁実測図	28
第 23 図 土器棺検出状況実測図	29
第 24 図 土器棺実測図	30
第 25 図 土坑3実測図	31
第 26 図 旧河道III出土弥生時代中・後期土器、須恵器(307)実測図	32
第 27 図 旧河道II出土弥生時代中期土器実測図	33
第 28 図 旧河道I出土土師器、須恵器実測図	33

第 29 図	旧河道Ⅱ実測図	34
第 30 図	第 4 層出土砥石実測図	34
第 31 図	土坑2実測図	35
第 32 図	土坑1、ピット実測図	35
第 33 図	柵列実測図	35
第 34 図	鋤跡実測図	38
第 35 図	鬼虎川遺跡第32次調査地区割図	48
第 36 図	鬼虎川遺跡第32次調査層序模式図	49
第 37 図	A 地区海成堆積層と生痕化石	52
第 38 図	第17層内出土縄文土器実測図	54
第 39 図	包含層内出土縄文土器実測図 第16層(7・8)、第15層(9~12)、 14層(13~16)、12層(18)、10層(19)、6層(20~24)	55
第 40 図	包含層内出土弥生時代前期土器実測図	57
第 41 図	足跡実測図	58
第 42 図	溝95断面図	59
第 43 図	溝95平面図	59
第 44 図	溝97-溝98土堤断面図	60
第 45 図	溝97実測図	61
第 46 図	溝98実測図	62
第 47 図	第10層上面遺構内出土弥生時代中期土器実測図 溝95(57~65)、溝97(66~69)、溝98(70~72)	63
第 48 図	第19号方形周溝墓第2主体部実測図	65
第 49 図	第20号方形周溝墓主体部実測図	65
第 50 図	第20号方形周溝墓(73・74)、第5号方形周溝墓出土弥生時代中期土器実測図	67
第 51 図	第7号方形周溝墓周溝内出土弥生時代中期土器実測図	68
第 52 図	溝97・第23号方形周溝墓盛土断面図	69
第 53 図	第23号方形周溝墓第1主体部実測図	70
第 54 図	第23号方形周溝墓第2主体部実測図	71
第 55 図	第23号方形周溝墓出土弥生時代中期土器実測図	72
第 56 図	第24号方形周溝墓盛土実測図	73
第 57 図	第24号方形周溝墓主体部実測図	73
第 58 図	第24号方形周溝墓(105~107)、第25号方形周溝墓(108~110) 出土弥生時代中期土器実測図	74
第 59 図	第25号方形周溝墓第1主体部実測図	75
第 60 図	第25号方形周溝墓第2主体部実測図	76
第 61 図	第25号方形周溝墓出土弥生時代中期土器実測図	77
第 62 図	第25号方形周溝墓出土弥生時代中期土器実測図	78
第 63 図	第26号方形周溝墓第2主体部実測図	81
第 64 図	第26号方形周溝墓出土弥生時代中期土器実測図	82
第 65 図	第27号方形周溝墓出土弥生時代中期土器実測図	84
第 66 図	第1号土器棺検出状況実測図	84
第 67 図	第1号・第2号土器棺・共伴土器実測図	85

第 68 図	第2号土器棺検出状況実測図	86
第 69 図	第9号土壙墓実測図	87
第 70 図	第10号土壙墓実測図	88
第 71 図	第11号土壙墓実測図	89
第 72 図	第12号土壙墓実測図	89
第 73 図	第13号土壙墓実測図	90
第 74 図	A地区第8層(160)・第7層(161~163)・第6層(164~170)内 出土弥生時代中期土器実測図	92
第 75 図	土壙墓(172・173)、土坑3(174・175)、C・D・E地区第6~8層内 出土弥生時代中期土器実測図	93
第 76 図	C地区(197・200)、D地区(198)、E地区(199)弥生時代後期土器実測図	94
第 77 図	土坑1実測図	99
第 78 図	土坑2実測図	99
第 79 図	土坑3実測図	100
第 80 図	方形周溝実測図	100
第 81 図	土坑1(201~205)、C・D地区第5層内出土古墳時代中期土器実測図	101
第 82 図	土坑3(217)、D(211~216)、E(210)地区第6層内出土古墳時代中期土器実測図	102
第 83 図	E地区第6層内出土古墳時代中期土器実測図	103
第 84 図	E地区第5層内出土古墳時代中期土器実測図	104
第 85 図	D・E地区第5層内出土古墳時代中期製塩土器実測図	106
第 86 図	鋤跡実測図	109
第 87 図	水路実測図	110
第 88 図	鎌倉時代瓦器碗実測図	111
第 89 図	各地区出土石器実測図	112
第 90 図	第17層内出土石器実測図	113
第 91 図	各地区出土砥石、円板、土錘実測図	114
第 92 図	埋没海岸地形と旧石器時代の河道	122
第 93 図	第10層上面遺構平面図	122
第 94 図	第9層上面遺構平面図	123
第 95 図	第8層上面遺構平面図	124
第 96 図	鬼虎川遺跡の墓の分布	125
第 97 図	B地点の模式柱状図と試料採取層準	139
第 98 図	C地点の模式柱状図と試料採取層準	139
第 99 図	D地点の模式柱状図と試料採取層準	139
第100図	B地点の主要珪藻化石の層位分布	140
第101図	C地点の主要珪藻化石の層位分布	141
第102図	D地点の主要珪藻化石の層位分布	142
第103図	B地点の花粉化石群集の層位分布	143
第104図	C地点の花粉化石群集の層位分布	144
第105図	D地点の花粉化石群集の層位分布	145

表目次

第1表	西ノ辻遺跡旧河道・包含層内出土遺物法量表	9
第2表	ピット計測一覧表	36
第3表	鬼虎川遺跡各遺構・包含層内出土弥生時代中期・後期土器法量表	94
第4表	鬼虎川遺跡各遺構・包含層内出土古墳時代遺物法量表	107
第5表	鬼虎川遺跡方形周溝墓出土人骨一覧表	119
第6表	鬼虎川遺跡方形周溝墓一覧表	120
第7表	方形周溝墓出土土器の胎土別分類表	128
第8表	B地点の珪藻分析結果	146
第9表	C地点の珪藻分析結果	147
第10表	D地点の珪藻分析結果	149
第11表	B地点の花粉分析結果	153
第12表	C地点の花粉分析結果	154
第13表	D地点の花粉分析結果	155

図版目次

図版1	西ノ辻遺跡第27次調査 遺構	1. 旧河道VI 2. 旧河道VI
図版2	西ノ辻遺跡第27次調査 遺構	1. A～C地区 土器棺 2. A～C地区 土器棺
図版3	西ノ辻遺跡第27次調査 遺構	1. 旧河道IV-3 遺物出土状況 2. 旧河道III-3 遺物出土状況
図版4	西ノ辻遺跡第27次調査 遺構	1. 旧河道II 2. 旧河道II
図版5	西ノ辻遺跡第27次調査 遺構	1. 柵列 2. 柵列
図版6	西ノ辻遺跡第27次調査 遺構	1. 土坑1 2. 鋤跡
図版7	西ノ辻遺跡第27次調査 遺物	1. 旧河道IV-3 土器棺 身(235)、蓋(234) 2. 旧河道V-2(54・64)、V-1(96)、 IV-3(187・250)、III-2(299)弥生土器
図版8	西ノ辻遺跡第27次調査 遺物	旧河道 VI-1(9)、IV-3 (160・163・166・167・179)弥生土器
図版9	西ノ辻遺跡第27次調査 遺物	旧河道IV-4～5(137)、IV-3(159・161・174・176) IV-2(256・259)、C・D地区(329)弥生土器
図版10	西ノ辻遺跡第27次調査 遺物	1. 旧河道IV-3(197・199・200・202)弥生土器 2. 旧河道IV-1(16)、IV-4～5(151)、 IV-3(217・219・229)弥生土器
図版11	西ノ辻遺跡第27次調査 遺物	旧河道V-2(60・61)、V-5(118)、IV-4～5(152) 弥生土器

図版12	西ノ辻遺跡第27次調査	遺物	各地区出土打製石器表面
図版13	西ノ辻遺跡第27次調査	遺物	各地区出土打製石器裏面
図版14	西ノ辻遺跡第27次調査	遺物	旧河道V-2(69)、IV-5(113)、IV-45(141・147)、IV-3(191・198)、IV-2(263)、IV-1(282)弥生土器
図版15	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. C-2~6地区 始良火山灰とそれ以前の地層 2. C-3・7地区 海底面と始良火山灰
図版16	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. A-10~B-6地区 海進以前の旧河道 2. A~D地区 海底面と海成堆積物
図版17	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. E-10・11地区 海食崖 2. A~D地区 海成堆積物(16・17層)
図版18	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. A-2~6地区 海底面付近の生痕化石 2. A-10地区 17層 生痕化石
図版19	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. C-2・6地区 16・17層 2. D地区 15~17層
図版20	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. C-1地区 10~14層 2. B地区 10層中の植物遺体
図版21	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. D-10地区 足跡 2. D-9・10地区 足跡
図版22	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. D-6・7地区 溝95 2. D-2~7地区 溝95
図版23	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. C-10地区 溝97 2. C-10・11、D-3・2地区 溝97
図版24	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. C-5・9地区 溝97 断面 2. C-9・10地区 溝97 断面
図版25	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. B-10・11、C-2・3地区 溝98 2. B-10地区 溝98 断面
図版26	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. A-1・2地区 第19号方形周溝墓第2主体部 2. A-1・2地区 第19号方形周溝墓第2主体部
図版27	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. A-2地区 第19号方形周溝墓第2主体部の網代 2. A-2地区 第19号方形周溝墓第2主体部の網代
図版28	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. A-2地区 第20号方形周溝墓主体部 2. A-6地区 第20号方形周溝墓供献土器
図版29	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. A-1~5地区 第5号方形周溝墓墳丘 2. A-6地区 第7号方形周溝墓供献土器
図版30	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. C-1~6地区 第23号方形周溝墓墳丘 2. C-2地区 第23号方形周溝墓供献土器
図版31	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. C-2地区 第23号方形周溝墓第1主体部 2. C-2地区 第23号方形周溝墓第1主体部
図版32	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. C-2地区 第23号方形周溝墓第1主体部 人骨上半部 2. C-2地区 第23号方形周溝墓第1主体部 人骨下半部
図版33	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. C-6地区 第23号方形周溝墓第2主体部 2. B-10地区 第24号方形周溝墓主体部

図版34	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. C-7地区 第25号方形周溝墓第1主体部と第9号土壙墓 2. C-7地区 第25号方形周溝墓第1主体部
図版35	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. C-9地区 第25号方形周溝墓第2主体部 2. C-3地区 第25号方形周溝墓供献土器
図版36	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. C-10地区 第25号方形周溝墓供献土器 2. C-6地区 第25号方形周溝墓供献土器
図版37	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. C-7地区 第25号方形周溝墓供献土器 2. C-6地区 第25号方形周溝墓供献土器
図版38	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. B-6地区 第26号方形周溝墓供献土器 2. B-6地区 第26号方形周溝墓供献土器
図版39	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. B-6地区 第26号方形周溝墳丘内出土土器 2. B-5・6地区 第26号方形周溝墓第2主体部
図版40	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. C-3~D-12地区 全景 2. C-7~11地区 第9号土壙墓
図版41	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. C-7~11地区 第9号土壙墓 2. C-7~11地区 第9号土壙墓
図版42	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. C-8地区 第10号土壙墓 2. C-7~11地区 第10号土壙墓
図版43	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. C-11地区 第11号土壙墓 2. C-10地区 第12号土壙墓
図版44	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. D-2地区 第13号土壙墓 2. C-1地区 第1号土器棺
図版45	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. D-8地区 第2号土器棺 2. D-8地区 第2号土器棺
図版46	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. E-3地区 方形周溝 2. E-3地区 方形周溝の土器
図版47	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. C-10地区 土坑1 2. D-3地区 土坑2
図版48	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. D-11地区 土坑3 2. D-11地区 土坑3
図版49	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. A~D地区 鋤跡 2. B~D地区 鋤跡
図版50	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. A-1~3地区 水路第1期 2. A-1~3地区 水路第2期
図版51	鬼虎川遺跡第32次調査	遺構	1. A-1~3地区 水路第2期 2. A-1~3地区 水路第3期
図版52	鬼虎川遺跡第32次調査	遺物	第17層出土(1・2)縄文土器、溝100出土(43)、第6a層出土(29)、E-6地区出土(187)弥生土器
図版53	鬼虎川遺跡第32次調査	遺物	第6~17層出土縄文土器
図版54	鬼虎川遺跡第32次調査	遺物	第6~12層出土弥生時代前期土器
図版55	鬼虎川遺跡第32次調査	遺物	溝95出土(58)、溝98出土(70)、

図版56	鬼虎川遺跡第32次調査	遺物	第5号方形周溝墓周溝内出土(75)、 A-10・B-2地区出土(167)弥生土器 第7号方形周溝墓周溝内出土(85)、 第20号方形周溝墓出土(73)、溝96出土(64)、 溝98出土(72)弥生土器
図版57	鬼虎川遺跡第32次調査	遺物	第24号方形周溝墓周溝内出土(105・106)、 第25号方形周溝墓出土(108・109・114)弥生土器
図版58	鬼虎川遺跡第32次調査	遺物	1. 第25号方形周溝墓北側周溝内出土弥生土器 2. 第25号方形周溝墓東側墳丘内出土弥生土器
図版59	鬼虎川遺跡第32次調査	遺物	1. 第26号方形周溝墓出土弥生土器 2. D-3地区第8層出土(180)、 C-10・D-6地区出土(127)弥生土器
図版60	鬼虎川遺跡第32次調査	遺物	1. C-1・5地区出土第1号土器棺の身(154)、蓋(155) 2. D-8地区出土第2号土器棺の身(156)、蓋(157・158) 共伴土器(159)
図版61	鬼虎川遺跡第32次調査	遺物	A-6地区第7層出土(161)、A-10地区第6層出土(166) 第27号方形周溝墓出土(142)、C-5地区第8層出土(102) A-6・7・10・11地区出土(160)弥生土器
図版62	鬼虎川遺跡第32次調査	遺物	土壙墓3出土(172)、土坑出土(174・175)、C-2地区 出土(197)、E-6地区第8層出土(199)弥生土器
図版63	鬼虎川遺跡第32次調査	遺物	1. C-10地区土坑1出土土師器 2. C-7地区出土(206)土師器、 E-6地区6d層出土(222)韓式系土器
図版64	鬼虎川遺跡第32次調査	遺物	E-2地区第6d層出土(220)土師器、土坑3出土(217)、 D-12地区第6層出土(212)、E-6地区出土(222)、 E-3地区第6a層出土(223)韓式系土器
図版65	鬼虎川遺跡第32次調査	遺物	E-11地区第6層出土(221)韓式系土器、 C-11・12地区第5層出土(207)、 包含層出土(225)須恵器、D・E地区第4~6層出土把手 E地区第5・6層出土韓式系土器
図版66	鬼虎川遺跡第32次調査	遺物	
図版67	鬼虎川遺跡第32次調査	遺物	1. D・E地区第5層出土製塩土器外面 2. D・E地区第5層出土製塩土器内面
図版68	鬼虎川遺跡第32次調査	遺物	各地区出土打製石器表面
図版69	鬼虎川遺跡第32次調査	遺物	各地区出土打製石器裏面

I 調査に至る経過

西ノ辻遺跡は、西石切町1・3丁目、東山町、弥生町、南荘町を中心に東西約400m、南北約500mと推定される縄文時代から歴史時代(室町時代)にかけての複合遺跡である。

1941年、近鉄バス枚岡営業所の地点で整地作業が行なわれ、多量の弥生土器が出土したことにより遺跡の発見となった。1941年2月17日から4月19日に山本博氏^{注1}、同年4月26日より平尾兵吾大阪府史蹟調査委員および京都大学考古学教室の小林行雄氏らによる調査が実施された。1942年にも京都大学による調査が実施され、これがもととなって後に弥生時代中期から後期の土器の編年が組まれるようになった^{注2}。以後、調査はほとんどされていなかったが1976年以降、都市下水道事業、住宅・ビル建設、鉄道・道路建設、送水管敷設などの工事にともなって東大阪市遺跡保護調査会、財団法人東大阪市文化財協会、東大阪市教育委員会、大阪府教育委員会が発掘調査を実施し今回で第27次を数える。

鬼虎川遺跡は、東大阪市西石切町5・7丁目、弥生町、宝町を中心に東西約640m、南北約850mと推定される縄文時代から歴史時代(江戸時代)にかけての複合遺跡である。

1963年、府道大阪外環状線(現在の国道170号線)建設工事に伴う水道管敷設に際して、地表下約2mの黒色粘土層から弥生土器、石器が、1966年11月に組み合わせ式木棺の底板が発見されたことにより遺跡として知られるようになった。1975年、国道170号線沿いでガス管理設工事に伴う調査が実施されてから、ほぼ毎年発掘調査が実施されており、今回の調査で第32次を数える。

今回の調査は、東大阪市西石切町3・5丁目地内において、第二阪奈有料道路建設工事の計画があり、大阪府道路公社と東大阪市教育委員会との間で協議が重ねられた。その結果、大阪府道路公社の委託をうけて財団法人東大阪市文化財協会が発掘調査ならびに遺物整理を担当、実施することとなった。

発掘調査はまず西ノ辻遺跡第27次を1989年6月26日から同年8月11日まで、鬼虎川遺跡第32次を1989年11月7日から1990年11月6日まで実施し、遺物整理を1991年4月1日から1994年3月31日まで実施した。

注

1. 山本博「額田町石器時代遺跡」『陰陽道と額田歴代組』28 1957
2. 小林行雄「大阪府枚岡町額田町西ノ辻遺跡の土器」『弥生式土器集成』資料編 日本考古学協会弥生式土器文化総合研究特別委員会 1958
3. 島田義明「弥生時代木棺の一資料」『河内考古学』I 河内考古学研究会 1968

II 位置と環境

西ノ辻遺跡は、東大阪市西石切町1・3丁目、東山町、弥生町、南荘町に所在する縄文時代から歴史時代(室町時代)にかけての複合遺跡である。本遺跡の標高は約8~15mで、低位段丘面および中位段丘面と、これを覆う扇状地扇端部の薄い堆積物の上に形成されたと推定されている。

鬼虎川遺跡は、東大阪市西石切町5・7丁目、弥生町、宝町に所在する縄文時代から歴史時代(江戸時代)にかけての複合遺跡である。本遺跡の標高は約3~8mで、低位段丘末端から河内平野の低湿地にかけて広がっている。遺跡の東端は今回の調査でもみつかった縄文海進時の海食崖とこれを段丘崖とする低位段丘面の先端部までであり、低位段丘面上は西ノ辻遺跡となるものと考えられる。

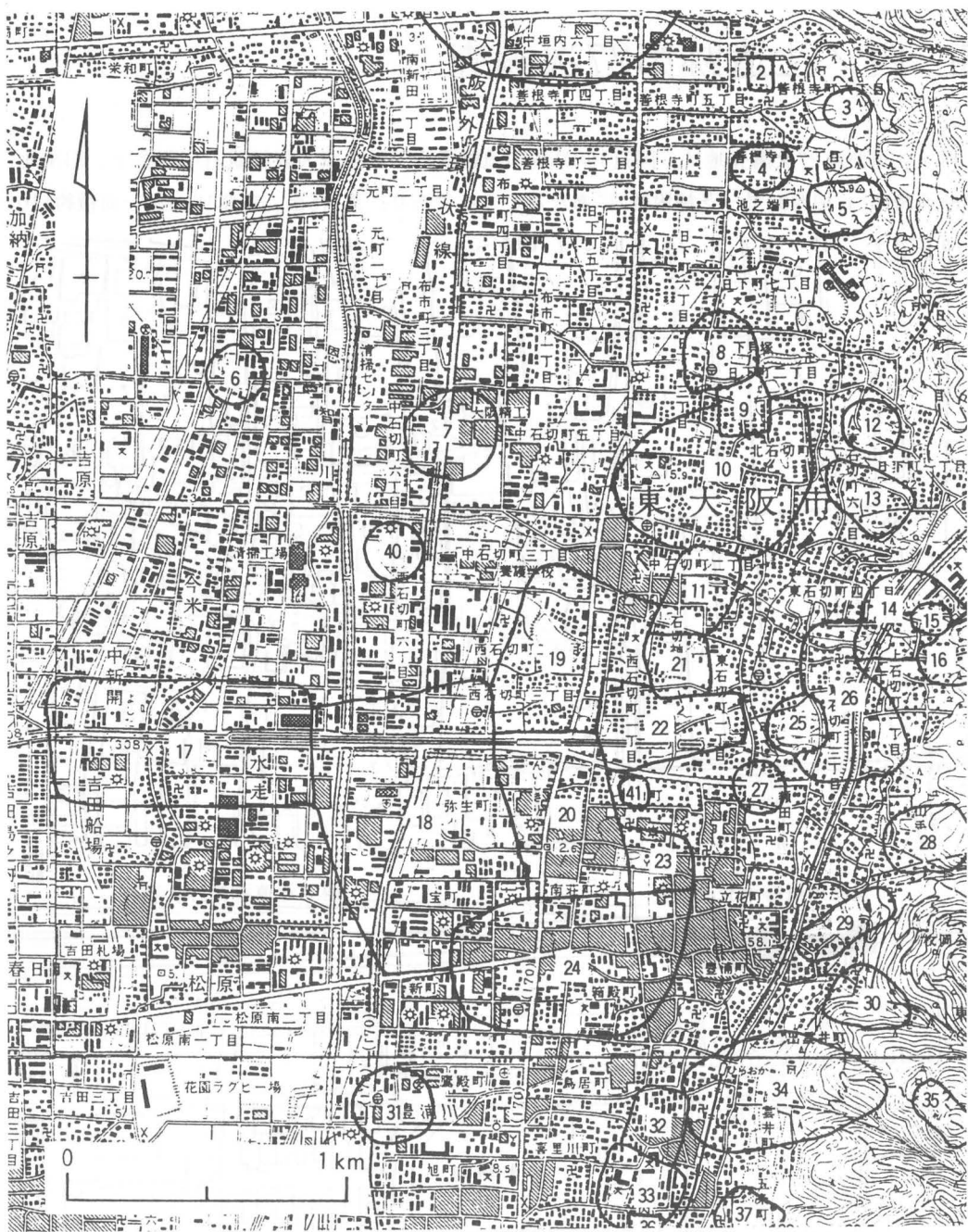
西ノ辻遺跡・鬼虎川遺跡の周辺地域で生活が開始されたのは旧石器時代で、日下、芝坊主山、千手寺山、正興寺山、山畑などの遺跡でナイフ形石器および尖頭器が出土している。旧石器時代から縄文時代の過渡期では、神並、草香山、日下、岩滝山などの遺跡で有舌尖頭器が出土している。

縄文時代では、早期の神並遺跡、中期の善根寺遺跡、後期の日下遺跡、縄手遺跡、晩期の日下、芝カ丘、鬼塚、馬場川遺跡がある。これらの遺跡は、生駒山西麓の段丘上、標高15~80mに位置する。

弥生時代では、中垣内、和泉、高井田、瓜生堂、山賀といった標高1~7mの低地を中心に集落が営まれる。鬼虎川遺跡では、幅5m、深さ1.2~1.5mの環濠に囲まれた集落があり、集落の北東側では方形周溝墓、土壙墓、木棺墓、土器棺墓といった墓地域、西側では杭などで護岸された水利施設をもった水田などが広がっていたものと考えられる。しかし、中期末になって衰退し後期には廃絶してしまう。西ノ辻遺跡では、中期中葉から集落が営まれ後期には集落の規模が拡大する傾向にある。この違いは遺跡の立地に大きな要因があると考えられる。弥生時代後期では中期のような大規模な集落は影をひそめ、小規模なものとなる。ただ、鬼虎川遺跡を中心として西ノ辻遺跡、植附遺跡、鬼塚遺跡が隣接して存在するが、集落の配置、集団関係、生業、変遷といった詳細なことは現段階では明確ではない。

古墳時代では、馬場、日下、芝カ丘、辻子谷、神並、西ノ辻、鬼塚、縄手といった扇状地、新家、西岩田、意岐部、西堤、岩田、瓜生堂、小若江、池島東といった沖積平野で集落が営まれているが概して規模の小さいものが多い。

歴史時代では、扇状地上に寺院や集落がみられ、また沖積平野の微高地にも集落や寺院が立地し、その周辺部では人間の活動の痕跡が多く見られる。掘立柱建物、井戸、溝、土坑、耕作痕といった遺構、土師器、須恵器、瓦器、輸入陶磁器、国産陶磁器、漆器、石製品といった当時の生活がかがえる遺物が出土している。

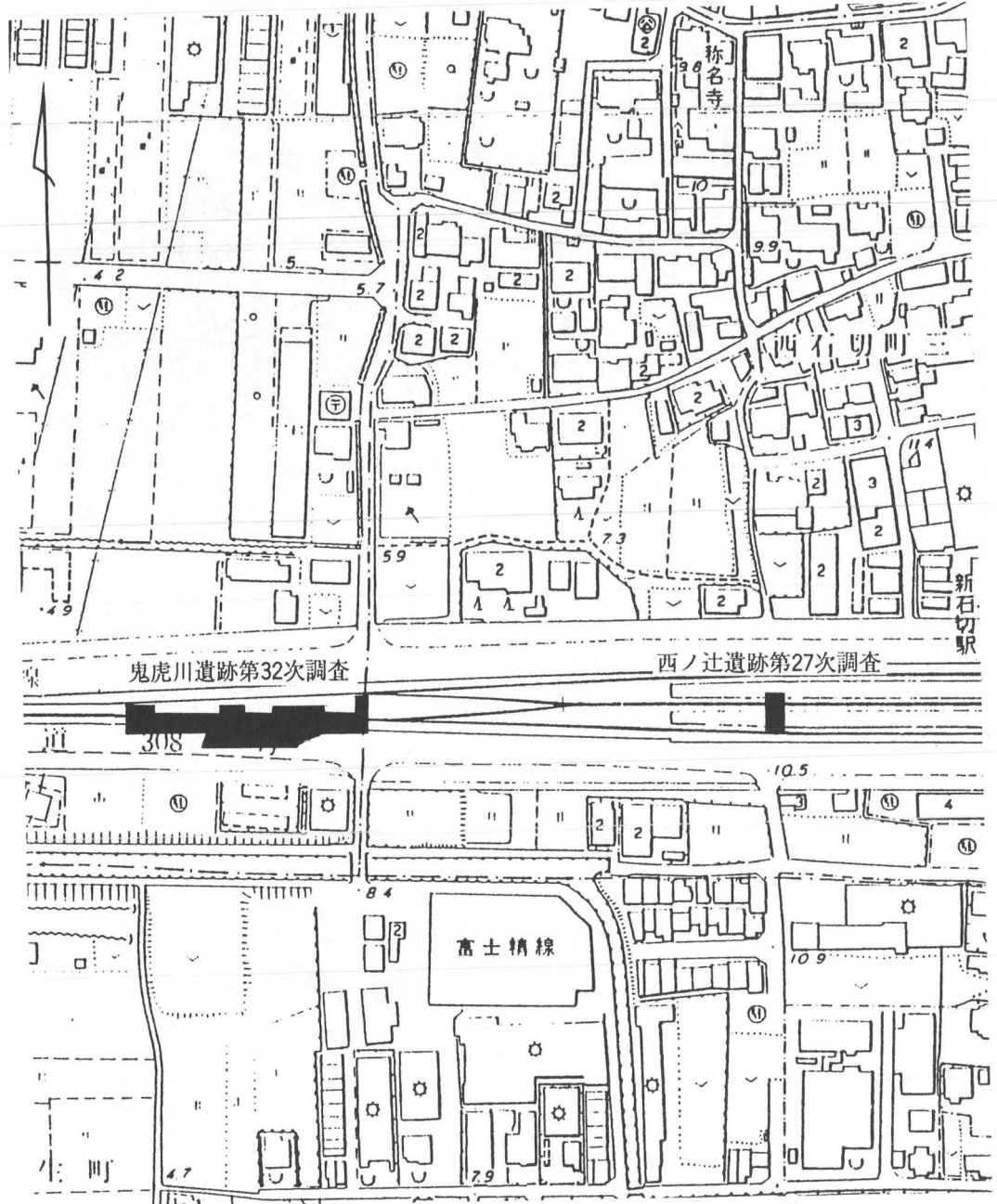


- | | | | | | |
|-----------|------------|------------|------------|-------------|-------------|
| 1. 中垣内遺跡 | 8. 日下遺跡 | 14. 千手寺山遺跡 | 21. 法通寺跡 | 28. 額田山古墳群 | 35. 神津嶽祭祀遺跡 |
| 2. 足立氏館跡 | 9. 石凝寺跡 | 15. 墓尾古墳群 | 22. 神並遺跡 | 29. みかん山古墳群 | 36. 河内寺跡 |
| 3. 善根寺山遺跡 | 馬場遺跡 | 16. 辻子谷古墳群 | 23. 額田寺跡 | 30. 豊浦谷古墳群 | 37. 水走氏館跡 |
| 4. 善根寺遺跡 | 10. 芝ヶ丘遺跡 | 17. 水走遺跡 | 24. 鬼塚遺跡 | 31. 鶴立遺跡 | 38. 客坊廃寺 |
| 5. 池端遺跡 | 11. 辻子谷遺跡 | 18. 鬼虎川遺跡 | 25. 正興寺山遺跡 | 32. 孤塚遺跡 | 39. 客坊城跡 |
| 6. 加納遺跡 | 12. 正法寺山遺跡 | 19. 植附遺跡 | 26. 神並古墳群 | 33. 皿池遺跡 | 40. 北島遺跡 |
| 7. 和泉遺跡 | 13. 芝山古墳 | 20. 西ノ辻遺跡 | 27. 若宮古墳群 | 34. 出雲井遺跡群 | 41. 舩古墳 |

第1図 遺跡周辺図

Ⅲ 西ノ辻遺跡第27次調査

西ノ辻遺跡第27次調査地は、国道308号線の道路敷内で近鉄東大阪線新石切駅舎下、旧南北横断道路部(石切西31号一芝植附線)にあたる場所であり、東西6m、南北18.4m、面積約110



第2図 調査地点位置図(1/2,500)

m²を測る。調査を実施するにあたっては安全確保のため、四周を鋼矢板で囲むこととしたが、調査地内に電話ケーブル、下水管、水道管などの埋設物があり、鋼矢板の未打設部分からの湧水や管のつり下げ工事を行なうなどの支障があった。

調査地点は、西ノ辻遺跡の範囲内では北西端に近い位置にあたり、1981年以来実施されてきた近鉄東大阪線建設工事および国道308号線拡幅工事に伴う発掘調査で、縄文時代から弥生時代にかけての旧河道、弥生時代の方形周溝墓、土壙墓、溝などが発見された地点に隣接している。このため同様の遺構が発見されると予想された。

調査はまず盛土約1.2mを機械掘削し、以下3.5mについて各層毎に人力掘削により遺物・遺構の検出作業を行なった。

今回の調査地は、国家座標第VI座標系で東端がY = -32.6895、西端がY = -32.6955、北端がX = -146.7018、南端がX = -146.7202である。

1. 層序

調査地点の層序は、東壁断面をもとにして行なった。以下、確認した土層を列挙したうえで特徴を記す。

第1層 盛土。厚さ1.1～1.5m。現道路が付けられたときの盛土である。

第2層 オリーブ黒色(7.5Y 3/2)細礫混じりシルト。西側が厚く東側へ行くほど削平を受け薄くなる。厚さ平均12cm。近代から現代にかけての旧耕土。弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、陶磁器が出土した。

第3層 暗灰黄色(2.5Y 4/2)細礫混じり粘質シルト。層厚18～22cm。客土である。弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器が出土した。遺物から見て客土されたのは近世中葉以降である。

第4層 暗灰黄色(2.5Y 4/2)極細粒砂混じり粘質シルト。客土である。弥生土器、サヌカイト、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、陶磁器、砥石が出土した。近世中葉以降の客土である。

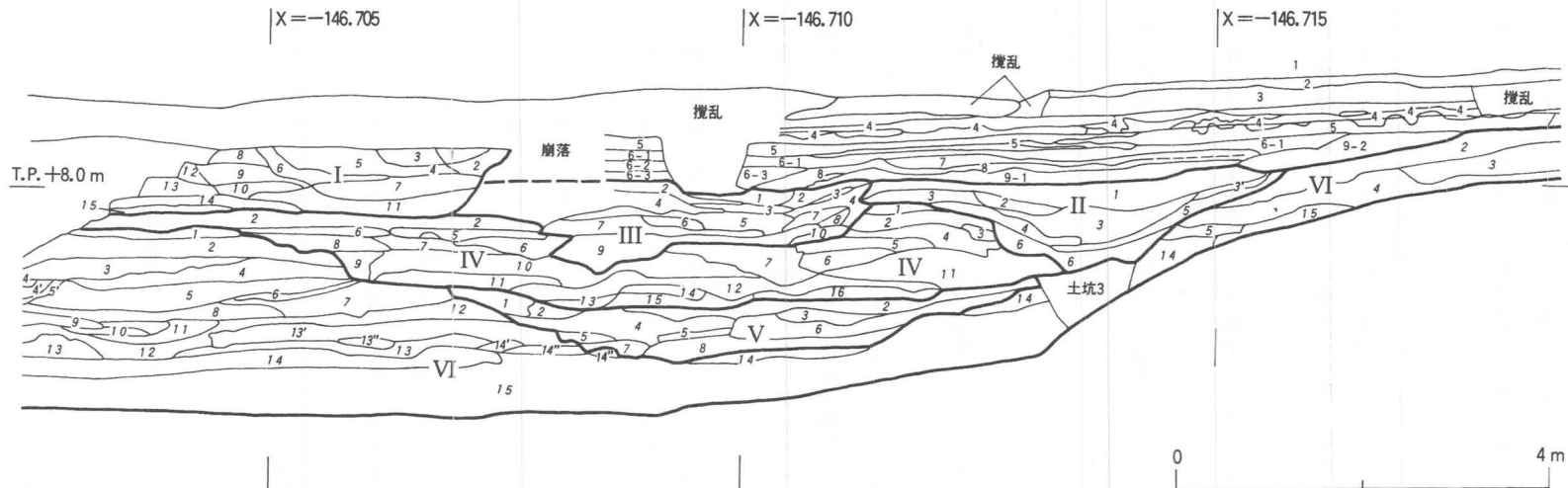
第5層 灰オリーブ色(7.5Y 4/2)極細粒砂～シルト。この上面で中世の時期と思われる耕作に伴う鋤跡を検出した。弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、サヌカイト、焼土が出土した。

第6層 暗黄灰色(2.5Y 4/2)細礫混じりシルト～粘土。この上面で柵列と思われる小ピットを検出した。

第7層 黄灰色(2.5Y 4.5/1)中粒砂混じりシルト。

第8層 暗緑灰色(10G 4/1)細礫混じり粘質シルト。弥生時代後期の細頸壺が出土した。

第9層 暗オリーブ灰色(2.5GY 4/1)極細粒砂～シルト。



旧河道 I

- 1 灰オリブ色(5Y 5/2)シルト
- 2 暗緑灰色(10GY 4/1)細礫混シルト
- 3 におい黄褐色(10YR 4/3)シルト
- 4 暗緑灰色(10GY 4/1)中礫～中粒砂
- 5 灰オリブ色(7.5Y 5/2)粗～中粒砂
- 6 灰色(5Y 4/1)粗粒砂
- 7 灰色(10Y 5/1)中礫～中粒砂
- 8 暗黄灰色(2.5Y 4/2)細粒砂～シルト
- 9 オリブ灰色(10Y 5/2)極細粒砂
- 10 暗黄灰色(2.5Y 5/2)中～極細粒砂
- 11 暗青灰色(5BG 4/1)中礫～中粒砂
- 12 暗緑灰色(7.5GY 4/1)中粒砂～シルト
- 13 暗緑灰色(10G 4/1)中粒砂～シルト
- 14 緑灰色(10GY 5/1)極細粒砂
- 15 暗緑灰色(10GY 4/1)極細粒砂

旧河道 II

- 1 暗オリブ灰色(2.5GY 3/1)細礫混シルト
- 2 暗オリブ灰色(2.5GY 4/1)細礫混シルト
- 3 暗オリブ灰色(5GY 3/1)細礫混シルト
- 3' 暗オリブ灰色(2.5GY 3/1)粘土質シルト

- 4 黒色(2.5GY 2/1)極細粒砂～シルト
- 5 暗緑灰色(7.5GY 3/1)極細粒砂～シルト
- 6 暗緑灰色(10GY 3/1)中礫～中粒砂

旧河道 III

- 1 灰オリブ色(5Y 5/2)細礫～極細粒砂
- 2 暗オリブ灰色(2.5GY 4/1)極細粒砂～シルト
- 3 におい黄色(2.5Y 6/3)細礫～細粒砂
- 4 オリブ灰色(10Y 4/2)シルト
- 5 灰白色(7.5Y 7/2)細礫～細粒砂
- 6 灰色(7.5Y 6/1)極細粒砂
- 7 灰色(7.5Y 4/1)極細粒砂～シルト
- 8 暗緑灰色(7.5GY 3/1)シルト
- 9 オリブ灰色(10Y 4/2)粗～細粒砂
- 10 暗オリブ灰色(5GY 4/1)細礫混シルト

旧河道 IV

- 1 暗オリブ灰色(2.5GY 3/1)細礫混シルト
- 2 暗オリブ灰色(5GY 3/1)粘土質シルト
- 3 暗オリブ灰色(2.5GY 4/1)極細粒砂～シルト
- 4 暗オリブ灰色(5GY 4/1)シルト
- 5 オリブ黒色(10Y 3/1)シルト 植物遺体多量

- 6 オリブ黒色(5Y 3/1)極細粒砂混シルト
- 7 灰色(10Y 4/1)極細粒砂
- 8 オリブ黒色(5Y 3/1)シルト
- 9 黒褐色(2.5Y 3/1)中礫～細粒砂
- 10 灰色(10Y 4/1)シルト
- 11 オリブ黒色(10Y 3/1)極細粒砂
- 12 オリブ黒色(10Y 3/1)極細粒砂
- 13 黒褐色(2.5Y 3/1)細礫～中粒砂
- 14 黒色(5Y 2/1)粗粒砂混シルト
- 15 黒褐色(2.5Y 3/1)細礫～中粒砂
- 16 灰色(7.5Y 4/1)中粒砂

旧河道 V

- 1 オリブ黒色(5Y 3/1)細粒砂混シルト
- 2 オリブ黒色(5Y 3/1)中粒砂混シルト
- 3 暗オリブ灰色(2.5GY 3/1)細礫～中粒砂
- 4 灰色(7.5Y 4/1)中礫～中粒砂
- 5 オリブ黒色(7.5Y 3/2)中礫～中粒砂
- 6 オリブ黒色(10Y 3/1)シルト
- 7 灰色(7.5Y 4/1)シルト
- 8 黒色(10Y 2/1)中～細粒砂

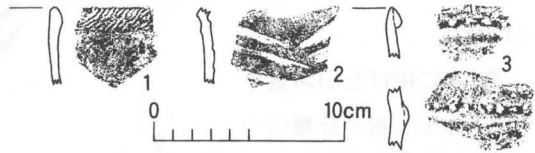
旧河道 VI

- 1 オリブ黒色(7.5Y 3/2)極細粒砂混シルト
- 2 灰色(10Y 4/1)中粒砂混シルト
- 3 オリブ黒色(10Y 3/1)極細粒砂混シルト
- 4 暗オリブ灰色(2.5GY 3/1)粘土質シルト
- 4' 灰色(7.5Y 4/1)シルト
- 5 灰色(7.5Y 4/1)極細粒砂混シルト
- 5' オリブ黒色(10Y 3/1)細礫混極細粒砂
- 6 暗オリブ灰色(2.5GY 3/1)細粒砂
- 7 オリブ黒色(5Y 3/1)中礫～中粒砂
- 8 灰色(10Y 4/1)極細粒砂
- 8' 暗オリブ灰色(5GY 3/1)細礫～シルト混粘土
- 9 オリブ黒色(10Y 3/1)極細粒砂
- 10 灰色(7.5Y 4/1)中粒砂
- 11 灰オリブ色(5Y 4/2)粗～中粒砂
- 12 オリブ黒色(5Y 3/1)シルト
- 13 灰色(7.5Y 4/1)粗～中粒砂
- 13' 暗オリブ色(5Y 4/3)シルト混中粒砂
- 13'' オリブ灰色(10Y 4/2)シルト混中粒砂
- 14 黒褐色(2.5Y 3/2)シルト
- 14' 灰色(7.5Y 4/1)砂礫
- 14'' オリブ黒色(10Y 3/1)砂礫
- 15 オリブ黒色(10Y 3/1)中礫～中粒砂

第3図 西ノ辻遺跡第27次調査土層断面図

2. 縄文時代の遺物(第4図)

縄文時代後期から晩期の土器が旧河道IVから数点出土している。(1)は縁帯文土器、(2)は体部に山形沈線文を施したもの、(3)は口縁部と体部に貼り付け凸帯をもつものである。(1・2)は後期、(3)は晩期の長原式である。



第4図 旧河道 IV 出土縄文土器実測図

3. 弥生時代の遺構と遺物

旧河道 VI (第5図)

弥生時代中期初頭から中葉にかけての旧河道である。川岸から川底まで約2.6m、川幅は14m以上、流れの方向は東南東から西北西にかけてである。堆積物は最下部が厚さ35~65cmの砂礫層、その上に厚さ10~20cmの植物遺体を含む黒褐色(2.5Y 3/2)シルト層、あとは粗粒砂~シルトの堆積となる。弥生土器壺、甕、鉢が出土した。

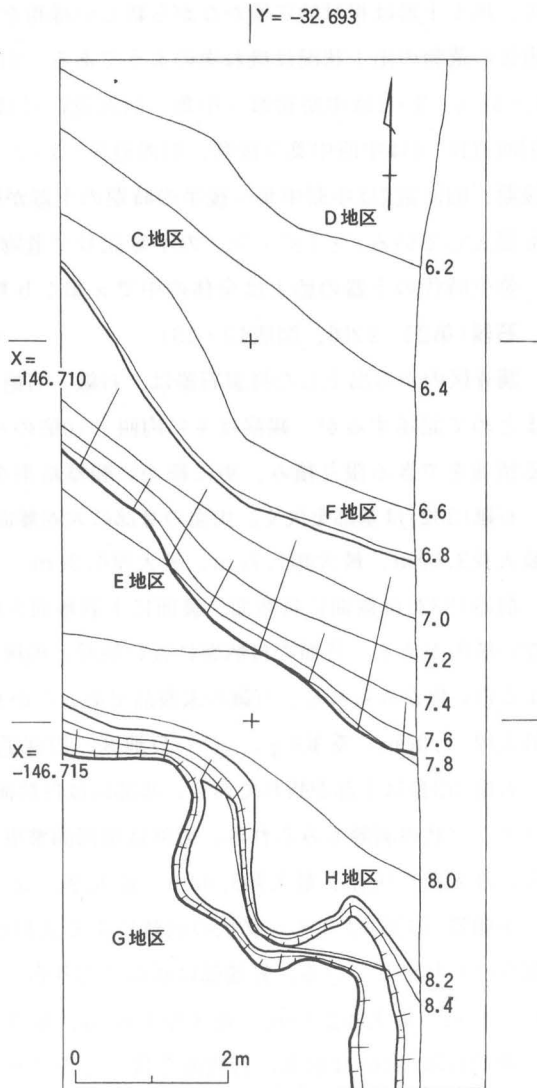
旧河道 V

川の流れる方向は旧河道VIと変わらない。大きくは旧河道VIの中の一部の流路となったところである。流路の幅6.4m、深さ0.6mで、最下層が灰色(7.5Y 4/1)砂礫層、上層はシルト~極細粒砂である。

この旧河道からは多量の弥生土器直口壺、細頸壺、無頸壺、鉢、把手付鉢、台付鉢、高杯、甕が出土した。時期は遺物から弥生時代中期初頭~中葉である。

旧河道 IV

幅9m、深さ0.65mの旧河道である。最下層がシルト混じり中粒砂~細粒砂、上が砂混じりシルト、中粒砂~細礫混じり粘質シルト、細礫~シルト混じり粘土、細粒砂混じり粘質シルトとなる。この旧河道からも多量の弥生土器壺、高杯、甕、鉢が出土した。時期は遺物から弥生時代中期中葉~後半である。

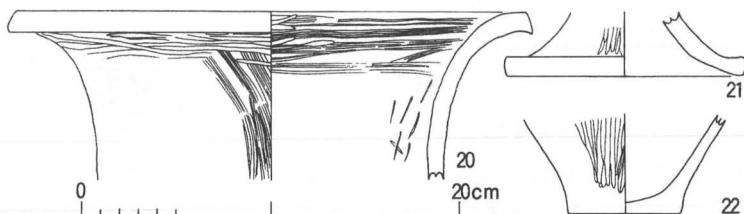


第5図 旧河道 VI 実測図

旧河道内出土土器(第6

~20・26~28図、図版7~
11・14)

第1表に掲げた旧河道の
土器(弥生土器の分類につ
いては、『6.弥生土器に
ついて』の項で述べる)



第6図 旧河道V-5・V-4・V-3 出土弥生時代中期土器実測図

は、ほとんどが弥生時代中期初頭から後半にかけてのものである。下層から上層へ移るに従って、出土土器は相対的に僅かながら新しい様相をもつものが増えていく現象がみられる。旧河道毎の遺物の出土状況は概ね次のようである。旧河道VI-2・1は中期初頭~中葉前半、旧河道V-5・4・3・2は中期初頭~中葉、旧河道V-1は中期初頭<中葉、旧河道IV-5は中期中葉、旧河道IV-4は中期中葉>後葉、旧河道IV-3・2・1は中期中葉<後半、旧河道IIIは中期後半~後期、旧河道IIは中期中葉~後半の時期の土器がそれぞれ出土している。弥生時代前期の土器も混入している。(「< >」の不等記号で遺物の量の多い少ないを示している)。

弥生時代の土器の胎土は全体の中でa類:b類:c類が7:1:1の比率になる。

石器(第21・22図、図版12・13)

調査区内から出土した打製石器は、石鏃、石槍、尖頭器、楔形石器、削器などがある。以下まとめて記述するが、観察は主に肉眼と10倍のルーペによるもので、今後、石器から得られる情報をできる限り積み、更に細かい観察結果を表わせるよう努力をしたい。

石鏃(332)は基部を欠く。両面の身部に大剥離面を残し、周縁を鋸歯状に細部調整している。最大長3.6cm、最大幅1.7cm、最大厚0.3cm、重量1.9g。(E-2地区)

削器(333)は側面に自然面、裏面に主剥離面を残している。周縁に細部調整を施すが連続しない箇所がある。背面の自然面に近い箇所と周縁には細かなステップ状の剥離や刃部の潰れによる白い傷がみられる。石鏃の未製品であったかもしれない。最大長4.6cm、最大幅2.8cm、最大厚1.0cm、重量9g。(C-D地区 旧河道V-2)

石槍(334)は上部が折れており、基部には自然面が残っている。身部は大剥離面で成形され、ステップ状の剥離もみられる。刃部は細部調整痕と使用時のステップ状の剥離痕がみとめられる。最大長7.0cm、最大幅3.0cm、最大厚1.2cm、重量28.6g。(A~D地区 旧河道V-1)

尖頭器(335)はステップ状の剥離による成形がめだつ。周縁は粗い細部調整で鋸歯状の刃部をつくり出している。先端部は折れており白い傷が残っている。断面は菱形を呈する。最大長6.2cm、最大幅2.5cm、最大厚0.8cm、重量12.3g。(旧河道V-2)

楔形石器(336)は頭部に自然面を残すものである。身部は厚みのあるかまぼこ型で、先端部を細く尖らせており、錐として造られたものかもしれない。先端部は使用のためか丸味をもち、白い点がみられる。周縁の一辺には細かいステップ状の剥離、他辺は槌状の剥離痕がある。身部の面は稜が擦れのため白くなり、大きな剥離面には全面に白い線状の傷がついている。最大

第1表 西ノ辻遺跡旧河道・包含層内出土遺物法量表

- *1 「-」は計測不能を表す。
 *2 明記していないものは弥生時代中期の土器
 *3 「・」器高=口縁～底部まで計測できたもの

(単位cm)

遺構	番号	器形	口径 (底径)	器高 (現存)	その他・(胎土)
旧河道 IV	1	深鉢	*1 -	4.0	縄文土器 (a)
	2	深鉢	-	3.8	縄文土器 (a)
	3	深鉢	-	3.2	縄文土器 (a)
VI-2	4	壺A 1-1	26.4	3.6 *2	(a)
	5	壺A 1-1	20.6	3.6	(a)
	6	甕底部	(6.4)	8.0	(a)
VI-1	7	壺A 0	18.6	0.8	(a)
	8	壺A' 1-1	31.8	4.4	(a)
	9	受口壺A 0	25.0	21.6	(a)
	10	受口壺A 0	20.6	4.0	(a)
	11	壺D 0	15.8	4.4	(a)
	12	鉢B 0	20.0	6.8	(a)
	13	甕B 0	21.6	8.4	前期 (a)
	14	甕A 1-2	35.2	7.2	(a)
	15	甕B 2-2	30.8	10.0	(a)
	16	甕A 2-0	11.2 (5.3) *3	16.0	(a)
	17	鉢A 1	-	5.2	内面に赤色顔料 (c)
	18	壺底部	(6.8)	7.5	(a)
	19	甕B 底部	(7.8)	2.4	(c)
V-5	20	壺A 0	25.6	9.6	(c)
V-4	21	脚部A 2-0	(12.2)	3.3	(a)
V-3	22	甕B 底部	(4.7)	5.0	(b)
V-2	23	壺A' 0	27.0	2.8	(b)
	24	壺A 0	18.0	6.8	(c)
	25	壺A 1	23.0	2.8	(a)
	26	壺A 1	20.0	2.4	(c)
	27	壺A'	-	20.0	(a)
	28	壺胴部	-	12.0	(c)
	29	壺頸部	-	6.4	(b)
	30	受口壺A 2	15.8	4.0	(a)
	31	受口壺	21.0	4.4	(a)
	32	受口壺A 0	17.5	7.2	(c)
	33	受口壺A 0	23.5	6.0	(b)
	34	壺C 0	16.2	4.8	(a)
	35	細頸壺A	7.4	5.2	(a)
	36	細頸壺B	9.6	2.8	(a)
	37	細頸壺B	-	4.4	(a)
	38	壺胴部	-	18.4	(a)

遺構	番号	器形	口径 (底径)	器高 (現存)	その他・(胎土)
V-2	39	直口壺	(8.4)	7.8	(a)
	40	壺底部	(6.9)	2.4	裏面に木葉痕 (a)
	41	壺底部	15.3	8.4	(c)
	42	壺底部	(8.3)	4.3	(a)
	43	壺底部	(8.5)	6.8	(b)
	44	壺底部	7.8	10.0	(a)
	45	無頸壺A	18.9	8.8	(a)
	46	無頸壺B 0	22.8	10.0	(c)
	47	鉢A 1	14.2	2.8	(b)
	48	鉢A 1	19.6	3.6	(c)
	49	把手付鉢	(9.6)	13.0	(a)
	50	鉢B 0	30.2	4.8	(a)
	51	鉢B 1	19.6	4.4	(a)
	52	鉢B 1	18.8	4.8	(a)
	53	鉢B 1	21.0	3.2	(a)
	54	鉢B 2-2	20.4	7.2	(a)
	55	鉢B 2-2	29.0	2.8	(a)
	56	高杯A 1	17.4	5.6	(a)
	57	高杯A	22.2	6.0	(a)
	58	高杯A	27.8	7.2	(a)
	59	高杯B 3	22.8	2.8	(a)
	60	脚部A 0	(10.8)	10.0	(a)
	61	異形脚部	-	9.6	(a)
	62	鉢C	9.8	6.0	(b)
	63	台付鉢A	9.1	6.0	(b)
	64	壺蓋B	(6.5)	2.2	(b)
65	無頸壺B 0	-	6.0	(a)	
66	無頸壺B 0	-	6.8	(b)	
67	壺底部	(7.8)	4.4	(c)	
68	壺底部	-	4.4	穿孔 (a)	
69	鉢B 0	39.6	9.6	(a)	
70	鉢A 1	46.8	7.6	(b)	
71	甕A 1-2	12.6	9.6	(a)	
72	甕A 1-0	13.6	5.2	(a)	
73	甕A 1-0	11.6	6.4	(b)	
74	甕A 1-2	40.0	8.8	(a)	
75	甕A 1-0	13.8	8.4	(a)	
76	甕A 2-0	15.0	7.6	(a)	

第1表 続き

(単位cm)

遺構	番号	器形	口径 (底径)	器高 (現存)	その他・(胎土)	
V-2	77	甕B1-4	11.4	7.2	(a)	
	78	甕B0-1	19.0	4.4	(c)	
	79	甕B1-2	28.2	6.4	(b)	
	80	甕B2-1	18.6	5.6	(a)	
	81	甕B2-1	20.4	4.8	(a)	
	82	甕B2-3	33.4	6.8	(a)	
	83	甕C2	12.2	11.6	(b)	
	84	壺底部	(8.4)	11.0	(a)	
	85	壺底部	(7.2)	6.4	(c)	
	86	甕A底部	(9.2)	6.9	(b)	
	87	甕B底部	(10.6)	11.6	(c)	
	88	壺底部	(8.6)	4.0	(a)	
	V-1	89	壺A0	17.0	2.0	(a)
		90	壺A0	15.8	3.2	(a)
		91	壺A'1-1	31.8	7.6	(a)
		92	壺C2	23.0	6.4	(c)
		93	受口壺A0	8.9	4.0	(c)
		94	細頸壺A	7.4	9.2	(a)
95		細頸壺B	—	12.0	(a)	
96		無頸壺B2-2	12.7	12.0	(c)	
97		鉢A1	24.2	5.6	(a)	
98		鉢C	18.0	6.4	(c)	
99		高杯A0-2	30.0	4.4	(a)	
100		壺胴部	—	12.4	(c)	
101		甕C底部	(4.4)	7.8	(a)	
102		甕A1-0	15.0	9.6	(b)	
103		甕A1-0	9.4	5.2	(b)	
104		甕B2-0	16.2	3.2	(c)	
105		甕A1-2	32.8	5.6	(a)	
106		甕A1-2	36.2	5.6	(a)	
107		甕A2-2	37.0	5.6	(a)	
108		壺底部	(4.8)	4.6	木葉痕 (b)	
109		壺底部	(7.8)	4.4	(a)	
110		甕A底部	(5.0)	7.2	穿孔 (a)	
IV-5	111	壺A0	21.4	4.8	(b)	
	112	壺A2	14.0	3.6	(a)	
	113	壺D0	20.8	7.6	(c)	
	114	鉢B2-2	—	4.4	(a)	
	115	鉢B2-1	22.2	5.2	(c)	
	116	高杯A0	15.2	14.1	(b)	
	117	脚部C	(10.2)	8.0	(b)	
	118	脚部A1	(14.2)	9.7	(a)	
IV-5	119	脚部A2-1	(16.6)	3.5	(a)	
	120	甕B0	11.6	3.6	(a)	
	121	甕B2-0	18.4	4.4	(a)	
	122	甕B2-0	15.6	7.2	(a)	
	123	甕A1-2	34.5	9.6	(a)	
	124	甕A1-4	37.0	6.8	(a)	
	125	壺底部	(7.2)	8.6	糊痕 (b)	
	126	壺底部	(7.7)	5.2	(b)	
	127	壺底部	(9.2)	9.2	(c)	
	128	壺底部	(7.4)	9.9	(b)	
	129	壺底部	(6.9)	3.5	(a)	
	130	壺底部	(4.3)	3.0	(b)	
	131	甕A底部	(6.2)	3.6	(a)	
	132	甕A底部	(6.4)	3.6	(a)	
	133	甕A底部	(5.4)	2.8	(b)	
	134	甕A底部	(5.2)	5.3	(a)	
	135	壺底部	(8.4)	3.0	(a)	
	IV-4~5	136	壺A1-2	22.0	6.4	(a)
		137	壺A'1-2	31.2	8.8	(a)
		138	細頸壺	—	11.2	(c)
		139	無頸壺B2	11.5	4.0	(c)
		140	脚部D	—	6.6	(a)
		141	脚部C	(16.4)	8.4	(a)
		142	壺底部	(4.6)	3.7	(a)
		143	壺底部	(7.1)	3.4	(c)
		144	壺底部	(7.2)	3.6	(a)
		145	壺底部	(5.4)	8.0	(c)
		146	壺底部	(7.0)	7.0	(a)
		147	壺底部	(7.3)	16.0	(a)
		148	壺底部	(6.4)	1.2	(a)
		149	壺底部	(6.8)	3.0	(a)
		150	甕B0	16.2	8.0	前期 (a)
151	甕A1-0	11.6 (5.4)	19.5	(a)		
152	甕A1-0	14.0	16.8	(a)		
153	甕A1-2	12.6	6.8	(a)		
154	甕A1-1	14.3	6.0	(a)		
155	甕A底部	(5.2)	6.9	(a)		
156	甕A底部	(7.0)	4.8	(a)		
157	甕A底部	(4.4)	3.6	(a)		
IV-3	158	壺A1-2	24.0	4.0	(a)	
	159	壺A1-2	23.0	9.2	(a)	
	160	壺A1-2	19.4	13.2	(a)	

第1表 続き

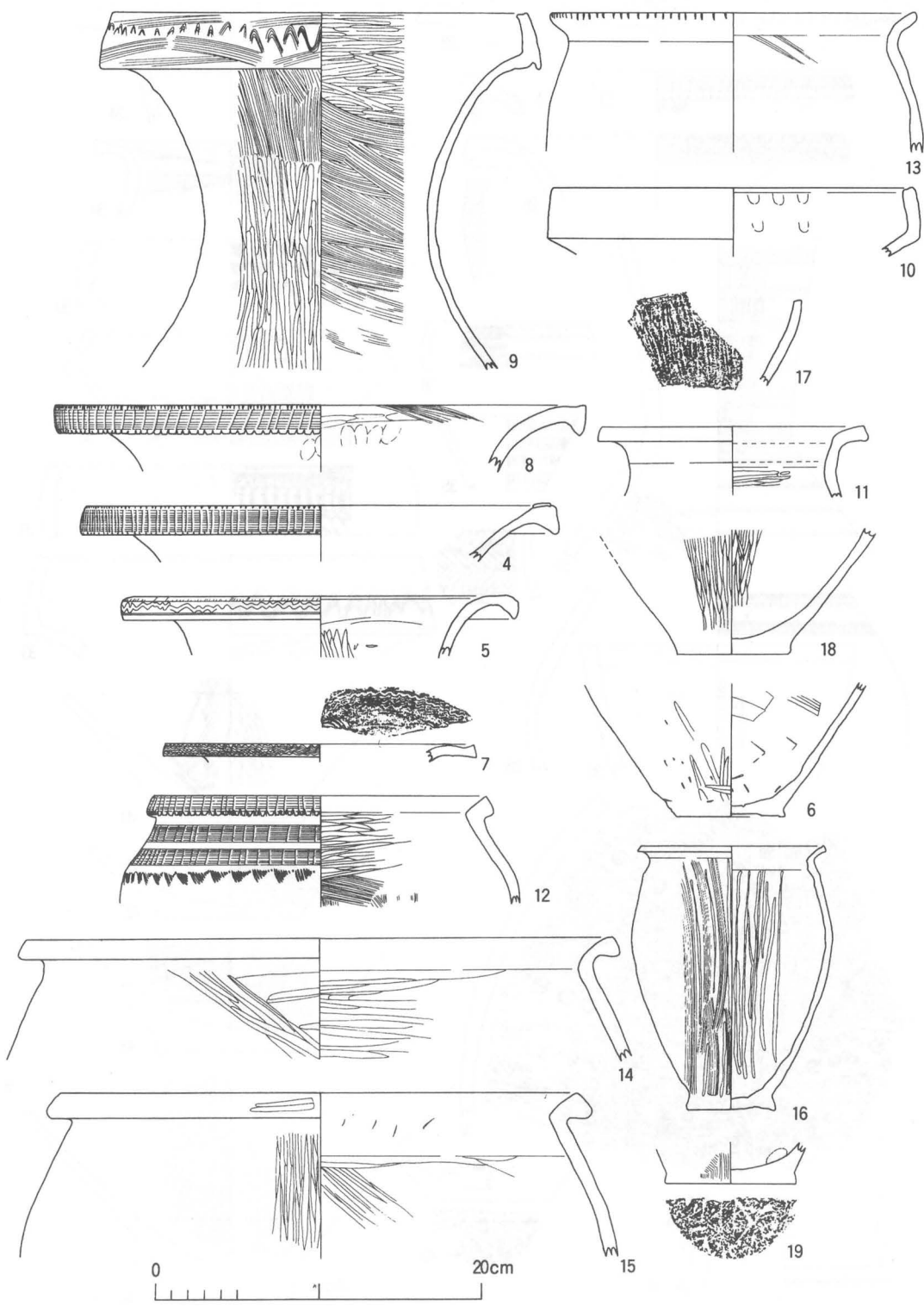
(単位cm)

遺構	番号	器形	口径 (底径)	器高 (現存)	その他・(胎土)	遺構	番号	器形	口径 (底径)	器高 (現存)	その他・(胎土)	
IV-3	161	壺A1-2	24.8	11.2	(a)	IV-3	203	甕蓋	6.4	6.2	(a)	
	162	壺A1-2	17.4	3.2	(a)		204	壺底部	(7.2)	2.6	(a)	
	163	壺A1-2	16.8	24.4	(a)		205	壺底部	(7.6)	6.4	(a)	
	164	壺A1-3	22.0	3.6	(a)		206	壺底部	(10.4)	6.8	(a)	
	165	壺A1-3	16.0	4.0	(a)		207	壺底部	(5.3)	3.4	(b)	
	166	壺A1-3	15.2	20.8	(a)		208	甕A底部	(4.6)	5.4	(b)	
	167	壺A'1-1	22.2	17.2	(a)		209	甕A底部	(5.6)	4.8	(b)	
	168	細頸壺B	8.6	6.4	(a)		210	甕A0	14.5	4.8	(a)	
	169	壺底部	5.7	4.2	(a)		211	甕B0	13.1	2.8	(a)	
	170	壺A'0	16.8	5.6	(b)		212	甕B0	21.0	6.0	(b)	
	171	壺A'2	26.0	3.2	(a)		213	甕A1-0	15.8	6.8	(a)	
	172	壺A0	18.6	8.0	(b)		214	甕A1-0	16.1	5.2	(a)	
	173	壺A1-2	15.0	4.4	(a)		215	甕A1-0	14.8	8.0	(a)	
	174	壺A1-2	19.4	11.2	(a)		216	甕A1-1	12.1	7.6	(a)	
	175	壺A1-2	21.6	2.0	(a)		217	甕C	11.6	8.4	(a)	
	176	壺A1-2	24.2	12.8	(a)		218	甕A1-1	19.8	5.2	(a)	
	177	壺A1-2	17.2	10.0	(a)		219	甕A1-0	15.7 (6.2)	(復) 28.8	(a)	
	178	壺B1-2	11.6	6.4	(c)		220	甕A1-0	14.8	4.8	(a)	
	179	壺A	(6.5)	19.2	(a)		221	甕A1-0	24.3	3.6	(a)	
	180	受口壺A	20.2	5.2	(c)		222	甕A1-1	26.6	2.4	(a)	
	181	受口壺A	13.8	17.6	(a)		223	甕A1-2	33.2	4.8	(a)	
	182	受口壺A0	19.4	6.4	(a)		224	甕A2-0	12.8	6.0	(b)	
	183	受口壺A1-1	22.0	4.8	(a)		225	甕B2-4	13.6	9.2	(b)	
	184	受口壺A1-1	18.0	4.0	(c)		226	甕B2-0	9.5	8.2	(a)	
	185	受口壺A1-2	24.4	3.6	(a)		227	甕B2-0	28.2	5.6	(a)	
	186	受口壺A1-3	25.8	7.6	(a)		228	甕B2-4	30.8	5.6	(a)	
	187	無頸壺B2	10.8 (4.9)	14.0	(a)		229	甕B2-0	10.8	10.0	(c)	
	188	鉢A1	25.0	5.2	(a)		230	甕B4	32.8	10.8	(a)	
	189	鉢A2	31.2	9.6	(a)		231	甕A1-1	37.8	4.0	(a)	
	190	鉢B1	24.8	5.2	(a)		232	甕C	15.6	4.4	(a)	
	191	鉢B2-1	23.4	4.8	(a)		233	甕2-0	18.3	4.8	(a)	
	192	鉢B2-1	25.4	6.9	(a)		234	鉢B2	46.0 (10.6)	24.1	土器棺の蓋	(b)
	193	鉢B2-2	17.6	5.2	(a)		235	甕B2-4	40.3 (11.0)	54.0	土器棺の身	(a)
194	鉢B2-2	17.8	4.4	(a)	IV-3~2	236	壺A1-1	20.0	5.2	(c)		
195	鉢B2-2	24.0	4.4	(a)	237	壺A1-2	19.4	6.8	(a)			
196	高杯B3	21.0	4.0	(a)	238	壺A2	14.8	5.2	(a)			
197	胸部A2	(13.6)	12.5	(a)	239	受口壺A1-1	32.8	6.8	(a)			
198	胸部A2	(17.0)	10.0	(a)	240	受口壺A1-1	22.2	5.6	(a)			
199	胸部A2	(7.6)	8.5	(a)	241	甕	33.5	2.0	(b)			
200	胸部A2	(8.6)	9.9	(b)	242	甕A1-2	33.9	6.0	(a)			
201	胸部A	(12.4)	3.6	(a)	243	甕A1-2	36.3	6.0	(a)			
202	胸部C1	(9.4)	5.1	(a)	244	甕A1-2	27.2	4.4	(a)			

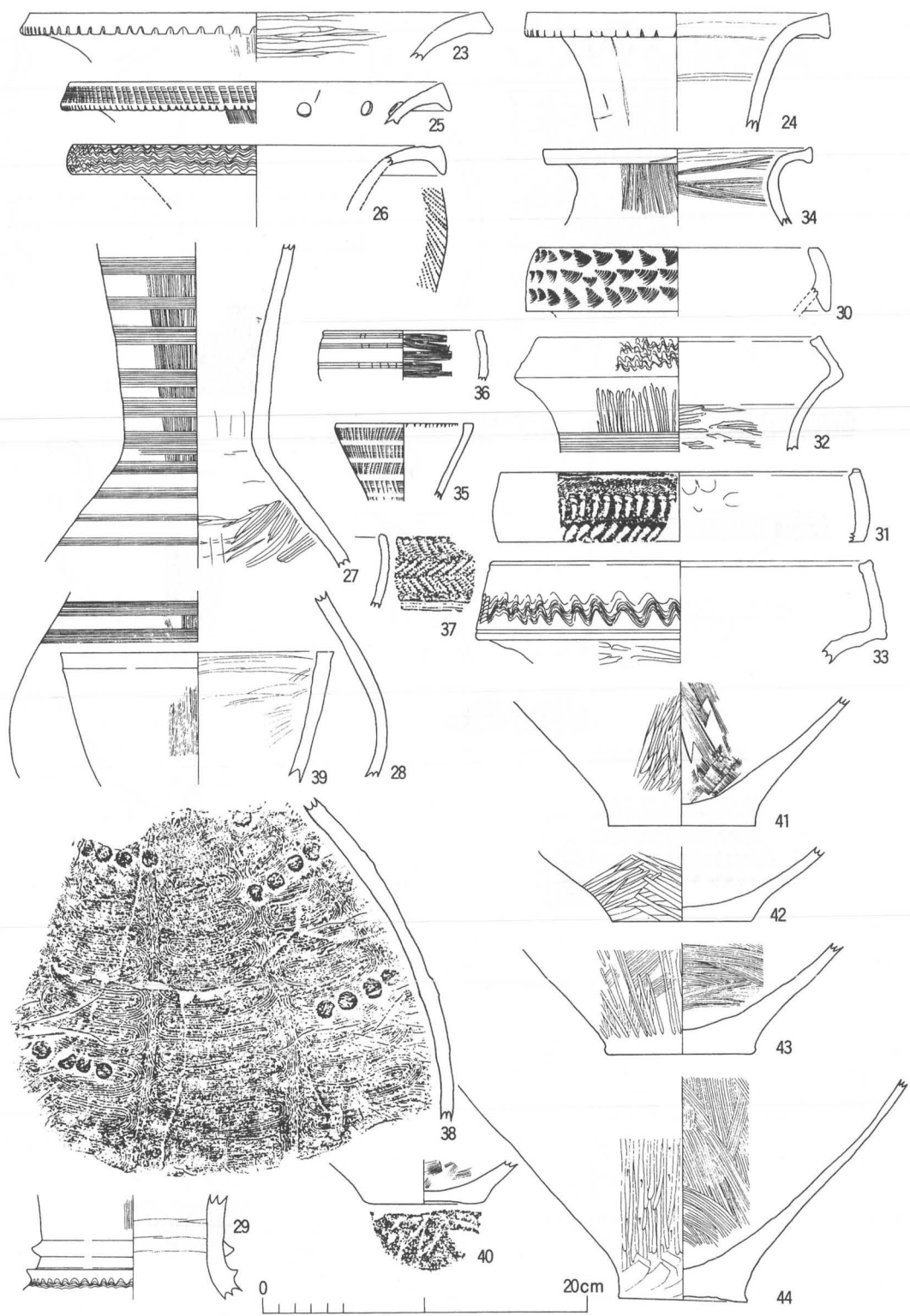
第1表 続き

(単位cm)

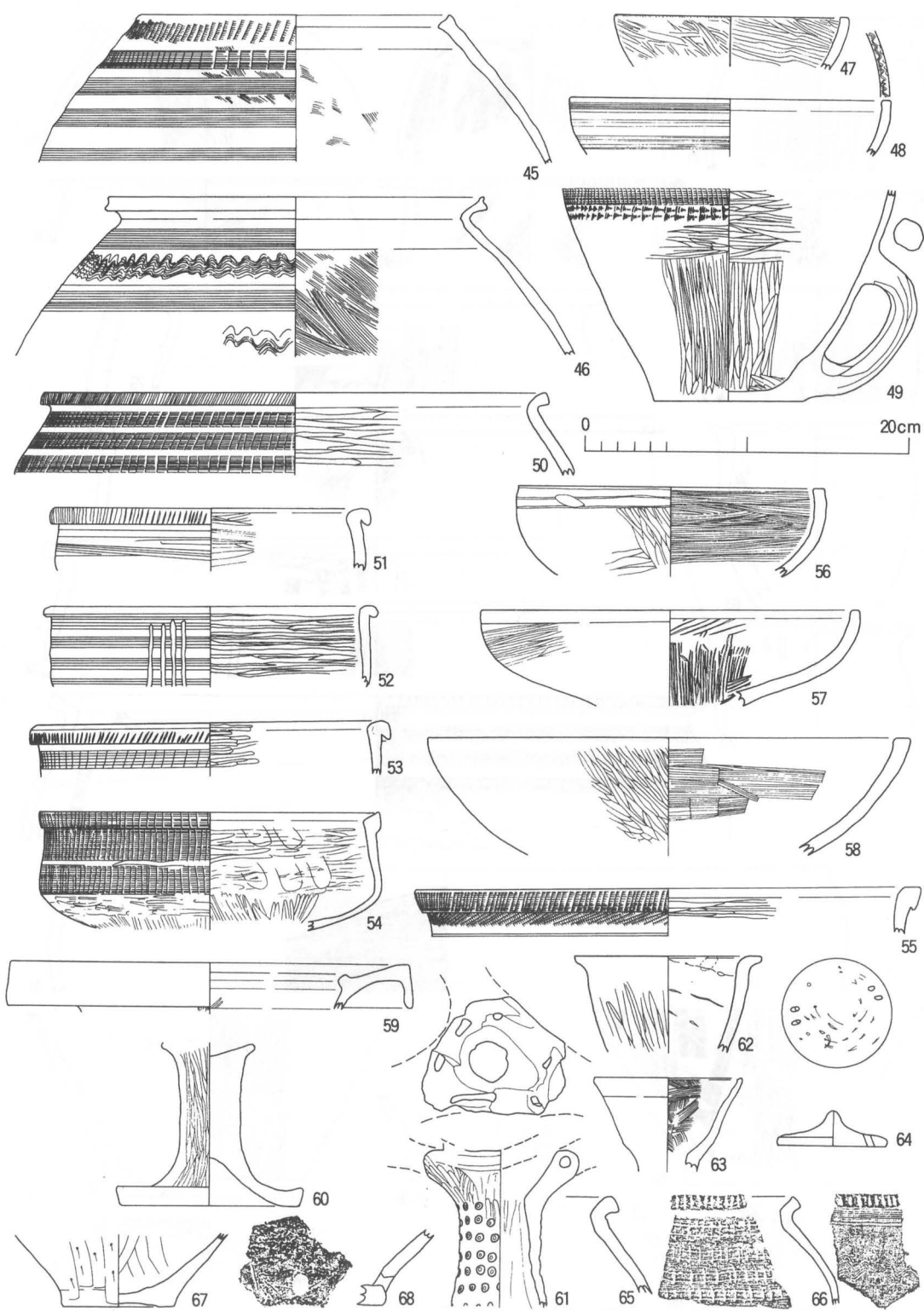
遺構	番号	器形	口径 (底径)	器高 (現存)	その他・(胎土)
IV-3~2	245	甕A1-0	28.0	5.2	(a)
	246	甕A(?)1-2	28.2	4.0	(a)
	247	甕A2-3	30.6	4.0	(a)
	248	甕A1	8.6	3.6	(c)
	249	甕C	(5.3)	8.8	(a)
	250	甕蓋A	$\frac{11.0}{\text{天井径}} \frac{2.8}{\text{}} \frac{2.8}{\text{}}$	4.4	(c)
	251	壺底部	(5.6)	2.0	(a)
	252	壺底部	(7.6)	4.8	木葉痕 (c)
	253	壺A	32.0	4.4	後期 (a)
	254	甕A	26.0	17.2	後期 (a)
IV-2	255	壺A0	17.4	3.2	(a)
	256	壺A1-1	19.6	9.6	(a)
	257	壺A1-2	15.6	4.4	(a)
	258	壺A1-3	22.8	3.2	(a)
	259	壺A1-2	22.6	10.4	(a)
	260	細頸壺A	13.1	8.4	(a)
	261	細頸壺B	14.2	13.6	(b)
	262	鉢B1	19.6	5.2	(a)
	263	鉢B2	45.0	9.2	(a)
	264	高杯A1	16.8	4.8	(a)
	265	高杯A1	28.0	3.2	後期 (a)
	266	胸部	(14.4)	1.9	(a)
	267	甕B1-0	12.3	9.2	(a)
	268	甕B1-0	13.4	4.4	(a)
	269	甕B1-1	14.2	4.4	(a)
	270	甕B1-2	32.0	5.6	(a)
	271	甕A1-2	30.2	4.8	(a)
	272	甕A1-0	21.2	8.0	(a)
	273	壺A底部	(5.4)	3.6	(a)
	274	甕B	18.0	4.8	後期 (b)
275	甕C	12.8	9.2	土師器 (a)	
IV-1	276	壺A0	29.6	4.8	(b)
	277	壺A1-1	22.0	3.6	(a)
	278	壺A2	18.6	2.4	(c)
	279	甕A1-0	11.6	6.0	(a)
	280	甕	14.0	6.0	外面へラ削り (b)
	281	甕A2-2	26.3	7.2	(a)
	282	底部	(6.8)	6.0	(a)
	283	受口壺A1-1	20.2	6.8	(a)
	284	受口壺A1-2	28.0	3.6	(a)
	285	鉢A1	22.2	4.4	(a)
286	鉢C	13.6	8.4	(a)	
III	287	胸部A2	—	11.6	(a)
	288	甕A2-2	28.2	4.0	(a)
	289	甕A2-3	35.0	6.0	(a)
	290	底部	(3.8)	4.0	(b)
	291	壺A2	21.2	5.6	(c)
	292	壺1-1	21.8	3.6	(a)
	293	細頸壺B	16.1	4.6	(a)
	294	直口壺	11.8	6.0	(b)
	295	鉢A1	10.0	4.8	(a)
	296	甕B1-0	15.0	8.0	(c)
	297	壺底部	7.0	3.6	(a)
	298	壺底部	7.8	5.2	(a)
	299	ミニチュア鉢	$\frac{7.4}{(4.6)}$	5.3	(a)
	300	甕底部	(5.0)	4.4	穿孔 (c)
	301	長頸壺	12.9	10.6	後期 (a)
	302	胸部A2-0	(7.8)	5.8	(a)
	303	甕	12.2	8.8	後期 (a)
	304	甕	$\frac{16.8}{(4.8)}$	26.0	後期 (a)
	305	甕底部	(4.4)	4.0	後期 (a)
	306	甕底部	6.0	9.4	(a)
307	壺	9.4	10.5	須恵器 (-)	
II	308	壺A1	18.0	4.0	(b)
	309	壺A2	29.2	6.0	(a)
	310	壺胴部	—	4.4	(a)
	311	鉢C	35.2	7.6	(b)
	312	鉢B0	17.6	6.4	(a)
	313	甕B0	15.0	6.4	(a)
	314	甕B1-0	12.8	10.4	(a)
	315	甕B1-1	12.4	3.2	(b)
	316	甕B2-4	27.4	6.0	(b)
	317	円板	幅0.8	長さ4.4	(a)
I	318	杯蓋	13.5	6.0	須恵器
	319	杯	13.4	5.3	須恵器
	320	杯	13.4	3.6	須恵器
	321	器台	(20.0)	4.4	須恵器
	322	杯	15.8	3.8	須恵器
	323	胸部	(8.3)	4.4	須恵器
	324	高杯	11.2	4.0	須恵器
	325	杯	10.9	4.4	須恵器
	326	器台	(23.0)	6.4	須恵器
	327	羽釜	23.0	12.6	土師器 (a)
328	羽釜	21.8	3.6	土師器 (c)	



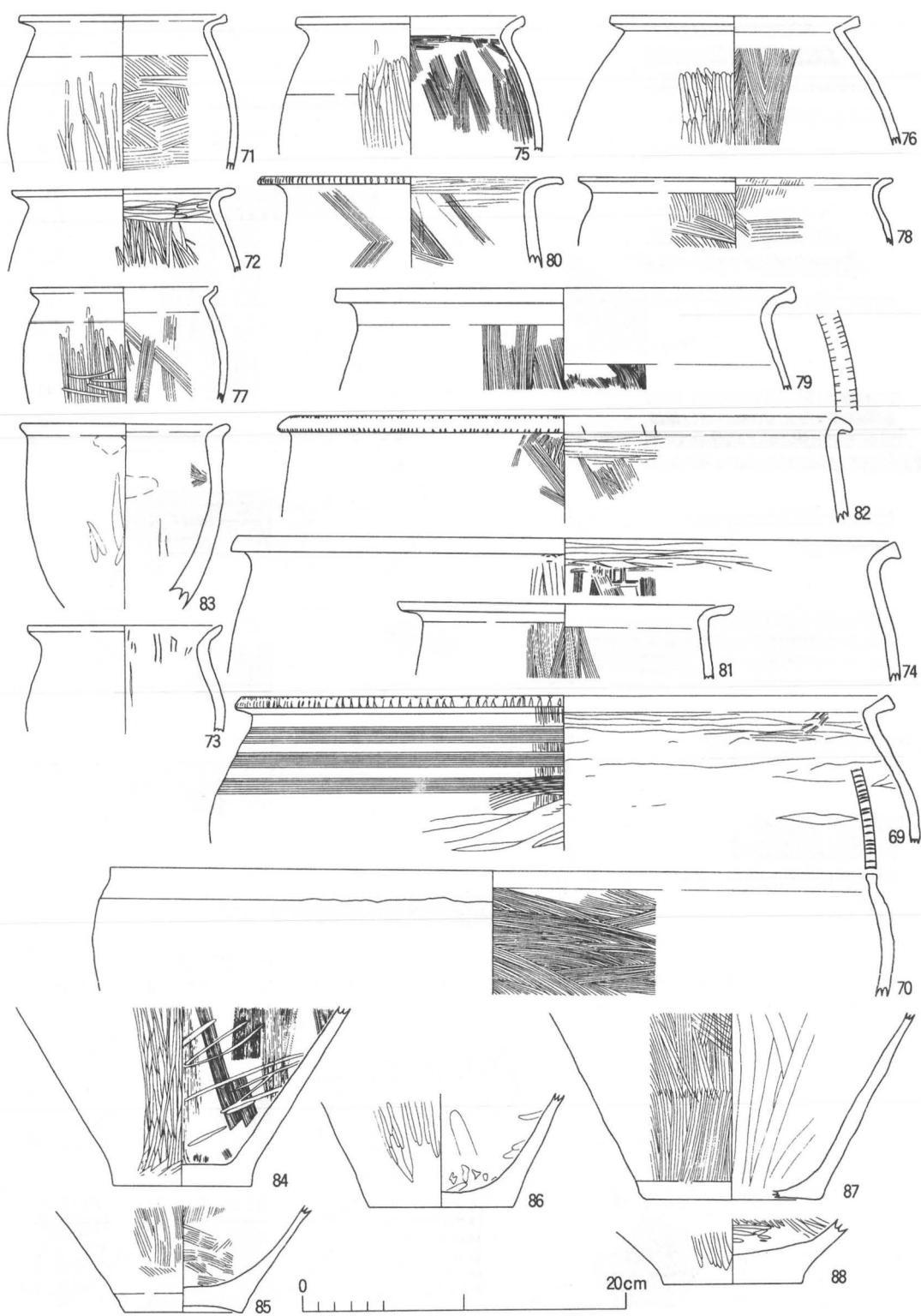
第7図 旧河道 VI-2・VI-1 出土弥生時代中期土器実測図



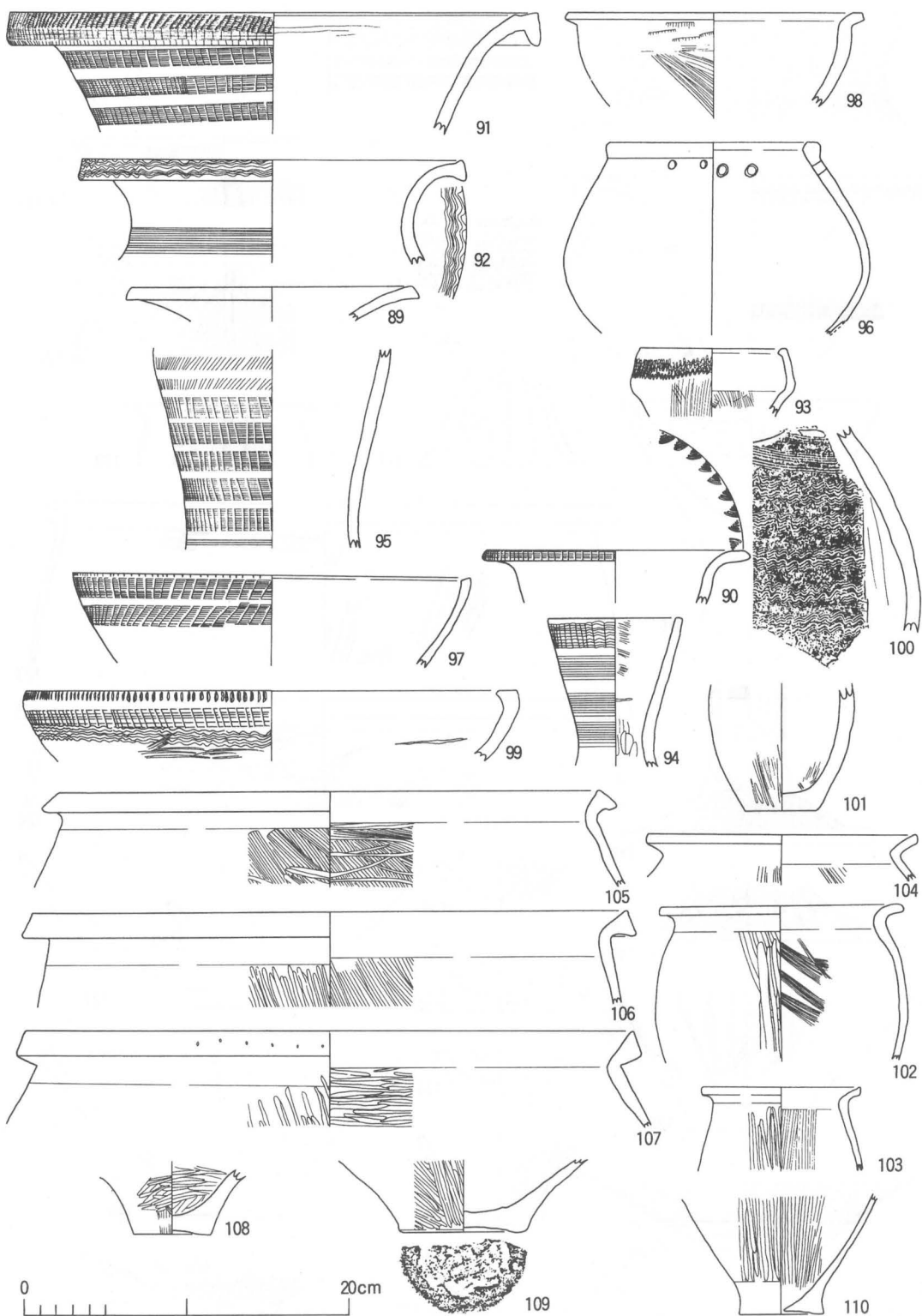
第8图 旧河道 V-2 出土弥生時代中期土器实测图



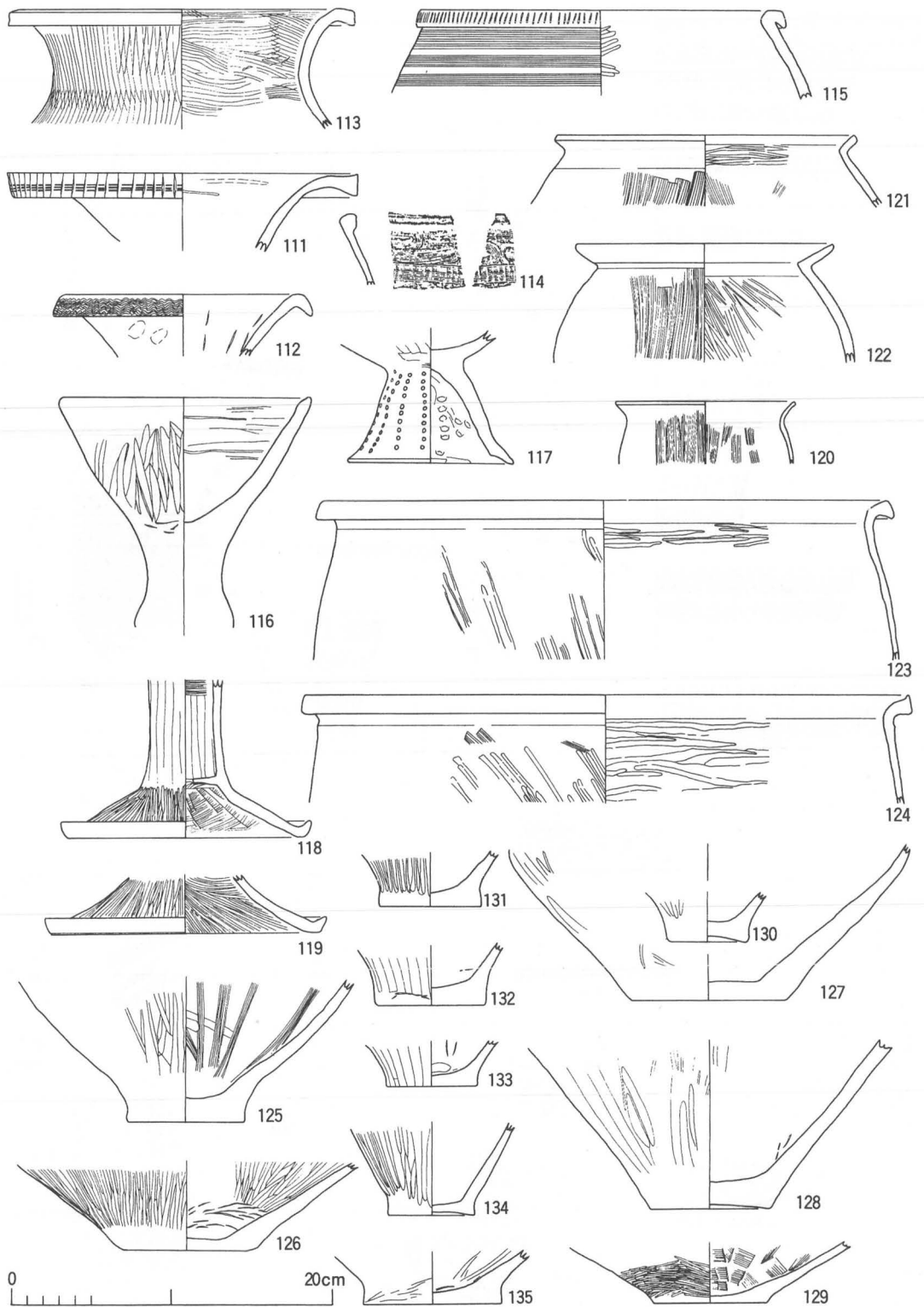
第9图 旧河道 V-2 出土弥生时代中期土器实测图



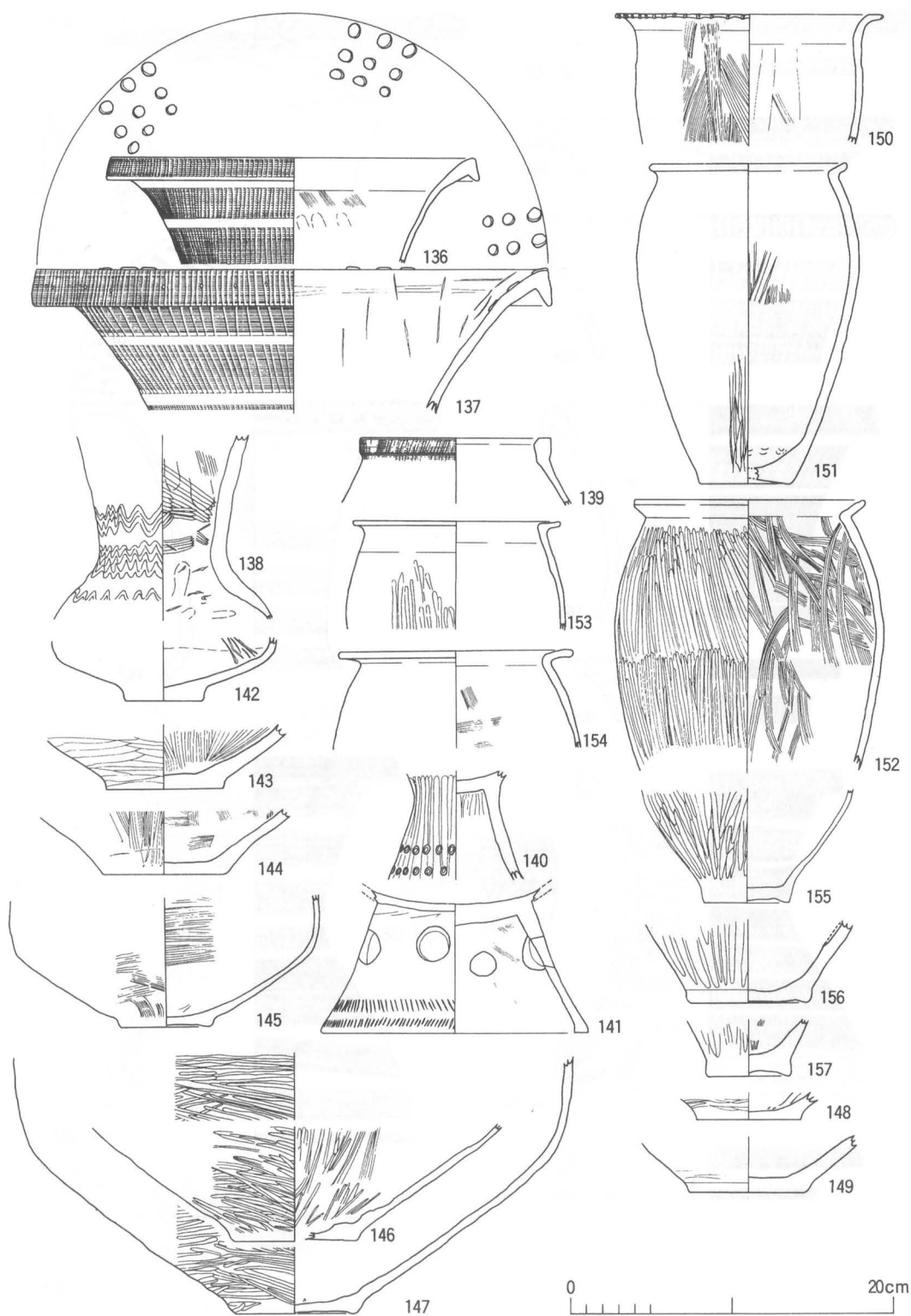
第10图 旧河道 V-2 出土弥生時代中期土器実測图



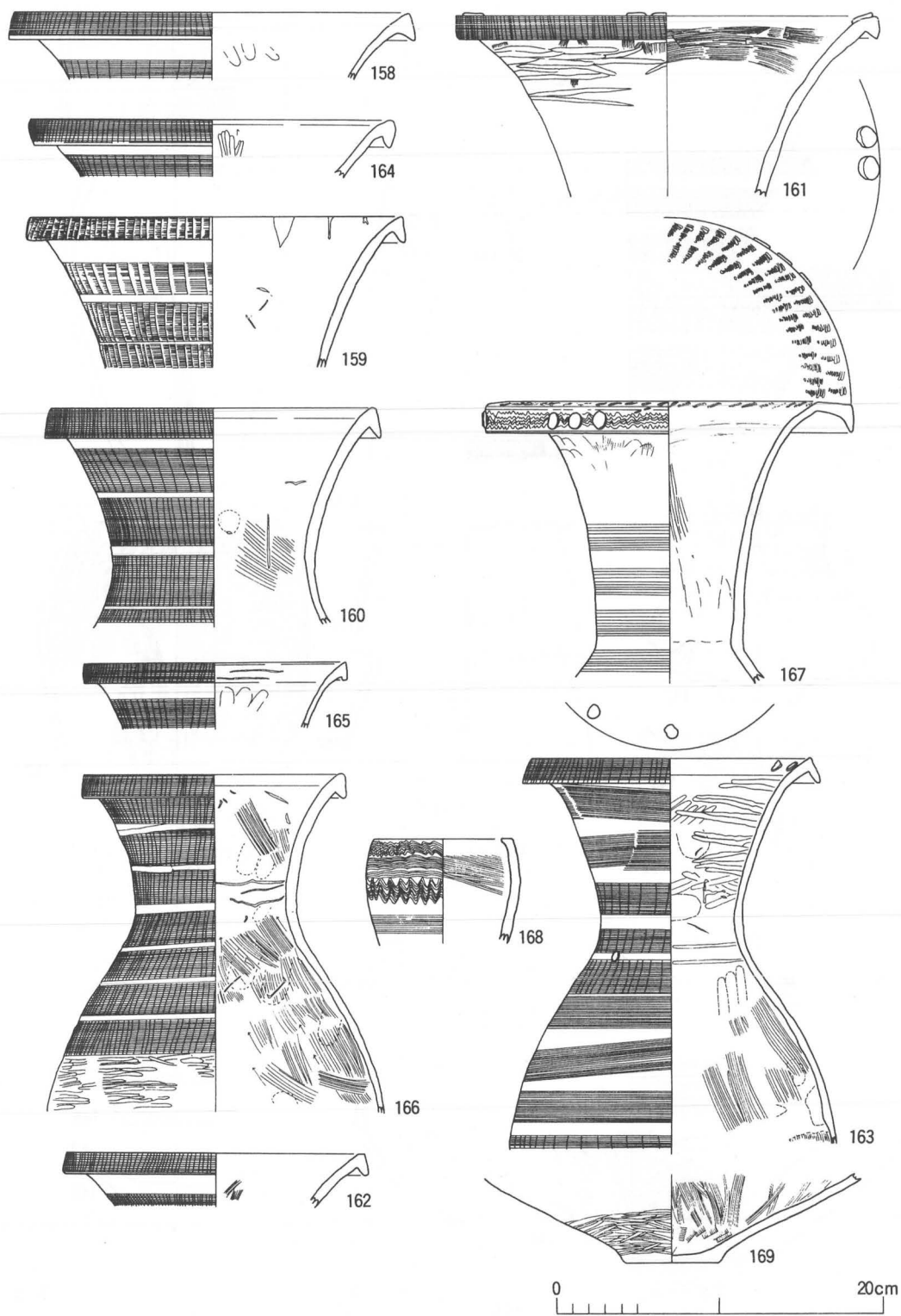
第11图 旧河道 V-1 出土弥生時代中期土器実測図



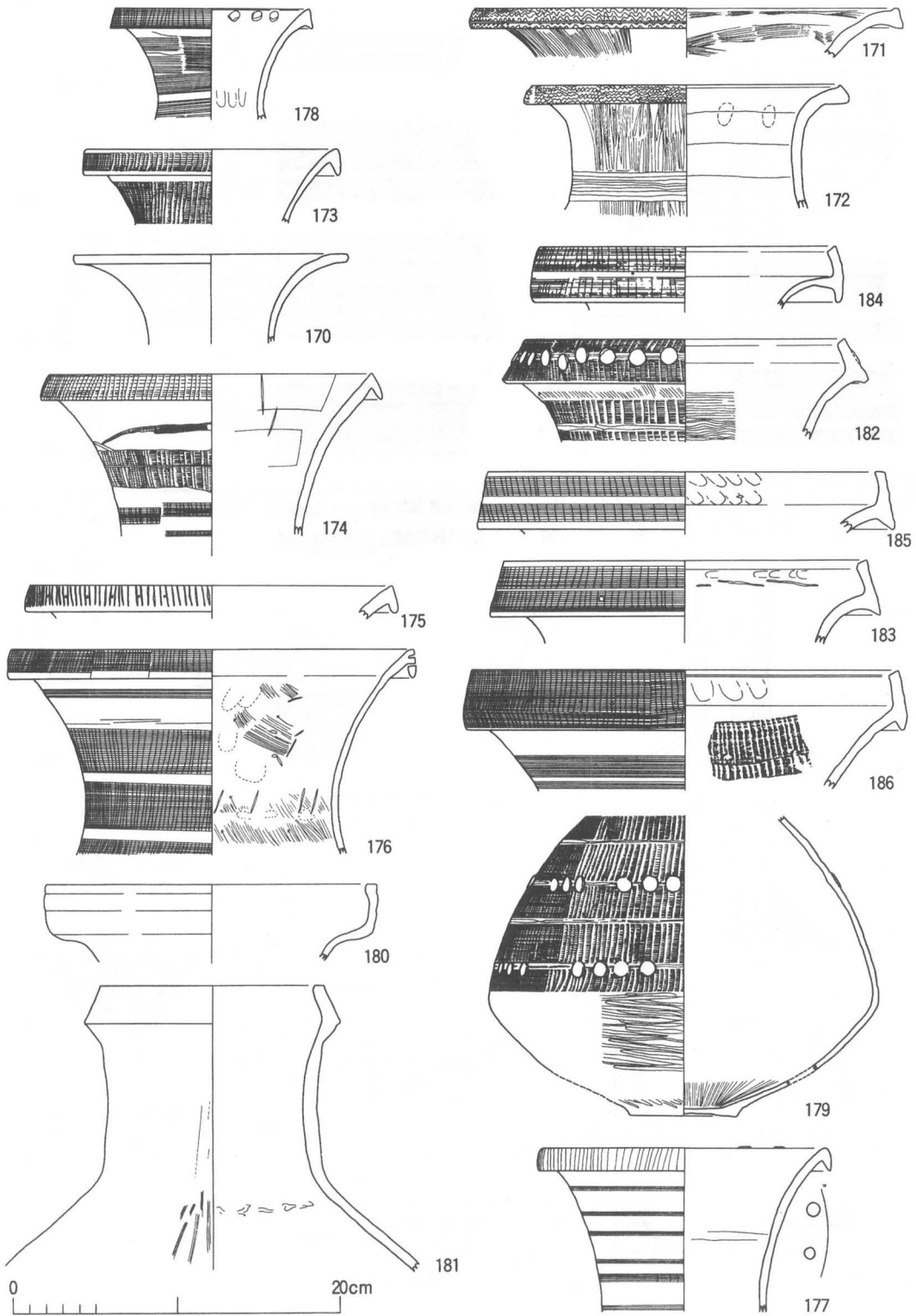
第12図 旧河道 IV-5 出土弥生時代中期土器実測図



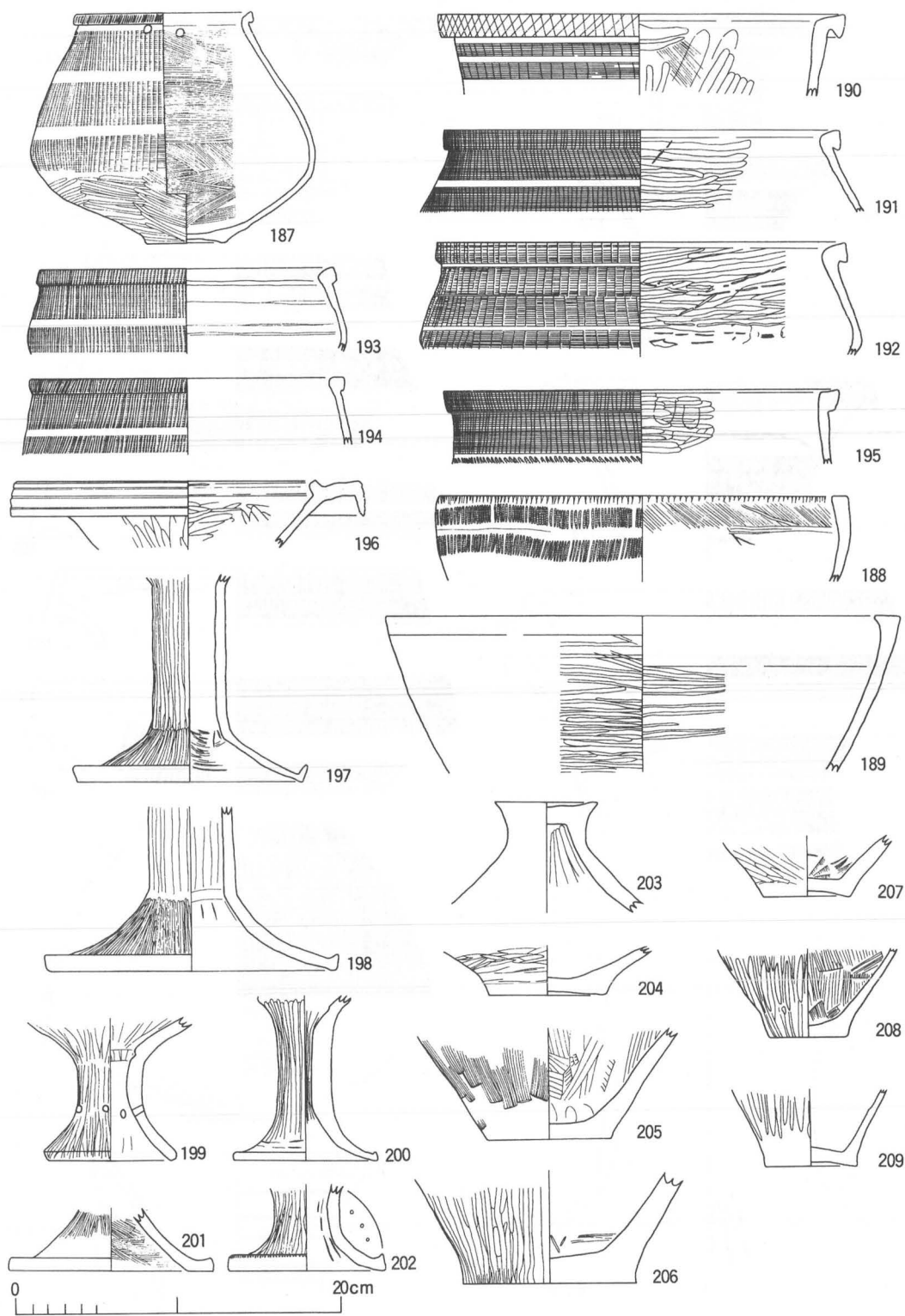
第13図 旧河道 IV-5・IV-4 出土弥生時代中期土器実測図



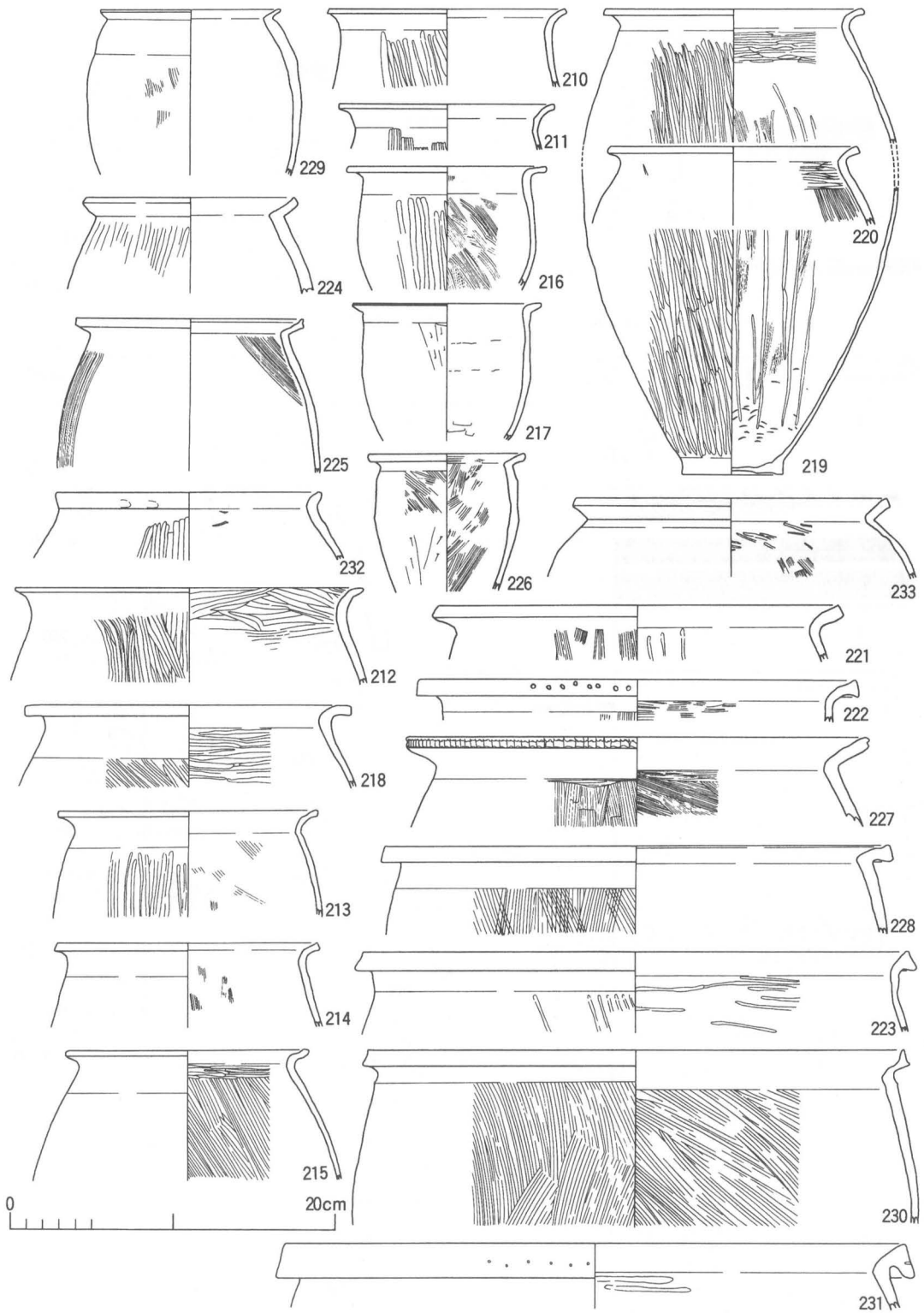
第14図 旧河道 IV-3 出土弥生時代中期土器実測図



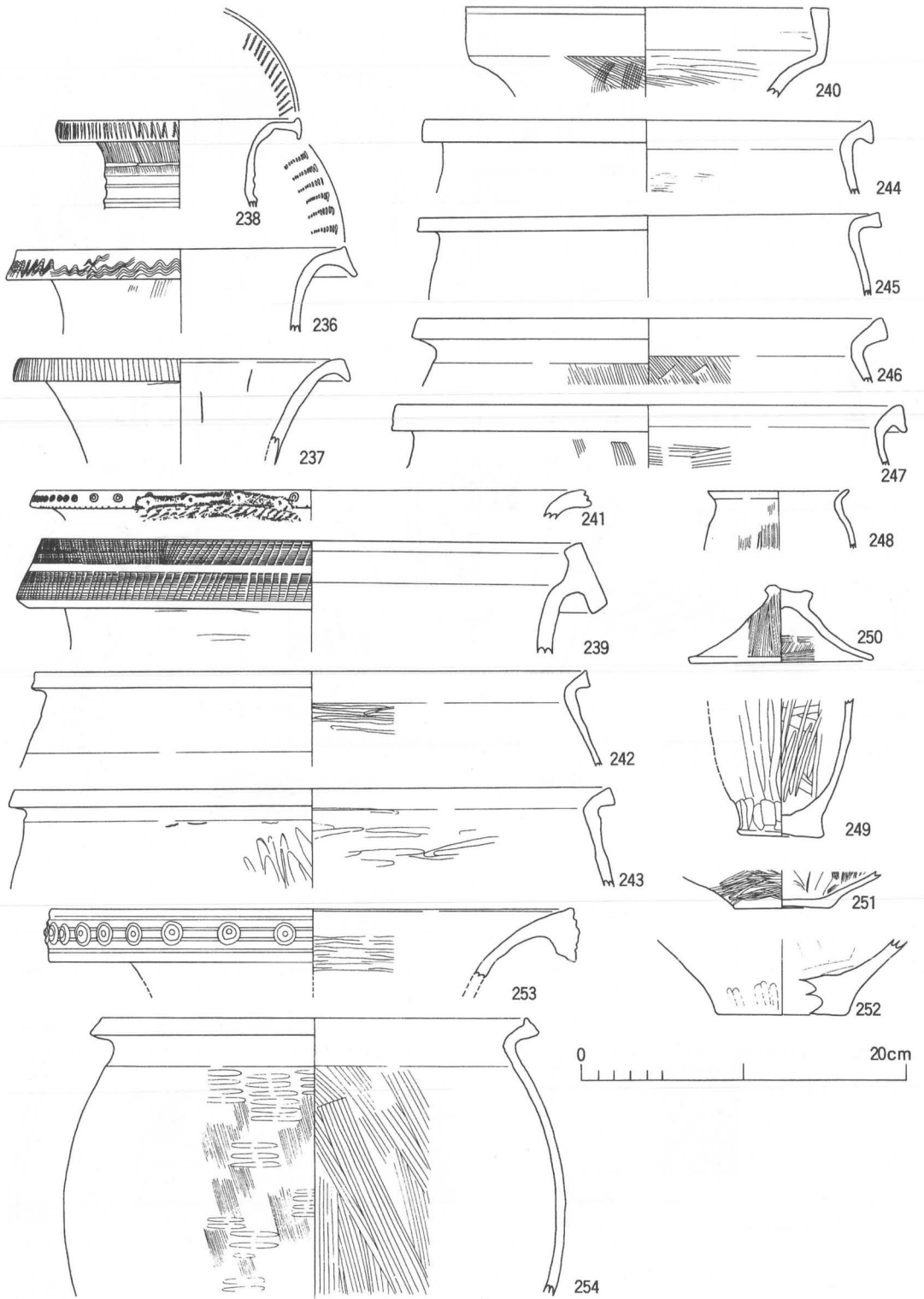
第15図 旧河道 IV-3 出土弥生時代中期土器実測図



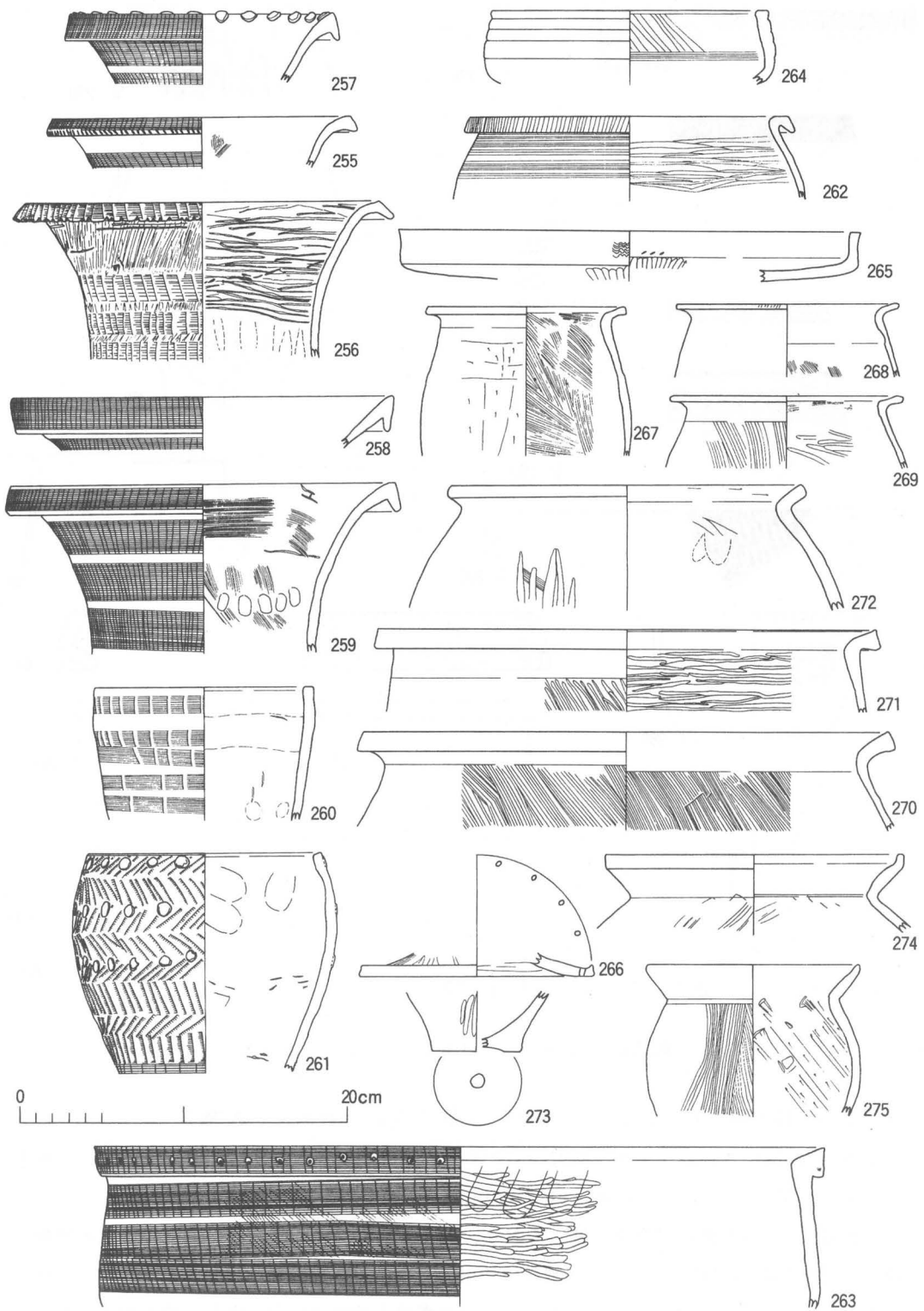
第16图 旧河道 IV-3 出土弥生时代中期土器实测图



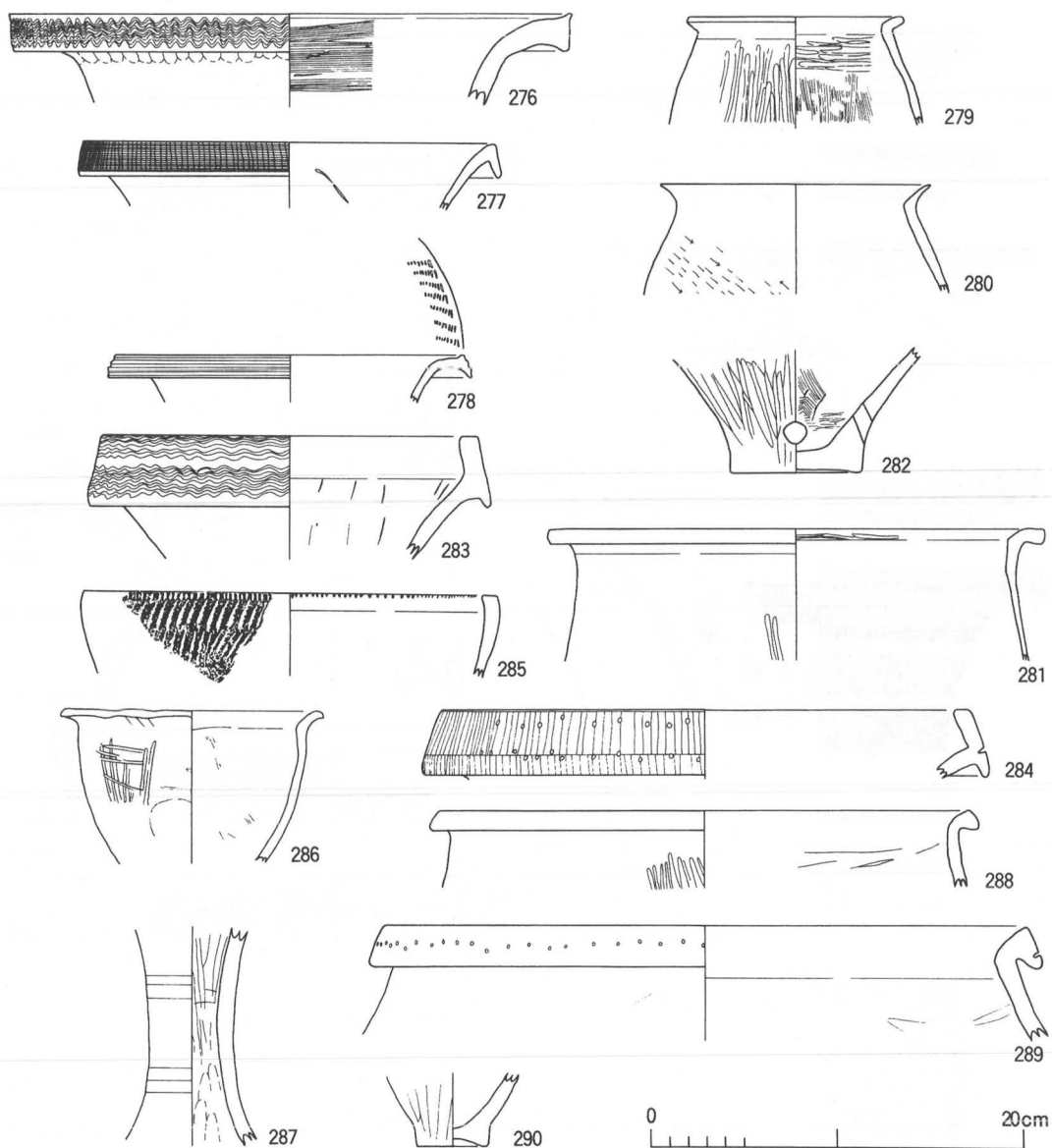
第17図 旧河道 IV-3 出土弥生時代中期土器実測図



第18図 旧河道 IV-3・IV-2 出土弥生時代中・後期土器実測図



第19図 旧河道 IV-2 出土弥生時代中・後期土器・土師器(275)実測図

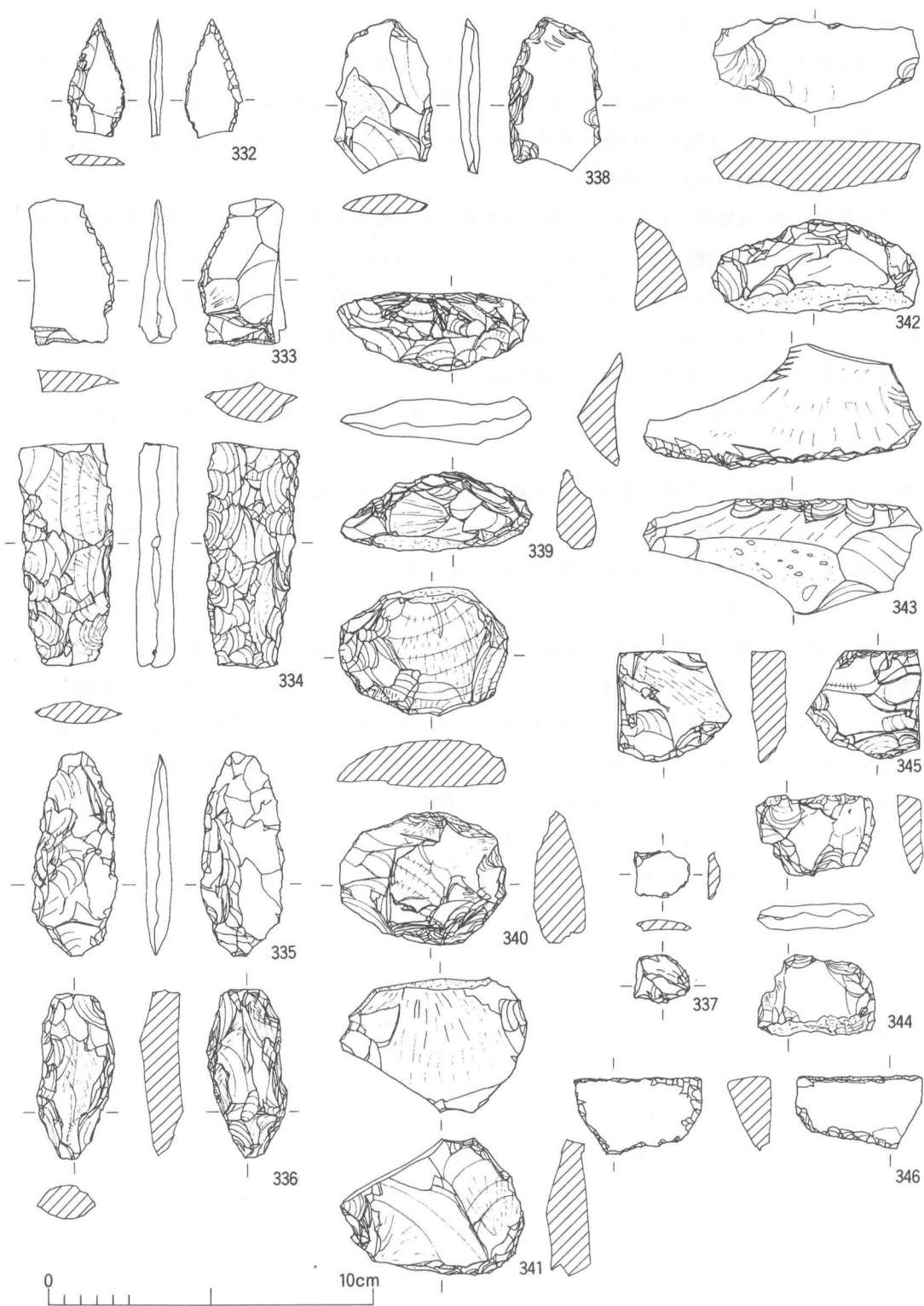


第20図 旧河道 IV-1 出土弥生時代中期土器実測図

長5.2cm、最大幅2.4cm、最大厚1.2cm、重量17.9g。(H地区 第3層)

削器(337)は小さい剥片を使ったもので、周縁に細部調整がみられる。最大長1.7cm、最大幅1.5cm、最大厚0.4cm、重量1.1g。(旧河道V-2)

尖頭器(338)は背面に自然面が残っており、大きく調整剥離している。裏面には主剥離面を残し、周縁を細部調整している。先端部は使用のためか折れており、ピット状を呈す。一縁辺のなかほどから基部にかけて欠けており、残りの周縁と他縁辺は白い傷状の潰れがみられる。最大長4.7cm、最大幅2.9cm、最大厚0.6cm、重量10.4g。(第7層)



第21图 各地区出土打製石器实测图

両面調整石器(339)は側面のほとんどに自然面を残したままで厚みをもつが、一端は尖頭器形に細部調整し薄くなっている。刃部はステップ状の剥離を含む成形と粗い細部調整で造り出している。自然面付近には縁辺部の方向からの打撃痕による細かなステップ状の剥離がみられる。刃部の中央部には槌状の白色の線条痕が残っている。最大長5.8cm、最大幅2.4cm、最大厚1.1cm、重量17.6g。(旧河道V-5)

円形削器(340)は側面に自然面を、裏面の中央に主剥離面を残している。周縁の両面は大剥離面で成形後、細部調整剥離で刃部をつくっている。背面はステップ状の剥離で成形され、上部に数個の打撃痕がみられる。刃部と刃部の一部の折れ面に細かい白色の傷がみられる。最大長5.2cm、最大幅4.0cm、最大厚1.3cm、重量33.4g。(H地区)

削器(341)は側面に自然面、裏面に主剥離面を残している。周縁の半分近くが欠けているが、不連続の細部調整を施しており、対縁辺にステップ状の打撃痕と潰れがみられる。最大長5.2cm、最大幅4.3cm、最大厚1.2cm、重量33.2g。(G・H地区 土坑2)

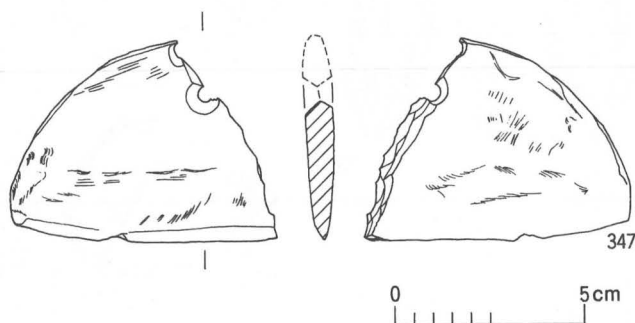
削器(342)は側面に自然面、裏面に主剥離面を残している。表面には身部の大剥離面から刃部にかけて急角度の剥離を施しており、刃部を細部調整している。刃部は部分的に使用のためか白色を呈し、刃潰れがみられる。最大長6.3cm、最大幅2.8cm、最大厚1.5cm、重量30.0g。(H地区 第4層)

削器(343)は背面に自然面と大剥離面を残し、刃部を細部調整している。裏面に主剥離面を残し、ステップ状の細部調整を施している。刃部は使用のため白色を呈し、部分的に条線や刃こぼれがみられる。最大長8.5cm、最大幅3.7cm、最大厚1.15cm、重量27.5g。(第9層)

楔形石器(344)は側面に自然面、身部の両面に大剥離面を残し、周縁を細部調整している。周縁部には使用のためか白色の傷と歯こぼれした剥離がみられる。最大長3.6cm、最大幅2.5cm、最大厚0.8cm、重量9.0g。(攪乱層)

楔形石器(345)は側面に自然面、裏面に主剥離面を残している。周縁を細部調整しているが、使用のためかステップエンドの大きな剥離痕と白い傷が線状になっているのがみられる。自然面の稜には打撃痕による白い傷が残っている。二辺は折れている。最大長3.7cm、最大幅3.4cm、最大厚1.1cm、重量19.0g。(第5層)

楔形石器(346)は側面と表面に自然面、裏面には主剥離面を残し、縁辺を細部調整している。一縁辺には折れ面をもち、その一辺にも細部調整を施しており、使用のためか白い傷がみられる。側面の自然面の稜には打撃痕による白い傷が残っている。最大長3.9cm、最大幅2.3cm、最大厚1.2cm、重量13.4g。(F地



第22図 旧河道 V-2 出土石庖丁実測図

区 第4層)

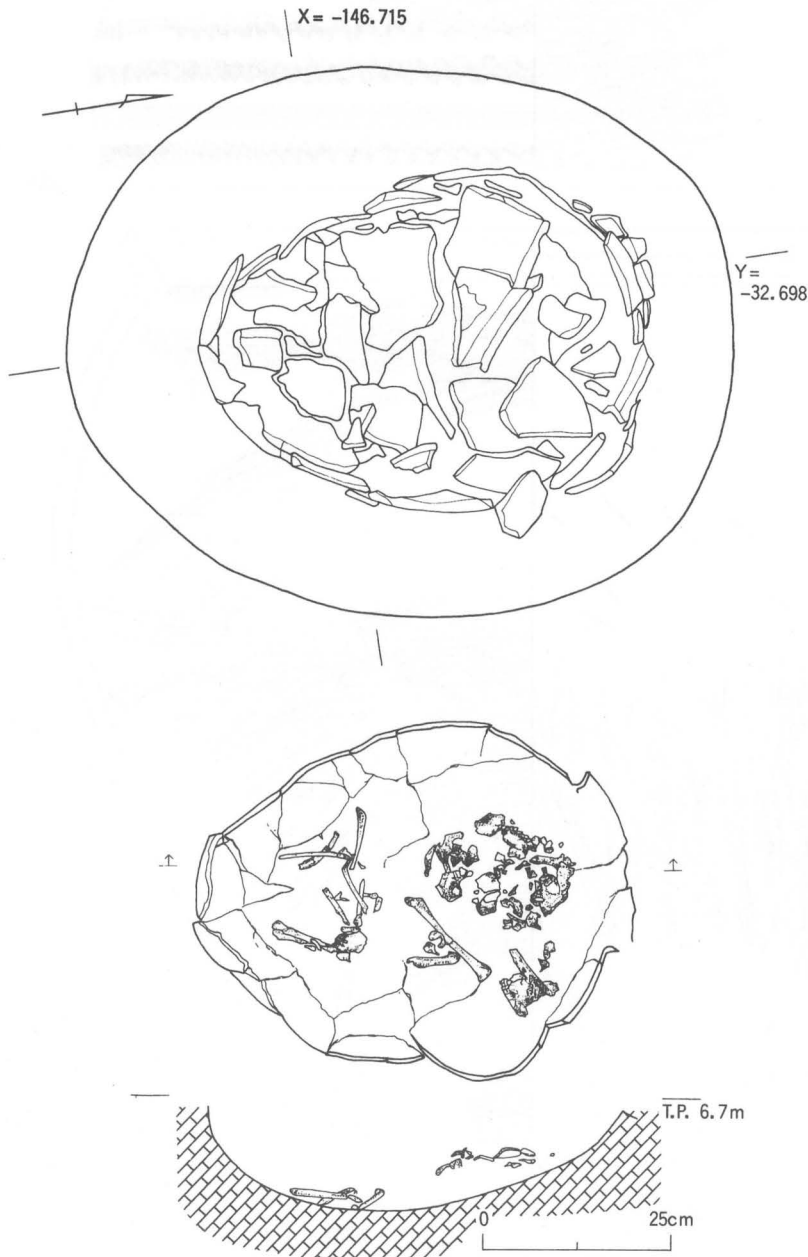
以上の打製石器のなかで、(333~335・338・339・343)は弥生時代中期の旧河道から出土しており、包含層から出土した他の石器も概ね弥生時代中期後半ぐらいまでの時期に属するものとする。サヌカイトの総重量は剥片も入れて471.1gで、上記の石器の総重量は264.3gである。

他に弥生時代中期頃に属する石庖丁(347、第22図)が出土している。

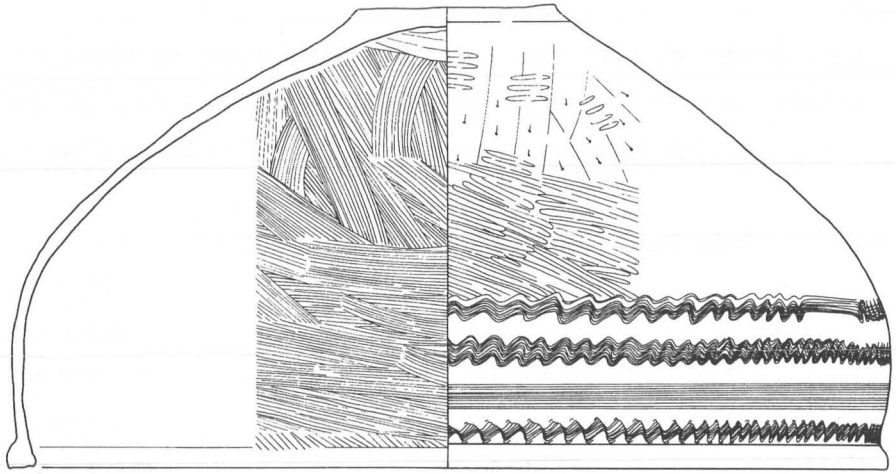
石庖丁(347)は半月形直刃形態のもので、中央部より半分以上欠損している。残存する側に縦位に並ぶ紐孔がある。上部の紐孔が最初の加工時のもので、下部の紐孔は石庖丁を再加工した時に穿ったものと考えられる。表面の刃部の上位に穿過痕、裏面の身部に敲打痕、刃部には刃こぼれがみられる。最大長7.1cm、最大幅5.4cm、最大厚0.7cm、重量41.1g。(旧河道V-2)

土器棺(第23・24図、図版7)

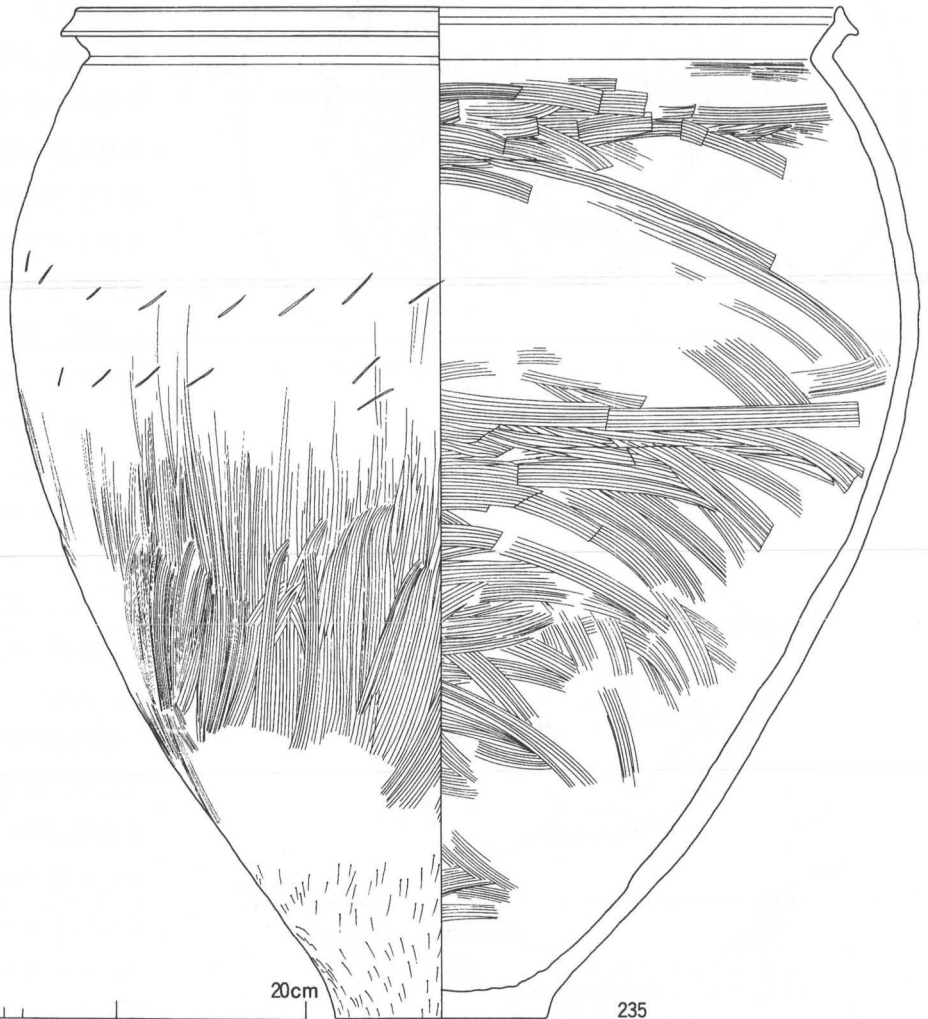
旧河道の中から出土した。出土した層は旧河道Vと旧河道IVとの間で中州状になったオリーブ黒色(5Y 3/1)中粒砂~細礫の中からである。河内の胎土の甕を身



第23図 土器棺検出状況実測図



234



235

第24図 土器棺実測図

とし、他地域の鉢を蓋としてかぶせている。墓壙は南北に長く長径88cm、短径72cmの楕円形である。土器棺は口を北に向けている。口径40cm、高さ54cmの甕を横に倒した状態に置き、口径46cm、高さ25cmの鉢を蓋として用いている。甕及び鉢は土圧によって押し潰されていたが、中には頭骸骨、大腿骨、骨盤、上腕骨などの骨が残っていた。大阪市立大学医学部解剖学第二講座多賀谷昭氏に鑑定を依頼した結果、この人骨は1才ぐらいの幼児のものと判断された。但し、骨の数が多いため2体を入れていた可能性もある。

この土器棺は遺物から見ると弥生時代中期後半に位置づけられる。旧河道の中にある土器棺は西ノ辻遺跡では第17次調査で2基、第23次調査で2基検出されている。いずれも弥生時代中期後半に位置づけられるものである。

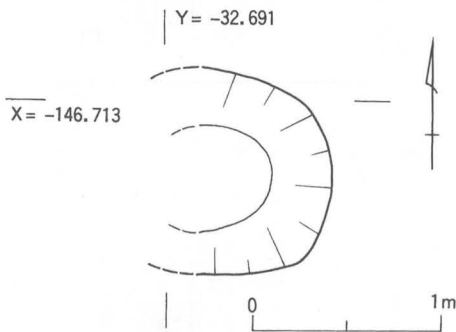
甕(235)の体部は平底から大きく広がる胴部がやや上位で丸く張り出して肩部に続き、頸部はあまりすばまらない。口縁部は「く」の字形に外折し、端部が上下に肥厚している。胴部の上位に二段の櫛状の原体による圧痕文が浅く施されている。調整は口縁部内外面を横ナデし、外面底部にはヘラ削りを残して、胴部と内面の体部全面にハケ目を施している。胴部の半ばに焼成時に重ね焼きした跡がみられる。胎土はa類に属する。色調は暗茶褐色を呈す。

鉢(234)は平底から胴部まで大きく開き、腰に丸味をもちながら体部が立ち上がるものである。口縁部は段状につくられている。体部には波状文と直線文を施している。最下端部の波状文は一部直線文になっている。胴部には叩き目を施した上からハケ目、底部にはヘラ削りとヘラ磨きを施している。内面にはハケ目調整を施し、底面に強い指ナデがみられる。胎土はb類に属し、大きなくさり礫が含まれている。色調は赤橙褐色を呈す。甕は硬質に、鉢はやや軟質

に焼かれている。

土坑3(第25図)

調査地南東端付近で検出した。円形を呈する土坑である。直径1.1m、深さ0.53mである。断面形はU字状を呈する。埋土はオリーブ黒色(7.5Y 3/1)細礫～シルト混じり粘土である。



第25図 土坑3実測図

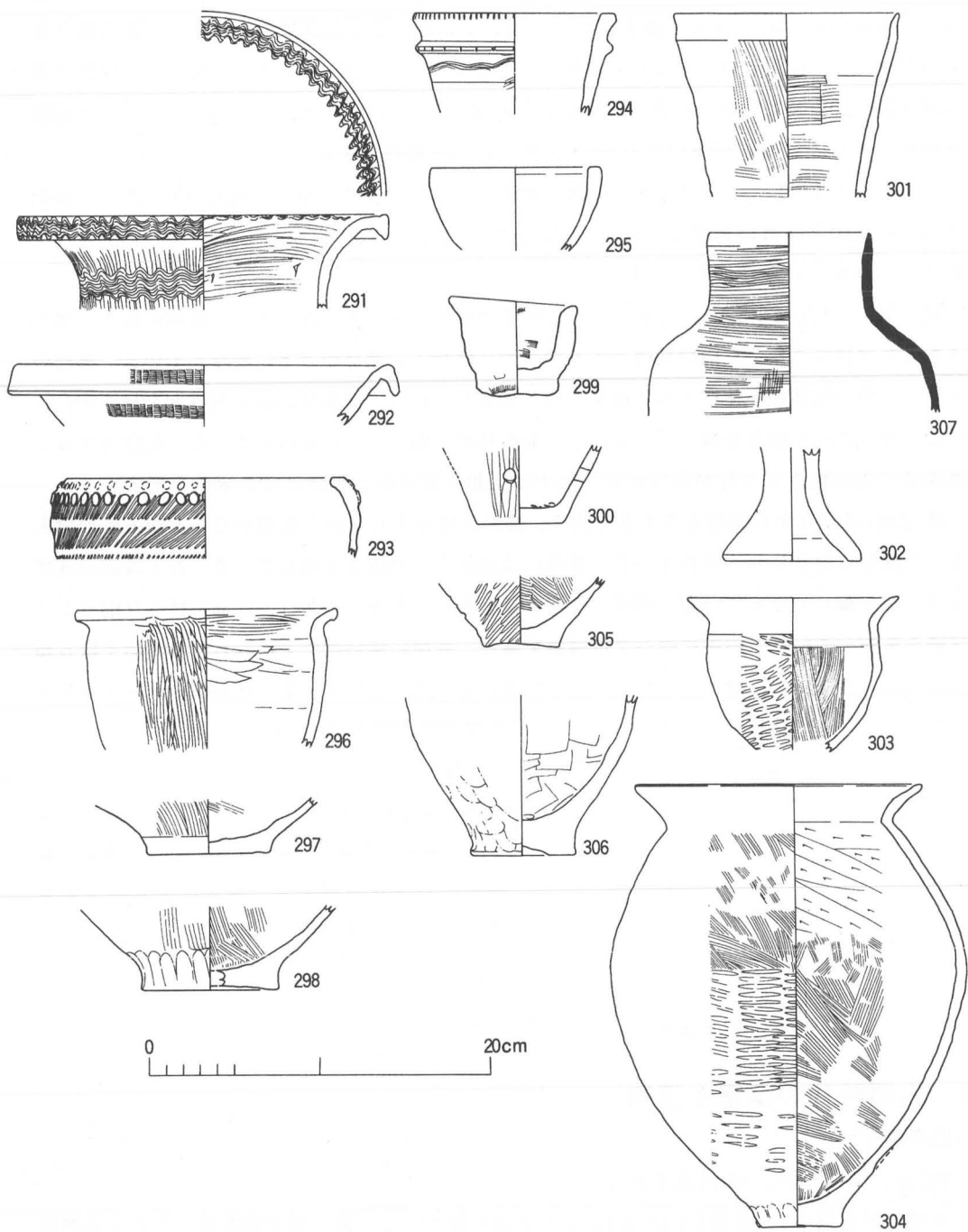
4. 古墳時代の遺構と遺物

旧河道Ⅲ

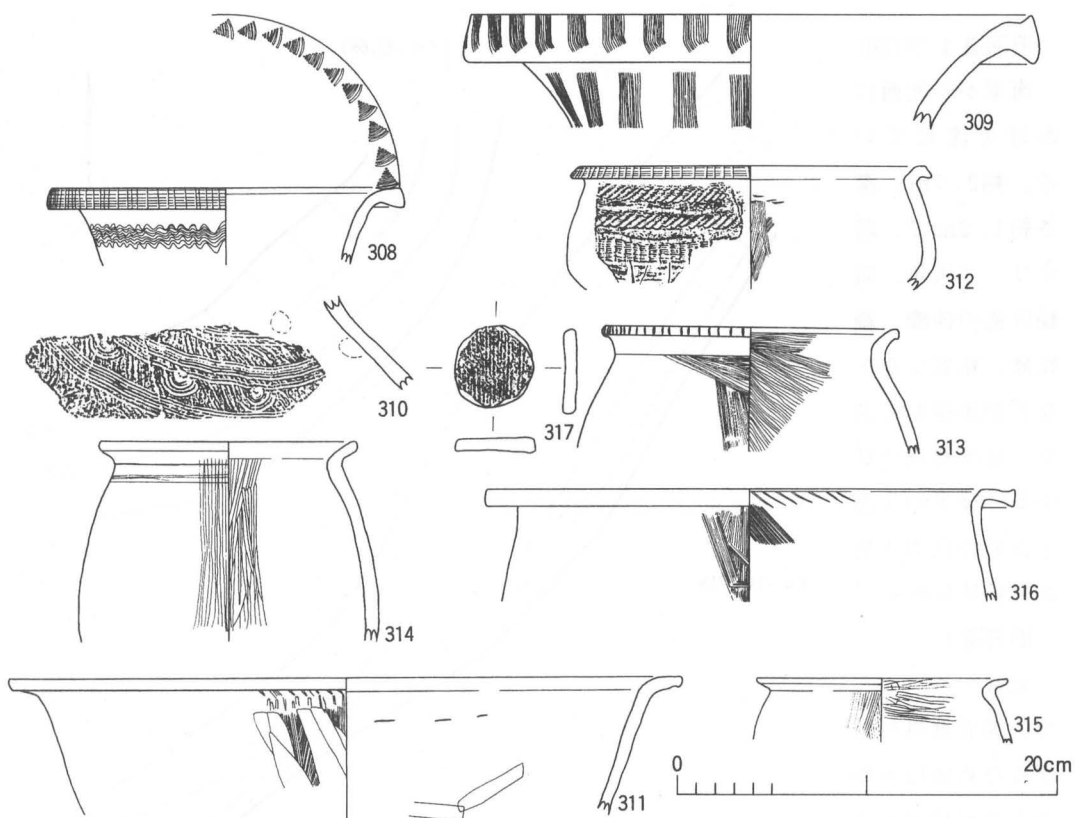
幅5m、深さ0.6mの旧河道である。

南側を旧河道Ⅱに、北側を旧河道Ⅰによって切られている。最下層が砂礫層、その上が礫混じりシルト、砂混じりシルト、極細粒砂～シルト、極細粒砂～細礫、粘土となっていく。灰色、オリーブ黒色を中心とした土色である。

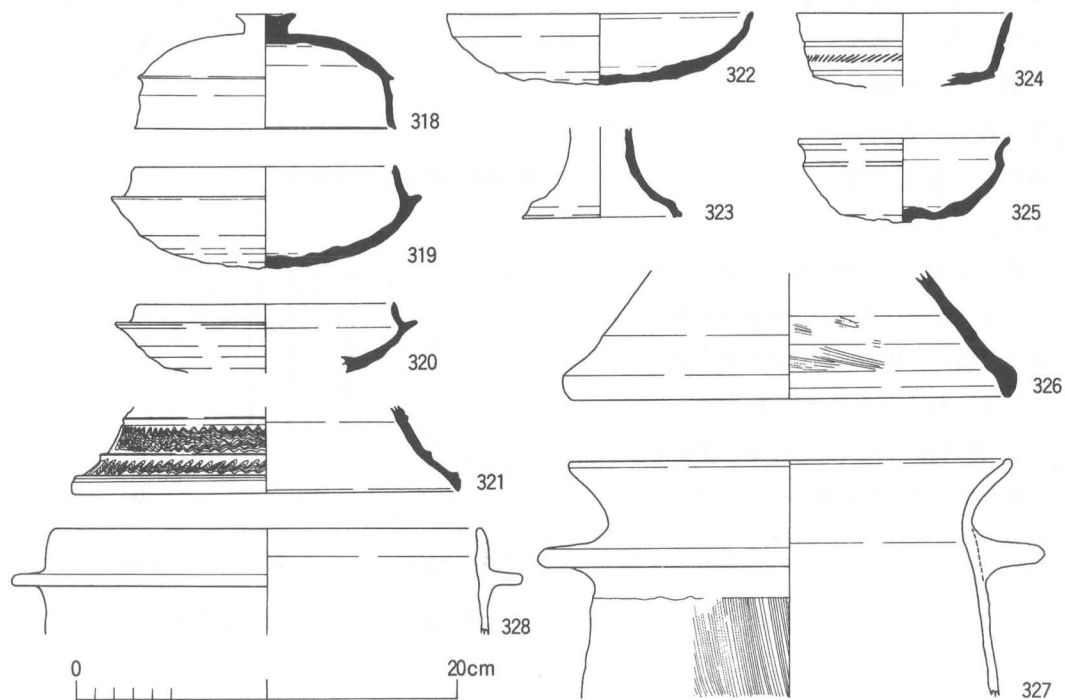
弥生土器の壺、甕、鉢、高杯などを主体に古墳時代の土器が出土した。



第26図 旧河道 III 出土弥生時代中・後期土器、須恵器(307)実測図



第27图 旧河道 II 出土弥生時代中期土器実測図



第28图 旧河道 I 出土土師器・須恵器実測図

旧河道Ⅱ (第29図)

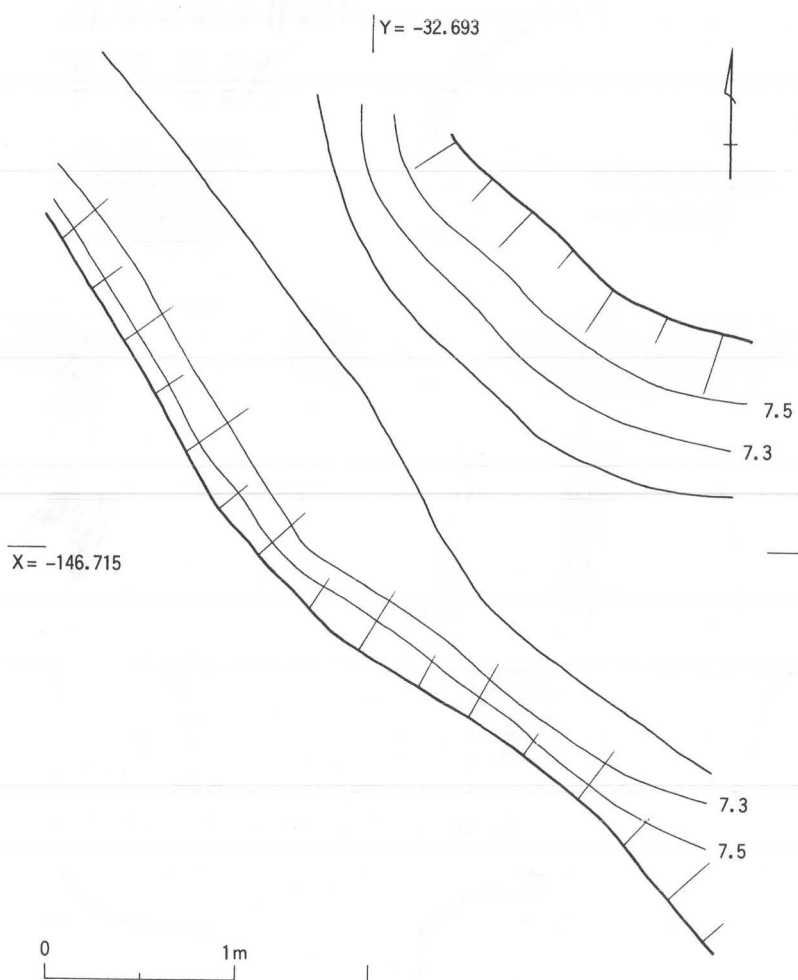
南東から北西にかけて流れている。幅2.7m、深さ約1.2mで、暗オリーブ灰色、暗緑灰色の砂礫、細粒砂、粘質シルトなどが堆積しており、弥生時代中期中葉～後半の土器と古墳時代の土器が少量見られる。

旧河道Ⅰ

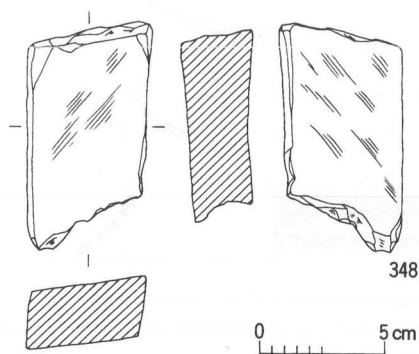
北端でみつかった。調査地外へ延びるため幅は不明であるが検出した幅は3.4m、深さ0.7mである。弥生土器、須恵器杯身、杯蓋、器台、高杯、土師器羽釜が出土している。

砥石(348、第30図)は上半部を欠いている。断面は長方形。四面共に研砥面で上面と一側面は研砥のため内湾している。最大長9.0cm、最大幅5.2cm、最大厚2.8cm。(H地区第4層)

砥石は古墳時代以降のものと考えられる。



第29図 旧河道Ⅱ 実測図



第30図 第4層出土砥石実測図

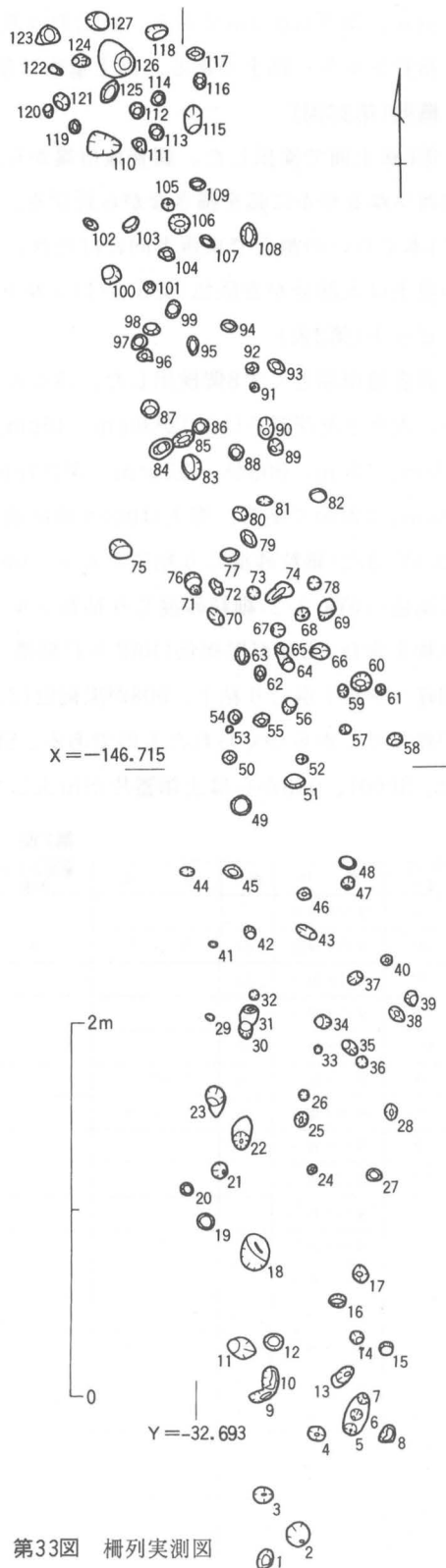
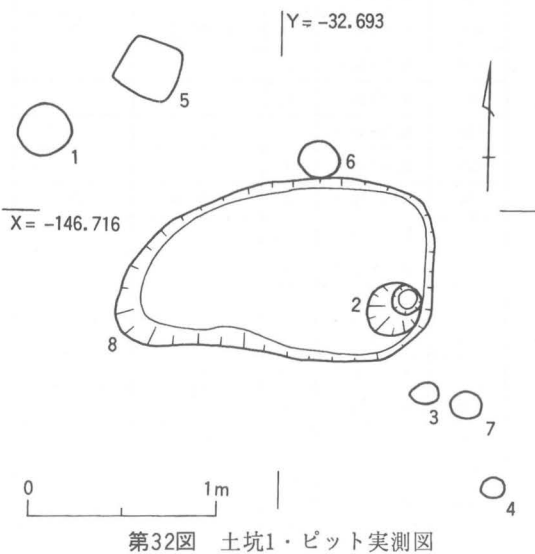
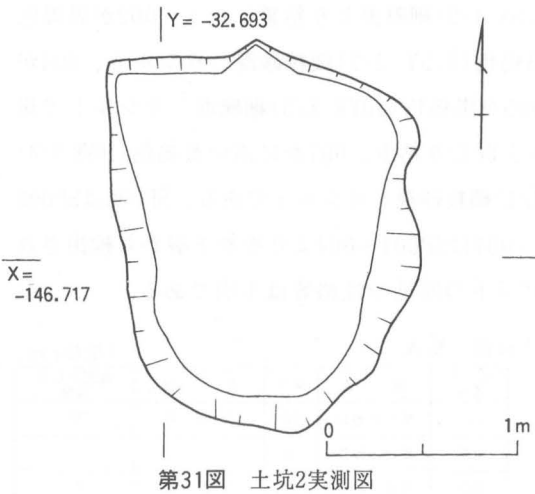
5. 歴史時代の遺構と遺物

土坑2(第31図)

調査地南端付近で検出した。土坑1の真下に位置する。南北に長い不整形な隅丸長方形又は楕円形を呈する。大きさは2×1.6m、深さ0.3mである。断面形は皿状を呈する。埋土は灰黄褐色あるいは黄褐色(10YR 4/2 10YR 5/6)細礫混じり粘質シルト～粘土である。

土坑1(第32図)

調査地南端付近で検出した。東西に長い不整形な隅丸長方形をした土坑である。大きさは1.63×



0.94m、深さは0.3mである。断面形は皿状を呈する。埋土は灰黄褐色(10YR 4/2)細礫混じり粘質シルト～粘土である。出土遺物は須恵器片である。

柵列(第33図)

第6層上面で検出した。調査地南端から北へ約8.5mの区間で検出した。南端中央部から北北西へゆるやかに弧を描きながら延びる。径8～38cm、深さ4～24cmの小ピットが幅2.4m間に4本ぐらいの割合で東西方向に打たれ、南北方向は30～50cm間隔ぐらいである。ピット群の埋土は大部分が青灰色(5PB 5/1)シルトである。

ピット(第2表)

調査地南端近くで8個検出した。ほとんどが円形または楕円形であるがSP005のみ方形である。大きさ及び深さは001が30cm、45cm、002が30cm、22cm、003が13cm、11cm、004が12cm、13cm、005が一辺30cm、深さ7cm、006が19cm、19cm、007が15cm、9cm、008が15cm、22cmである。埋土は001が暗灰黄色(2.5Y 4/2)細礫混じり粘質シルト、002が黒褐色(2.5Y 3/2)細粒砂混じり粘質シルト、003が黒褐色(2.5Y 3/2)細粒砂混じりシルト、004が黒褐色(10YR 3/2)細粒砂混じり粘質シルト、005が黒褐色(10YR 2/3)細礫混じりシルトで炭化物を含む、006が黒褐色(10YR 3/1)細礫～シルト混じり粘土、007がにぶい黄褐色(10YR 5/4)細礫～シルト混じり粘土、008が黒褐色(2.5Y 3/1)細粒砂混じりシルトである。SP008はSP002が埋まってからつくられたものである。SP005～007はSP001～004よりやや下層から検出された。SP001、005からは土師器片が出土した。ピットの時期や性格等は不明である。

第2表 ピット計測一覧表

(単位cm)

ピット番号	直径	深さ	方位	地面からの角度
001	長12×短8	7		
002	長13×短13	22	N-11°-E	76°
003	長11×短9	23		
004	長10×短8	1		
005	長7×短6	17		
006	長7×短7	16	N-48°-E	79°
007	長8×短7	16	S-26°-W	65°
008	長11×短8	9		
009	長15×短6	9		
010	長15×短8	5		
011	長16×短11	22	S-73°-E	70°
012	長11×短9	8		
013	長15×短8	16		
014	長7×短7	11	N-42°-W	77°
015	長8×短8	9	N-8°-E	83°
016	長10×短7	16		
017	長9×短8	8		
018	長18×短15	9		
019	長9×短9	15		
020	長7×短6	1		

ピット番号	直径	深さ	方位	地面からの角度
021	長10×短10	10	N-68°-W	70°
022	長18×短10	16		
023	長17×短8	21	N-21°-E	70°
024	長6×短6	1		
025	長9×短7	11	N-76°-E	75°
026	長7×短6	2		
027	長9×短7	15		
028	長9×短8	7		
029	長6×短4	4		
030	長9×短7	17	S-3°-W	77°
031	長12×短10	12		
032	長6×短5	3		
033	長6×短5	3		
034	長9×短7	10	S-89°-E	79°
035	長10×短7	18	S-47°-E	75°
036	長7×短6	4		
037	長9×短8	18	S-55°-W	71°
038	長10×短5	19		
039	長9×短8	13	N-74°-W	79°
040	長7×短6	6		

第2表 続き

(単位cm)

ビット 番号	直 径	深さ	方 位	地面からの 角度
041	長 6×短 4	4		
042	長 7×短 6	8	N-31°-W	77°
043	長13×短 6	12	N-63°-W	66°
044	長 8×短 5	5		
045	長11×短 8	16		
046	長 8×短 7	11		
047	長10×短10	6	N	69°
048	長 9×短 8	22	S	81°
049	長11×短11	30		
050	長 9×短 9	6		
051	長11×短 8	22	S-1°-E	78°
052	長 6×短 4	6		
053	長 4×短 4	2		
054	長 8×短 7	5		
055	長 9×短 8	21		
056	長 9×短 8	10	S-24°-W	67°
057	長 7×短 6	4	N-1°-W	70°
058	長 8×短 7	10	N	70°
059	長 8×短 6	4	S-18°-E	68°
060	長12×短12	15		
061	長 4×短 3	5	S-54°-E	74°
062	長 7×短 7	11		
063	長10×短 9	23		
064	長 8×短 7	7	N	55°
065	長 7×短 6	7	N-89°-W	80°
066	長11×短 9	20		
067	長 7×短 7	13	N-81°-E	72°
068	長 8×短 8	15	N-57°-W	76°
069	長13×短10	10	S-22°-W	76°
070	長11×短 7	8	N-56°-W	75°
071	長 7×短 5	10		
072	長 8×短 7	11	S-35°-W	72°
073	長 7×短 7	5		
074	長15×短 7	15		
075	長13×短11	13	N-52°-W	84°
076	長10×短 9	12	N-72°-W	64°
077	長10×短 7	17		
078	長 8×短 7	6		
079	長11×短 8	13	N-27°-W	73°
080	長 8×短 7	10	N-49°-E	65°
081	長 9×短 6	5		
082	長 9×短 7	8	N	64°
083	長15×短10	21	S-33°-E	75°
084	長15×短10	22	S-39°-E	77°

ビット 番号	直 径	深さ	方 位	地面からの 角度
085	長13×短 8	9		
086	長 9×短 9	9		
087	長10×短10	13		
088	長 9×短 9	14		
089	長 9×短 8	5	N-66°-E	74°
090	長11×短 9	8		
091	長 6×短 5	5		
092	長 7×短 6	8		
093	長11×短 8	12		
094	長 9×短 7	5		
095	長10×短 6	8		
096	長 8×短 6	3		
097	長10×短 8	16		
098	長10×短 8	16	S-2°-E	89°
099	長 9×短 7	9		
100	長11×短10	13	S-36°-E	77°
101	長 7×短 6	13		
102	長 8×短 5	10		
103	長10×短 7	13	S-21°-E	73°
104	長 9×短 8	9		
105	長 7×短 7	5		
106	長11×短10	8		
107	長 8×短 6	9		
108	長13×短 8	5		
109	長 9×短 7	14		
110	長18×短12	22	N-33°-E	63°
111	長 9×短 8	12		
112	長 9×短 8	10		
113	長 8×短 8	13		
114	長 8×短 8	12		
115	長15×短10	16	N-16°-W	64°
116	長 8×短 7	16		
117	長 9×短 7	7		
118	長12×短 8	13	N-60°-W	75°
119	長 8×短 7	11		
120	長 7×短 7	11		
121	長10×短 8	14	N-62°-E	65°
122	長 8×短 4	9	S-70°-E	75°
123	長13×短10	17		
124	長10×短 7	9	S-88°-E	77°
125	長14×短 9	14		
126	長21×短18	19	S-89°-W	70°
127	長12×短10	16		

溝5

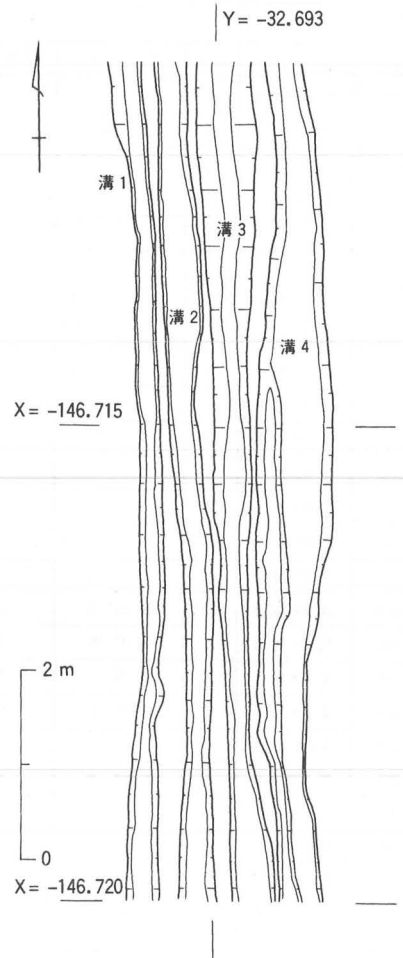
調査地北端付近を北から南に向かって走る。北端は攪乱により破壊されている。幅1.5~0.9m、長さ3m以上、深さ7~11cmで断面形は皿状を呈する。西側肩部に1本、東側肩部に2本の直径5~7cmの丸杭が打たれている。溝底面は北が高く南に行くに従って低くなっていく。埋土は暗オリーブ灰色(5GY 4/1)砂礫混じりシルトである。出土遺物は平瓦、備前焼・常滑焼などの陶器、瓦器椀、瓦器羽釜、須恵器鉢、土師器片がある。出土遺物より14世紀代と考えられる。

鋤跡(第34図)

第5層上面で検出した。南北方向に延びる溝で調査地南端から中央部にかけての約4.5mの間で5条を検出した。中央部から北は攪乱のため不明である。検出面の標高はT.P. 8.82~8.75m、溝底は8.76~8.59mであるが傾斜は見られない。幅20~60cm、深さ1~15cm、ほぼ60cmの間隔で並行に延びている。埋土は灰黄褐色(10YR 4/2)粘質シルト~砂混じりシルト、オリーブ黒色(5Y 3/1)シルトである。溝1からは弥生土器、土師器が、溝2からは弥生土器、土師器、瓦器が、溝3からは弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、丸瓦、平瓦、瓦器椀、瓦器羽釜、陶器が、溝4からは弥生土器、土師器、須恵器、瓦器椀が出土した。出土遺物には瓦器椀、瓦器羽釜、須恵器練鉢、備前焼甕、常滑焼甕が見られ、鋤跡は14世紀代のものと思われる。

杭列

調査地北端近くで検出した。南西から北東方向に長さ4.6mにわたって打たれている。整然とした列は認められないが直径3~5cm、長さ10~35cm以上の杭が12本ほぼ垂直に打たれていた。杭はすべて丸杭である。護岸用に使われたものと思われる。杭列の時期は明らかではないが中世と思われる。



第34図 鋤跡実測図

6. 弥生土器について

今回の第27次調査で出土した遺物の整理にあたり、第5次調査^{注1}・第7次調査^{注2}の出土遺物を合わせて土器の胎土、形態の分類を試みた。

1. 土器胎土

土器の生産地についてはいろいろな角度からの研究が進められている。特に生駒西麓の胎土の土器は角閃石を含み、色調は茶褐色を呈すなど分別しやすい。西ノ辻遺跡の中～後期の土器のなかでは、生駒西麓の胎土でつくられたものが圧倒的に多くを占める。芋本隆裕氏は奥田尚氏と本遺跡調査地区より北東50m離れた同じ遺跡内の第23次調査地区出土の土器の胎土^{注3}について鉱物学的範疇から共同研究され、次のように大きく3グループに分けられた。

a類=角閃石を多量に含む生駒西麓産、b類=花崗岩起源の砂礫を主とし、わずかに角閃石を含むもの、c類=角閃石が目立たない非生駒西麓産。

この分類法は肉眼でも可能な方法であり、今回の遺物整理のなかでも参考にした。また、3類の土器はさらに、(イ)形態、文様とも西ノ辻遺跡に多いもの、(ロ)形態、文様とも少ないもの^{注4}とにそれぞれ分けられる。

2. 土器の形態、文様の概略

弥生土器の整理にあたり、土器の名称は西ノ辻遺跡第7次調査の整理と同様に基本的に『弥生式土器集成』^{注4}にもとづき、そのなかでもある程度特徴的な形態をもち(特に口縁部など)、量的に多くみられるものを細分類した。

中期の土器

[壺A]

形態は胴部中位、あるいは下位で張り出す体部に漏斗状に開く口頸部をもつもの。口縁部の形態の違いでさらに細かく分類できる。

- ：口縁端部はそのまま終るもの-A₀
- ：口縁端部を下方に拡張するもの-A₁
- ：口縁端部が上方・下方に肥厚するもの-A₂
- ：口縁部を長く下方に垂下させるもの-A₃

壺A₁はさらに3つに分かれる。

- ・頸部から口縁部が大きく内湾しながら外反し、端部を下方に折り返すもの-A₁₋₁
- ・漏斗状に開く頸部から口縁部を外側斜めに折り曲げ、端部を断面三角形につくるもの-A₁₋₂
- ・口縁部の外側に粘土を貼り付け、継ぎ目は鋭角で口縁端部が真下を向き、断面はややいびつな方形を呈すもの-A₁₋₃

壺A₁に関しては森井貞雄氏^{注5}の分類にもあるように、A₁₋₁～A₁₋₃の口縁部の違いとともに、

胴部が張り出す位置も中位から下位にかわる。

文様は口縁部から胴部まで櫛描き、板状原体による文様、ヘラ刻み目文、刺突文、円形浮文などを組み合わせている。

A₀は口縁部にヘラ刻み目文、櫛描き波状文、内面に櫛描き波状・扇形文、体部に直線・簾状・扇形文を、A₁は口縁部に櫛描き簾状文、ヘラ刻み目文、体部に櫛描き簾状・列点文を、A₁₋₂は口縁部に板描き簾状文、内面に円形浮文、体部に板描き簾状文を、A₁₋₃は口縁部から体部まで板描き簾状文、更に口縁部に刺突文をそれぞれ施している。A₁₋₃の中には全く施文しないものもある。A₂のc類には頸部に断面三角形、押捺の貼り付け刺突文を施している。A₃は口縁部の内外面に櫛描き列点・簾状文、ヘラ刻み目文、円形浮文など一面に施文し、体部にも櫛描き文を施している。一般にA₃はc類の土器に多くみられる。

〔壺A'1〕

球形に近い胴部に長い頸部をもち、A₀、A₁₋₁、A₁₋₂の口縁部が大きく開く。A'0、A'1-1、A'1-2の順に頸部と胴部の境界がはっきりする。

文様は櫛描き文のなかでも直線文、簾状文を施したものが多く、口縁部にヘラ刻み目文、内面に円形浮文を付加したものがある。

〔受口壺〕

壺Aの形態に口縁部を上方に拡張しているもの。

- ：壺A₀の口縁部が上方に拡張するもの—受口壺A₀
- ：壺A₁の口縁部が上方に拡張するもの—受口壺A₁ →受口壺A₁₋₁、A₁₋₂、A₁₋₃
- ：壺A₂の口縁部が上方に拡張するもの—受口壺A₂

文様も壺Aに似るが拡張された受口部には各櫛描き文を組み合わせたもの、櫛描き文にヘラ刻み目文、凹線文、刺突文を加えるもの、口縁～体部に文様を施さないものがある。頸～胴部の文様は直線文、簾状文を数帯ずつ施しているものが多い。

〔壺B〕

壺A、受口壺Aを小型化したもので頸部と胴部の継ぎ目部分が強く締まっているもの。

- ：壺A₀を小型化したもの—壺B₀
- ：壺A₁を小型化したもの—壺B₁
- ：壺A₂を小型化したもの—壺B₂
- ：受口壺Aを小型化したもの—受口壺B

施文も壺Aに似る。

〔壺C〕

丈高の器体が肩部で一度すはまるがはっきりした頸部をつくらず、そのまま外反する口頸部をもつもの。

- ：口縁端部はそのまま終わるもの—壺C₀
- ：口縁端部は斜め下方に肥厚するもの—壺C₁

：口縁端部は上・下方に肥厚するもの一壺C₂

文様は櫛描き文のなかでも扇形、直線、波状、列点文が多くみられ、簾状文は少ない。

〔壺D〕

丈高の器体に直立する短い頸部から水平近く外反する口縁部。2孔1対の紐孔をもつものがある。

：口縁端部はそのまま終わるもの一壺D₀

：口縁端部は上方か下方のいずれかに肥厚するもの一壺D₁

：口縁端部は上・下方に肥厚するもの一壺D₂

文様は少ない。D₂の口縁部に凹線文を施すものがある。

細頸壺は胴部は中位か下位で張り出し、細い口頸部がつく。口頸部の形態で3つに大別できる。

〔細頸壺A〕

口頸部が胴部から斜めに開く逆円錐形を呈すもの。

〔細頸壺B〕

上方にむけて内湾しながら広がるラッキョ型を呈すもの。

〔細頸壺C〕

Bに比べると長くエンタシス型の頸部で全体に小型のもの。

文様はA・Bには櫛描きの直線、波状、簾状、列点、流水文と円形浮文、Cは半截竹管の原体による直線、簾状、流水文に、櫛描きの列点文などを施している。暗文をもつものもある。

〔直口壺(短頸壺)〕

丈高の胴部にやや外側に開く短かい円筒形の口頸部をもつもの。口縁部はそのまま終るか上端面をつくっている。

文様は少ないが、口縁部に凹線文をもつものがある。水差し形土器は胴部の中位から下位に張り出しをもつ算盤玉形の器体に短い筒状の口頸部がつく。肩部に横位の把手をつけている。口縁部のつくりで2つに大別できる。

〔水差し形土器A〕

口縁部をまっすぐにつくらずに、把手側を低く斜めにつくるもの。

〔水差し形土器B〕

口縁部の把手側に抉りを入れているもの。

文様はAには口縁部から胴部まで簾状文、Bには口縁部に簾状、列点、凹線文を、体部に直線、波状、簾状文を施している。また口縁部のみに列点文を施しているもの、全面に文様のないものもある。

〔無頸壺A〕

胴部の中位か下位で張り出す器体に直口の口縁部をもつもの。2孔1対の紐孔を2組穿孔している。この器種は少ない。

文様は櫛描き簾状、列点文がみられるが、文様を施さないものもある。

〔無頸壺B〕

Aと同じ体部に短く外反する口縁部をつけるもの。口縁部の形態で分けられる。

- ：外反する口縁部の端部をそのまま納めるか、少し広い端面をつくるもの—無頸壺B₀
- ：短く外反する口縁部の端部を斜め下方に折り返すもの—無頸壺B₁
- ：段状口縁部を呈するもの—無頸壺B₂

B₂は口縁部の形態がさらに細かく分けられる。

- ・口縁端部をほぼ真下に折り返し体部との間に隙間を残すもの—無頸壺B₂₋₁
- ・口縁部の外側に粘土を貼り付けたもの—無頸壺B₂₋₂

文様はB₀が体部に櫛描き直線、扇形、簾状文、B₁が体部に直線、波状文、B₂₋₁、B₂₋₂が口縁部に簾状文、体部に簾状、波状、列点文などを施している。

〔台付無頸壺A〕

体部につける脚部の違いで2つに大別できる。

- ：柱状部から裾部が開くもの—台付無頸壺A₁
- ：体部につく脚部は内方を向き、透しを入れるもの—台付無頸壺A₂

文様は少なく口縁部、脚部に凹線文を施しているものがある。

〔台付無頸壺B〕

無頸壺B₁に脚部を付けたもの。脚部は短い中実の柱状部に「ハ」の字形に開く裾部がつく。文様は体部に櫛描き直線文を施している。

〔鉢A〕

碗形をなす体部で把手をもつものがある。口縁部の形態の違いで細かく分類できる。

- ：口縁部がそのまま終るもの—鉢A₀
- ：口縁部の上部に面をつくるもの—鉢A₁
- ：口縁部が内方に肥厚するもの—鉢A₂

文様は口縁部にヘラ刻み目文、体部に櫛描き直線・波状・簾状・列点文、凹線文を施している。文様を施さないものもある。

〔鉢B〕

腰部が張り出す体部に短く外反する口縁部をつけるもの。口縁部の形態で分けられる。胴部の張り出し部位も異なる。

- ：外反する口縁部はそのまま納めるか、少し広い端面を作り、腰部には丸味をもつ—鉢B₀
- ：短く外反する口縁部に端部を斜め下方に折り返す。腰部には少し稜をつくる—鉢B₁
- ：段状口縁部を呈す。腰部には鋭い稜をもつ—鉢B₂

鉢B₂は無頸壺B₂と同じく鉢B₂₋₁、鉢B₂₋₂に分けられる。

文様はB₀が口縁部に施さないままか、ヘラ刻み目文、櫛描き波状・扇形文、体部に櫛描き

直線・波状・扇形・簾状文を組み合わせている。

B₁が口縁部にヘラ刻み目文、櫛描き扇形・簾状・列点文、体部に簾状・列点文を施している。B₂が口縁部には施文もないままか、ヘラ刻み目文、櫛描きか板状原体による波状・簾状文・列点文、体部に簾状文・列点文などを施している。体部には刻み目文を付けた棒状浮文を貼り付けたものがある。

〔鉢C〕

碗形の体部に口縁部が短く外反しそのまま面をもって終わる。文様のないものが多い。

〔台付鉢A〕

鉢Aに脚部がつくもの。類例は少ない。

〔台付鉢B〕

鉢Bに脚部がつくもの。脚部は柱状部からなだらかに裾部まで開き、端部が上方に肥厚し断面三角形を呈す。

脚部の文様は竹管押捺文を施したものがある。

〔高杯A〕

直口の体部に脚部がつくもので、体部の形態で2つに大別できる。

：碗形の体部をもつもの—高杯A₀

：腰に稜をもつ浅い体部のもの—高杯A₁

高杯A₀は、口縁部の違いでさらに細かく分類できる。

・口縁部がそのまま終わるもの—高杯A₀₋₁

・口縁部が内側に肥厚するもの—高杯A₀₋₂

高杯A₁は腰部の違いでさらに細かく分類できる。

・腰部がゆるく内湾しながら口縁部が外向きに立ち上がるもの—高杯A₁₋₁

・平底から口縁部がやや内湾気味に立つもの—高杯A₁₋₂

・平底から口縁部が直立するもの—高杯A₁₋₃

・平底から鋭い稜をもち、口縁部が外方に立ち上がるもの—高杯A₁₋₄

文様はA₀のタイプには少なく、A₁₋₁、A₁₋₂は口縁部にヘラ刻み目文、櫛描き簾状・列点文をA₁₋₃は口縁部に凹線文を施している。A₁₋₄は文様を施さない。

〔高杯B〕

浅い碗形の体部から水平に開く口縁部をもち内端部に1条の凸帯文を巡らしているもの。口縁端部のつくりで3つに分けられる。

：口縁部が水平に伸びたままのもの—高杯B₁

：口縁外端部がわずかに下方へ曲折するもの—高杯B₂

：口縁外端部が下方に長く垂下するもの—高杯B₃

：口縁外端部が斜め上方に伸びるもの—高杯B₄

文様は少ないが、B₃の口縁部に凹線文を、上端面に斜格子の暗文を施すものがある。

高杯A・Bの脚部は筒状の柱状部から裾部が「ハ」の字型に拡がる。

〔器台〕

空洞の円筒状の体部から口縁部、裾部がそれぞれ拡がり、口縁部は下方に長く垂下するもの。文様は口縁部に凹線文を施し、なかに棒状浮文を貼り付けるものがある。体部には凹線文を施している。

他に幅広の脚部に脚部径より大きい円板状の台部をのせた形のもの数が少ないがある。

甕は、倒鐘形の器体に口縁部が外反するもので、外面の調整が磨きを主体に施して終わるものと、刷毛目で終わるものがある。前者を甕A、後者を甕Bとする。他に倒鐘形の器体に極く短い口縁部をもつ小型品があり、これを甕Cとする。

〔甕A・甕B〕

さらに口縁部が外反する肩部内面のつくりの違いで3つに大別できる。

：体部から口縁部が大きく外湾しながら外反するもの—甕A₀・甕B₀

：体部から肩部内面に緩い稜をもち外反するもの—甕A₁・甕B₁

：体部から口縁部が「く」の字形のはっきりした稜をもち外反するもの—甕A₂・甕B₂
甕A₁・B₁、甕A₂・B₂はさらに口縁部の違いで細分できる。

・口縁部が斜めに外反し、端部はそのまま丸く終わるか、面をつくるもの—甕A₁₋₀・A₂₋₀、B₁₋₀・B₂₋₀

・口縁部が水平に外反し、端部はそのまま丸く終わるか、面をつくるもの—甕A₁₋₁・A₂₋₁、B₁₋₁・B₂₋₁

・口縁端部の面を広くつくるもの—甕A₁₋₂・A₂₋₂、B₁₋₂・B₂₋₂

・口縁端部を外側斜めに折り曲げ、端部の断面を三角形につくるもの—甕A₁₋₃・A₂₋₃、B₁₋₃・B₂₋₃

・口縁端部が上方に肥厚するもの—甕A₁₋₄・A₂₋₄、B₁₋₄、B₂₋₄

〔甕C〕

器壁の厚みにより2つに大別できる。

：器壁が薄く胴部に丸味をもつもの—甕C₁

：器壁が厚く縦長の胴部をもつもの—甕C₂

壺用の蓋は2孔1対の紐孔を穿つもので形は3つに大別できる。

〔壺蓋A〕

体部は円板形を呈し、口縁部はそのまま納めるもの。中央につまみをもつものがある。

〔壺蓋B〕

体部は天井部から口縁部まで、やや内湾気味にひろがるもので、口縁部はそのまま納める。天井部に小さいつまみをもつ。

〔壺蓋C〕

体部は平らな天井部から口縁部まで、やや外湾気味にひろがるもので、口縁端部は面をもち

上方に肥厚している。

〔甕蓋〕

壺蓋Cより丈高の山形を呈すもので、口縁部は水平に拡がる。天井部は凹みをもつものと平らなものがある。

：口縁端部はそのまま丸く終わるか、面をつくるもの—甕蓋A

：口縁端部は面をもち上方に肥厚するもの—甕蓋B

脚部は鉢・高杯などにつくもののなかで、5つに大別できる。

〔脚部A〕

筒状の柱状部から裾部が拡がるもの。柱状部の違いでさらに分かれる。同形態で短脚もある。

：柱状部が中実のもの—脚部A₀

：柱状部が中空のもの—脚部A₁

：柱状部が空洞のもので裾端部がそのまま終わるもの—脚部A₂₋₀、裾端部に面をもち上方に肥厚するもの—脚部A₂₋₁

〔脚部B〕

柱状部から徐々に裾部まで外湾しながらひろがっているもの。

〔脚部C〕

柱状部がなく台形状の短い脚部のもの、円窓、列点文を施すものがある。

〔脚部D〕

幅広の柱状部から裾部まで外湾しながらひろがり、全面に竹管文を施すものが多い。

〔脚部E〕

柱状部がなく逆台形状の短い脚部に円窓を付けるもの。凹線文を施すものもある。

後期の土器

〔壺A〕

球形の胴部から口縁部が漏斗状に開くもの。

：口縁部はそのまま面をつくって終わるもの—壺A₀

：口縁端部が断面三角形になるもの—壺A₁

文様は壺A₀には少ないが、口縁部に退化した凹線文を施すものがある。壺A₁には文様のないものと、口縁部にヘラ刻み目文、凹線文の上に竹管文を押捺した円形浮文を組み合わせたものや、内面には櫛描き波状、同心円文、頸部下に刻みを入れた断面三角形の貼り付け凸帯を施したものがある。口縁部内外面に竹管の原体などによる押捺文や、赤色顔料で彩色したものが多く、文様の凹みに残存している。

〔壺B〕

壺Aの小型品である。

〔壺C〕

丈高の器体からはっきりした頸部をもたずに口縁部はそのまま外反するもの。文様は施していない。

〔壺D〕

丈高の器体に短い頸部が直立し、口縁部が水平近く外反するもの。

〔長頸壺〕

球形か無花果形の胴部に直立する口頸部をもつもの。口縁部に擬凹線文、頸部・胴部に記号文をつけたものがある。

〔短頸壺〕

丈高の胴部に短い直口する口頸部をもつもの。

〔細頸壺〕

玉葱形の胴部に細長くのびる口頸部をもつもの。

〔無頸壺A〕

胴部中頃で張り出す体部に口縁部はそのまま内側を向き丸く納めているもの。

〔無頸壺B〕

胴部中頃で張り出す体部に口縁部は「く」の字形に外反するもの。

：口縁部がそのまま終わるもの—無頸壺B₀

：端部が上方に立ち上がるもの—無頸壺B₁

：粘土を貼り付け、段状口縁部にするもの—無頸壺B₂

〔鉢A〕

碗形の体部に口縁部を丸く納め、面をもつもの。

〔鉢C〕

碗形の体部から斜めに口縁部が外反するもの。

：口縁部はそのまま終わるもの—鉢C₀

：口縁部が上方に肥厚し、受け口風に立ち上がるもの—鉢C₁

〔鉢D〕

鉢A・Cの体部の底部に焼成前の孔を穿つもの。

〔高杯A〕

碗形の体部に短い脚部をもつもの。

〔高杯B〕

底部から稜をもって口縁部までやや斜め上方に開く体部に脚部がつくもの。

：口縁部がほぼ真っすぐに開くもの—高杯B₁

：口縁部が内湾しながら開くもの—高杯B₂

〔器台〕

筒状の体部から口縁部が外反し、裾部はなだらかに開くもの。口縁部は下方に垂下し、凹線文、竹管の押捺文を施した円形浮文を貼り付けている。体部には円孔を穿つものがある。口縁

部付近には壺Aと同様に赤色顔料で彩色している。壺Aの口縁部の造り、施文などがよく似る。

甕は、体部は丸味をもち長い口縁部が外反する。胴部の張り出す位置などで分けられる。

〔甕A〕

体部は丈高で中位で脹らみをもち、口縁部が外反するもの。

〔甕B〕

体部は上位で脹らみをもち、口縁部が外反するもの。

：口縁部がそのまま終わるもの—甕B₀

：口縁部が受け口になるもの—甕B₁

〔甕C〕

胴部があまり張り出さない体部に口縁部が外反するもので、口径が胴径を上回るもの。

〔壺蓋〕

天井部に凹みをもち裾部までなだらかに拡がり、端部はそのまま納めるもの。

〔甕蓋〕

壺蓋より丈高の山形を呈し、口縁端部はそのまま納めるもの。

注

1. 西ノ辻遺跡第5次調査では多量の弥生土器が出土し、現在報告書の作成をすすめている。
2. 曾我恭子「出土遺物」『西ノ辻遺跡・鬼虎川遺跡』—西ノ辻遺跡第6・7・8次調査 鬼虎川遺跡第18次調査概要報告—東大阪市教育委員会、財団法人東大阪市文化財協会 1988年
3. 芋本隆裕「出土遺物」・奥田尚「土器胎土の砂礫種とその採取地」『西ノ辻遺跡第23次発掘調査報告』東大阪市教育委員会、財団法人東大阪市文化財協会 1992年
4. 佐原真「畿内地方」『弥生式土器集成本編』本編2 1968年
5. 森井貞雄「河内地方の畿内第三・IV様式編年の一視点」『大阪文化誌』第15号 財団法人大阪文化財センター 1982年

IV 鬼虎川遺跡第32次調査

鬼虎川遺跡は、東大阪市西石切町5・7丁目、弥生町、宝町を中心に東西640m、南北840mと推定される縄文時代から歴史時代(江戸時代)にかけての複合遺跡である。1975年国道170号線沿いでガス管理設工事に伴う調査が実施されてから、ほぼ毎年発掘調査が実施されており、今回の調査で第32次を数える。

鬼虎川遺跡では、弥生時代中期を中心に大集落を形成していたと思われる、集落に伴う建物、井戸、溝や水田に伴う杭列・杭群、集落の北ないしは北東にあったと思われる墓地では、方形周溝墓、土壙墓、土器棺墓などが見つかっている。また、当時使用していた土器、石器、木器、骨角器、金属器、自然遺物など膨大な遺物が出土している。

第32次発掘調査は、第二阪奈有料道路建設予定地の975m²を対象として1989年11月7日から1990年11月6日まで実施した。

今回の調査地は遺跡の北東端にあたる場所である。国家座標第VI座標系で東端がY=-32.837、西端がY=-32.923、北端がX=-146.706、南端がX=-146.722である。

1. 層序

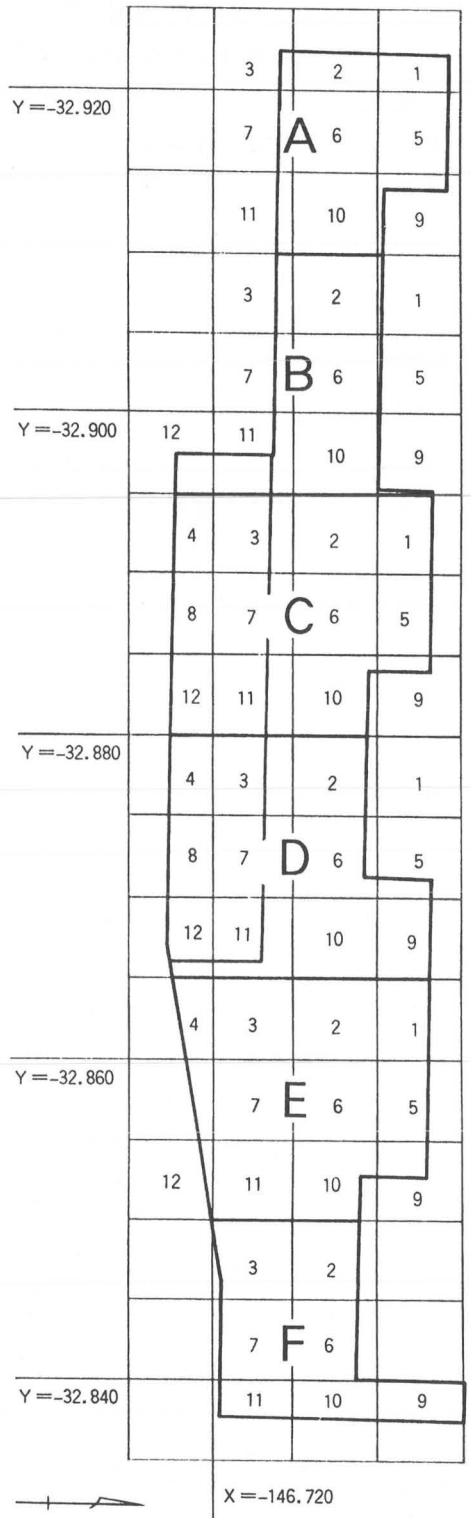
調査地点の層序は、北壁断面をもとに行なった。以下確認した土層を列挙したうえで特徴を記す。

第1層 盛土

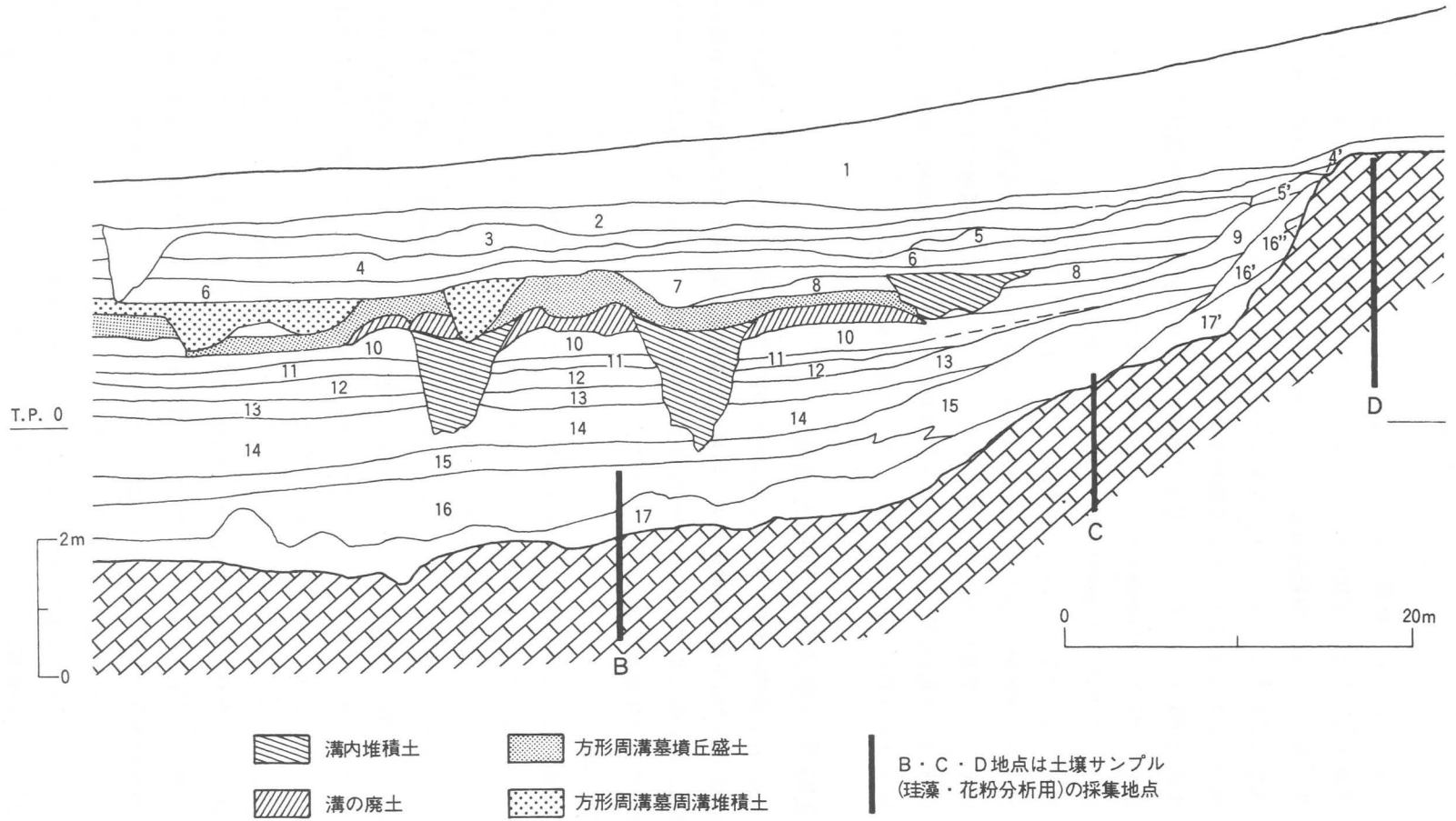
第2層 灰色・灰オリーブ色・黄灰色・暗灰黄色
(5Y 4/1 5Y 5/2 2.5Y 5/1 2.5Y 4/2)
極細粒砂混じりシルト～粘土

第3層 黄灰色(2.5Y 4/1)粗粒砂～中粒砂混じり
シルト～粘土で鉄分の沈着がみられる。

第4層 褐灰色(10YR 4/1)細礫～極粗粒砂混じり



第35図 鬼虎川遺跡第32次調査地区割図



第36図 鬼虎川遺跡第32次調査層序模式図

シルト～粘土で鉄分の沈着がみられる。

- 第5層 黄灰色(2.5Y 4/1)細礫～極粗粒砂混じりシルト～粘土で鉄分の沈着がみられる。
- 第6層 黒褐色(2.5Y 3/1)極細粒砂混じりシルト～粘土で細礫～中粒砂を少し含む。
- 第7層 黄灰色(2.5Y 3/2)極細粒砂混じりシルト～粘土で鉄分の沈着がみられる。
- 第8層 灰色(7.5Y 4/1)シルト～粘土で鉄分の沈着がみられる。
- 第9層 灰色(5Y 4/1)シルト～粘土で植物遺体を多く含む。
- 第10層 黒色(10YR 1.7/1)シルト～粘土で細礫、極粗粒砂が少量と植物遺体を含む。
- 第11層 黒色(10YR 1.7/1)極細粒砂混じりシルト～粘土
- 第12層 緑灰色(7.5GY 5/1)極細粒砂混じりシルト～粘土
- 第13層 暗緑灰色(10GY 4/1)シルト～粘土 (5G 6/1)がラミナ状に多く見られる。
- 第14層 暗オリーブ灰色(2.5GY 4/1)極細粒砂混じりシルト 海成堆積層である。
- 第15層 暗オリーブ灰色(2.5GY 4/1)細粒砂混じりシルト 海成堆積層である。
- 第16層 灰オリーブ色(7.5Y 5/2)細粒砂～極細粒砂シルト 海成堆積層である。
- 第17層 灰オリーブ色(7.5Y 6/2)中礫～シルト 海成堆積層である。

2. 縄文時代の埋没海岸地形と遺物

第3層上面で江戸時代の水路、第4層上面で中世の耕作跡(鋤跡)、第7層上面で古墳時代の溝、土坑、第8層上面で弥生時代中期後半の土壌墓、土器棺墓、第9層上面で弥生時代中期中葉の方形周溝墓、第10層上面で弥生時代中期前半から中葉の溝、方形周溝墓、第17層下面で縄文時代前期～中期の埋没海岸地形が見つかった。

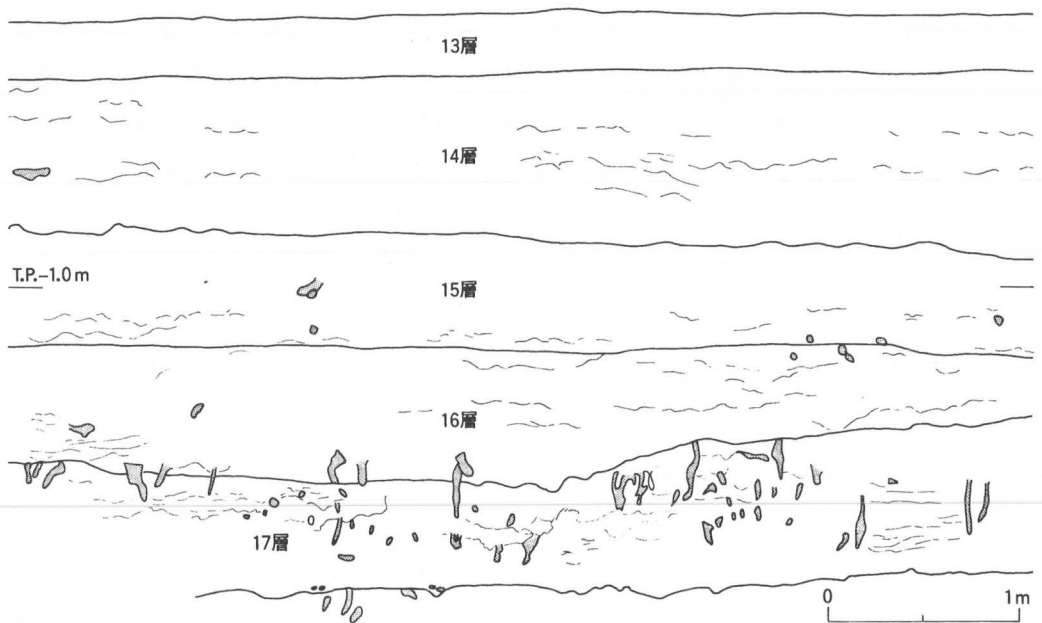
1. 埋没海岸地形

鬼虎川遺跡における縄文時代の埋没海岸は、1982年の第18次調査^{注1}、1984年の第25次調査、1986年の第29次調査^{注2}で見ついている。第18次調査では海岸付近の東西10mの間で当時の地面が3.4mも下がることから海食崖の地形であることがわかった。また、海成堆積層から縄文時代前期から中期の土器および軽石が出土した。第25次調査では海食崖、海成堆積層から縄文時代前期から中期の土器、シカ・イノシシなどの獣骨、クジラ・イルカなどの海棲生物の骨、アカガシ・トチ・オニグルミ・カシ・コナラなどの木の実が出土した。第29次調査では海底面のすぐ上からタヌキ・シカ・クジラの骨が出土した。

今回の第32次調査においても海水が入り込んでいた事実を再確認できた。調査地は、近鉄東大阪線新石切駅西約200m。東西85m、南北6～16m、975m²についてであり、海食崖を直交する形で細長く設定されていたため陸地から海底面にかけての土層断面を記録することができた。現地盤の標高はT.P.(東京湾平均海面の略称)+6.2m～3.9mで、海食崖の上面での標高はT.P.+4.5m～4.7m、下面での標高はT.P.+1.7mで比高差が約3mであった。一般に陸地と海面とが交わる付近を海岸といい、陸地面と海面との交線を汀線という。汀線の位置は潮汐(潮の満ちひき)の影響によって周期的に変化し、高潮位汀線(満潮)と低潮位汀線(干潮)と

の間を往復する。したがって、汀線はある幅を持っていて、しかも時間的に変動するものである。海岸は基本的には岩石海岸と砂浜海岸に分けられる。岩石海岸は固い岩盤や大きな岩塊などからなり、陸上から海底にかけての断面形は場所により様々である。高潮位汀線と低潮位汀線間の岩盤は一般に水平か、またはわずかに海の方へ傾く平坦な形をしている。これを波食棚(wave-cut bench)といい、この部分では海水の干満に応じて乾燥、湿潤を繰り返すことによる風化のため、岩石が砕かれやすいと考えられている。岩屑は満潮時または暴風時の波によって容易に運び去られる。波食棚の陸側は鉛直に近い急崖(海食崖 sea cliff)とその基部の切り込み(ノッチ notch)とからなる。ノッチは波によって侵食されたもので、岩石の抵抗力が小さい部分では特に深く抉られて海食洞ができることもある。海食崖はノッチの発達によって下方支持力を失った岩屑の崩落によってつくられるが、その基部にノッチを伴わない場合も多い。

砂浜海岸は普通粒径のそろった中粒砂からなり、陸上から海底にかけての断面形は岩石海岸の場合に比べて場所による違いが少ない。礫からなる礫浜の場合も同じである。海岸から高潮位線にかけては、波によって運ばれた砂が溜まり、その表面はほとんど水平かわずかに陸の方に傾いている。これを汀段といいこの部分を後浜(高潮位汀線より内陸側へ異常な大波が達する限界まで)、高潮位汀線と低潮位汀線間の海の方へ傾く部分つまり寄せ波が遡上したり引き返したりするところを前浜、低潮位汀線より沖側で砂の移動する限界までを沖浜とそれぞれ呼んでいる。低潮位汀線から海の方へは、いったん2~3mの深さに達してから再びやや浅くなり、そこから沖の方へはほぼ一様に深さを増していく。この浅いところは汀線に沿って細長く延びており、沿岸州(longshore bar)と呼ばれる。沿岸州はだいたい波が砕けるところにあたり、これと汀線との間の少し深いところは波のサーフ帯にあたる。波はその大きさが不規則で常に一定の深さのところでは砕けるとは限らないが海底の地形はそれほど目まぐるしくは変化しないので、海底の地形を基準にして沿岸州から低潮位汀線までを内浜、そこから沖の方を沖浜という。海水の運動(海岸に打ち寄せる波および海水の流れ)によって海岸および浅海底は絶えず変化し種々の地形が形成される。海食崖は波の水圧による直接の打撃、岩の割れ目に押し込められた空気圧による破壊、打ち寄せる岩屑の削磨作用などによって形成され進行する。このような波食作用により海面付近にまずノッチがつくられる。このノッチは今回の調査でT.P. +1.7mであった。これは大阪湾最低潮位(0.P.)では+0.291mにあたる。(0.P.とT.P.の換算は財団法人日本気象協会関西本部発行『気象の暦』1991年版の1.409mによる。これを大阪港の平均海面-潮位-に換算すると0.P. 1.442mでT.P. +0.033mとなる。)大阪湾の平均海面の+1.733mの高さにノッチがあるということは一時期の高潮位汀線がここまで達したことを意味する。大阪港の過去5年間の朔望平均満潮位(月が地球と太陽を結ぶ線上にある時-満月と新月の時-に両方の起潮力が強めあって潮位差が最大になるいわゆる大潮の時の満潮位)が平均海面から約0.69m上昇している。この数値から考えれば縄文海進時の海面は現在の海面よりも約1.04m上昇していたものと考えられる。このノッチから沖へ約9mの間は傾斜が1



第37図 A地区海成堆積層と生痕化石

～10度と緩やかなものである。海底面はオリーブ灰色シルトで生痕化石が多数見つかった。生痕化石は、生物の生活に伴ってできた痕跡が地層中に残されたもので、生物の足跡、はいあと、もぐりあと、ひっかきあと、食べ歩きあと、巣穴などがある。生痕化石は、生物が生活していた痕跡がそのままその場所に残されたものであるため、古生態そのものを示す唯一の化石であるとされている。垂直に掘られたもの、ななめに掘られたもの、途中で分岐するものなど様々である。直径は2～4cm、深さ4～35cmで、一番多く見受けられるのは深さ10～15cmのものであった。この生痕化石を残した生物が何であるのかははっきりすればいいのであるが現在のところ不明である。ただ、海底面から上の海成堆積層の中にはシャミセンガイという触手動物に属す化石(殻)が多数見つかっている。

海成堆積層は、先述したノッチより海側へ約10m行ったところでは1m、20m行ったところでは1.5m、30m行ったところでは2mでそれより沖にいても調査した範囲内では厚さは変わらなかった。海成堆積層は4層に分けられた。最上層(14層)は暗オリーブ灰色極細粒砂混じりシルトで厚さ30～100cm、微量のシャミセンガイ、少量のヌマガイ、サメの歯、アカエイの棘、フグの歯、シカやイノシシなどの獣骨、ムクロジ、トチノキ、オニグルミ、コナラ、クロマツ、イヌガヤ、カヤ、エゴノキ、アカガシなどの木の実が出土した。上層(15層)は灰色中粒砂～極細粒砂混じりシルトで、厚さ20～40cm、縄文土器、トチノキが出土した。中層(16層)は灰色細粒砂～極細粒砂でブロック状に細粒砂が混入していたり極粗粒砂～中粒砂が点在したりしている。厚さ40～60cmで、ここからはたくさんのシャミセンガイ、スズキ、クジラ類の骨、シカ、イノシシの骨、カヤ、トチノキ、ムクロジ、オニグルミ、ハクウンボクなどの木の実、縄文土器が出土した。下層(17層)は灰色中礫～シルトで厚さ20～100cm、たくさん

のシャミセンガイ、サワラの脊椎骨、シカ、イノシシの骨、トチノキ、ムクロジ、カヤ、オニグルミ、コナラ属など木の実が出土した。これらの海成堆積層を見ると下部から上部に向かって粒子が次第に細かくなっているのがわかる。この現象は級化とよばれている。さらに細かく観察すると、粒子が規則正しく配列した平行葉理(ラミナ)や斜交葉理、コンボリュート葉理がみられる。これらの堆積物を構成している物質は陸源物質で、主として河川によって運搬された陸上の岩体や地層の風化分解物である。

今回一番多く出土したシャミセンガイは、現生では本州中部以南に広く分布している。特に有明海湾奥部に多い。二枚貝のような殻に長いえがついていて、海の泥底にもぐって生活している。殻は長さ4cmほどになる。三味線の形をしていることから名づけられたようである。動物としては非常に古いグループに属し約5億年前に出現して以来今日まで生きつづけている。食物は水中を漂うプランクトンや懸濁物、水底近くの微細な有機物の破片だと考えられている。

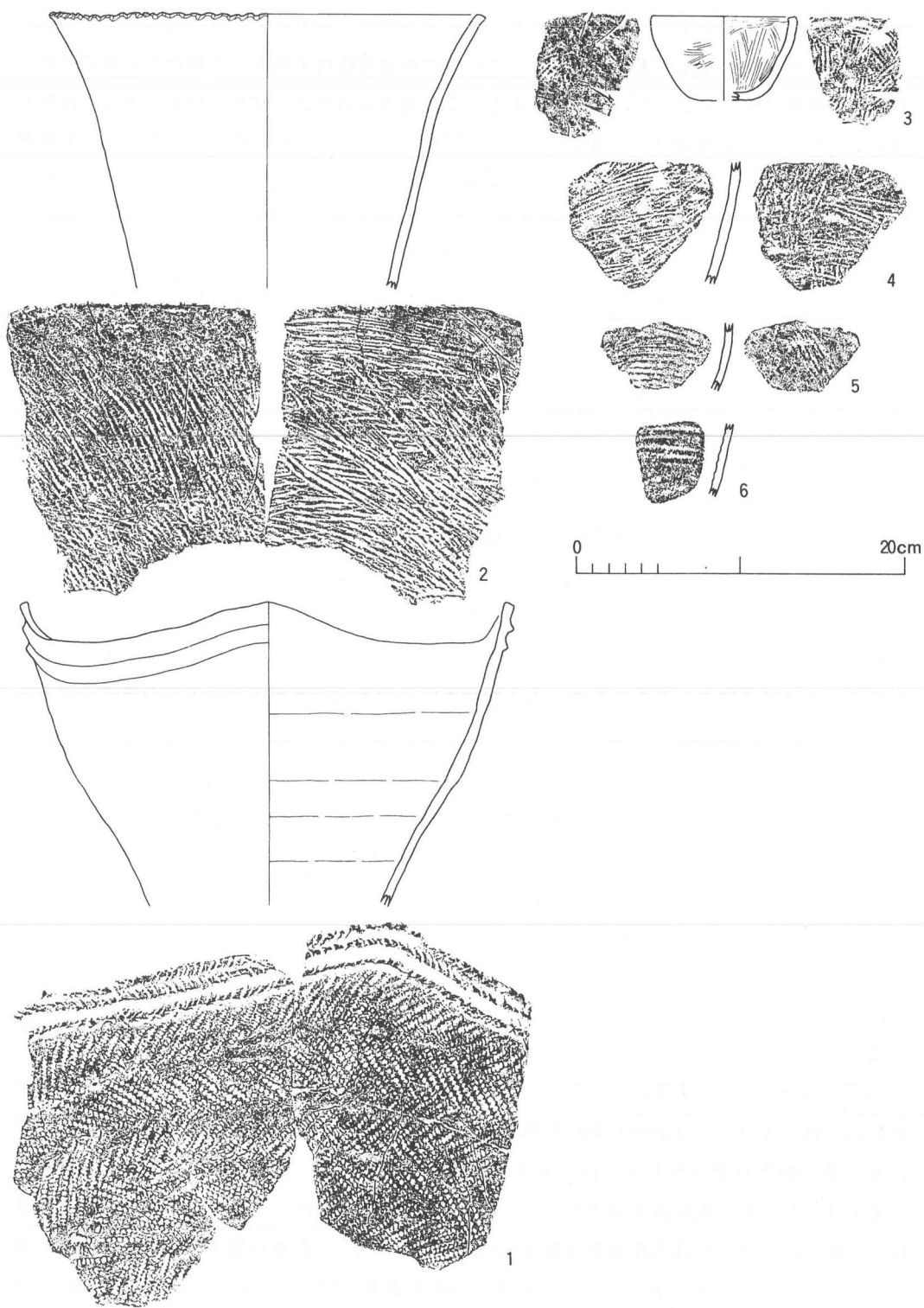
以上、海成堆積層の粒形・粒土、堆積の仕方、生痕化石、出土海棲生物、海進以前の堆積物、海底面の傾斜、状態などから考えれば、まず砂浜海岸に属すこと、有明海のような泥干潟であったと思われること、縄文土器から縄文時代前期から中期にかけて徐々に埋まっていったこと、最上層(14層)からヌマガイが出土していることから淡水化が進んでいったことなどわかった。この干潟はどこにでもできるものではなく形成されるためには様々な物理的条件が必要で、まず第一に多量の砂や泥が河川によって海に運び込まれていること、第二にその砂や泥が波や流れによって沖に運び去られないためにある程度外洋との水の交流が少ない入江や湾の中であること、第三に遠浅に堆積した砂や泥が空気中に現われたり海中に沈んだりを繰り返すために、大きな干満の差が必要であることである。これらの条件のうち一つでも欠けると干潟は形成されない。この干潟の保水力、有機物量、底質内の酸素条件が漁業の生産力を高め、重要な食物生産地であったため私達日本人が生活を開始した昔から現代に至るまで非常に大切な海域となっている。

2. 出土遺物

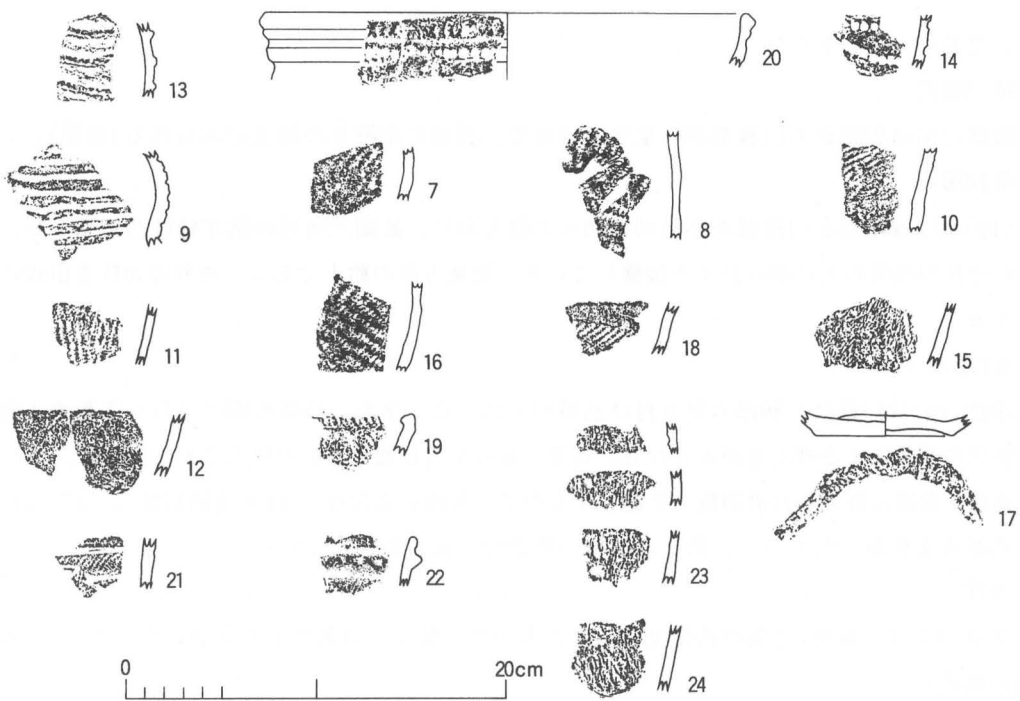
縄文土器(第38・39図、図版52・53)

第17層内

前期の深鉢(1)は口縁部が波状形で、端部と口縁部のすぐ下の2条の凸帯文上に刻み目文を緩杉状に施している。体部の上段に左撚縄文、下段に右撚りの羽状縄文を施している。内面には粘土帯の継ぎ目がみられる。内外面共に煤が付着している。第15層内からも同一個体の破片が出土している。色は濃茶褐色を呈し、胎土には角閃石を含む。前期中葉以降の北白川下層Ⅱ式に属する。(2~6)は内外面を貝殻条痕で調整している。(2)は口縁上端部に管状工具の押圧によるD字形爪形文を施している。外面には煤が多量に付着している。(5)の内外面、(4)の内面にも二次焼成の痕がみられる。(3)は丸底である。以上いずれも胎土には角閃石を含んでいる。



第38图 第17層内出土繩文土器実測図



第39図 包含層内出土縄文土器実測図
 第16層(7・8)、第15層(9~12)、14層(13~16)、
 12層(18)、10層(19)、6層(20~24)

第16層内

(8)は上段に左撚りと下段に右撚りの羽状縄文を施した胴部片である。角閃石を含む。(7)は左撚りの縄文を施している。微粒の角閃石を含む。

第15層内

(9)は口縁部を欠く浅い鉢である。上部に凸帯文、体部に幅の広い沈線文を施したもので、下部に煤が付着している。粗い長石を多量に含み、微粒の角閃石も少量含まれる(後期)。(10)は左撚りの縄文を施している。微粒の角閃石を含む。(11)は右撚りの縄文を施したもので、他地方産の胎土である。(12)は粗製の深鉢で全面に煤が付着している。

第14層内

(13)は凸帯文の上に「Σ」字状に加工した半截竹管工具で圧痕文を加飾している。凸帯文の間に右撚りの縄文(地文)を施しており、内面には横方向の強いナデつけが一周している。全面に煤が付着し黒色を呈する。(14)は管状工具の押圧による「D」字形の爪形文を施したもので、外面に煤が付着している。両方共前期末頃までのものと考えられる。(16)は上段に左撚り、下段に右撚りの羽状縄文を施したもので、角閃石を含む。(15)は左撚りの撚糸状文を施しており、他地方産の胎土である。(15・16)は前期北白川下屬式に属する。

第13層内

(17)は底部で、底の裏面が少し内湾している。外面には縦方向の細かい条痕がみられる。

粗い黒雲母、長石を含む。

第12層内

深鉢(18)は胴部から口縁部が外反する部分で、胴部に左撚りの縄文がみられる(前期)。

第10層内

(19)は口縁端部と口縁部から胴部に向って縦方向に、断面三角形の貼り付け凸帯をもち、それぞれの凸帯の上に刻み目文を加飾している。他地方産の胎土である。後期の元住吉山式に属する。

第6層内

深鉢(20)は口縁部と頸部の貼り付け凸帯の上に「C」字形、凸帯の間に「D」字形の半截竹管状の原体による押圧文がみられる。石英・長石を含む他地方産の胎土である(前期)。(21)は直線・曲線に囲まれた磨消縄文を施したもので、角閃石を含む(中津式後期初頭)。(23・24)は撚糸状文を施したもので、胎土には粗い黒雲母、長石を含んでいる。

表採

深鉢(22)は口縁部に2条の凸帯文を施したもので、胎土には角閃石を多量に含んでいる(晩期船橋式)。

石器(第89・90図、図版74~76)

E-10地区から石匙(267)、D-2地区の第17層内から敲打具(276)、C-2地区から削器(275)、B-11地区の第15・16層からサヌカイト片(図版76)が出土している。

3. 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構は第10層下面で足跡、第10層上面で溝、方形周溝墓(最近では墳丘墓という呼称が通例であるが既存の調査との関係でこの呼称を用いる)、第9層上面で方形周溝墓、第8層上面で土墳墓・土器棺墓を検出した。

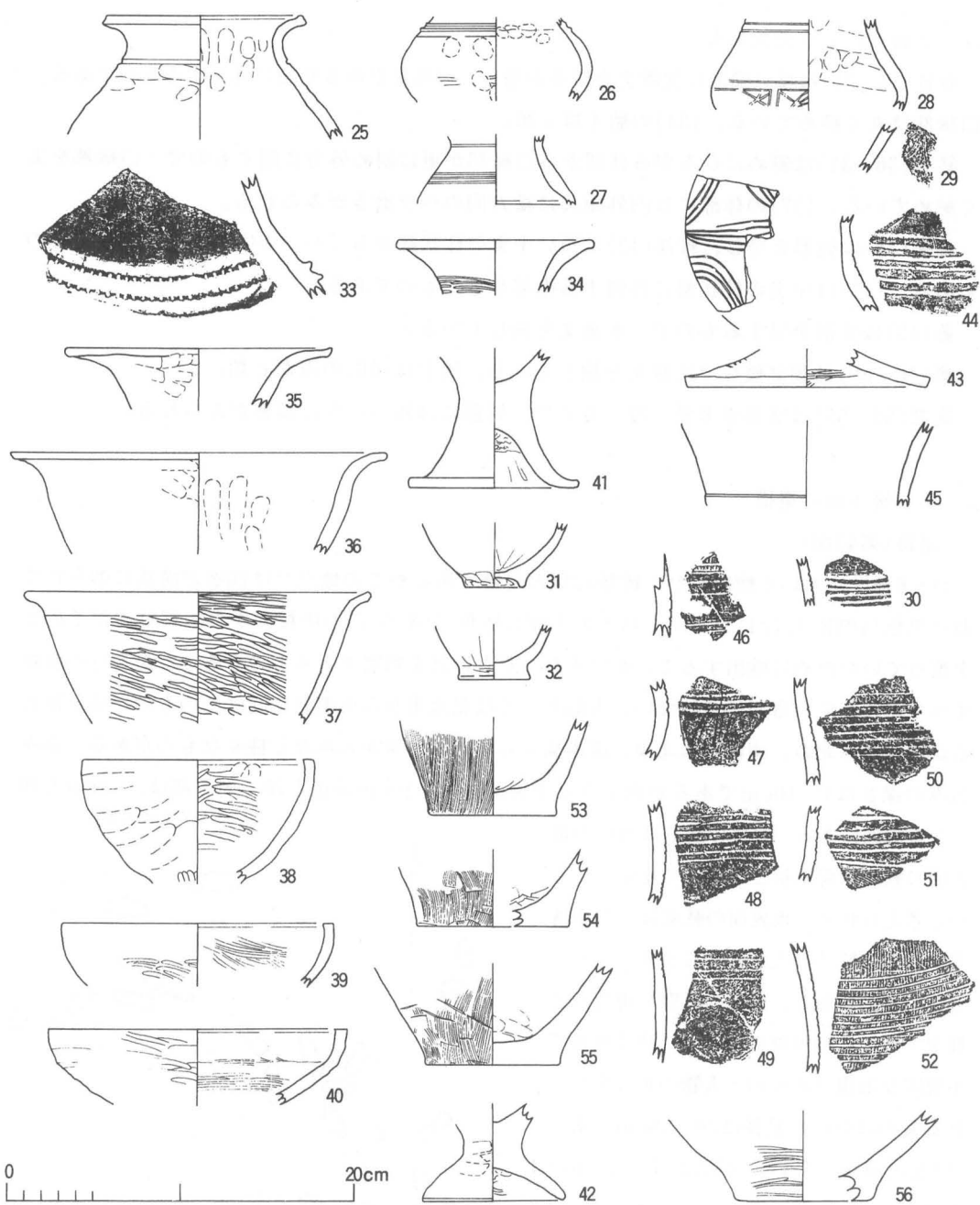
弥生時代の遺物は前~後期のものが出土している。なかでも中期中葉の方形周溝墓に関わる遺物が多く、土器は甕棺を始め完形品に近い供献土器と考えられるものなどがみられる。

土器の整理は『弥生式土器集成』^{注3}を参考にして行い、中期の土器は本報告書の西ノ辻遺跡と同様の呼称を使用した。また土器の胎土に関しては芋本氏と奥田氏の分類法^{注4}を適用した。(a類=角閃石を多量に含む生駒西麓産、b類=花崗岩起源の砂礫を主とし、わずかに角閃石を含むもの、c類=角閃石がめだたない非生駒西麓産) 中期以降の遺物の法量は第4表に示す。

1. 前期の土器(第40図、図版52・54)

前期の土器は中葉から後葉のものが各地区の上層の包含層、中期の溝内などに混入しているのがみられ、この項にまとめて記述する。土器の胎土はほとんどがa類の生駒西麓産といわれるものである。以下、胎土について特に記述しないものはa類に属する。

壺A(25)は肩部から頸部の内面にしぼり目を残して体部をすばませ、短い頸部から口縁部が外反するものである。口縁端面に2本の沈線文、頸部と体部の境目に太い1本の沈線文を施



第40図 包含層内出土弥生時代前期土器実測図

している。胎土はc類。(26~29)は小型の壺Aの胴部である。(26・30)は胴部上位に削り出し凸帯をもち、凸帯上に沈線文を施している。(31・32)は小型壺の底部になると考えられる。(27)は頸部下に1本、肩部に3本の沈線文を施している。(28)は頸部下に沈線文、胴部には2本の沈線文の下に木葉文がかすかにみられる。(29)も木葉文を施した胴部片である。胎土はc類。(33)は胴部に貼り付け凸帯文をもち、凸帯上にヘラによる刻み目文を施している。器面

はヘラ磨きにより光沢をもつ。

壺B(34・35)は長い頸部に沈線文を何条か施し、口縁部がゆるやかに外反するものである。口縁部は丸く納めている。(34)の胎土はc類。

鉢B(36・37)は斜めにひろがる体部から口縁部が更に斜め外方に開くもので、口縁部を丸く納めている。(37)の体部には内外面共に横方向のヘラ磨きがみられる。

高杯(38)は碗形を呈し、脚部(42)は短い中実の柱状部から「ハ」の字形に裾部が開くものである。(41)は中実の柱状部に外湾する裾部をもつものである。

蓋(43)は笠形を呈するもので、木葉文を施している。

甕(46~50)は胴部破片で沈線文を施している。胎土は(50)のみがc類。

底部(53~55)は底面が非常に厚いもので、外面には粗いハケ目調整がみられる。

2. 第10層下面の遺構

足跡(第41図)

D-6地区において検出した。総数32個の足跡であるがこの地点だけ10層が溝状に削られており黒色(10YR 1.7/1)シルト~粘土の上面に灰色(10Y 5/1)の中粒砂から極細粒砂がその上を覆っていたために検出することができた。左右の足を判別できるものもあったが歩行の痕跡すべてが残っているわけではない。方向としては北北東から南南西に向けてのものが読み取れるが南東から北西、南西から北東、南南東から北北西、東から西など様々なものがある。踏み込みの深さは1~10cmであるが西よりと中央部付近が10cm前後と深く周辺部は1~3cmと浅くなる傾向にある。足跡の深さは当時の地表面の軟度と荷重量との関係で変化したものと考えられる。地表面の軟度はそれを構成する土の粒子の大きさと含水量によって変化する。しかし、当時の状態を現時点で推定することは困難である。足跡は乱雑で不規則な出現であり同一人物の歩行をたどれるものはない。足長は20~28cmであるが22cm前後が多い。足幅は11~12cm前後である。



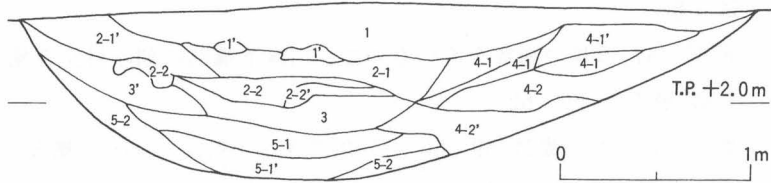
第41図 足跡実測図

3. 第10層上面の遺構と遺物

溝95(第42・43図)

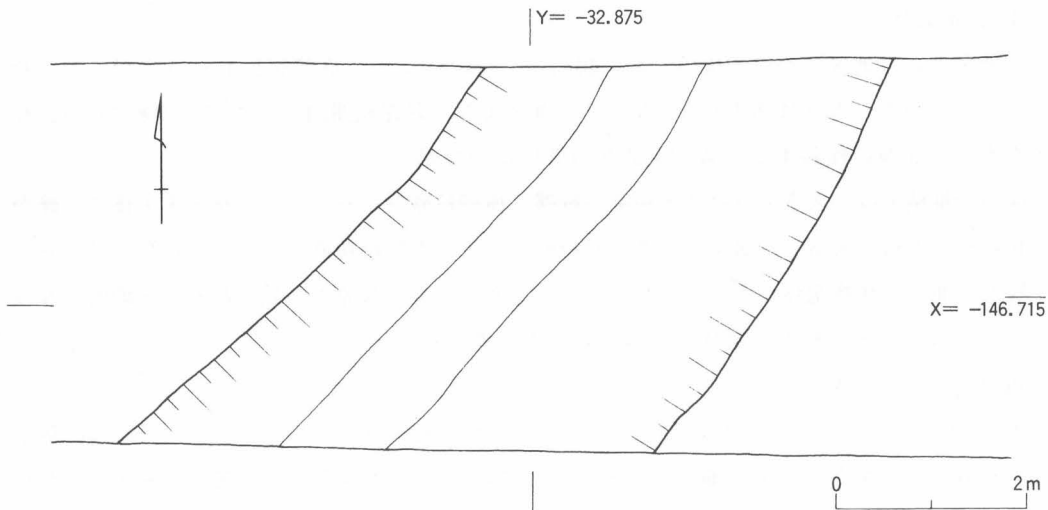
D地区で検出した。幅2.6~3.9m、長さ15m以上、深さ1~0.7m、北東から南西方向S-44°-Wの大溝である。

断面は台形、皿状を呈しており、東側は傾斜が緩やかで西側はやや急になる。溝内の堆積は大きく見れば下から粗粒砂～細粒砂を含んだ灰色(10Y 4/1)シルト～粘土、細粒砂～極細粒砂を含んだ灰色(7.5Y 4/1 10Y 4/1)シルト～粘土、中粒砂～細粒砂を含む灰色(10Y 4/1)シルト～粘土、黒褐色(2.5Y 3/1)細礫～中粒



- | | | | |
|------|----------------------------|------|-----------------------------|
| 1 | 灰色(7.5YR 4/1)細礫～細粒砂混シルト～粘土 | 4-1 | 灰色(10Y 4/1)シルト～粘土 |
| 1' | 黒褐色(2.5Y 3/1)極粗粒砂～中粒砂 | 4-1' | 灰色(10Y 4/1)細粒砂～極細粒砂混シルト～粘土 |
| 2-1 | 灰色(7.5Y 4/1)細礫～細粒砂混シルト～粘土 | 4-2 | 灰色(7.5Y 4/1)細粒砂～極細粒砂混シルト～粘土 |
| 2-1' | 灰色(7.5Y4/1)極粗粒砂～細粒砂混シルト～粘土 | 4-2' | 灰色(7.5Y 4/1)極細粒砂混粘土 |
| 2-2 | 黒褐色(2.5Y3/1)細礫～中粒砂 | 5-1 | 灰色(10Y 5/1)粘土 |
| 2-2' | 黒褐色(2.5Y3/1)中粒砂 | 5-1' | 灰色(10Y 4/1)粘土 |
| 3 | 灰色(10Y 4/1)中粒砂～極細粒砂 | 5-2 | 灰色(10Y 4/1)粗粒砂～細粒砂混シルト～粘土 |
| 3' | 灰色(10Y 4/1)中粒砂～細粒砂混シルト～粘土 | | |

第42図 溝95断面図



第43図 溝95平面図

砂、灰色(7.5Y 4/1)細礫～細粒砂混じりシルト～粘土、黒褐色(2.5Y 3/1)細礫～中粒砂、細礫～細粒砂を含んだ灰色(7.5Y 4/1)シルト～粘土である。流れはあまりなく滞水した環境にあったものと考えられる。

北西端付近で幅15cm、長さ70cmの流木を検出した。第1層から弥生土器壺、第2層から弥生土器甕、第3層から弥生土器壺が出土した。

遺物(第47図、図版55・56)

<第3層内>(57・58)

壺A0(58)は縦長の胴部が肩部で締め、屈曲して漏斗状に開く頸部に続き、口縁部は水平近くに開くものである。頸部から胴部上位にかけてみられる直線文は波状を呈し、頸部から胴

部半ばまでに縦方向のハケ目、胴部半ばから底部までに縦方向のヘラ磨き調整がみられる。胎土はb類。

壺A₀(57)は長い頸部をもつもので、口縁下端部に刻み目文を施している。

<第2層内>(59~62)

甕A(61・62)と甕B(59・60)に分類できる。甕B₁₋₄(60)・甕A₁₋₀(61)は胴部が大きく張り出し、甕B₂₋₁(59)の胴部はあまり張り出さずに、口縁部が水平に外反するものである。

<第1層内>(63~65)

壺D₁(63)は胴部から頸部が短く立ち、口縁部が水平に開き、口縁端部は上方に立ち上がりをもつものである。口縁部外面に波状文、内面に簾状文、胴部に波状・直線文を施している。

壺C₀(64)は算盤玉形の胴部から頸部をもたずにすぐ外湾しながら口縁部へ続き、口縁部にも面をもつものである。口縁部のすぐ下から胴部中頃まで横方向と斜め方向のヘラ磨き、胴部下半部から底部まで縦位のヘラ磨き調整がみられる。底部に焼成後の穿孔がある。胎土はa類。

脚部(65)は小型品で柱状部から裾端部までヘラ磨き調整をしている。

溝97(第45図)

C地区からD地区にかけて検出した。幅4.2m、深さ2.1m、底部幅1.4mでV字形に近い断面を呈している。方向は南東から北N-41°-Wを向き、調査範囲内の長さ15mで約30cm比高差をもって北西に傾斜する。第12次調査の溝16^{注5}につながっていく。

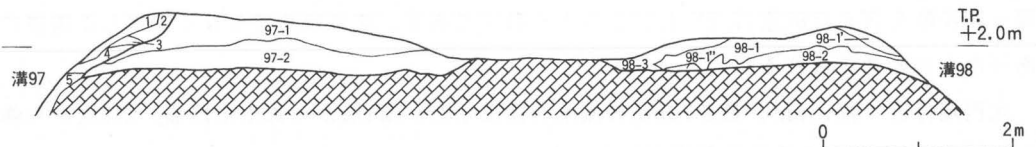
溝内の堆積土は、大きく分けて上層部が細礫~極細粒砂混じりシルト~粘土を主体に中礫から粗粒砂の間層が入る、中層部が中礫~粗粒砂、下層部が極細粒砂~シルトからなっている。中層部下面には植物遺体が多く含まれていて、上面には大きな流木が見られる。短期間に埋没したのではなくある程度の時間がかかったものと考えられる。

遺物(66~69)(第47図)

甕B₀(66・67)は体部から大きく口縁部が外湾する「大和型」のものである。(67)は口縁端部に刻み目文を施している。壺底部(68)は厚手の底部から丸みをもつ胴部へと続き、ハケ目の調整がみられる。

溝98(第46図)

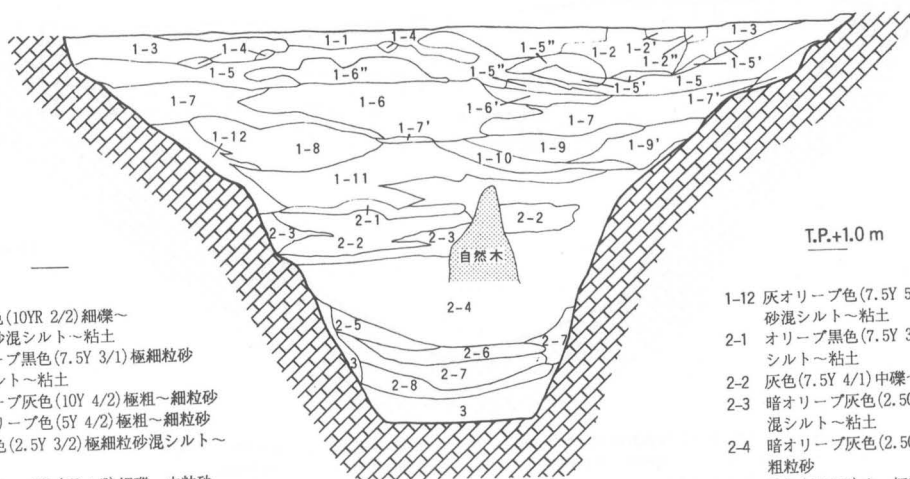
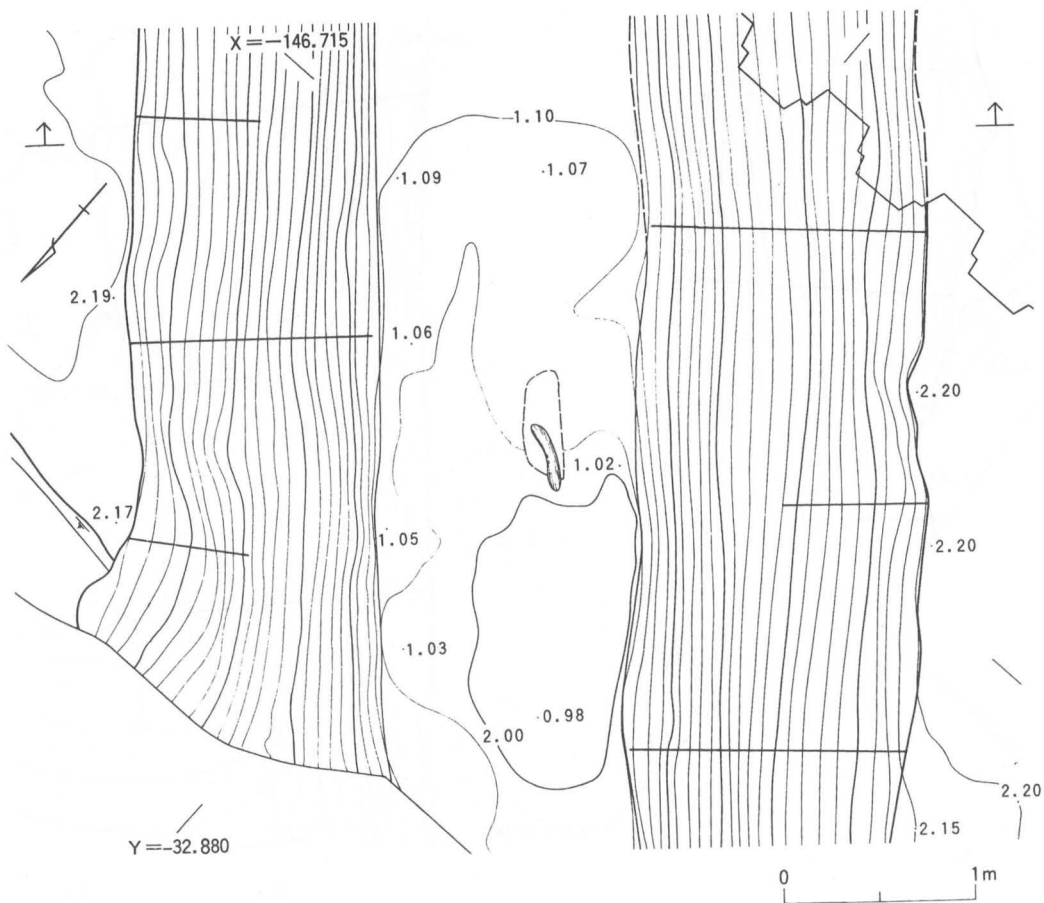
B地区からC地区にかけて検出した。幅4m、深さ1.8m、V字形に近い断面を呈している。



- 1 黒色(7.5YR 2/1)中~粗粒砂混シルト質粘土
- 2 黒色(10YR 2/1)中~粗粒砂混シルト質粘土
- 3 黒色(7.5YR 2/1)シルト混粘土
- 4 黒褐色(7.5YR 2/2)シルト混粘土
- 5 黒褐色(2.5Y 3/1)細粒砂混粘土
- 97-1 黒褐色(5YR 2/1)シルト混粘土
- 97-2 緑黒色(10G 2/1)シルト混粘土
粘土ブロック多量に混入

- 98-1 黒色(7.5Y 2/1)細礫~粗粒砂混シルト質粘土
- 98-1' 黒色(7.5Y 2/1)極細粒砂シルト質粘土
- 98-1'' 黒色(7.5Y 2/1)シルト質粘土
- 98-2 緑黒色(10GY 2/1)中~粗粒砂混シルト質粘土
- 98-3 オリーブ黒色(10Y 3/1)シルト混粘土
白色、青灰色粘土ブロック混入

第44図 溝97-溝98土堤断面図

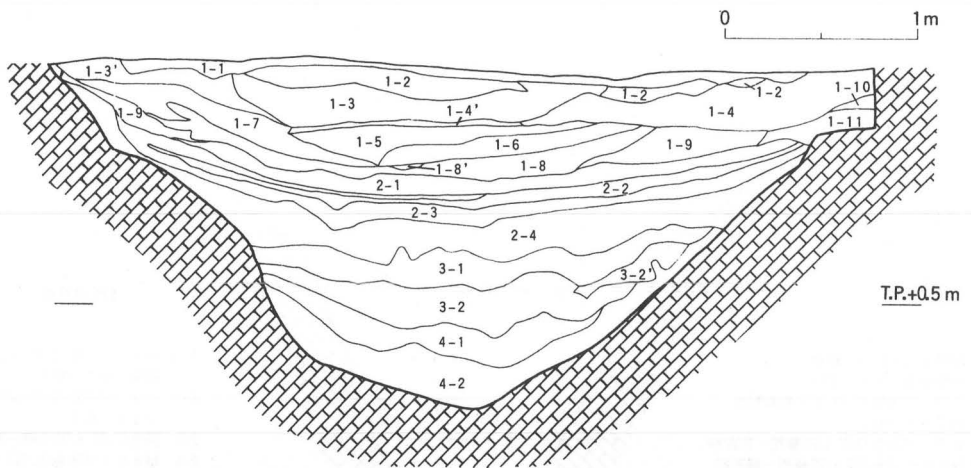


- 1-1 黒褐色(10YR 2/2) 細礫～中粒砂混シルト～粘土
- 1-2 オリーブ黒色(7.5Y 3/1) 極細粒砂混シルト～粘土
- 1-2' オリーブ灰色(10Y 4/2) 極粗～細粒砂
- 1-2'' 灰オリーブ色(5Y 4/2) 極粗～細粒砂
- 1-3 黒褐色(2.5Y 3/2) 極細粒砂混シルト～粘土
- 1-4 灰オリーブ色(5Y 4/2) 細礫～中粒砂
- 1-5 灰オリーブ色(7.5Y 4/2) 極細粒砂混シルト～粘土
- 1-5' 灰黄褐色(10YR 4/2) 中～細粒砂混シルト～粘土
- 1-5'' 灰オリーブ色(5Y 4/2) 細粒砂混シルト～粘土
- 1-6 暗黄灰色(2.5Y 4/2) 細礫～中粒砂
- 1-6' 暗黄灰色(2.5Y 4/2) 細礫～中粒砂
- 1-6'' 灰オリーブ色(7.5Y 4/2) 極粗～中粒砂
- 1-7 オリーブ黒色(7.5Y 3/2) 極細粒砂混シルト～粘土

- 1-7' 暗オリーブ色(5Y 4/3) シルト～粘土
- 1-8 褐灰色(10YR 4/1) 中礫～粗粒砂
- 1-9 黄灰色(2.5Y 4/1) 細礫～粗粒砂混シルト～粘土
- 1-9' オリーブ褐色(2.5Y 4/3) 粗粒砂混シルト～粘土
- 1-10 オリーブ黒色(5Y 3/1) 極細～細粒砂混シルト～粘土
- 1-11 黄灰色(2.5Y 5/1) 粗～極粗粒砂混シルト～粘土

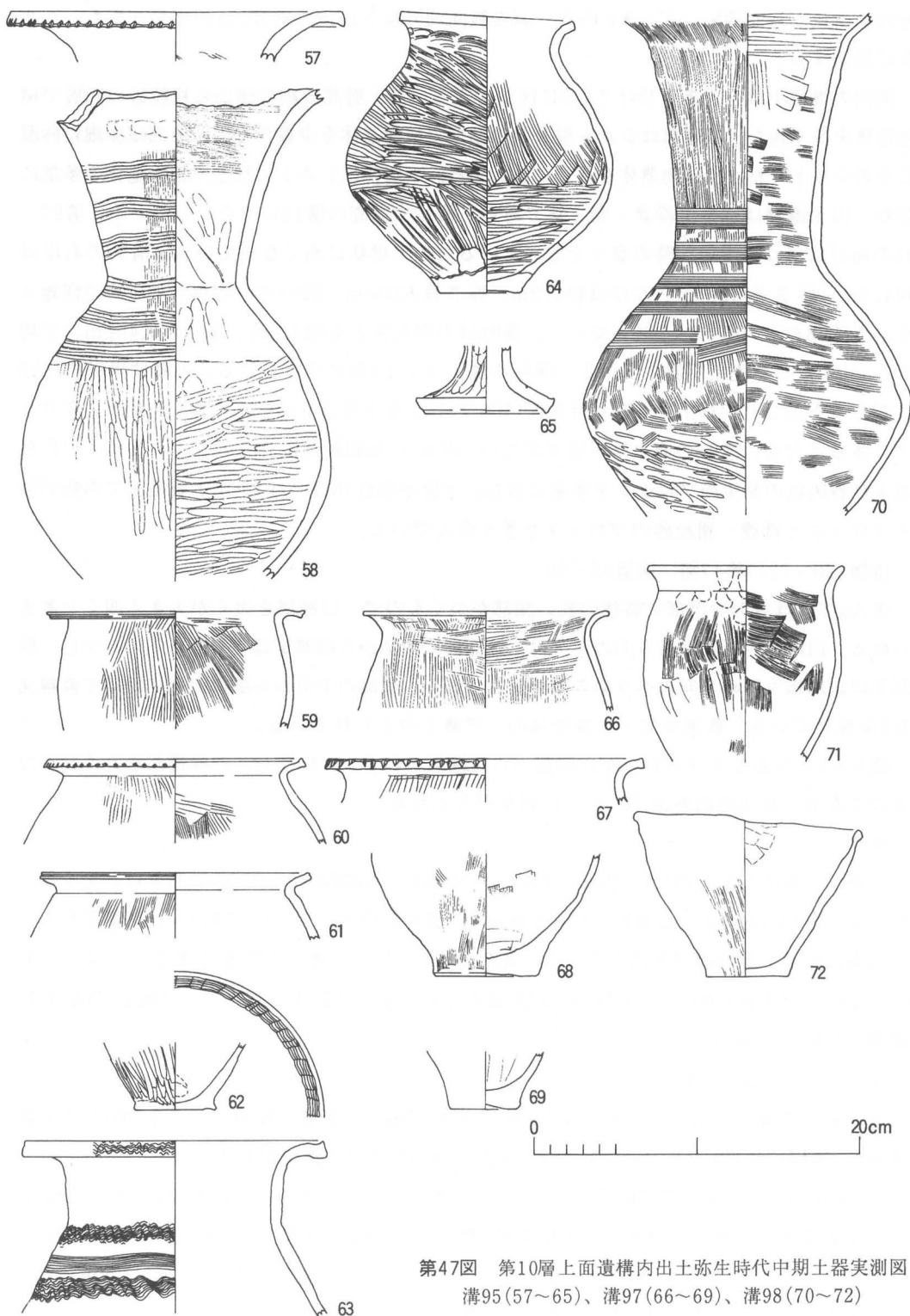
- 1-12 灰オリーブ色(7.5Y 5/2) 極細粒砂混シルト～粘土
- 2-1 オリーブ黒色(7.5Y 3/1) 細礫混シルト～粘土
- 2-2 灰色(7.5Y 4/1) 中礫～粗粒砂
- 2-3 暗オリーブ灰色(2.5GY 3/1) 粗粒砂混シルト～粘土
- 2-4 暗オリーブ灰色(2.5GY 4/1) 中礫～粗粒砂
- 2-5 黒色(5Y 2/1) 中～極粗粒砂
- 2-6 オリーブ黒色(7.5Y 3/1) 細礫～細粒砂
- 2-7 オリーブ黒色(7.5Y 3/1) シルト混中～細粒砂
- 2-8 オリーブ黒色(7.5Y 2/2) 中～細粒砂
- 3 暗緑灰色(5G 3/1) 極粗粒砂～粘土

第45図 溝97実測図



- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 1-1 灰オリブ色(5Y 4/2)極細粒砂混シルト～粘土 | 1-8' 灰色(5Y 6/1)極粗粒砂～中粒砂 |
| 1-2 灰色(7.5Y 5/1)シルト混細礫～中粒砂 | 1-9 灰色(10Y 5/1)極細粒砂～シルト |
| 1-3 黄灰色(2.5Y 6/1)中粒砂 | 2-1 オリブ灰色(2.5GY 5/1)シルト～粘土 |
| 1-3' 黒褐色(2.5Y 3/1)極細粒砂～シルト | 2-2 オリブ黒色(5Y 3/1)シルト混粘土 |
| 1-4 オリブ黒色(10Y 3/1)極細粒砂～シルト | 2-3 灰色(10Y 4/1)シルト混粘土 |
| 1-4' 灰色(5Y 5/1)極細粒砂～シルト | 2-4 黒色(2.5Y 2/1)シルト混粘土 |
| 1-5 黄灰色(2.5Y 5/1)中～細粒砂 | 3-1 オリブ黒色(5Y 2/2)極細粒砂混シルト～粘土 |
| 1-6 灰色(5Y 5/1)極細粒砂～シルト | 3-2 灰色(5Y 4/1)極細粒砂混シルト～粘土 |
| 1-7 灰色(10Y 5/1)極細粒砂混シルト～粘土 | 4-1 オリブ黒色(10Y 3/1)シルト～粘土 |
| 1-8 オリブ灰色(2.5GY 5/1)粗粒砂～中粒砂 | 4-2 オリブ黒色(7.5Y 2/2)シルト～粘土 |

第46図 溝98実測図



第47図 第10層上面遺構内出土弥生時代中期土器実測図
 溝95(57~65)、溝97(66~69)、溝98(70~72)

方向は南東から北西N-54°-Wを向き、調査範囲内の長さ15mで約30cmの比高差をもって北西に傾斜する。

溝内の堆積土は、大きく分けて4つに区分できる。最上層部は細粒砂から粗粒砂の互層で植物遺体を多く含む、上層部はシルト混じりの粘土で植物遺体を少量含む、中層部は極細粒砂混じりのシルト～粘土で植物遺体を多量に混入する。下層部はシルト～粘土で植物遺体を多量に含む。出土遺物は弥生土器甕・壺・鉢である。第12次調査の溝15につながっていく。溝97・98の両肩部には、溝掘削時の廃土を置いているため土堤状に高くなっている。溝97の右岸は幅4.5m、厚さ平均20cm、左岸は幅4.2m、厚さ最大60cm、溝98の中間地点で皿状の窪地となって溝98右岸の廃土へと続いていく。溝98は右岸左岸とも幅3.3m、厚さ最大40cm、平均30cmにわたって廃土を置いている。溝97の廃土は上下2層に分けられる。上層は黒褐色(5YR 2/1)シルト混じりの粘土、下層が緑黒色(10G 2/1)シルト混じりの粘土で青灰色粘土のブロックを多量に含む。溝98の廃土は上層が黒色(7.5Y 2/1)極細粒砂混じりのシルト質粘土で白色および青灰色の粘土のブロックを多量に含む。下層が黒色(N 1.5/0)シルト質粘土で白色の粘土ブロックと細礫～粗粒砂のブロックを多く含んでいる。

遺物(70～72)(第47図、図版55・56)

壺A₀(70)は球形の胴部に筒状の長い頸部がつくもので、口縁部を欠くが大きく開くと考えられる。口縁部内面には横方向のハケ目、外面には頸部から胴部半ばまで縦方向のハケ目、胴部下位には横～斜め方向のヘラ磨き調整がみられる。頸部の下位から胴部上位にかけて直線文を5条施している。底部を欠く。器壁は均一で薄くつくられている。

甕B₀(71)はあまりひろがらない胴部から口縁部がわずかに外反し、口縁端部を丸く納めたものである。体部の内外面共にハケ目調整がみられる。

溝99

B地区で検出した。幅1.5～2m、深さ0.4～0.5m、底部幅0.2～0.3mで断面は台形を呈している。方向は南西から北東N-30°-Eを向き、調査範囲内の長さ2mで約12cm比高差をもって北東に傾斜し溝98に注ぎ込んでいる。溝内の堆積土は、下層から黒色(10Y 2/1)シルト～粘土、オリーブ黒色(10Y 3/2)粗粒砂～細粒砂混じりシルト～粘土、暗オリーブ灰色(5GY 3/1)細礫～中粒砂であった。

第19号方形周溝墓(第48図)

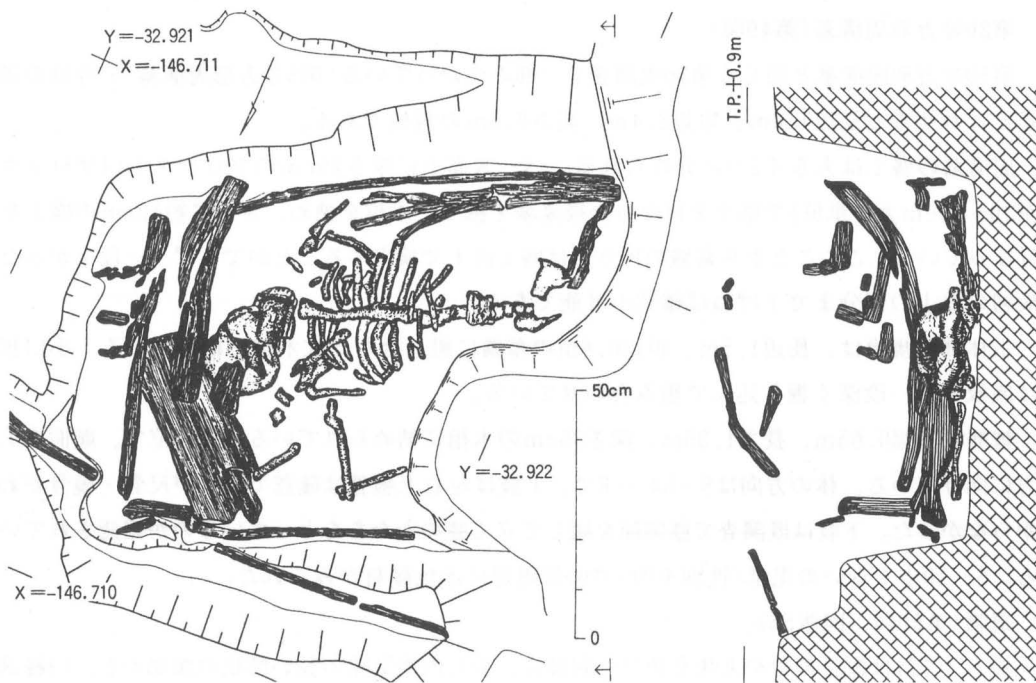
A地区の西端で検出した。西半分は1986～87年の第30次調査^{註6}で検出している(第7号方形周溝墓)。規模は長辺4.2m、短辺3.2m、高さ0.3mで2基の主体部がある。

第1主体部は第30次調査で検出したもので、墳丘の北西部にあり、長辺95cm、短辺42cmの長方形の墓壇内に組み合わせ式の木棺を置いたものである。木棺は長辺87cm、短辺23cmの底板の両側に小口板の大きさだけ、挟りを入れ小口板を墓壇底面より約10cm～15cm差し込んで組み合わせている。小児用の木棺で転用材である。

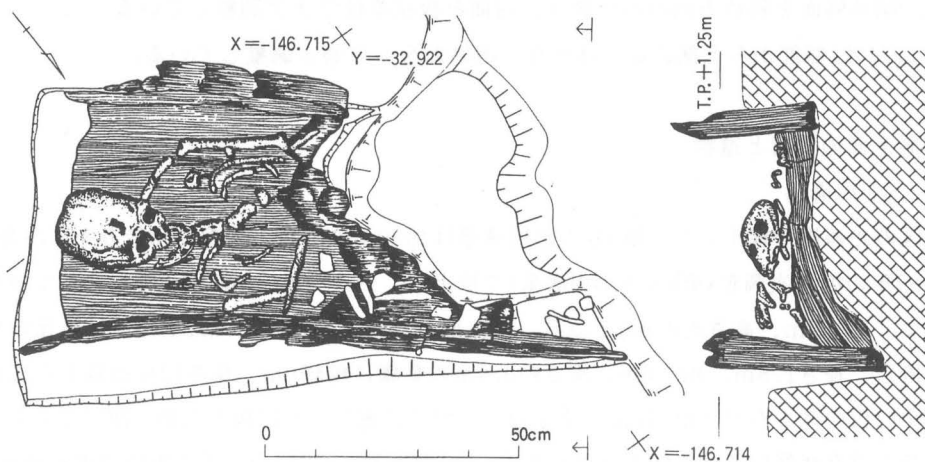
第2主体部は第30次と第32次調査にまたがっている。長辺1.8m、短辺1m、深さ0.7mの長

方形の墓壙の底面に綱代を敷きその上に太さ1.5~3cmの自然木を直方体に組み合わせた枠を置き、そこに遺体を入れたものである。

人骨の遺存状態は良くなかったが、埋葬状態の推定はできた。人骨は仰臥位で、顔面を上方に向けている。体の方向はN-67°-Eであるが頭部は体の中心線64°右の方向に傾いている。頭部の下には幅15cm、長さ40cmの板材が敷かれていた。上肢は右尺骨が移動していると思



第48図 第19号方形周溝墓第2主体部実測図



第49図 第20号方形周溝墓主体部実測図

われるが手との関節部分が肩甲骨付近にあり腕を強く折り曲げていたものと思われる。左上肢も右上肢と同じようである。

網代は植物質の材料を編み合わせて作った編み物で、土器の底面についた圧痕により縄文時代早期からあったことがわかっている。縄文時代前期の福井県鳥浜貝塚では網代そのものが10余点、弥生時代では奈良県磯城郡田原本町唐古遺跡から出土している。

出土した網代は2本超え2本潜り1本送りという編み方をしている。

第20号方形周溝墓(第49図)

第19号方形周溝墓と同じく第30次調査で一部みつがっている(第8号方形周溝墓)。今回の調査と合わせると長辺4.2m、短辺2.4m、高さ0.5mの規模である。

周溝墓の盛土は大きく2つに分けられる。ベース面上に厚さ25cmのブロック土(1ブロックが20~30cm大の単位)で盛土を行なった後墓壙を掘り、木棺を納め、さらに約40cmの盛土を行なっている。このことから墓壙の掘り形は盛土直上で検出することができず、一段下がった最初の盛土の部分まで下げねば確認不可能である。

主体部の規模は、長辺1.5m、短辺0.6mの墓壙に組み合わせ式木棺を納めている。小口板は底板より一段深く掘り込んで組み合わせている。

被葬者は幅0.65m、長さ1.35m、深さ35cmの木棺に納められている。仰臥位で、顔面を上方に向けている。体の方向はS-54°-Eで、上肢は左右上腕骨は確認できたが尺骨・橈骨がわからなかった。下肢は既調査で膝関節を屈して立て膝のかたちをとっているのが確認されている。6~10才ぐらいの児童(性別不明)で頭部周辺に赤色顔料がみられた。

遺物(第50図、図版56)

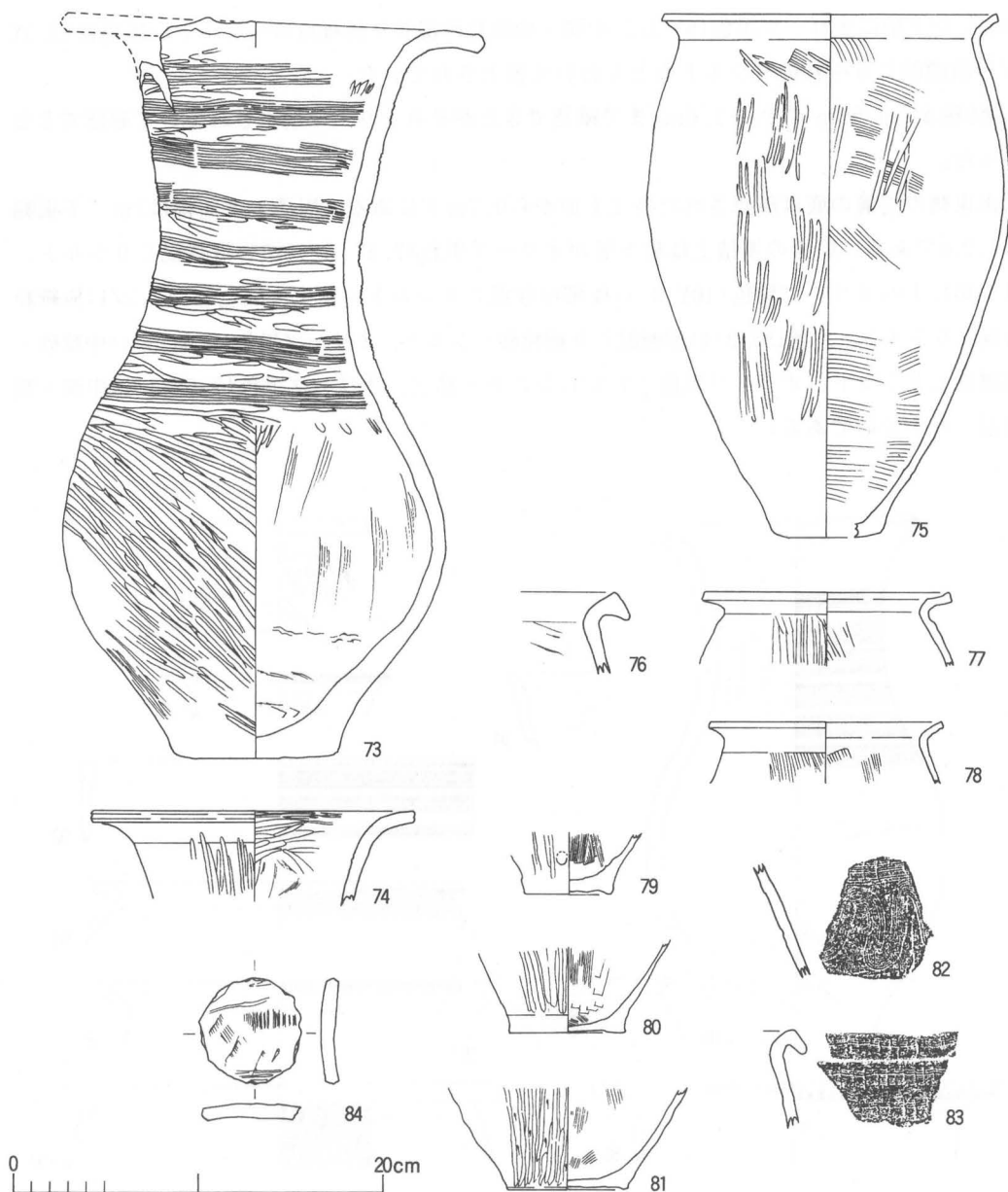
壺A'0(73)は縦長のやや丸味を帯びた胴部に、少し内湾気味の長い筒状の頸部から、口縁部が水平近くまで大きく開くものである。頸部から肩部にかけて直線文を施している。直線文の継ぎ目には重なる所や継ぎ足した箇所がある。直線文の間には横方向の短いヘラ磨き調整がみられる。胴部外面を斜め方向のヘラ磨き、内面を板状原体でナデ調整している。

壺A'0(74)は頸部から上部には文様がなく内外面をヘラ磨き調整している。

4. 第9層上面の遺構と遺物

第5号方形周溝墓

A地区の北西端で検出した。第5号方形周溝墓は1980年の第12次調査(第5号方形周溝墓)、1986~87年の第30次調査(第6号方形周溝墓)で検出している。墳丘はほぼ正方形をしており、北東側で一辺4.3m、高さ約0.6mを測る。主体部は2カ所で検出し、第1主体部は墳丘の西端角に位置し、長さ1.5m、幅0.6m、深さ約0.4mの墓壙に幅46cm、長さ124cm以上の底板を置き、小口板のところだけ幅21cm、深さ33cmで2段に掘り、小口板を内側に傾けて立てている。人骨の遺存状態は既調査例では最も良く、大部分が残っていた。成人男性で推定身長162cm、仰臥位で、顔面を上方に向け、右上肢は肘関節を約60°に屈して手を胸に載せ、下肢は



第50図 第20号方形周溝墓(73・74)・第5号方形周溝墓出土弥生時代中期土器実測図

左右とも膝関節を強く屈して、立て膝のかたちをとっている。

第2主体部は墳丘東端角で、墓壙の規模は長さ80cm、幅44cm、深さ30cmで、木棺は上蓋のみを検出した。人骨は南西を頭位とする仰臥位で下肢は股関節、膝関節ともかなり強く屈曲していた。推定身長0.9~1mで3~4歳の小児と推定されている。

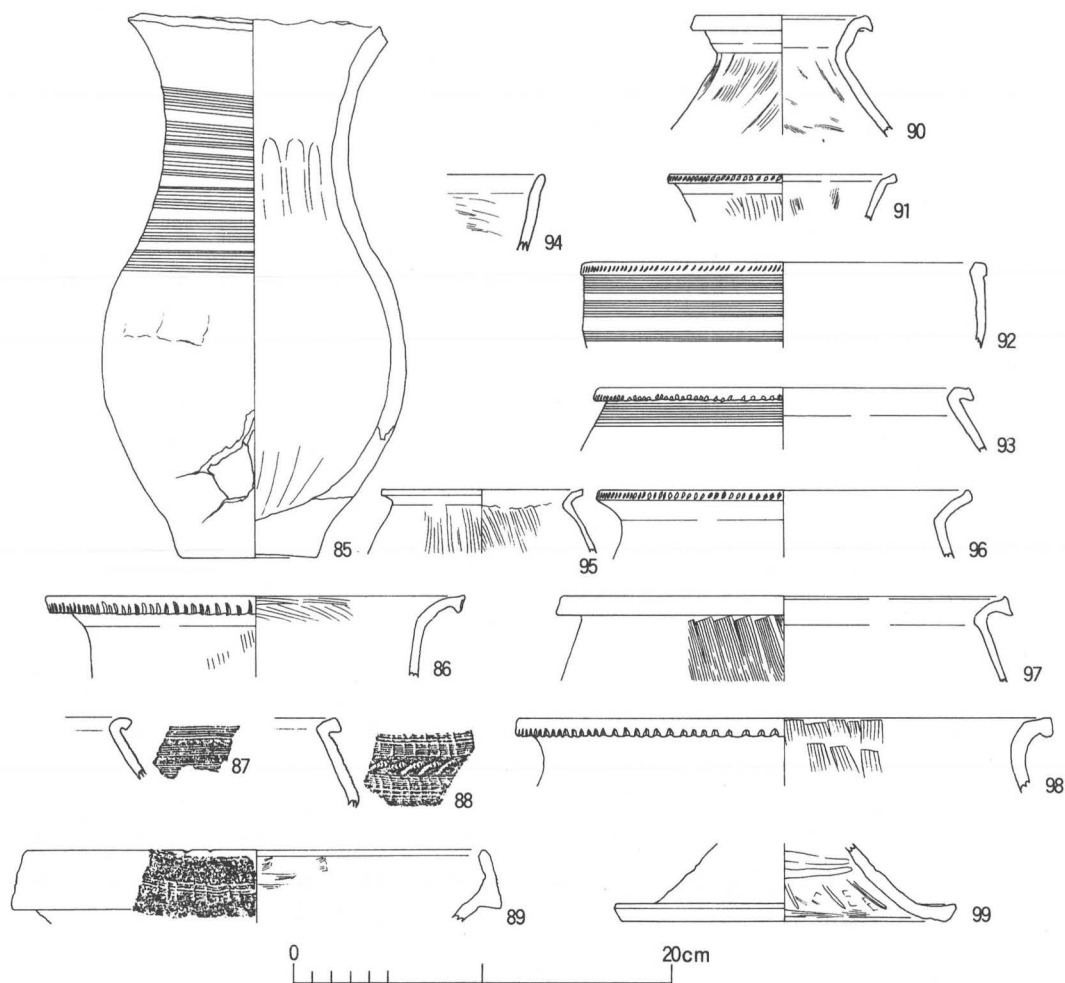
今回の調査では墳丘の一部を検出した。第19号方形周溝墓の盛土の上に築かれている。

ほぼ水平に堆積する第9層の上にオリブ黒色(10Y 3/1)極細粒砂混じりのシルト~粘土を厚さ5~8cmに薄く盛り、その上にオリブ黒色(7.5Y 3/1 10Y 3/1)粘土混じりシルトを主

体とした土壌にオリブ黒色(5Y 3/2)中礫～極粗粒砂混じり極細粒砂～シルト、黒褐色(2.5Y 3/1)細礫混じり中粒砂～シルトなども合わせ盛土されていた。

第9層から0.55m(T.P.+1.6m)まで確認できたがそれより上は削平されていて確認できなかった。

南東側の周溝の底は確認された盛土上面から0.7m下にある。周溝の上面幅は3m、下面幅は1.2mである。周溝の堆積土は最下層がオリブ黒色(7.5Y 3/1)植物遺体混じりシルト、以下順に上へオリブ黒色(10Y 3/1)極細粒砂混じりシルト～粘土、黒色(2.5Y 2/1)極細粒砂混じりシルト、黒色(5Y 2/1)細礫混じり細粒砂～シルト、オリブ黒色(7.5Y 3/1)中粒砂・細礫混じりシルト、オリブ黒色(5Y 3/1)シルト～粘土、オリブ黒色(7.5Y 3/1)中礫～細礫混じり中粒砂である。



第51図 第7号方形周溝墓周溝内出土弥生時代中期土器実測図

遺物

<周溝内>(第50図、図版55)

甕A₁₋₀(75)は胴部が中頃で張り出し、口縁部は緩い稜をもって外反するものである。

甕A₁(76)と甕B₁の口縁部(78)、甕の底部(79~81)が出土しており、(71)は底部に穿孔がみられる。壺(82)は胴部に櫛描きの簾状文と上下に大きく振幅する波状文を施したものである。円板(84)は土器の破片を丸く打ち欠いたもので、内外面にハケ目調整がみられる。

第7号方形周溝墓

A地区の北東端で検出した。第7号方形周溝墓は1983年の第19次調査^{註7}で検出している。墳丘の規模は東辺3m以上、北辺1.5m以上で、確認された墳丘上面は平坦でT.P.+1.6mである。築造面からの高さは48cm。

周溝墓の盛土は大溝の廃土を再利用したようで、大溝の盛土とほぼ同一の土を用いている。今回の調査でも盛土を確認した。しかし第19次調査及び工事完了後に周辺の土層がずれを起こしたため、正確さに欠ける面もあるが一応記述する。

南西周溝は第5号方形周溝墓と共有する。墳丘の盛土は中央部の窪んだ部分からオリブ黒色(5Y 2/2)シルト・粘土混じり粗粒砂~中粒砂、暗オリブ灰色(2.5GY 3/1)シルト混じり中粒砂~極細粒砂を入れてならした後、オリブ黒色(7.5Y 2/2)極細粒砂混じりシルト~粘土、オリブ黒色(7.5Y 2/2)中粒砂混じり細粒砂~シルト、黒色(10Y 2/1)中粒砂混じりシルト~粘土などで盛土している。盛土の厚さは0.6mである。

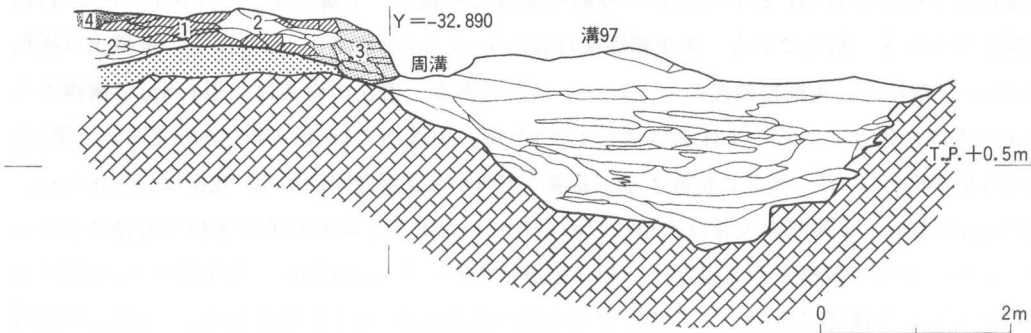
遺物

<周溝内>(85~99)(第51図、図版56)

壺A'₀(85)は厚っぼい底部から縦長の胴部に頸部が外湾しながら開くもので、口縁部を打ち欠いている。頸部に直線文を6条施しており、底部には焼成後の穿孔がみられる。胎土はc類。その他、壺D₁(90)をはじめ小片の土器が出土している。

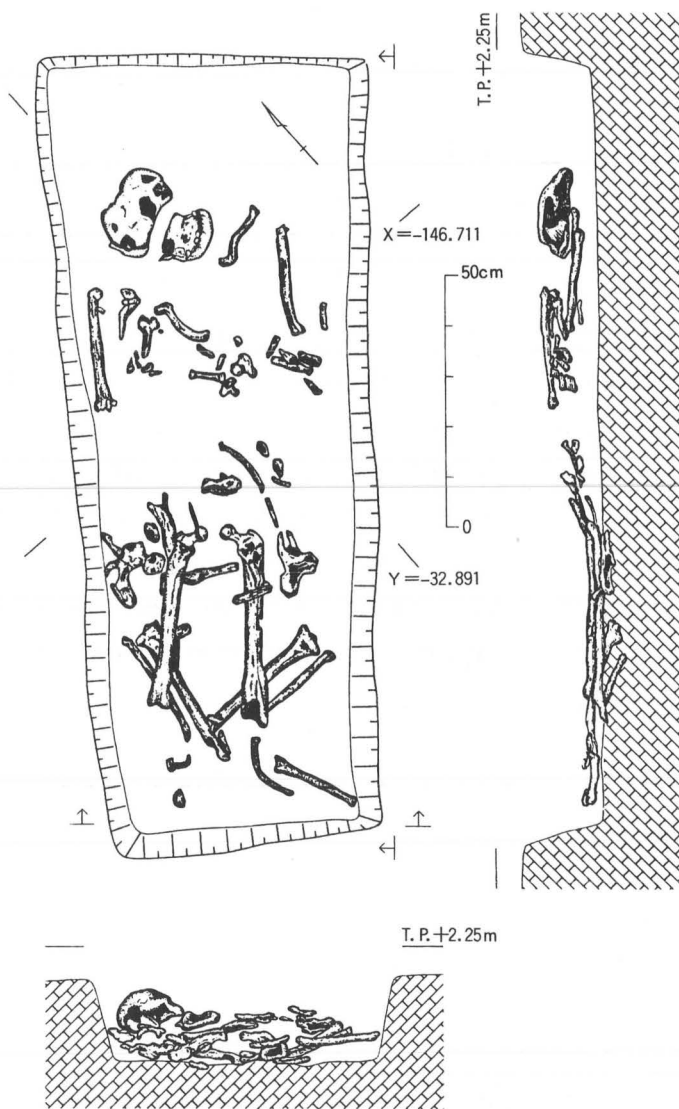
第23号方形周溝墓(第52~54図)

C地区の北西で検出した。1/2以上は調査範囲外にある。墳丘の南東辺は一辺4.5mで南西から北東の方向に延びている。盛土の高さはベース面より0.45~0.68mである。ベース面は



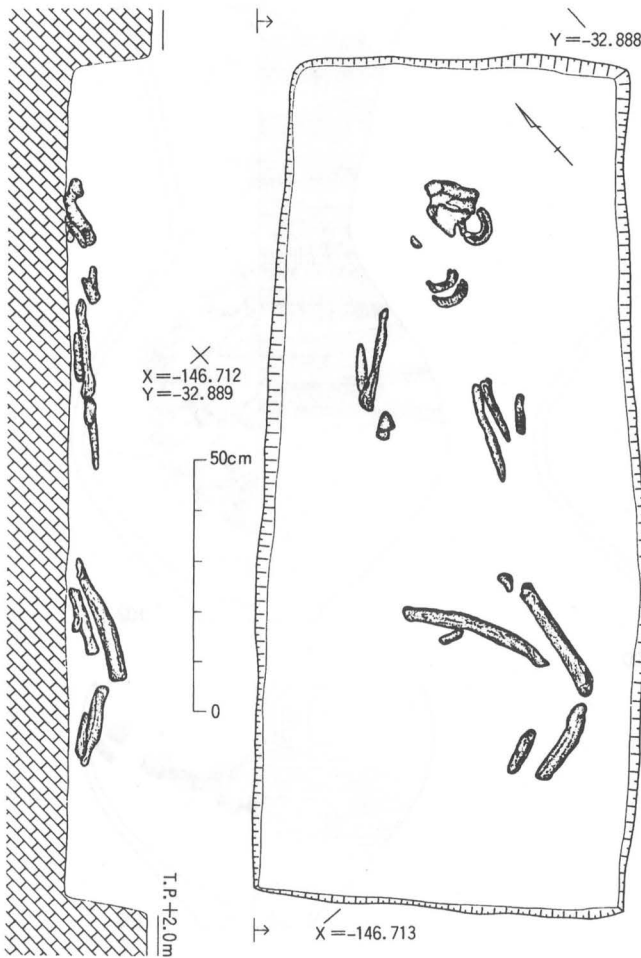
第52図 溝97・第23号方形周溝墓盛土断面図

溝97・98の廃土が土堤状となったところである。盛土は墳丘中央部分から開始され周辺部に向かって行なわれている。中央部はオリーブ黒色(5Y 3/1)極細粒砂混じりシルト～粘土を主体とする土層で、周辺部に行くにつれて灰色(5Y 4/1)細粒砂混じりシルト～粘土、黒色(7.5Y 2/1)シルト混じり粘土をブロック状に積み上げている。北東部周溝は底面の幅0.5m、深さは確認された墳丘頂部から0.75mを測る。堆積土は下層が炭化物を含んだオリーブ灰色(2.5GY 5/1)極細粒砂混じりシルト～粘土、中層が灰色(10Y 4/1)細粒砂混じりシルト～粘土、上層が灰色(10Y 5/1)中粒砂～細粒砂混じりシルト～粘土である。南西側の周溝は幅1.5m、深さ0.3mで、周溝内



第53図 第23号方形周溝墓第1主体部実測図

の堆積は下層が黒色(5Y 2/1)中粒砂～極細粒砂混じり粘土、上層がオリーブ黒色(5Y 3/1)細礫混じりシルト～粘土である。南東側周溝は幅2.5～3.5m、深さ0.1mを測る。堆積土は灰色(10Y 4/1)細粒砂～極細粒砂混じりシルト～粘土である。墳丘の南辺は一辺4.5mで南西から北東の方向に延びている。主体部は墳丘上で1ヶ所、周溝内で1ヶ所の計2ヶ所である。第1主体部は墳丘南のコーナー近くに位置する。墓壇は南西から北東方向に長く、規模は長さ162cm、幅65cmである。主体部の人骨は木棺に収められていたものと思われるが木棺の痕跡はなかった。しかし土層の観察から北東部小口板は墓壇底面からさらに17cm、南西部は36cm掘り込んでいることが確認できた。このことから木棺の形式は第5号方形周溝墓第1主体部、第19号方形周溝墓第1主体部と同じI型木棺^{注8}と考えられる。人骨の遺存状態は比較的良好であった。



第54図 第23号方形周溝墓第2主体部実測図

人骨は仰臥位で、顔面を上方に向けている。体の方向はN-39°-Eであるが頭部は体の中心線に対し70°右の方向に傾いている。右上肢は強く折り曲げ右鎖骨のあたりに、左上肢は肘関節を74°屈して手を胸のあたりに置いている。下肢は膝関節を屈して立て膝のかたちをとっている。第2主体部は第25号方形周溝墓と共有する周溝の中央よりやや23号寄りに位置する。第2主体部の墓壙は第1主体部と同一方向でほぼ並行な位置にある。墓壙の規模は長さ175cm、幅78cmで木棺に収められていたものと思われる。木棺は1.7×0.8mの大きさである。人骨の遺存状態はよくなかったが、埋葬の状態は推定できた。仰臥位で、顔面を上方に向けている。体の方向はN-40°-Eで、上肢は左右とも強く折り曲げていたものと思われる。

。下肢は木棺の左側板に寄り掛けていたと思われる、体の中心線より約38°傾いていた。

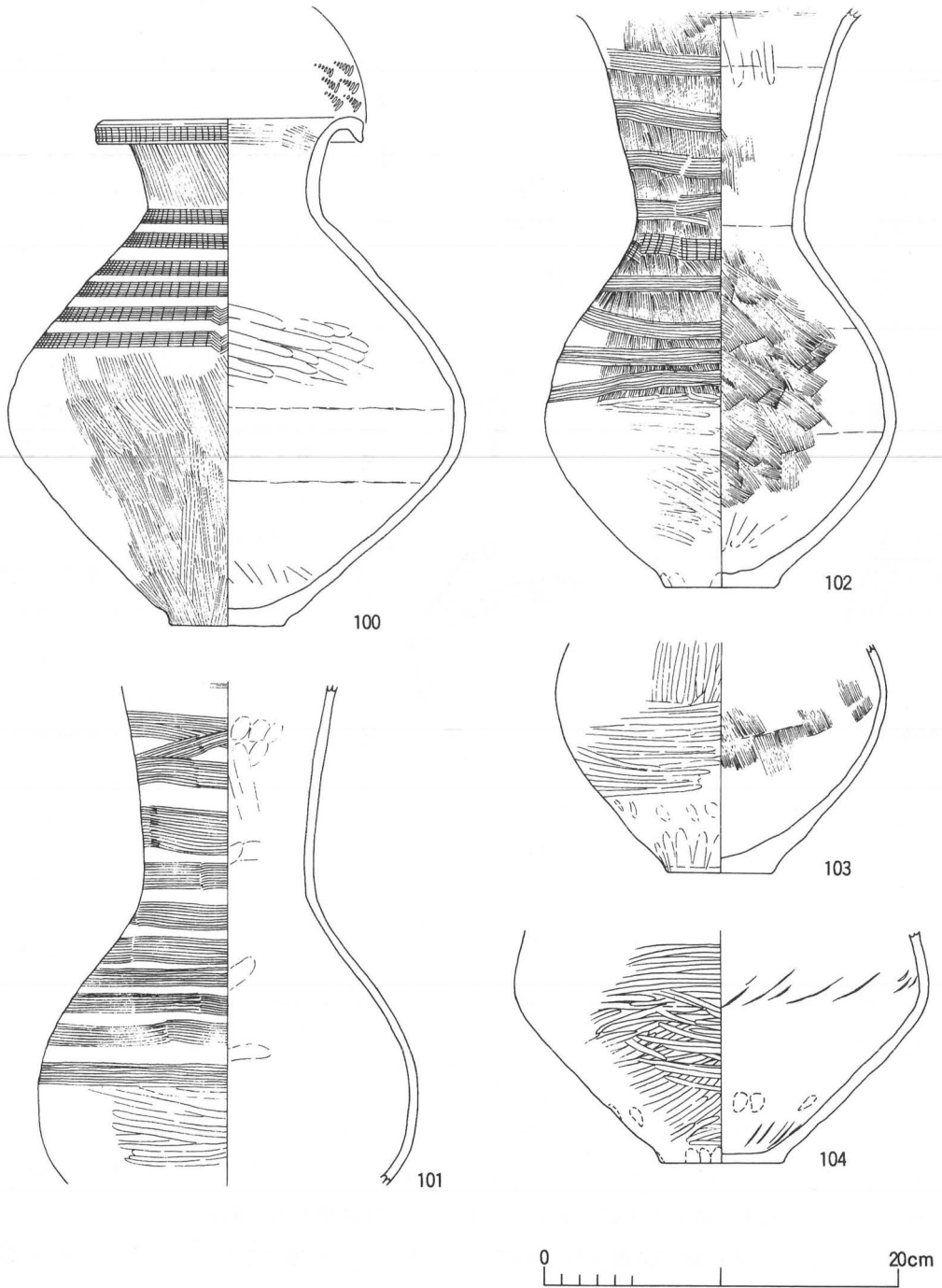
遺物

<周溝内>(100・102~104)(第55図、図版61)

壺B₁(100)は胴部が中頃で張り出す算盤玉形を呈し、短く立ち上がる頸部から口縁部が下方に垂下するものである。口縁部内面に扇形文、口縁端面と肩部から胴部上半部にかけて簾状文を施しており、頸部と胴部下半部~底部には粗いハケ目調整がみられる。

壺A'₀(102)は球形の胴部に漏斗状の頸部がつくもので、口縁部を欠いている。外面の頸部から胴上半部までハケ目調整をした上に直線文8条と頸部と胴部の境に簾状文1条を施している。胴下半部から底部までヘラ磨き調整がみられる。内面の口縁部付近に横方向のハケ目がみられ、頸部下位から胴部まで斜め方向のハケ目調整をしている。

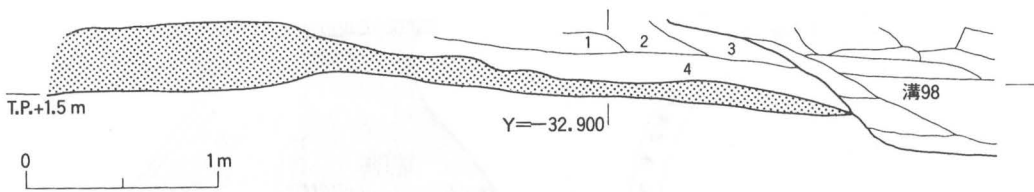
壺(103)の胴底部は球形の胴部で外面にはヘラ磨き、内面にはハケ目調整がみられる。外面に煤が付着している。胎土はc類。



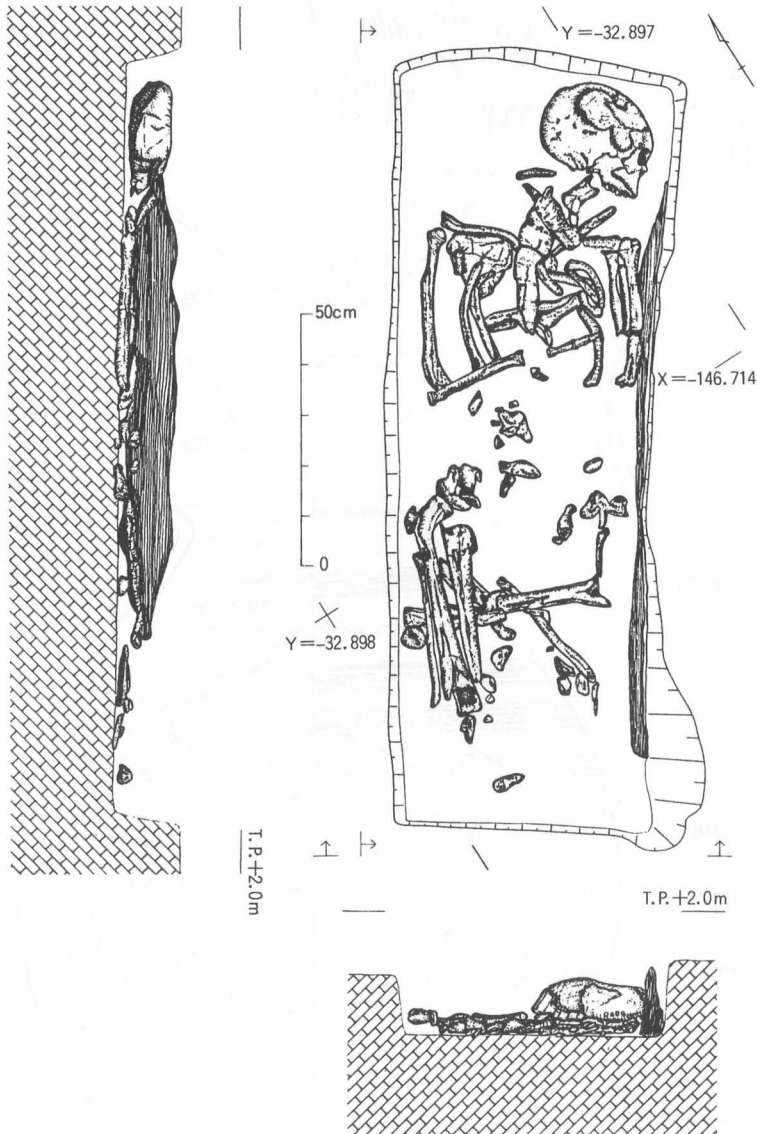
第55図 第23号方形周溝墓出土弥生時代中期土器実測図

壺(104)の胴底部は胴部下位で張り出し、外面には横・斜め方向のヘラ磨き調整がみられる。器壁が底面から胴部まで均一につくられている。

<墳丘内>(第55図)



第56図 第24号方形周溝墓盛土実測図



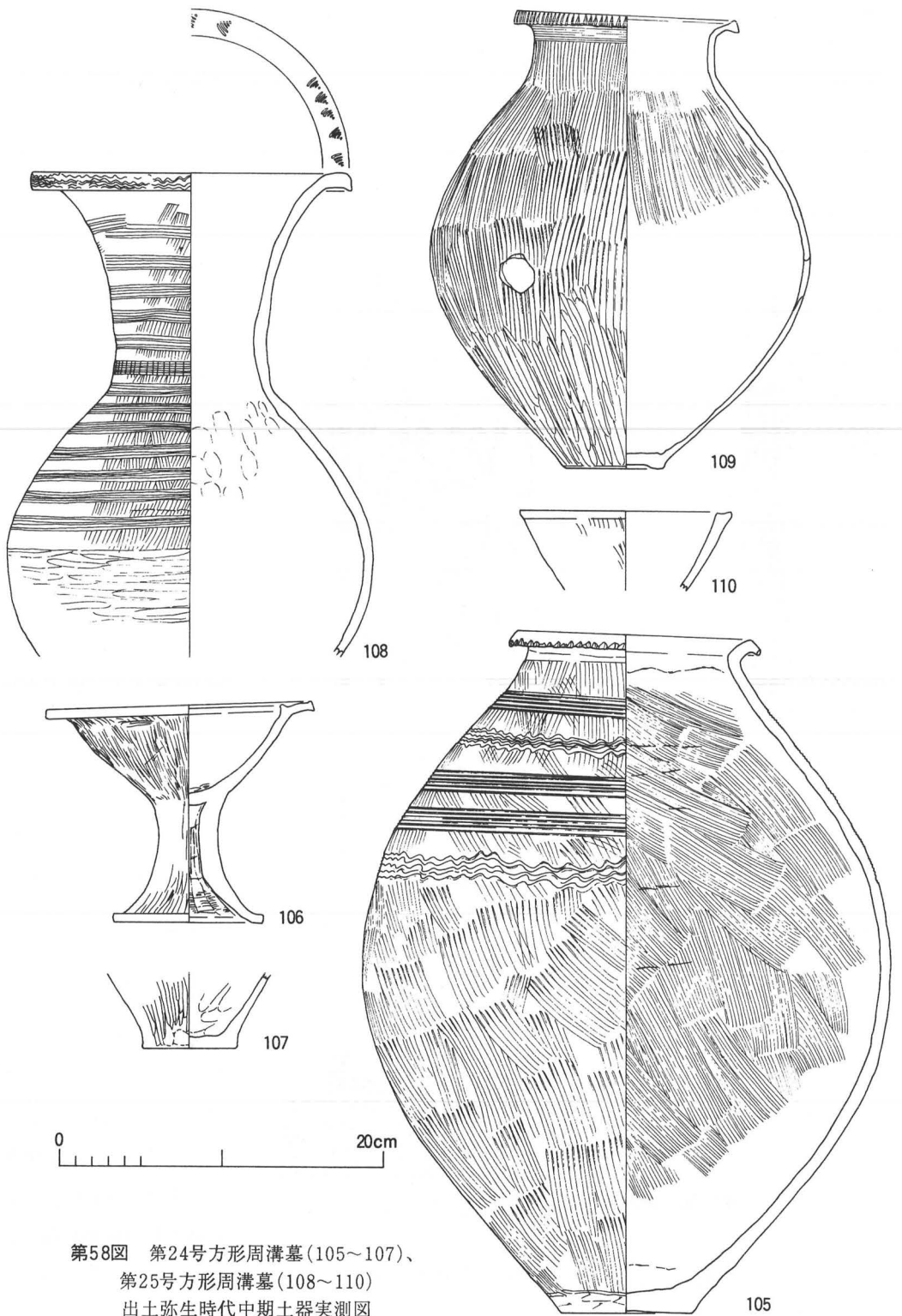
第57図 第24号方形周溝墓主体部実測図

壺A'o(101)は球形の胴部に筒状の頸部がつき、口縁部が欠けている。内面はハケ目調整、口縁部付近にも横方向のハケ目調整がみられる。

第24号方形周溝墓(第56・57図)

B地区の東端からC地区にかけて検出した。墳丘の規模は5×5.5m以上で、ほぼ中央部に主体部が1基ある。盛土の高さはベース面より約0.5mである。ベース面は溝98の廃土が土堤状となったところである。盛土は墳丘中央部分から開始され周辺部に向かって行なわれている。中央部はオリブ黒色(7.5Y 3/1)細礫～細粒砂混じり極細粒砂～シルトを主体とする土層で、周辺部に行くにつれてオリブ黒色(7.5Y 3/1)中粒砂～細粒砂混じり極細粒砂～シルト、オリブ黒色(7.5Y 3/1)中粒砂混じり極細粒砂～シルトとなっていく。いずれの層も炭化物を含む。西側周溝は幅1～2m、検出した墳丘頂部からの比高差は1mを測る。堆積土は下層から灰オリブ色(5Y 4/2)細礫混じりシルト～粘土、灰オリブ色(7.5Y 4/2)極細粒砂

下層から灰オリブ色(5Y 4/2)細礫混じりシルト～粘土、灰オリブ色(7.5Y 4/2)極細粒砂



第58図 第24号方形周溝墓(105~107)、
 第25号方形周溝墓(108~110)
 出土弥生時代中期土器実測図

混じりシルト、黒色(5Y2/1)極粗粒砂～中粒砂混じりシルト～粘土、灰色(7.5Y 4/1)極細粒砂混じりシルト～粘土、黒色(5Y 2/1)極細粒砂混じりシルト～粘土、灰色(7.5Y 4/1)シルト～粘土である。主体部の墓壙は南西から北東方向に長く、規模は1.5×0.5mである。人骨の遺存状態は良好であった。

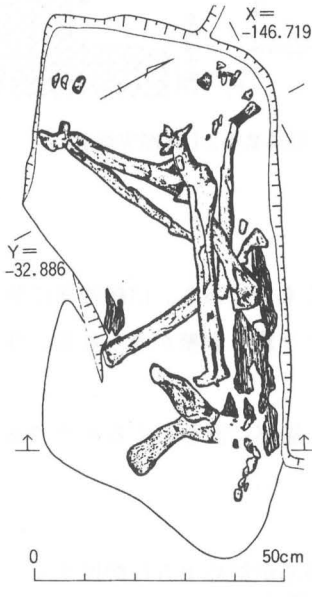
人骨は仰臥位で、頭位をN-32°-Eに、顔面は左側に向いている。左上肢は折り曲げ手は肩のあたりに、右上肢は肘関節を64°屈して手を胸に置いている。下肢は膝関節を強く屈し、左大腿骨を下にし足を組み合わせるような形に見てとれる。木棺材は左側板の一部だけが残存していた。

遺物

<周溝内>(105~107)(第58図、図版57)

無頸壺B₁(105)はラグビー球形の体部から口縁部が外反するもので、口縁下端部に刻み目文を施している。体部全面をハケ目調整した上に胴上半部に直線文と波状文を施している。胎土はb類。

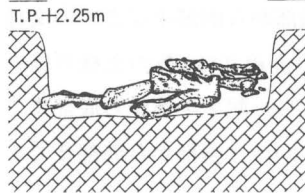
高杯B₁(106)は浅い碗形の杯部に口縁部が水平に拡がり、口縁部内面に1条の凸帯を巡らしたものである。脚部は厚手の柱状部から「ハ」の字形に裾部が短く開いており、全体にしっかりとつくりである。外面をハケ目調整している。



他に甕の底部(107)が出土している。

第25号方形周溝墓(第59・60図)

C地区の中央部で検出した。墳丘は削平を受けている。墳丘の規模は8×7mで、南端と東端の2ヶ所に主体部がある。西側周溝は幅3.7m、深さは0.3mを測る。堆積土は下層が中粒砂を含んだ灰色(7.5Y 4/1)シルト～粘土、上層が黄灰色(2.5Y 4/1)極粗粒砂～中粒砂混じりシルト～粘土である。盛土は厚さ20cm分しか残っていなかったが、中央部が灰色(10Y 4/1)粗粒砂・中粒砂混じりシルト～粘土、周辺部が灰色(5Y 4/1)極細粒砂混じりシルト～粘土であった。第1主体部は南端コーナー近くに位置する。墓壙の規模は長さ95cm以上、幅50cm、深さ18cmである。主体部の人骨は木棺に収められていたものと思われるが木棺の底板の一部しか残存していなかった。人骨は大腿部より下しかなく、上半部は埋設管工事の時に壊されている。体の方向はS-31°-Wで下肢は第24号方形周溝墓の主体部と同じく膝関節を強く屈し、左大腿骨を下にし足を組み合わせるような形であったものと思われる。両足の指の骨もよく残っていた。第2主体部は東端コーナー近くに位置する。墓壙の規模は長さ130cm、幅53cm、深さ19cmである。人骨の遺存状態は比



第59図 第25号方形周溝墓
第1主体部実測図

較的良好であった。人骨は仰臥位で、顔面は右側に向けている。体の方向はN-37°-Eであるが頭部は体の中心線に対し27°右の方向に傾いている。右上肢は肘関節を111°屈して手をお腹のあたりに置いている。左上肢は肘関節を強く折り曲げ手を左鎖骨のあたりに置いている。下肢は膝関節を屈して立て膝のかたちをとっている。

遺物

<西側周溝内>(108)(第58図、図版57)

壺A'o(108)は球形の胴部に漏斗状の口頸部がつき、口縁部は水平に外反するものである。口縁部内面に扇形文、口縁端部に波状文を施し、頸部から胴部半ばまでハケ目の上に直線文を施している。頸部の最下端には1条だけ簾状文を施している。胴部下半部には横方向のヘラ磨き調整がみられる。底部は欠損。胎土はb類。

西側墳丘内(109~119)(第58・61図、図版57・58)

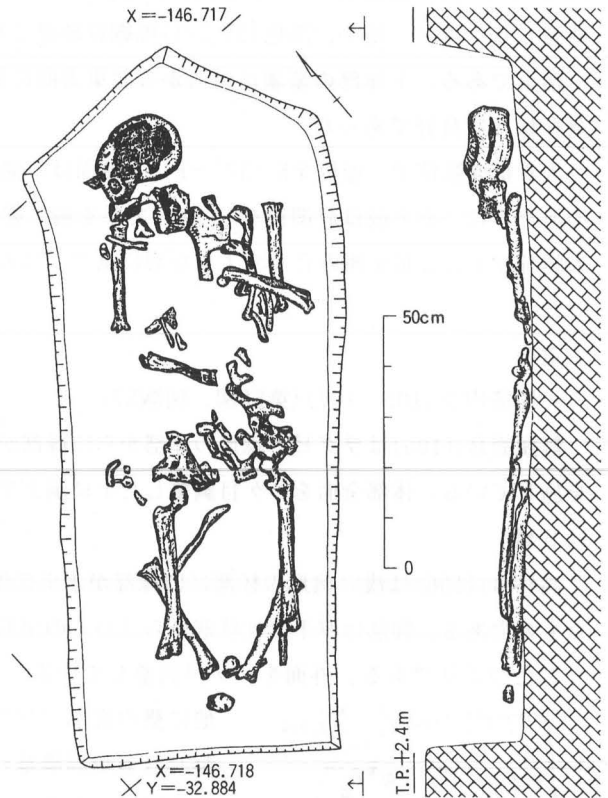
壺D₁(109)は球形の胴部に短い頸部が立ち、口縁部が水平に開くものである。口縁端面に刻みを施している。頸部から胴部にかけて粗いハケ目、底部にはヘラ磨き調整がみられる。外面には煤が付着し、胴部中位に孔を穿っている。胎土はc類。

鉢A₁(110)は底部から口縁部まで逆「ハ」の字形に拡がり、上端部に面をつくるものである。胎土はc類。

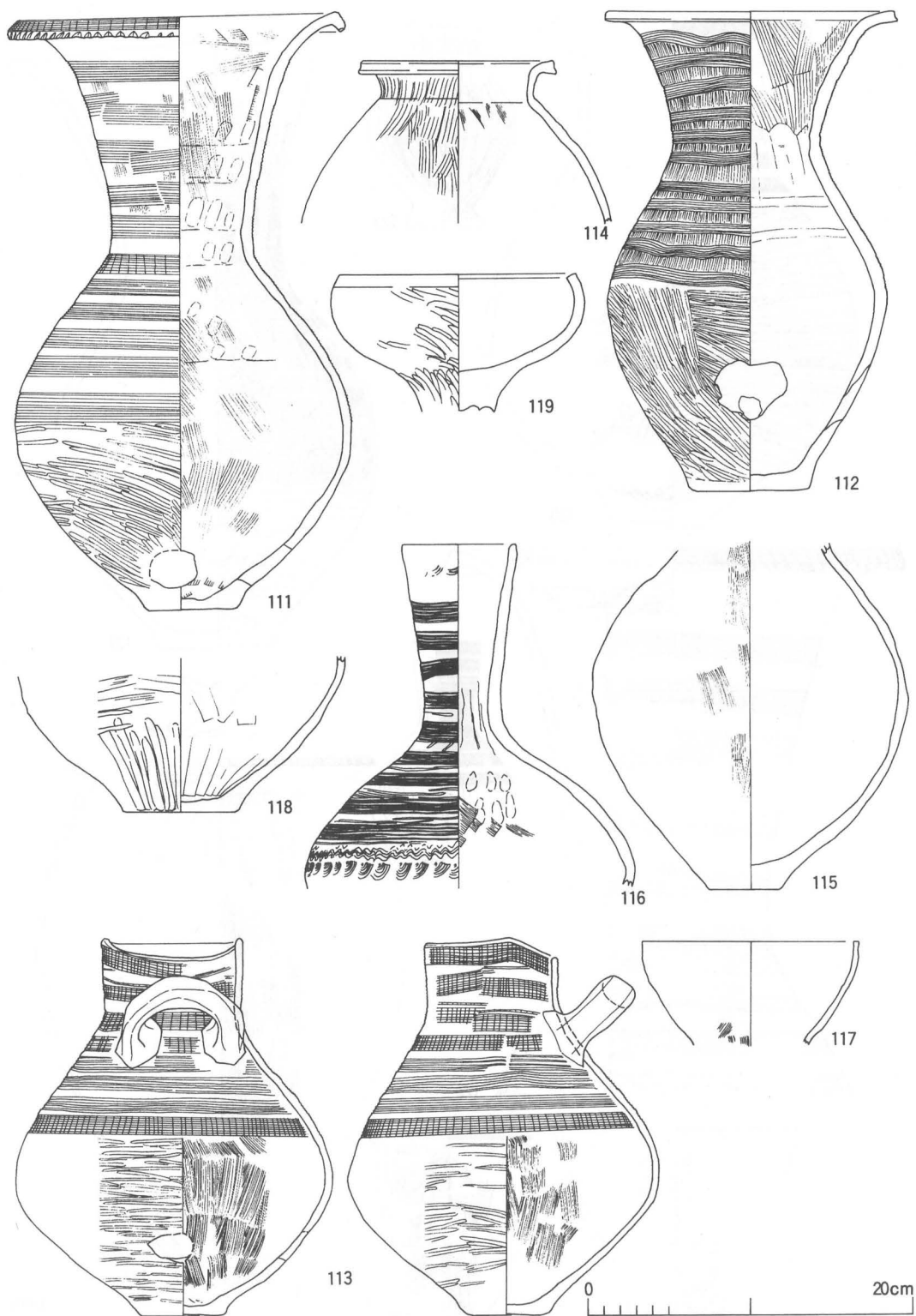
<北側周溝内>(111~119)(第61図、図版58)

壺A'i(111)は球形の胴部に漏斗状の頸部から口縁部が開き、端部が斜め下方に肥厚するものである。口縁端面に簾状文と下端部に刻み目文を施している。頸部から胴部半ばまでの文様は直線文が主体で、肩部には1条だけ簾状文を施している。頸部の直線文は1条の文様の描き始めと終りが重なり合っている。頸部の文様の下にはハケ目がみれら、胴下半部から底部までの間を斜め方向のヘラ磨きで仕上げている。内面の口縁部には横方向の、頸部から底部までの間には縦・斜め方向のハケ目調整がみられる。底部下位に孔を穿っている。

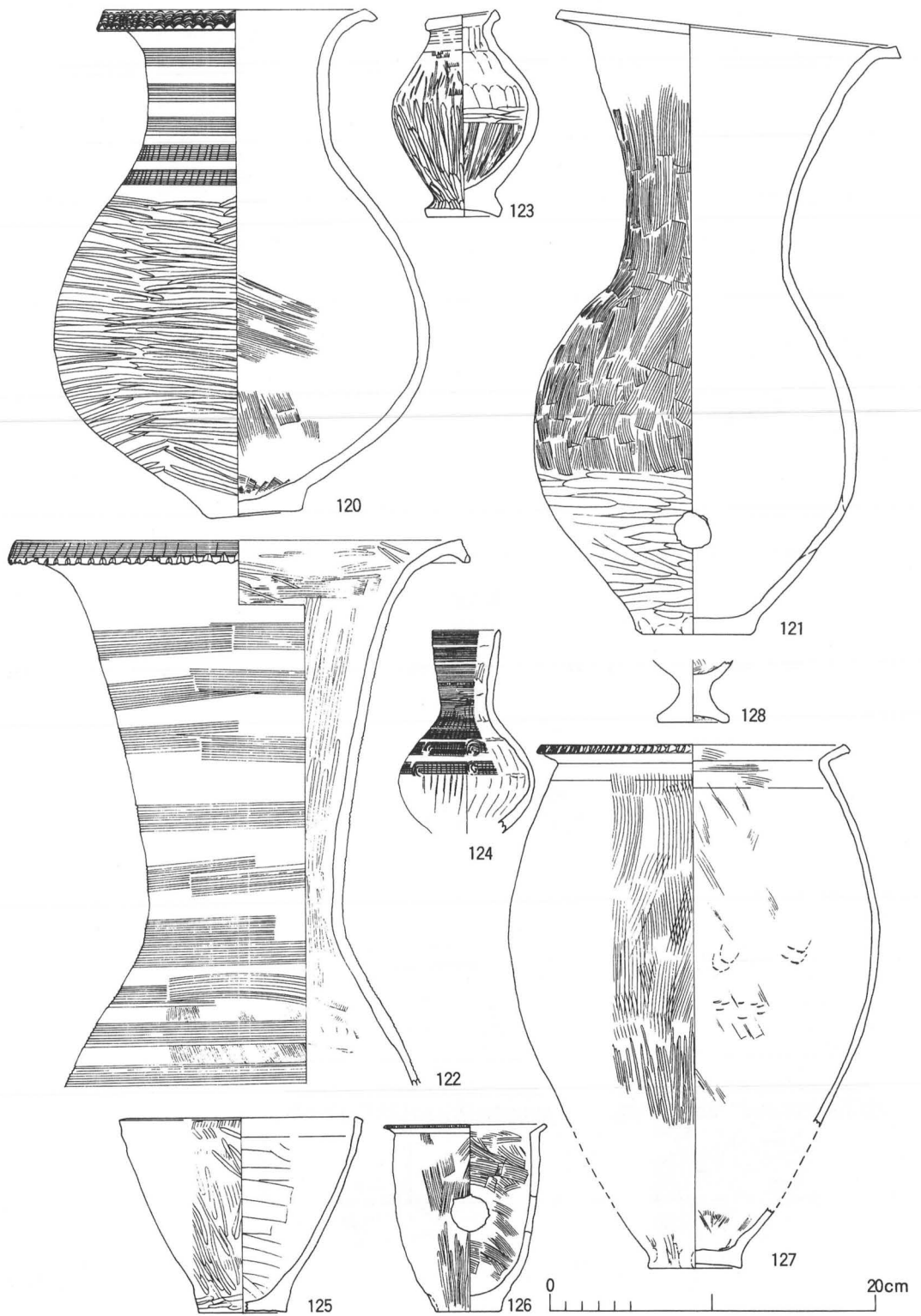
壺A'o(112)は縦長の胴部に口頸部が漏斗状に開き、口縁部に面をつくっているものである。



第60図 第25号方形周溝墓第2主体部実測図



第61图 第25号方形周沟墓出土弥生時代中期土器実測図



第62图 第25号方形周沟墓出土弥生時代中期土器実測図

頸部から胴部にかけてハケ目調整の上に、ゆるい波状を呈する直線文を11条施している。文様帯の下部には縦横、斜め方向のヘラ磨きがみられる。内面の頸部には縦方向の粗いハケ目調整を施している。胴底部には煤が付着し、底部中位に孔を穿っている。底裏面に木葉痕がみられる。胎土はb類。

水差B(113)は中位で張り出す胴部に直立する口縁部をもち、口縁部は把手側の周縁辺を丸く繰り、低く仕上げています。文様は口縁部から胴部上位までみられ、口縁部には簾状文、肩部から胴部には直線文、最下端部に簾状文を施している。原体の櫛の数は8~9本である。口縁部の簾状文は1周せずに継ぎ足した箇所がみられる。胴部下位から底部までの間を横方向にヘラ磨き調整している。内面の調整はハケ目を主とし、部分的に板状原体によるナデがみられる。底部中位には孔を穿っている。胎土はc類。

壺D₀(114)は縦長の胴部に極く短い頸部から口縁部が水平に開くものである。頸部から胴部の間を粗いハケ目(3~4本/1cm)で調整し、内面にはハケ目と板状原体によるナデ調整がみられる。外面に煤が付着している。胎土はc類。

壺の胴底部(115)は口頸部を欠くが、長い頸部をもつ壺A'になると考えられる。胴部の器表面は摩滅しているが、施文の痕もみられない。部分的にハケ目が残っている。底面は厚くつくられている。色調は赤銅色を呈し、土器の中でも目立っている。

細頸壺A(116)は玉葱形の胴部に、斜傾しながら開く長い口縁部をもつものである。胴下半部~底部を欠く。口縁部に扇形文が少し残っており、頸部から胴部半ばまでの間に9条の直線文、その下に波状文1条、扇形文1条を施している。文様間に横方向のヘラ磨きを加えられている。内面の頸部下位にしほり目、胴部には指押さえとハケ目調整がみられる。胎土はc類。

鉢A₁(117)は体部が椀形で口縁部は上端に面をつくるものである。他に壺底部(118)がある。

高杯A₀₋₁(119)は半球形に近い体部に中実の脚部がつき、外面にはヘラ磨き調整がみられる。器壁が厚くつくられている。胎土はb類。

<東側墳丘内>(120~128)(第62図、図版58)

壺A₀(120)は球形の胴部に筒状の頸部から口縁部が少し外湾しながら外反し、口縁部は斜傾する面をつくっている。口縁端部に波状文、頸部に直線文を3条、頸部下に簾状文を2条施している。外面の胴部の全面に横・斜め方向のヘラ磨き、内面にハケ目調整がみられる。

壺A'₀(121)はやや縦長の胴部に頸部がラップ状に拡がり、口縁部が水平に開くものである。頸部から胴部半ばまでを縦方向のハケ目、胴部から底部までの間を縦方向のヘラ磨きで調整している。文様は施されていない。底部に孔を穿っている。胎土はb類。

壺A'₁(122)は胴部~底部を欠く。すぼまる肩部に漏斗状に開く長い頸部から、口縁部が大きく外反し、端部は斜め下方に肥厚している。口縁部端面に簾状文と刻み目文、頸部から胴部までの間に直線文を施している。1条ずつの文様の描き初めと終わりの重なり部分が長い。肩部~胴部の文様間にハケ目がみられる。内面の口縁部には横方向のハケ目、頸部にはヘラ磨き調整を施している。

壺C₀(小型壺)(123)は凹面をなす厚い底部から胴部が中頃で張り出し、肩部ですばまる体部から口縁部が「く」の字形に外反するものである。口縁端部は丸く納めている。外面にはヘラ磨き、内面には指ナデとハケ目調整がみられる。胎土はc類。

細頸壺A(124)は球形の胴部に筒状の頸部から口縁部が徐々に拡がり、端部を尖らせたものである。口頸部には直線文、頸部下～肩部に簾状文、胴部には簾状文と扇形文を組み合わせたものをそれぞれ施している。頸部下の簾状文は上段と下段の間隔が均一でなく重なり合ったり、文様の1単位も不揃いであるなど施文が稚拙である。外面にはハケ目、内面には指ナデと板状工具によるナデ調整がみられる。文様間には部分的にヘラ磨きを加えている。胎土はc類。鉢A₁(125)は底部から斜めに開く体部で、口縁端部は上部に斜め下方に傾く面をつくっている。外面にはハケ目の上にヘラ磨き、内面には板状工具によるナデ調整がみられる。外面に煤が付いている。

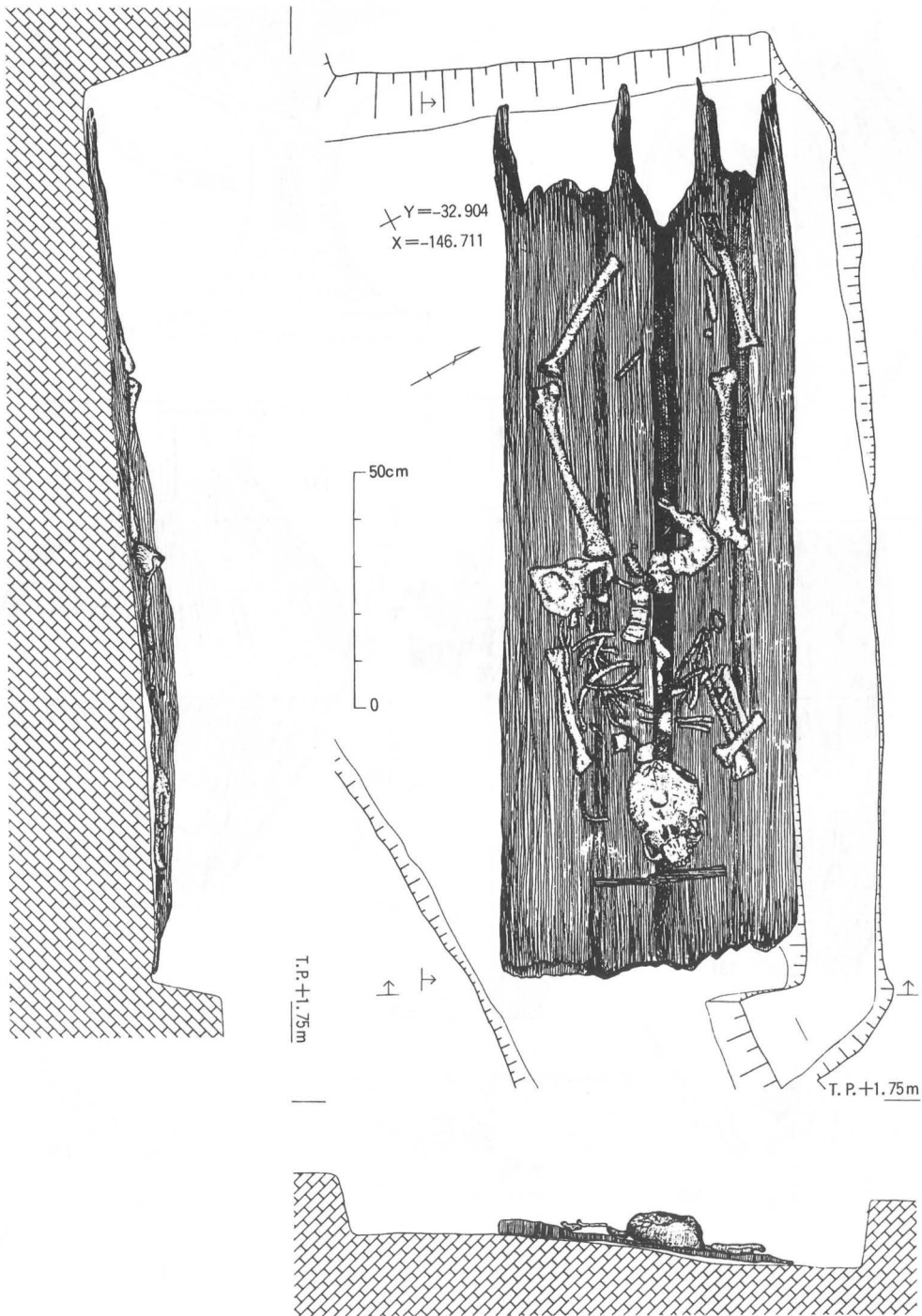
甕C(126)は厚い底部に縦長の薄い器壁をもつ体部から、口縁部が「く」の字形に外反するものである。口縁端部に刻み目文を施している。体部外面の上位をハケ目、下位を削りの上からヘラ磨きし、内面にハケ目調整を施している。

甕B₁₋₀(127)は中ほどで張り出す体部から口縁端部が「く」の字形に外反し、端面に刻み目文を施している。外面にはハケ目調整を全面に施し、胴底部にヘラ磨きを加えている。口縁部内面には粗いハケ目の上に横ナデ調整がみられる。他に小型の脚部C(128)がある。

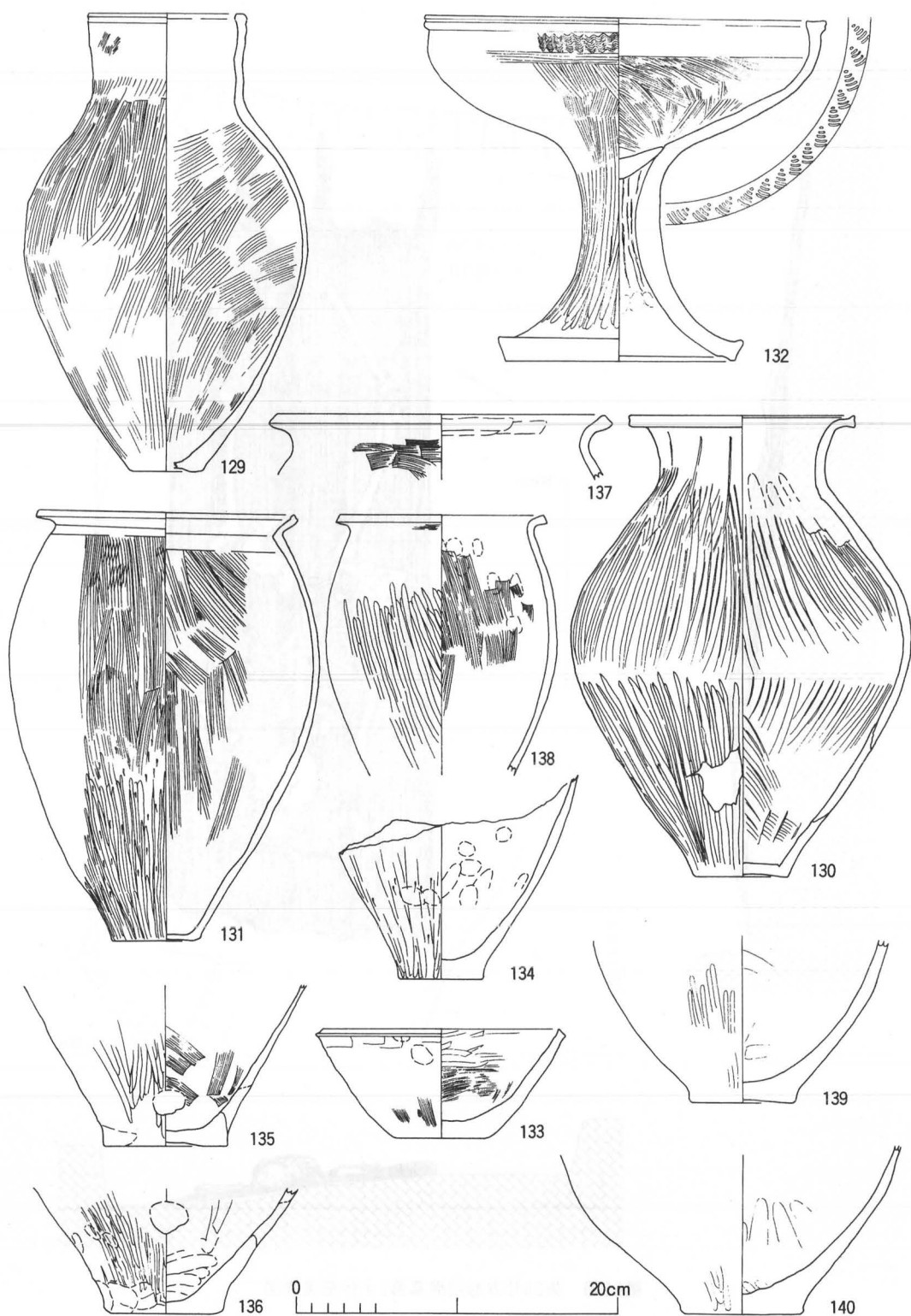
第26号方形周溝墓(第63図)

B地区の中央部で検出した。墳丘の規模は5×5m以上である。盛土の高さはベース面より0.5mである。盛土は墳丘中央やや東側の部分から開始され周辺部に向かって行なわれている。最初は暗灰黄色(2.5Y 4/2)細粒砂混じりシルト～粘土を主体とする土層で、上あるいは周辺部に行くにつれて暗灰黄色(2.5Y 4/2)粗粒砂・細粒砂混じりシルト～粘土(ブロック状に細礫・極粗粒砂を含む)、暗灰黄色(2.5Y 4/2)細粒砂混じりシルト～粘土、暗灰黄色(2.5Y 4/2)細粒砂混じりシルト～粘土(細礫・炭化物を含む)をブロック状に積み上げている。西側周溝はV字状で幅2.1m、深さは墳丘頂部から0.85mを測る。堆積土は下層から黒色(2.5GY 2/1)シルト～粘土、オリーブ黒色(5GY 2/1)、オリーブ黒色(5G 2/1)細礫・粗粒砂混じりシルト～粘土、オリーブ黒色(5GY 2/1)シルト～粘土、オリーブ黒色(7.5Y 2/2)極細粒砂混じりシルト～粘土、黒色(7.5Y 2/1)中粒砂・細礫混じりシルト～粘土、黒色(2.5Y 2/1)中粒砂混じりシルト～粘土である。

主体部は墳丘上で1ヶ所、周溝内で1ヶ所の計2ヶ所である。第1主体部は墳丘中央部にある。1才前後の乳児の歯のみが見つかった。この周辺部の墳丘には壺、高杯などの供献土器も置かれていた。しかし、この骨に伴う土器棺や墓壇の掘形などは検出できなかった。第2号主体部は北側周溝にある。墓壇の規模は長さ203cm、幅75cm、深さ15cmである。木棺は底板の両短辺に溝を掘り小口板を立てるII型木棺である。底板の大きさは1.9×0.6mである。人骨は俯臥位とみられるが確定しがたい。頭部は仰臥として90°転倒した形となっている。体の方向は



第63图 第26号方形周沟墓第2主体部实测图



第64图 第26号方形周溝墓出土弥生時代中期土器実測図

S-63°-Eである。下肢の膝関節はあまり曲げておらず伸展葬に近い形となっている。

遺物

<墳丘内>(129~140)(第64図、図版59)

直口壺(129)はラグビー球形の体部に筒状の口縁部をもつものである。口縁端部は内面に少し肥厚がみられ、外面には横ナデによる浅い凹線文が巡っている。頸部下から胴底部にかけてハケ目調整がみられる。底面に焼成後の孔を穿っている。胎土はc類。

壺D₁(130)は縦長の胴部に短い頸部が外開きに立ち上がり、口縁部が水平近く外反するものである。肩部から胴部にかけてハケ目、底部にはヘラ磨き調整がみられる。底部に焼成後の穿孔を穿っている。胎土はb類。

甕A₂₋₄(131)は平底から胴部中頃で張り出す体部に口縁部が「く」の字形に開くものである。外面の全面にハケ目、更に胴底部にはヘラ磨きの調整、内面にはハケ目調整がみられる。胎土はb類。

台付鉢B₂(132)は柱状部から裾部まで斜めに広がる胴部に、段状の口縁部をもつ杯部をもつものである。口縁上端面に扇形文、外端面に凹線文、体部に直線、波状文を施している。杯部は内外面共にハケ目調整で、脚部の柱状部外面にヘラ磨きを施し、内面にはしほり目と指ナデがみられる。杯部の底部は円板充填法によるつくりである。胎土はc類。

鉢A₁(133)は厚っばい底部からそのまま斜めに口縁部まで拡がり、口縁端面を外傾させている。外面の中位と内面の底部に著しい剥離がみられる。口縁部周辺には内外面共に板ナデ調整を施し、内外面の底部に黒斑がみられる。胎土はc類。

壺の底部(136)、甕の底部(134・135)はいずれも胴部から上位を欠いており、底部に焼成後の穿孔がみられる。底部(134)は内面の下位が二次焼成のため変色し、底部の一部分に煤が残っている。底部(135)は底面をのぞく内外面に煤が付着している。(134)の胎土はc類。

甕B₀(137)は外面に横方向のハケ目調整がみられる。口縁部には煤が残っている。他に側溝から壺底部(139)が出土している。甕A₁₋₀(138)は丸味をもつ胴部から口縁部が短く外反するものである。外面に煤が付着している。他に壺の底部(140)が出土している。

第27号方形周溝墓

C地区からD地区にかけて検出した。北東のコーナーを検出しているが他は既設管での破壊や調査地外にある。

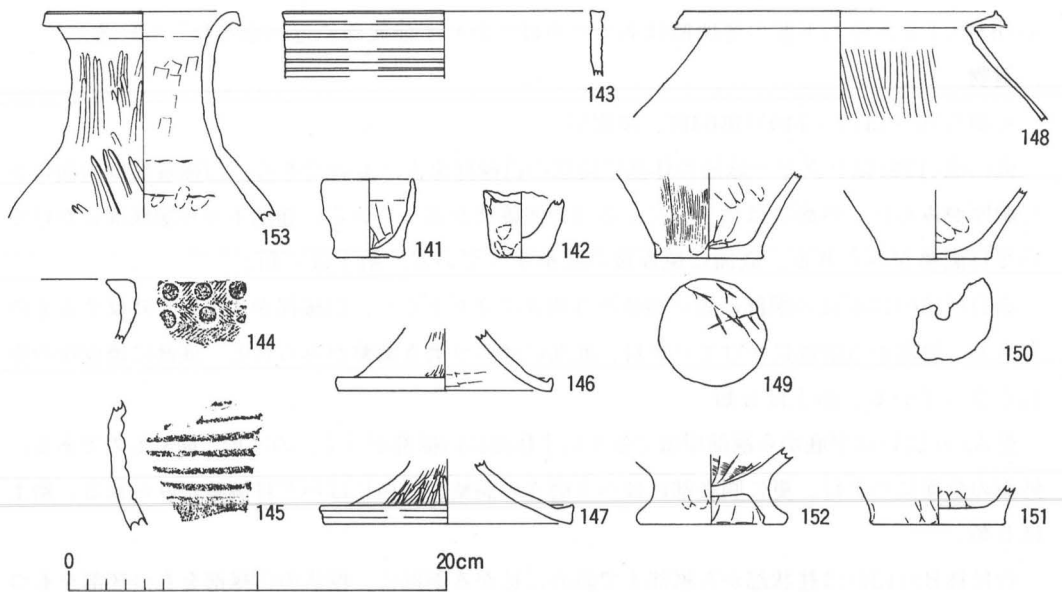
規模は6×3m以上の長方形プランが復元できる。西側周溝は幅0.8m、深さ0.35mである。主体部は不明である。

遺物

<周溝内>(142~152)(第65図、図版61)

出土した土器は破片が多いなかで、ミニチュアの鉢A(141・142)の2個だけがほぼ完形に近いものである。(142)は円形をなさずに方形をした器である。

その他に脚部(146・147・152)、高杯A₁(143)、細頸壺B(144)、器台(145)、底部(149~



第65図 第27号方形周溝墓出土弥生時代中期土器実測図

151)がある。(143・145)は凹線文を施している。(150)は底面に穿孔がみられる。

5. 第8層上面の遺構と遺物

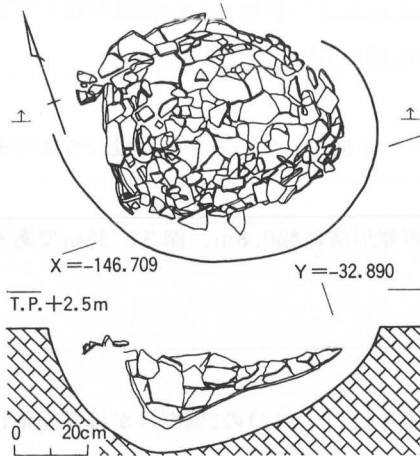
—第1号土器棺(第66・67図、図版60)

C-1~5地区にかけて検出した。墓壙は長径0.86m、短径0.7m、深さ0.3mの東西方向に長い楕円形である。土器は河内の胎土の甕を身に、他地域の無頸壺を蓋にしたものである。

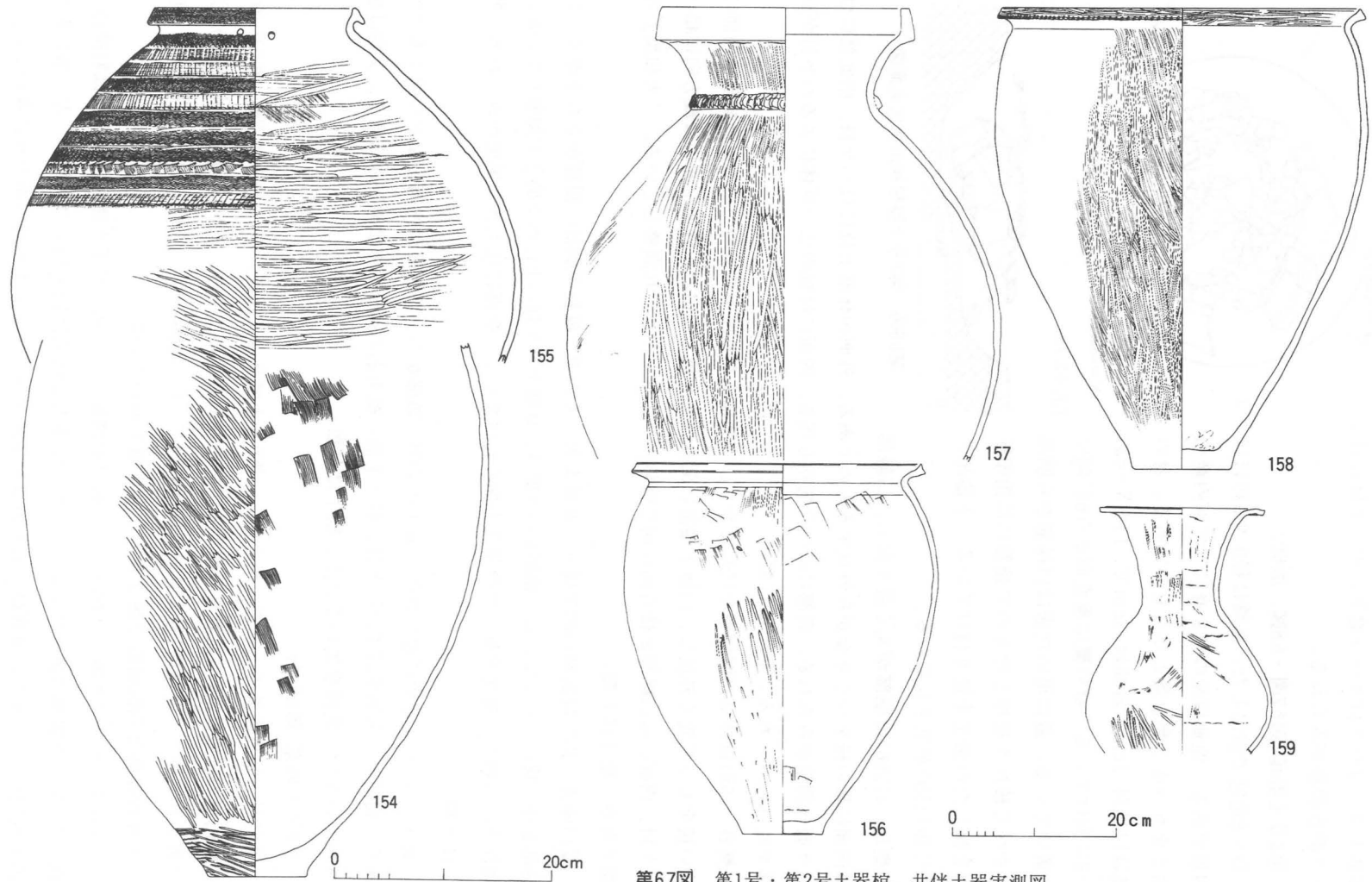
甕は口をS-71°-Eに向け、垂直面から25°傾けて置いている。甕は胴部上半の1/3を欠いている。

甕A(154)は口縁部から胴部上半部の1/3位を欠き、厚手の底部から胴部までなだらかに拡がりながら立ち上がる体部をつくっている。外面の全面にヘラ磨き、内面にはハケ目調整がみられる。胴下半部に二次焼成の痕跡がある。

無頸壺B₁(155)は底部を欠くもので、体部は胴部で大きく張り出したあと、肩部まで内湾しながらすぼまり、すぐ口縁部が外反している。端部には上下にそれぞれ拡張した広い端面をつくっている。口縁部と体部の胴部上位まで櫛描き文(波状・簾状・扇形文)を細かいピッチで施し、体部の文様間にヘラ磨きを加えている。外面胴部の文様帯の下から底部までヘラ磨きが施されており、内面の



第66図 第1号土器棺検出状況実測図



第67图 第1号·第2号土器棺、共伴土器实测图

体部上位にはハケ目とヘラ磨き、中～下位にはヘラ磨き調整がみられる。

第2号土器棺(第67図・68図、版60)

D-8地区で検出した。墓壙は径0.9mのほぼ円形である。他地域産の甕を身にして河内産の胎土をもつ壺と甕を蓋としたものである。身の甕は口径34.2cm、器高44.3cmで、口をN-43°-Eに向けている。身の甕は垂直面から68°傾けて置いている。蓋に用いた壺は口縁部から胴部にかけて破片を使用したもので頸部には指頭圧痕を施した凸帯文を貼り付けている。土器棺と共に壺(159)が出土している。

甕B₁₋₄(156)は胴部が丸く張り出し、口縁部は内面に緩い稜をつくりながら外反するものである。外面の体部上位にはハケ目、胴底部にはヘラ磨き調整がみられる。底部にはヘラ削りも残る。内面には幅の広い原体によるハケ目が肩部や底部にみられる。胎土はc類。

甕B₁(158)は体部が倒鐘形を呈しており、底部はかなり厚手のものである。口縁部は内面に緩い稜をもって短く外反し、口縁下端部に刻み目文を施している。外面全面には縦方向に粗いハケ目、内面には口縁部を横方向に同じ原体のハケ目でそれぞれ調整している。「大和型」の甕である。胎土はb類。

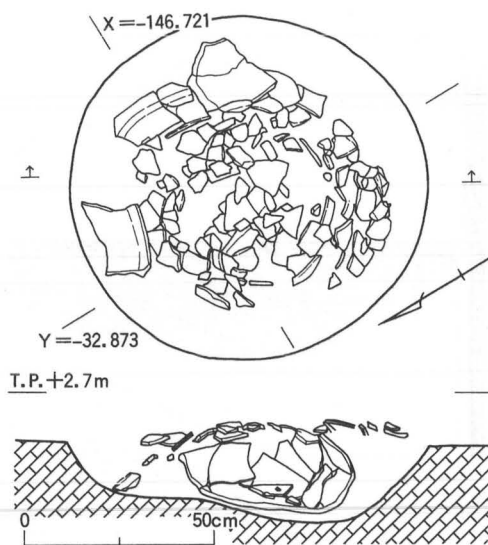
受口壺A₀(157)は胴部の約半周分と底部を欠くもので、縦長の胴部に頸部が立ち上がり、口縁部を受口状につくっている。頸部をヘラ磨き、体部をハケ目の上にヘラ磨きで調整している。頸部下には指頭圧痕文を施した凸帯文を貼り付けている。胴部には大きな黒斑がみられる。胎土はb類。

壺A'₀(159)は球形に近い胴部に漏斗状に開く頸部から、口縁部が内湾しながら開くものである。頸部から胴部半ばまでハケ目、胴下半部に縦方向のヘラ磨き調整がみられる。文様は施されていない。底部を欠いている。胎土はb類。

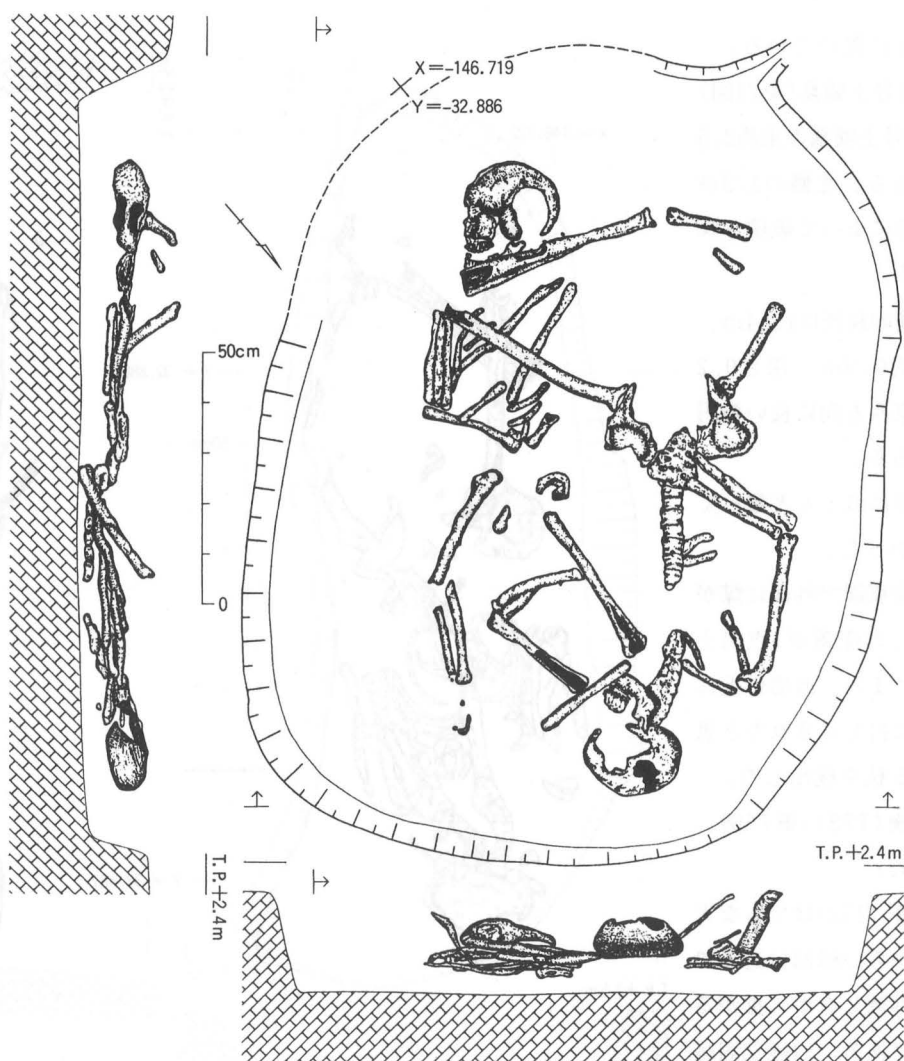
第9号土壙墓(第69図)

第25号方形周溝墓の上に造られている。第9号土壙墓は、長径1.6m、短径1.2m、深さ0.2mの楕円形の墓壙に2人の死者を埋葬する、いわゆる合葬墓である。2遺体の頭位方向が180度逆に置かれていて、北側の1号人骨の頭位はN-42°-E、南側の2号人骨はS-37°-Wを向く。2体とも埋葬姿勢は仰臥屈肢で顔は双方とも南側を向いている。

1号人骨は男性で年齢20~40才、右上肢は肘関節を110°屈して手を腰に、左上肢は肘関節を80°屈して手を腹部に置いている。2号人骨は成人女性又は12~13才の男性で、左上肢は肘関節を98°屈して手を右の脇腹に、右上肢は肘関節を強く屈して手を肩のあたりに置いている。



第68図 第2号土器棺検出状況実測図



第69図 第9号土壙墓実測図

下肢は脚を開き膝関節を軽く屈して菱形になるように置き、お互いの左脚(膝)が相手の首あるいは肩の上にとった形になっている。

遺物(173)(第75図)

甕底部(173)はやや厚手の平底に対して体部の器壁が薄くつくられている。

第10号土壙墓(第70図)

第9号土壙墓の南南西約3.5mにある。北側の1/3が既設管によって破壊されている。墓壙は長径1.78m、短径約0.95m、深さ0.25mの楕円形である。人骨の遺存状態は比較的良好であった。

人骨は仰臥位で、顔面を右側(北)に向けている。頭位はS-83°-Eを向いている。左右上肢とも強く折り曲げ手を肩のあたりに置いている。下肢は脚を開き膝関節を軽く屈して菱形にな

るように置いている。

第11号土壙墓(第71図)

第9号土壙墓の東約2.5mにある。北側の1/3が既設管によって破壊されている。

墓壙の長径は1.54m、短径約0.9m、深さ0.2mの東西方向に長い楕円形である。

人骨はほとんど残っていないかった。

土壙東端で外面に煤が付着した壺蓋が1点出土した。また、西端付近に後世に打ち込まれたと思われる杭を検出した。

遺物(172)(第75図、図版62)

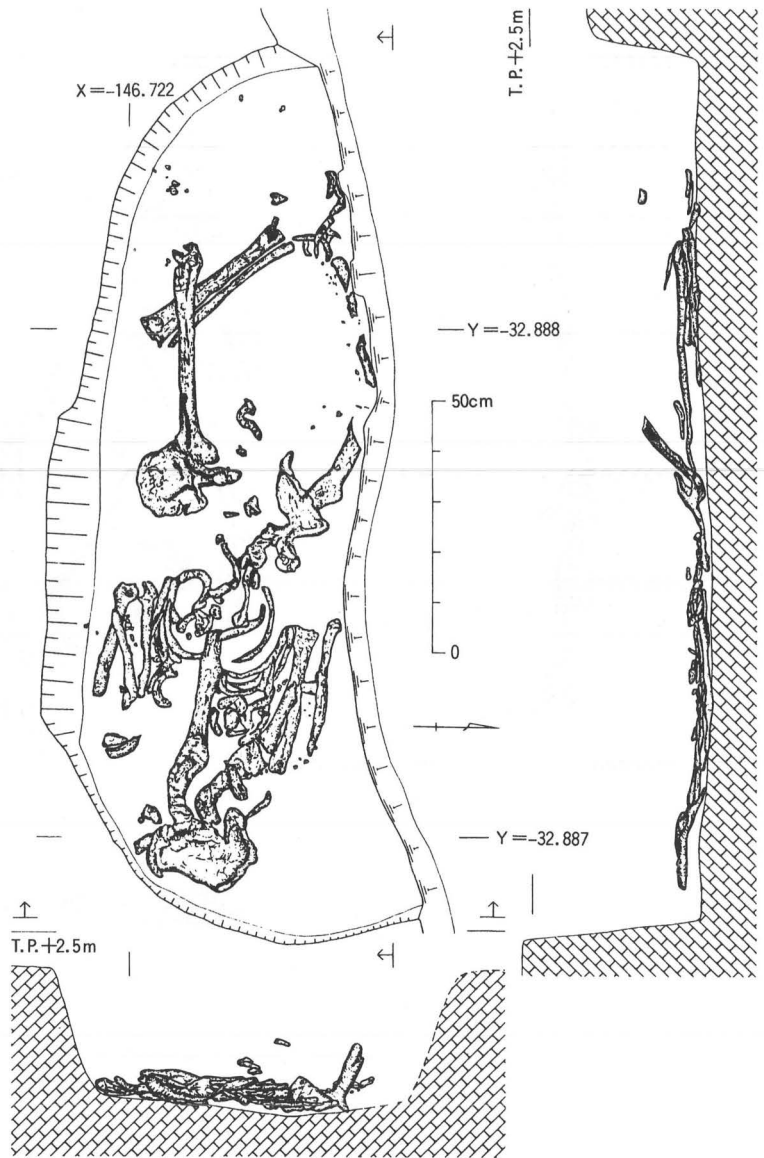
壺蓋(172)は平らな天井部から口縁部付近まで少し外湾しながら広がるものである。口縁部周縁は打ち欠いた状況を呈する。内外面共に煤が付着しており、特に内面に多く残っている。外面にはハケ目調整がみられる。

第12号土壙墓(第72図)

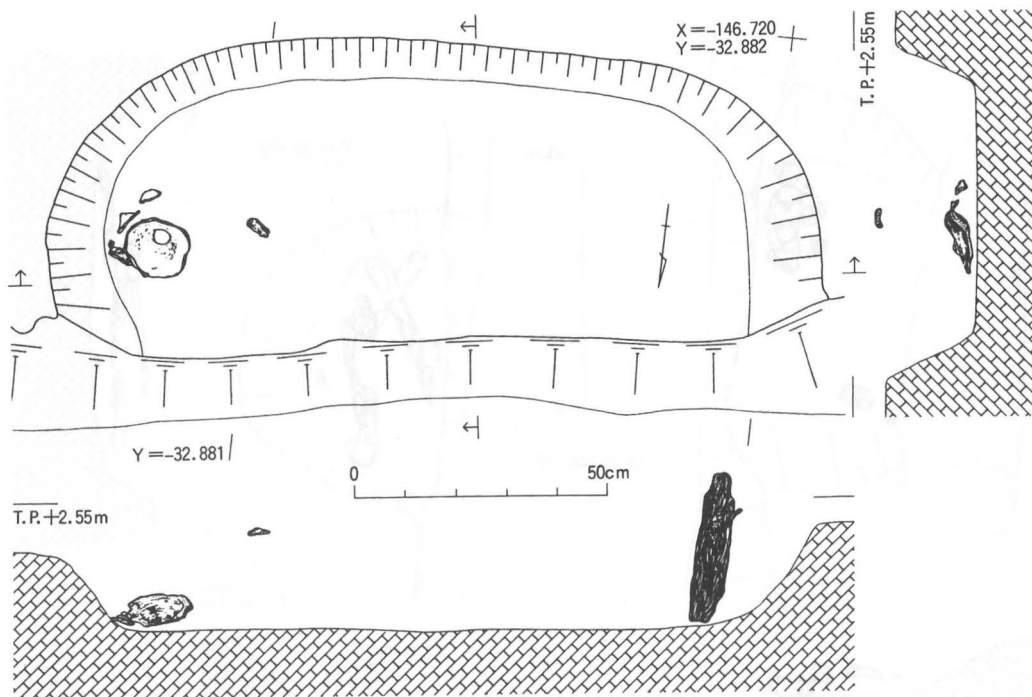
第9号土壙墓の北東3m、第11号土壙墓の北2.5mにある。墓壙は長径1.45m、短径0.94m、深さ0.05mの南北方向に長い楕円形である。人骨はほとんど残っていない。頭位は南である。

第13号土壙墓(第73図)

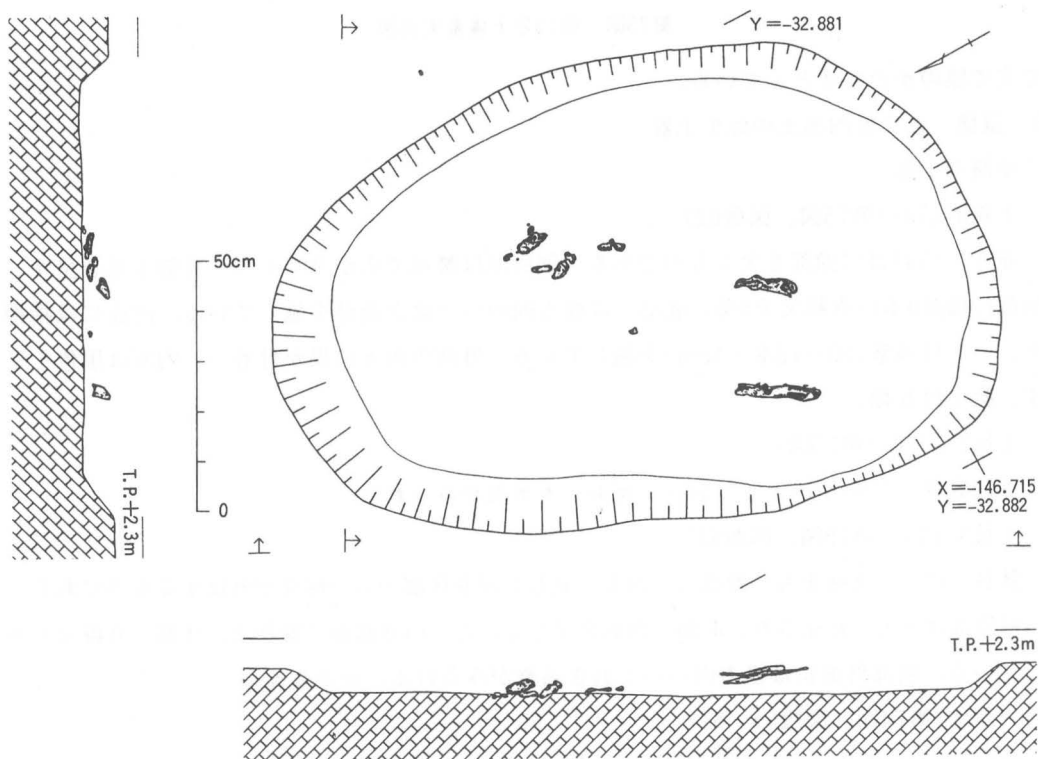
第12号土壙墓の北東2mにある。墓壙は長径約1.5m、短径0.8m、深さ0.1mで南北方向に長い楕円形である。人骨の残りは悪いが、体の方向はN-17°-Eである。下肢の膝関節を屈し



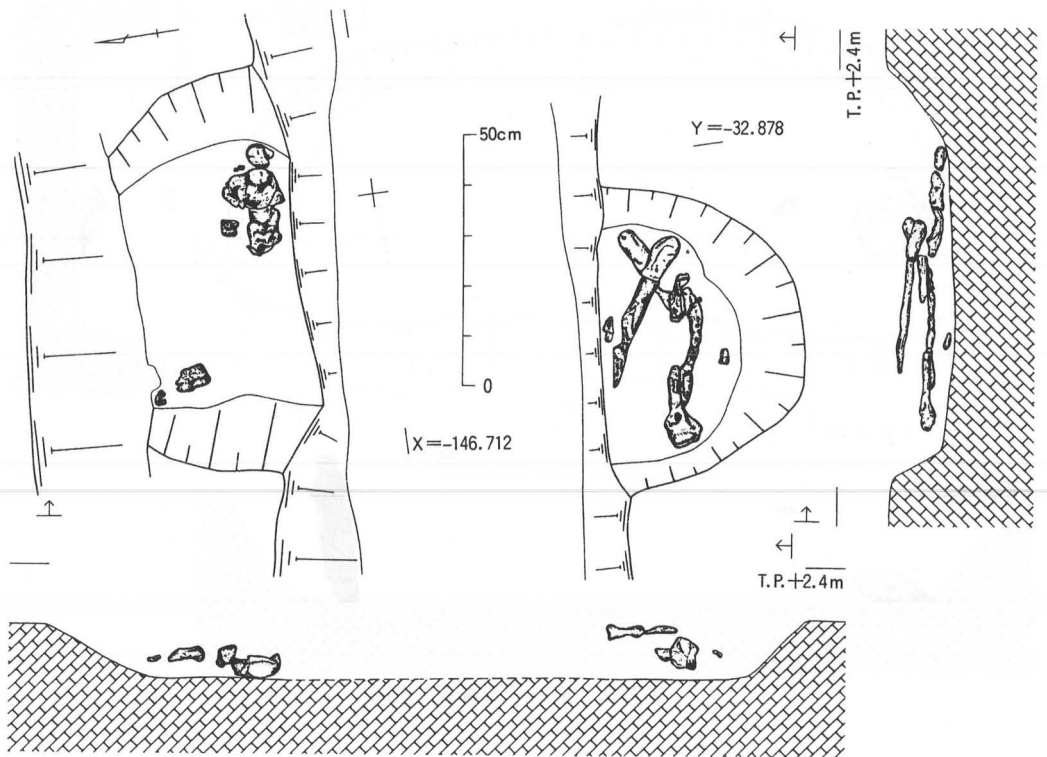
第70図 第10号土壙墓実測図



第71图 第11号土坑墓实测图



第72图 第12号土坑墓实测图



第73図 第13号土墳墓実測図

て立て膝のかたちをとっている。

6. 遺構・包含層内出土の弥生土器

中期の土器

土坑3(174)(第75図、図版62)

甕A'(174)は口頸部を欠くものである。胴底部は腰部で広がりをもち、算盤玉形を呈す。胴部に櫛数9本の直線文を8条、底部には横方向のヘラ磨き調整を施している。内面には指押え、ハケ目調整(10~12本/1cm)を施している。外面の所々に煤が付着し、内面は黒色を呈す。胎土はb類。

土坑2(176)(第75図)

甕B底部(176)が出土しており、裏面に木葉痕がみられる。

土坑3(175)(第75図、図版62)

鉢B₁(175)は丸味をもつ腰部に、内方に立ち上がる体部から口縁部が外反するものである。口縁端部は下方へ拡張され、断面三角形を呈している。口縁端面に簾状文、体部に直線文を施している。胴部外面には横方向のヘラ磨き調整がみられる。底部は摩滅している。

A地区(第74図、図版55・61)

第8層内から甕B₀(160)、第7層内から甕A₀(161)・無頸壺B₀(162)・鉢B₀(163)、第6層内から壺A₁₋₃(164)・壺A'₀(165)・高杯B₁(166)・甕A₁₋₀(167)・甕B₂₋₄(168)・甕B₁(169)・

鉢B₂(170)・甕B底部(171)がそれぞれ出土している。

C地区 第7層内(第75図)

壺胴底部(195)・脚部C₀(196)が出土している。

D地区 第6～8層内(第75図、図版59)

第8層内から出土した甕A₁(180)は倒鐘形の体部に口縁部が緩やかな稜をもって外湾するものである。口縁端部には面をつくっている。

外面には肩部のハケ目の上から胴部下位までヘラ磨きを施し、底部にはハケ目調整が残る。内面の全面にはハケ目調整をしている。外面全面に煤が付着し、内面の胴部下位には、焦げつき痕のような変色した状況がみられる。

第7層内から脚部C(182)、第6層内から甕B₀(190)・鉢C(183)・脚部B(184)が出土している。

E地区 第6層内(第75図、図版52)

無頸壺B₀(187)は体部が肩部で強く張り出し、口縁部が「く」の字形に外反するものである。口縁端部は丸く納めている。胴部外面に板ナデ、内面にハケ目調整を施している。肩部にヘラによる爪跡のような圧痕文(2～4本を1組にした)をアトランダムに施している。

その他に甕B₂₋₀(192)・甕底部(194)・壺底部(193)・脚部A₂₋₀(185)・蓋A(186)・無頸壺B₀(187)・脚部C(188)・脚裾部(189)が出土している。

後期の土器 (第76図・図版62)

C-2地区(197)

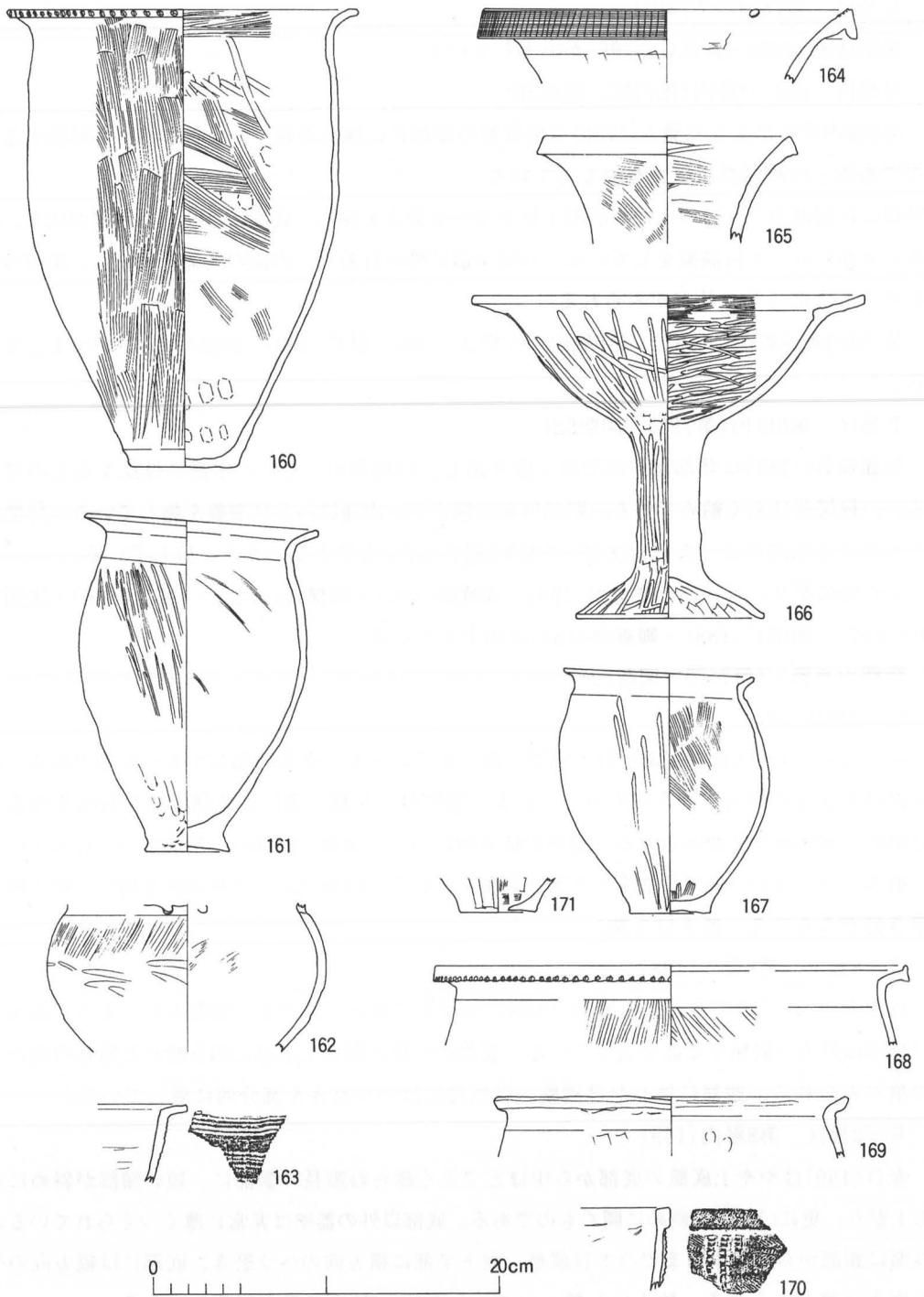
壺D(197)は平底から下ぶくれの胴部に真っすぐに立ち上がる口頸部をもつものである。口縁部はわずかに外方を向き面をもっている。器壁は、全体に薄い底部は厚く2cmを測る。肩部の一部に波状文がみられる。頸部を横方向のハケ目調整、胴部の上半部をハケ目の上にヘラ磨き、下半部から底部までをヘラ磨き調整している。内面にはハケ目調整を施し、粘土紐の継ぎ目がみられる。胎土はb類。

D-8地区 第6層内(198)

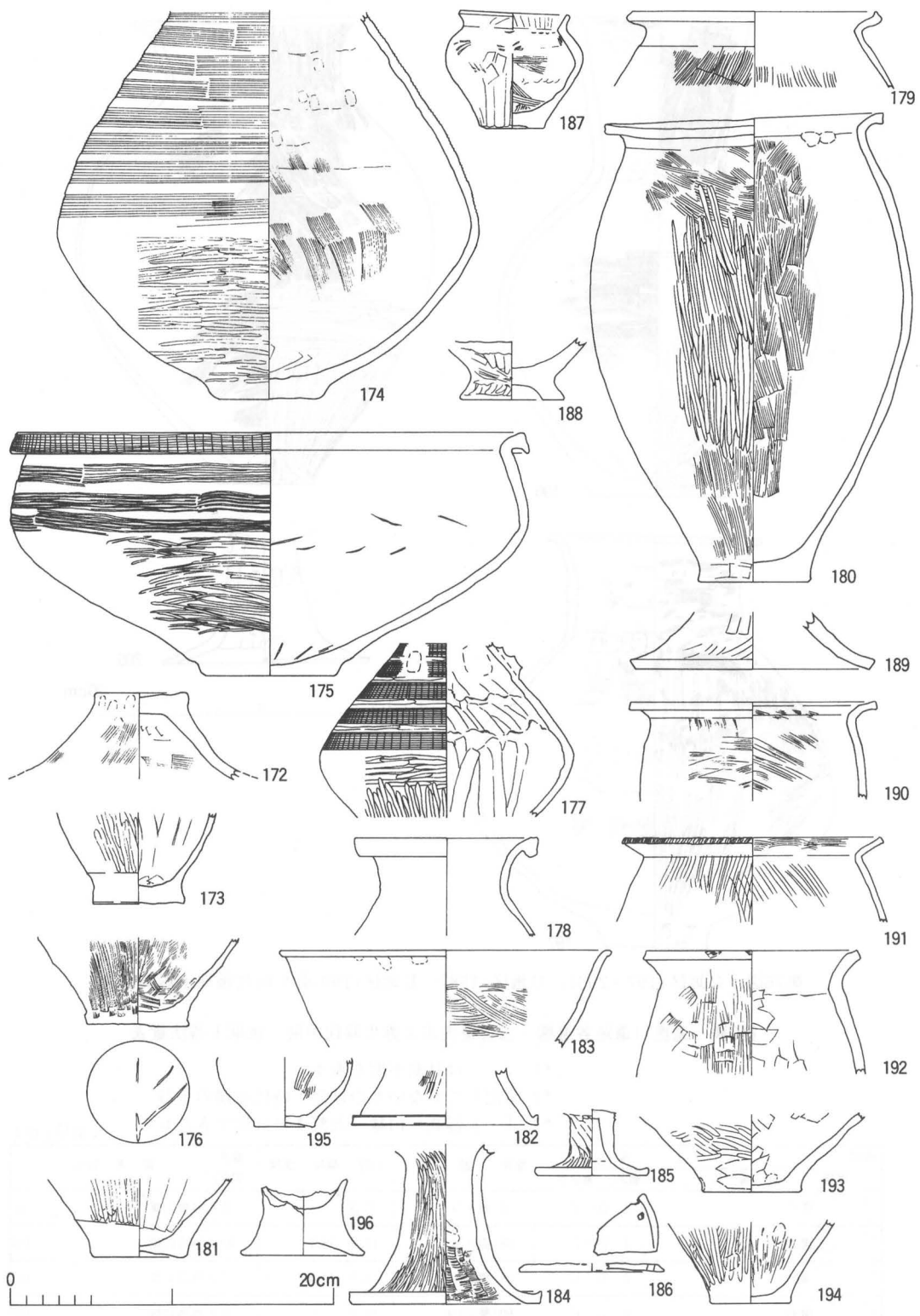
長頸壺(198)は平底から無花果形の胴部にわずかに斜めに広がる口頸部をもつものである。口縁部は外方へ斜傾する面を造っている。頸部の上位と胴部上半部に叩き締めた原体の当たりの痕がみられる。頸部にはハケ目調整、胴底部にはヘラ磨きを部分的に施している。

E-2地区 第8層内(199)

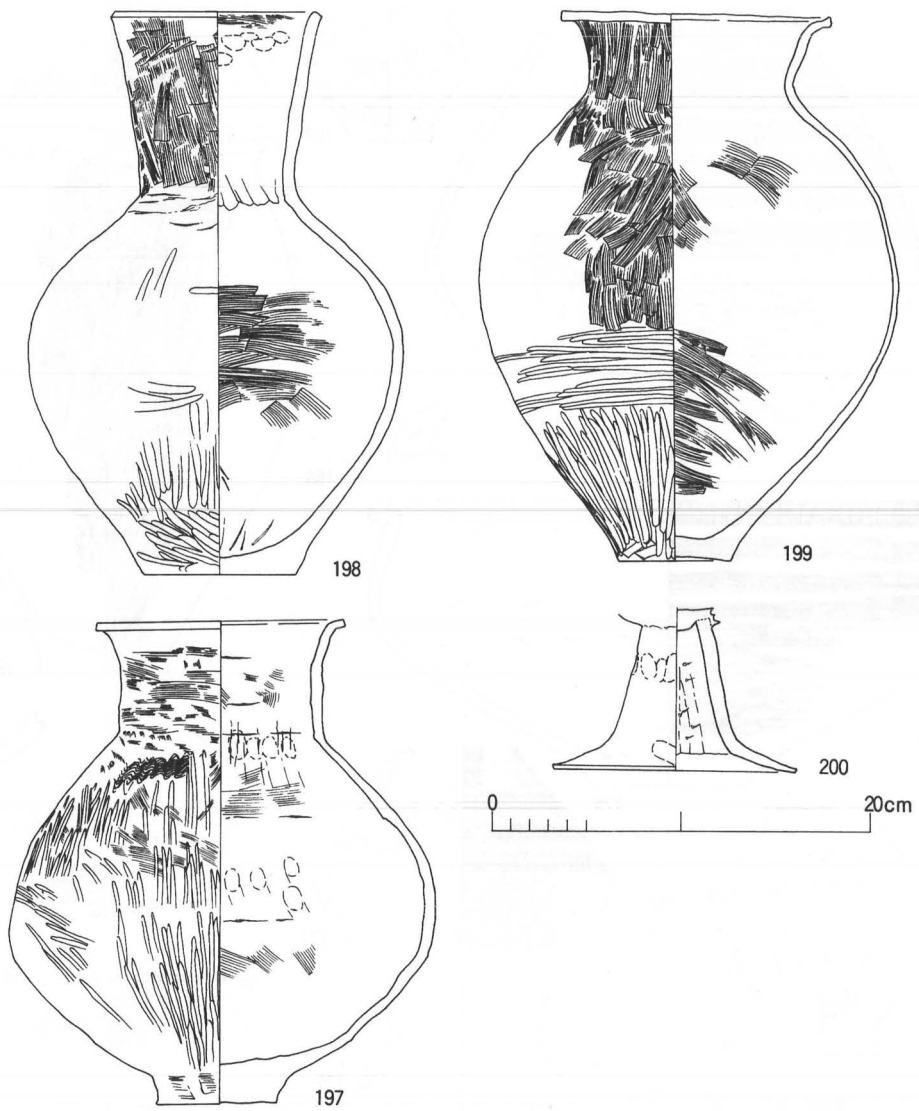
壺D(199)はやや上底風の底部から中ほどで丸く膨らむ縦長の胴部に、短い頸部が斜めに立ち上がり、更に口縁部が斜めに開くものである。底部以外の器壁は非常に薄くつくられている。外面に頸部から胴部中頃までハケ目調整、胴下半部に横方向のヘラ磨き、底部には縦方向のヘラ磨き調整がみられる。胎土はb類。(197～199)共に外面に煤が付着している。



第74图 A地区第8層(160)、第7層(161~163)、第6層(164~170)内
出土弥生時代中期土器実測图



第75图 土壙墓(172·173)、土坑3(174·175)、C·D·E地区第6~8层内出土弥生时代中期土器实测图



第76図 C地区(197・200)、D地区(198)・E地区(199)弥生時代後期土器実測図

第3表 鬼虎川遺跡各遺構・包含層内出土弥生時代中期・後期土器法量表

*1 「-」は計測不明を表す

*2 明記していないものは弥生時代中期の土器

*3 「・」器高=口縁～底部まで計測できたもの (単位cm)

挿図 図版	出土地		番号	器形	口径	胴径	底径	器高 (現存)	備考(胎土)
	遺構名	層名; 地区名							
47	溝95	3 : D~C	57	壺A'0	20.2	*1 -	-	2.8	外面に煤*2 (b)
47 55	溝95	3 : D~C	58	壺A'0	17.6	18.7	-	30.0	外面に煤 (c)
47	溝95	2 : D~C	59	甕B2-1	15.6	14.4	-	7.2	外面に煤 (a)
47	溝95	2 : D~C	60	甕B1-4	15.2	-	-	5.2	外面に煤 (b)
47	溝95	2 : D~C	61	甕A1-0	16.2	-	-	4.0	外面に煤 (a)

第3表 続き

(単位cm)

挿図 図版	出土地		番号	器形	口径	胴径	底径	器高 (現存)	備考(胎土)
	遺構名	層名 地区名							
47	溝95	2 D~C	62	甕A底部	-	-	4.8	4.0	内外面に煤 (a)
47	溝95	1 D~C	63	壺D1	18.0	-	-	10.4	外面口縁に煤 (b)
47	56 溝95	1 D-7	64	壺C0	10.4	16.0	4.8	16.7	外面胴底部に煤、底部に穿孔 (a)
47	溝95	1 D-7	65	脚部A2-1	-	-	7.4	4.0	(a)
47	溝97	D-3.7	66	甕B0	15.0	-	-	6.0	外面~内面の口縁部まで煤 (b)
47	溝97	D-3.7	67	甕B0	19.2	-	-	2.8	外面に煤 (b)
47	溝97	C-10.11 D-2.3	68	壺底部	-	-	6.2	7.6	(b)
47	溝97	C-10.11 D-2.3	69	甕底部	-	-	4.2	3.6	(b)
47	55 溝98	C-2	70	壺A'0	-	19.8	-	30.8	外面胴部に煤 (a)
47	溝98	B-6	71	甕B0	12.0	12.0	-	12.0	外面に煤 (b)
47	56 溝98	C-2	72	鉢B0	14.0	-	5.2	10.2	(c)
50	56 第20号方形周溝墓周溝内	A-6	73	壺A'0	(復) 21.9	20.5	9.0	*3 39.4	口縁部を打ち欠き、外面に煤 (a)
50	第20号方形周溝墓周溝内	A-7	74	壺A'0	17.0	-	-	4.8	外面に煤 (c)
50	55 第5号方形周溝墓周溝内	A-1.5	75	甕A1-0	17.9	19.4	5.7	28.1	外面に煤 (a)
50	第5号方形周溝墓周溝内	A-5.6	76	甕A1-3	-	-	-	4.4	(a)
50	第5号方形周溝墓墳丘内	A-1.2	77	甕A1-2	13.0	-	-	4.0	(b)
50	第5号方形周溝墓周溝内	A-6.2	78	甕B1-0	12.4	-	-	3.2	外面に煤 (a)
50	第5号方形周溝墓周溝内	A-6	79	甕A底部	-	-	4.6	3.2	(a)
50	第5号方形周溝墓周溝内	A-6	80	甕A底部	-	-	6.7	4.8	(a)
50	第5号方形周溝墓周溝内	A-6	81	甕A底部	-	-	6.4	5.6	(a)
50	第5号方形周溝墓周溝内	A-5.6	82	壺胴部	-	-	-	6.0	(b)
50	第5号方形周溝墓周溝内	A-2	83	鉢B1	-	-	-	5.6	(a)
50	第5号方形周溝墓	A	84	円板	最大径 5.8	最大幅 5.4	最大厚 0.8	重量(g) 0.5	(a)
51	56 第7号方形周溝墓周溝内	A-9	85	壺A'0	-	15.9	6.7	28.0	底部に穿孔、口縁部を打ち欠き、 内面にこげつき (c)
51	第7号方形周溝墓周溝内	A-5.9	86	甕B0-2	21.8	-	-	4.4	(c)
51	第7号方形周溝墓周溝内	A-10.11	87	無頸壺B0	-	-	-	3.2	(a)
51	第7号方形周溝墓周溝内	A-10.11	88	無頸壺B0	-	-	-	4.8	(a)
51	第7号方形周溝墓周溝内	A-11	89	受口壺A1	24.0	-	-	3.6	(c)
51	第7号方形周溝墓周溝内	A-11	90	壺D1	9.0	-	-	6.4	(c)
51	第7号方形周溝墓周溝内	A-11	91	鉢C0	11.7	-	-	2.4	(a)
51	第7号方形周溝墓周溝内	A-11	92	鉢B	20.8	-	-	4.4	(a)
51	第7号方形周溝墓周溝内	A-11	93	鉢B	19.4	-	-	3.2	(c)
51	第7号方形周溝墓周溝内	A-10.11	94	鉢C	-	-	-	4.0	(b)
51	第7号方形周溝墓周溝内	A-11	95	甕B2-0	10.5	-	-	3.2	(c)
51	第7号方形周溝墓周溝内	A-11	96	甕B2-4	19.3	-	-	3.6	外面に煤 (a)
51	第7号方形周溝墓周溝内	A-10.11	97	甕B2-2	23.1	-	-	4.4	(a)

第3表 続き

(単位cm)

挿図 図版	出土地		番号	器形	口径	胴径	底径	器高 (現存)	備考(胎土)
	遺構名	層名: 地区名							
51	第7号方形周溝墓周溝内	A-11	98	甕B0-2	27.6	—	—	3.6	(c)
51	第7号方形周溝墓周溝内	A-11	99	脚裾部A0	—	—	17.0	4.0	内面に煤 (a)
55	第23号方形周溝墓周溝内	C-2	100	壺B1	14.8	26.0	6.5	28.8	外面に煤、内面黒色 (a)
55	第23号方形周溝墓墳丘内	B-10, C-2	101	壺A'0	—	21.2	—	28.8	(a)
55 61	第23号方形周溝墓周溝内	C-5	102	壺A'0	—	19.6	6.4	32.4	外面胴底部に煤 (a)
55	第23号方形周溝墓周溝内	C	103	壺胴底部	—	18.8	6.0	12.8	外面に煤、内面黒色 (c)
55	第23号方形周溝墓北壁断面	C-5	104	壺胴底部	—	23.2	6.8	13.2	(a)
58 57	第24号方形周溝墓周溝内	C-2	105	無頸壺B1	14.2	32.3	8.0	41.7	B-11地区まで破片散布 (b)
58 57	第24号方形周溝墓周溝内	B	106	高杯B1	16.3	—	9.1	13.6	(a)
58	第24号方形周溝墓周溝内	B-11	107	甕底部	—	—	6.0	4.8	内面黒色 (b)
58 57	第25号方形周溝墓周溝内	C-3	108	壺A'0-2	19.6	22.2	—	30.0	(b)
58 57	第25号方形周溝墓周溝内	C-3, D	109	壺D1	13.3	23.4	6.0	28.0	胴部に穿孔 (c)
58	第25号方形周溝墓周溝内	C-3	110	鉢A1	13.0	—	—	4.8	(c)
61 58	第25号方形周溝墓墳丘内	C-7	111	壺A'1	19.2	20.3	5.4	36.1	底部に穿孔、外面に煤 (a)
61 58	第25号方形周溝墓墳丘内	C-7	112	壺A'0	17.8	16.9	6.7	29.2	胴部に穿孔 (b)
61 58	第25号方形周溝墓墳丘内	C-7	113	水差B	8.4	19.2	5.5	23.1	底部に穿孔 (c)
61 57	第25号方形周溝墓墳丘内	C-6, 7, 8	114	壺D0	11.5	—	—	10.0	(c)
61 58	第25号方形周溝墓墳丘内	C-7	115	壺A'	—	19.2	4.4	21.6	(a)
61 58	第25号方形周溝墓墳丘内	C-7	116	細頸壺A	7.0	20.4	—	21.2	(c)
61	第25号方形周溝墓周溝内	C-7	117	鉢A1	13.2	—	—	6.4	(a)
61	第25号方形周溝墓墳丘内	C-7	118	壺胴底部	—	—	6.7	9.6	(b)
61 58	第25号方形周溝墓墳丘内	C-7	119	高杯A0-1	14.6	15.6	—	8.4	(b)
62 58	第25号方形周溝墓墳丘内	C-10	120	壺A0	15.9	22.8	5.3	30.7	(a)
62 58	第25号方形周溝墓墳丘内	C-10	121	壺A'0	20.6	19.6	6.7	37.4	底部に穿孔 (b)
62 58	第25号方形周溝墓墳丘内	C-10	122	壺A'1	27.2	—	—	33.6	(a)
62 58	第25号方形周溝墓墳丘内	C-10	123	壺C0(小型壺)	4.1	8.8	4.5	12.25	(c)
62 58	第25号方形周溝墓墳丘内	C-10	124	細頸壺A0	4.2	8.4	—	12.4	(c)
62	第25号方形周溝墓墳丘内	C-10	125	鉢A1	14.0	—	5.3	12.1	外面～内面の口縁部に煤 (a)
62 58	第25号方形周溝墓墳丘内	C-10	126	甕C	10.0	—	4.0	11.4	(a)
62 59	第25号方形周溝墓墳丘内	C-10, D-6	127	甕B1-0	18.5	22.8	5.5	32.2 (復)	(a)
62		C-9側溝	128	脚部C	—	—	4.2	4.0	(b)
64 59	第26号方形周溝墓墳丘内	B-7	129	直口壺	9.4	17.4	4.4	28.2	底面に穿孔
64 59	第26号方形周溝墓墳丘内	B-6	130	壺D1	13.5	20.7	5.5	28.2	(b)
64 59	第26号方形周溝墓墳丘内	B-6	131	甕A2-4	15.4	18.9	4.9	26.2	第1主体部付近
64 59	第26号方形周溝墓墳丘内	B-6	132	台付鉢B2 (脚部B)	24.5	—	14.0	21.2	第1主体部付近 (c)
64 59	第26号方形周溝墓墳丘内	B-6	133	鉢A1	15.0	—	6.0	6.7	(c)

第3表 続き

(単位cm)

挿図 図版	出土地			番号	器形	口径	胴径	底径	器高 (現存)	備考(胎土)
	遺構名	層名	地区名							
64 59	第26号方形周溝墓墳丘内	B-6		134	甕A底部	—	—	5.0	12.8	(c)
64 —	第26号方形周溝墓墳丘内	B-6		135	甕A底部	—	—	7.6	10.0	底部に穿孔 (a)
64 59	第26号方形周溝墓墳丘内	B-6		136	壺底部	—	—	7.3	8.0	底部に穿孔 (a)
64 —	第26号方形周溝墓墳丘内	B-6		137	甕B0	20.0	—	—	4.0	(a)
64 —	第26号方形周溝墓墳丘内	B-6		138	甕A1-0	12.6	14.2	—	16.0	(a)
64 —		B-7側溝		139	壺底部	—	—	6.4	10.4	外面に煤 (a)
64 —	第26号方形周溝墓墳丘内	B-7		140	壺底部	—	—	7.4	10.0	(c)
65 —	第27号方形周溝墓周溝内	C-11.12		141	ミニチュア鉢A	4.2	4.8	3.6	4.2	(a)
65 61	第27号方形周溝墓周溝内	C~D		142	ミニチュア鉢A	4.2	—	2.9	3.5	方形を呈する (c)
65 —	第27号方形周溝墓周溝内	C~D		143	高杯A1	16.6	—	—	3.6	凹線文を施す (a)
65 —	第27号方形周溝墓周溝内	C~D		144	細頸壺B	—	—	—	3.2	(a)
65 —	第27号方形周溝墓周溝内	C~D		145	器台胴部	—	—	—	6.8	凹線文を施す (a)
65 —	第27号方形周溝墓周溝内	C~D		146	脚裾部A	—	—	11.2	3.2	二次焼成 (c)
65 —	第27号方形周溝墓周溝内	C~D		147	脚裾部A	—	—	13.0	3.2	(a)
65 —	第27号方形周溝墓周溝内	C-11.12		148	甕B2-4	16.2	—	—	5.6	(b)
65 —	第27号方形周溝墓周溝内	C~D		149	甕B底部	—	—	5.7	4.4	底面に葉脈痕 (c)
65 —	第27号方形周溝墓周溝内	C~D		150	甕底部	—	—	5.6	3.6	底部に穿孔 (a)
65 —	第27号方形周溝墓周溝内	C~D		151	甕底部	—	—	7.0	2.0	(a)
65 —	第27号方形周溝墓周溝内	C~D		152	脚部C	—	—	8.0	3.6	(a)
65 —	中央断面	D-6		153	壺B	10.2	—	—	10.8	(a)
67 60	1号土器棺	C-1.5		154	甕A	—	42.8	8.7	49.6	身 (a)
67 60	1号土器棺	C-1.5		155	無頸壺B1	17.7	47.2	—	33.2	蓋 (c)
67 60	2号土器棺	D-8		156	甕B1-4	34.2	37.8	9.5	44.3	身、外面、内面の底部上位に煤付着 (c)
67 60	2号土器棺	D-8		157	受口壺A0	30.0	52.6	—	54.8	蓋 (b)
67 60	2号土器棺	D-8		158	甕B1-2	43.2	45.0	12.0	54.9	蓋 (b)
67 60		D-8		159	壺A'0	19.8	21.4	—	29.4	2号土器棺の相伴土器 (b)
74 61		8 A-6.7.10.11		160	甕B0	19.9	17.8	5.8	25.9	全面煤付着 (b)
74 61		7 A-6		161	甕A0	13.1	13.2	4.7	19.45	外面上部、底部内面に煤 (b)
74 —		7 A-6		162	無頸壺B0	—	16.0	—	8.4	全面に煤付着 (b)
74 —		7 A-7		163	鉢B0	—	—	—	4.4	(a)
74 —		6 A-8		164	壺A1-3	21.0	—	—	4.4	外面に煤 (a)
74 —		6 A-8		165	壺A'0	14.0	—	—	6.0	(b)
74 61		6 A-10		166	高杯B1	22.3	—	10.6	18.3	(a)
74 55		6 A-10. B-2		167	甕A1-0	10.9	11.8	4.6	13.3	(a)
74 —		6 A-8		168	甕B2-4	27.2	—	—	4.8	外面に煤 (c)
74 —		6 A-8		169	甕B1-0	26.8	—	—	3.6	(b)

第3表 続き

(単位cm)

挿図 図版	出 土 地			番号	器 形	口径	胴径	底径	器高 (現存)	備 考 (胎土)
	遺 構 名	層名	地区名							
74 —		6	A-8	170	鉢B2	—	—	—	4.8	(a)
74 —		6上面	A-6.8	171	甕B底部	—	—	4.2	2.0	底部に穿孔 (c)
75 62	土壙墓11		C、D	172	甕蓋	—	—	(天井部) 5.8	5.2	外面に煤 (a)
75 —	土壙墓9		C、D	173	甕A底部	—	—	5.6	5.6	(a)
75 62	土坑3		D-11	174	壺A'	—	26.4	6.6	24.0	(b)
75 62	土坑3		D-11	175	鉢B1	31.0	31.8	8.0	15.0	(a)
75 —	土坑2		C-1	176	甕B底部	—	—	6.2	5.2	裏面に木葉痕 (b)
75 —		8	C-11、D-3	177	水差	—	15.1	—	10.8	(a)
75 —		8	C-12	178	壺D1	11.3	—	—	6.0	(b)
75 —		8	C-11.12	179	甕B2-4	15.0	—	—	4.6	(b)
75 59		8	D-3	180	甕A1-0	17.1	20.0	7.2	28.8	外全面に煤 (a)
75 —		8	C-12	181	底部	—	—	5.6	4.8	外面に煤 (a)
75 —		7上面	D-6	182	脚部C	—	—	11.4	3.6	(c)
75 —		6	D-11	183	鉢C	20.2	—	—	6.0	外面に煤 (b)
75 —		6	D-8	184	脚部B	—	—	11.6	10.0	(a)
75 —			E	185	脚部A2-0	—	—	6.6	4.0	黒色 (a)
75 —		6d	E-6	186	蓋A	9.0	—	—	0.5	(c)
75 52		6	E-6	187	無頸壺B0	6.7	8.4	3.9	7.4	(a)
75 —		6	E-1.5	188	脚部C	—	—	6.4	3.6	(c)
75 —		6	C-12、D-4	189	脚裾部	—	—	14.3	3.6	(a)
75 —		6	D-11	190	甕B0	15.0	—	—	6.0	(a)
75 —		6a	E-6	191	甕B2	15.6	—	—	5.2	(b)
75 —		6a	E-7	192	甕B2-0	13.0	—	—	7.6	(a)
75 —		6	E-1.5	193	壺底部	—	—	6.0	4.8	外面に煤 (a)
75 —		6d	E-5	194	甕底部	—	—	5.0	5.2	(b)
75 —		7	C-10	195	壺胴底部	—	—	3.6	4.4	内面黒色 (c)
75 —		7	C-12、D-4	196	脚部C0	—	—	7.6	4.8	(b)
76 62			C-2	197	壺D	12.8	22.2	6.2	25.4	後期、外面煤 (c)
76 —		6	D-8	198	長頸壺	10.4	19.7	7.4	29.4	後期、内面胴底部黒色 (a)
76 62		8	E-6	199	壺D	14.0	21.8	6.0	28.3	後期、外面煤 (c)
76 —			D-11	200	脚部	—	—	12.8	8.4	後期 (b)

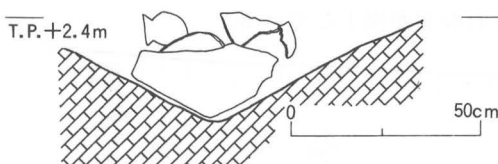
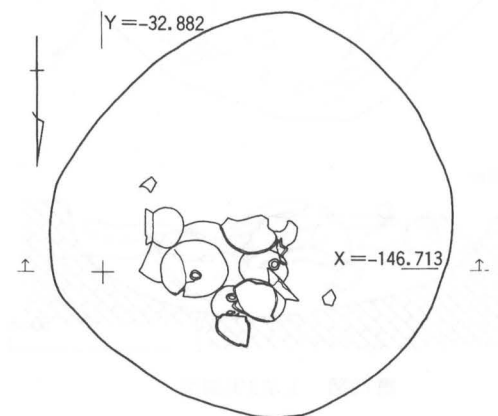
4. 古墳時代の遺構と遺物

1. 第6層上面の遺構と遺物

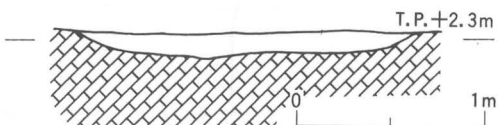
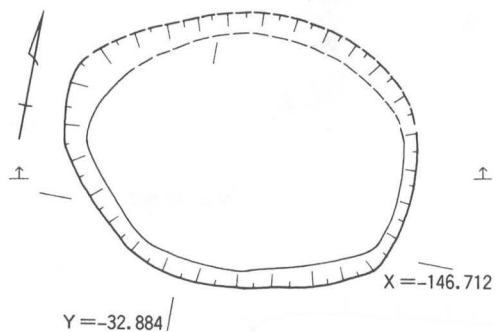
土坑1(第77図)

C-10地区南東部で検出した。直径1.06mのやや歪んだ円形をしている。掘形はV字状で底に縦36cm、横16cm、厚さ18cmの自然石を置き、その上にうつ伏せにした高杯、横倒しにした小型丸底壺、甕などを置いていた。土坑内の堆積土は暗灰色(N 3/0)極細粒砂混じりシルト～粘土である。

遺物(201~205)(第81図、図版63)



第77図 土坑1実測図



第78図 土坑2実測図

丸底壺(201)は丸底からやや横に張り出し気味の球形の胴部に口縁部が逆「ハ」の字形に拡がるものである。口縁部に横ナデ、体部上半部にはハケ目調整がみられ、下半部は摩滅している。内面に指押えの痕がみられる。胎土はb類。

丸底甕(202)は丸底から球形の胴部に口縁部が「く」の字形に外反するものである。外面にはハケ目、内面にはヘラ削り調整がみられる。

高杯(203)は平底から体部が斜めに拡がり端部を丸く納めるものである。脚部は斜めに徐々に拡がる柱状部から裾部が鋭い稜をもって急に大きく開いている。杯部と脚部の接合部には棒状の刺突痕、柱状部内面にはしぼり目がみられる。

高杯(204)は杯部が底部から内湾気味に口縁部が立ち上がり、端部を丸く納めたものである。杯部内面に放射状の暗文がみられる。脚部は筒状の柱状部から裾部が大きく開き、端部に面をつくっている。胎土はb類。

高杯(205)は平底から体部が斜めに拡がり、口縁端部を尖らせた深手のつくりのものである。脚部は柱状部から外湾気味に裾部まで拡がり、裾端部も尖らせている。

土坑2(第78図)

C-10地区北西部で検出した。長径1.86m、推定短径1.2m、深さ0.16mの楕円形のものである。皿状の掘形で、堆積土は緑黒色(10G 2/1)極細粒砂混じりシルト～粘土である。

土坑3(第79図)

D-11地区南東部で検出した。直径1.2mの円形の掘形をもつ。深さ0.3mである。樹皮のついた自然木に囲まれるように韓式系の長胴甕が垂直から16°南東に傾けて据えられていた。但し、上半部は欠失していた。

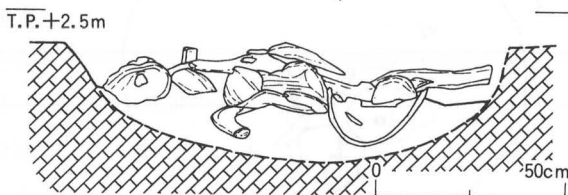
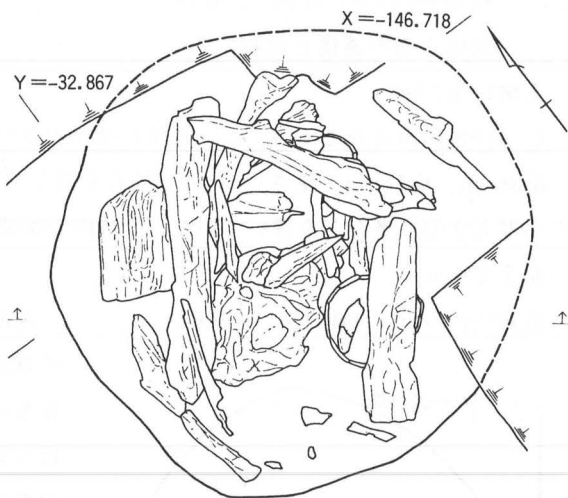
遺物(217)(第82図、図版64)

長胴甕(217)は胴底部のみが残存しており、体部外面には粗い格子状のタタキ目を施している。内面には指ナデ調整がみられる。器壁は厚くつくられている。韓式系土器と考えられる

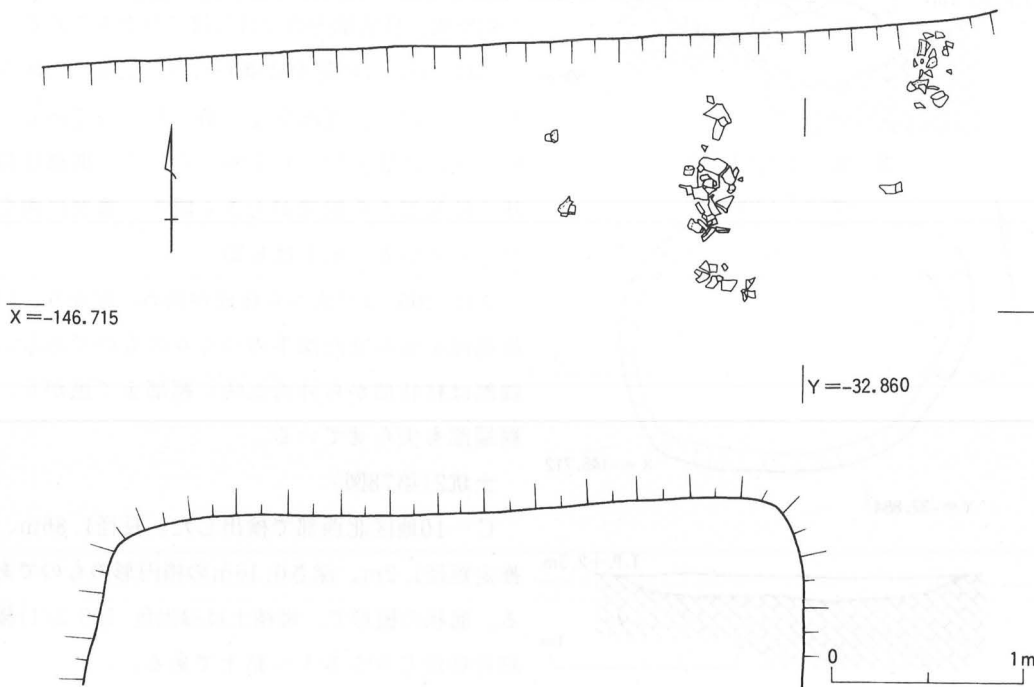
方形周溝(第80図)

E-3地区で検出した。一辺3mの方形を呈する。溝は幅2.5m、深さ0.07mで断面は皿状を呈する。周溝北東部で土師器甕、高杯などの遺物の塊が見られた。

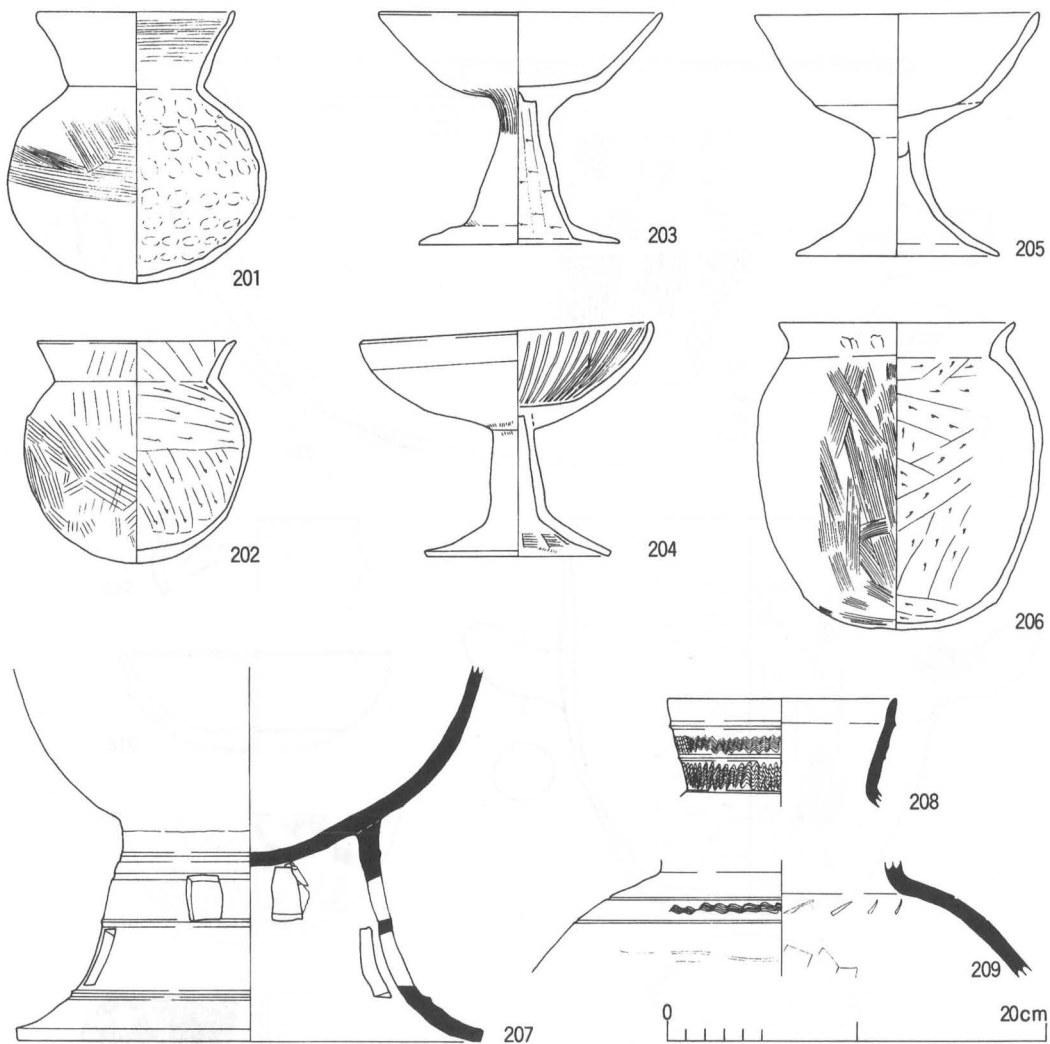
遺物は土師器、須恵器、韓式系土器、土錘、砥石などが出土している。



第79図 土坑3実測図



第80図 方形周溝実測図



第81図 土坑1(201~205)、C・D地区第5層内出土古墳時代中期土器実測図

2. 包含層内出土の遺物

第6層上面

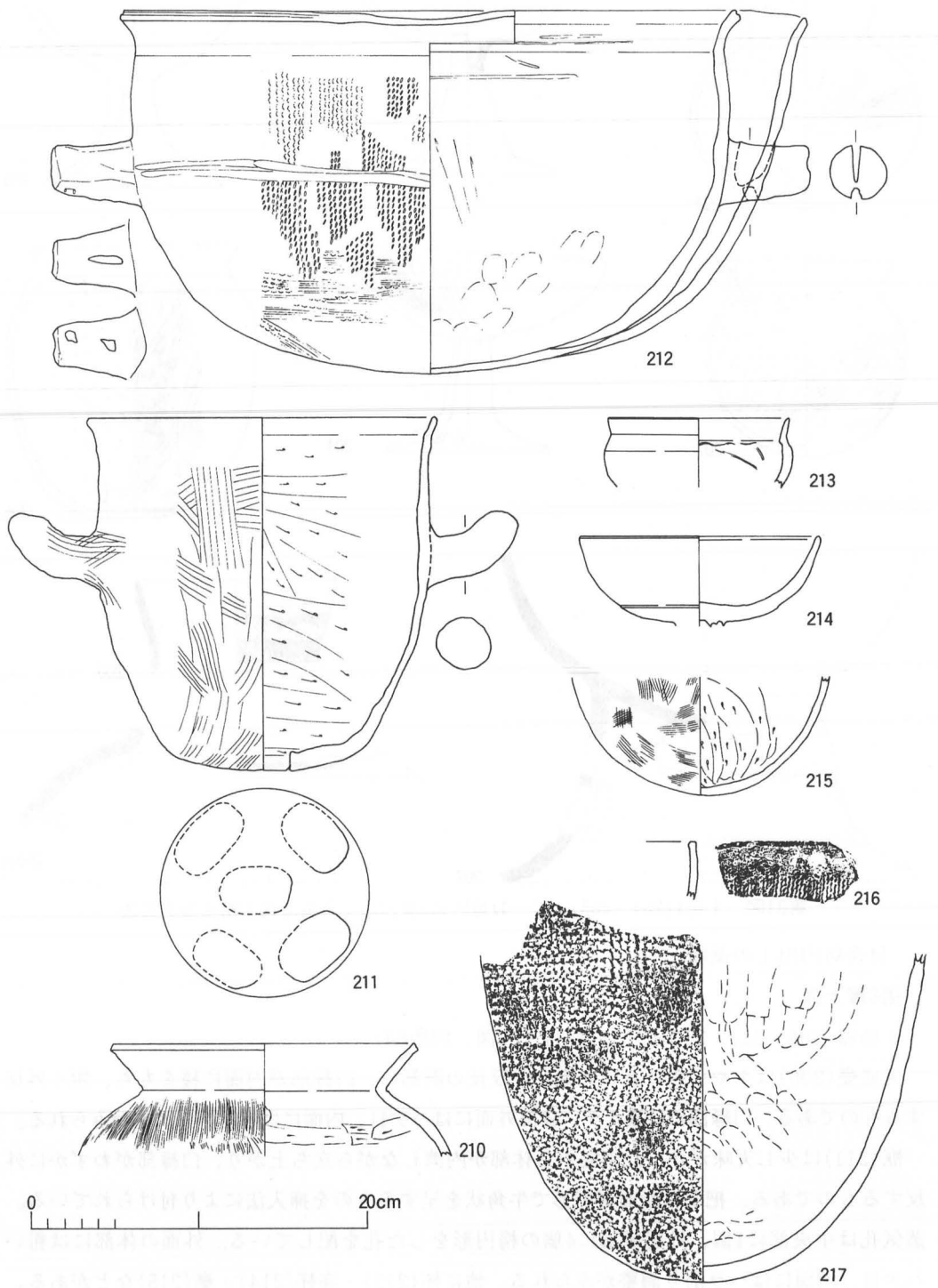
土師器(206・211・213~215)(第81・82図、図版64)

丸底甕(206)はやや平らに近い丸底から縦長の胴部に、口縁部が内面に稜をもち、短く外反するものである。口縁部には横ナデ、体部外面にはハケ目、内面にはヘラ削り調整がみられる。

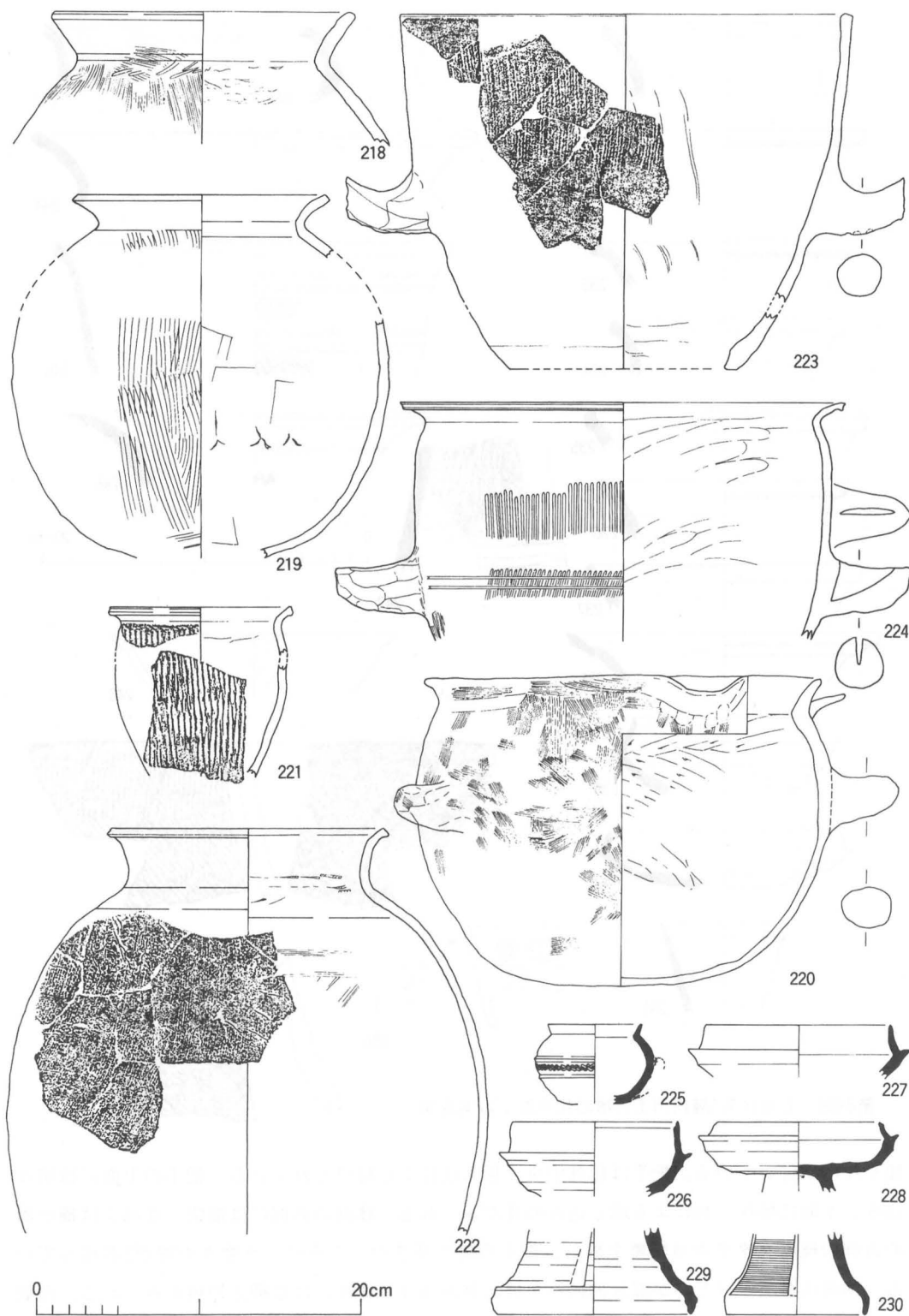
甗(211)は少し丸味があった平底から体部が内湾しながら立ち上がり、口縁部がわずかに外反するものである。把手は断面が円形で牛角状を呈するものを挿入法により付けられている。蒸気孔は中央部に1個、外周縁部に4個の楕円形をした孔を配している。外面の体部には粗いハケ目、内面にはヘラ削り調整がみられる。他に杯(213)・高杯(214)・甕(215)などがある。

韓式系土器(212・216)(第82図、図版64・66)

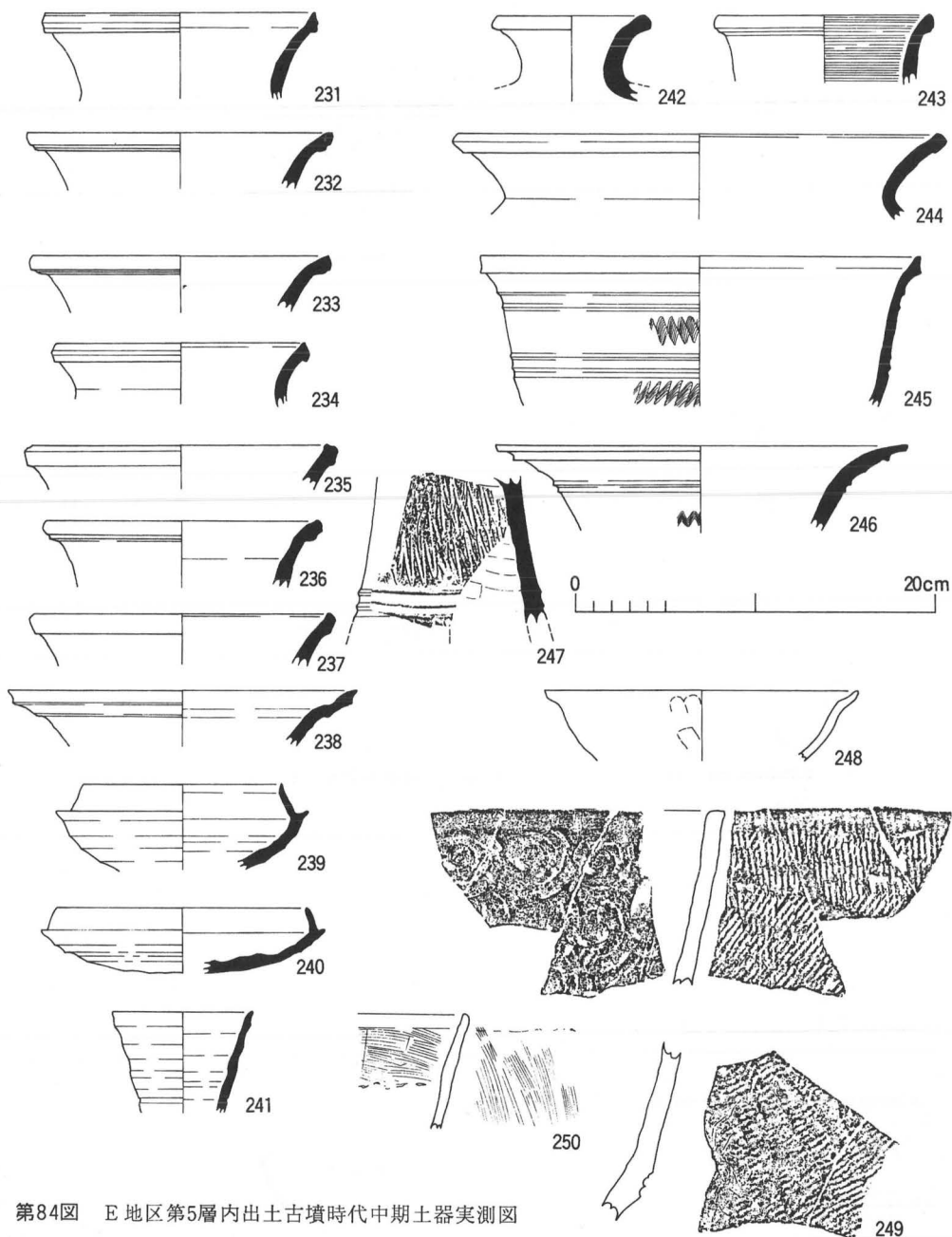
鍋(212)は丸底から体部が立ち上がり、口縁部はわずかに外上方へ開くものである。小さく



第82图 土坑3(217)、D(211~216)·E(210)地区第6层内出土古墳時代中期土器実測図



第83图 E地区第6層内出土古墳時代中期土器実測图



第84図 E地区第5層内出土古墳時代中期土器実測図

傾く片口が付いている。把手は体部中央に挿入法により付けられている。把手の上面には切り込み、下面に棒状工具による刺し込みの孔がみられる。体部の外面には縦位、底部には横か斜め方向の縄蓆文タタキ目調整を施し、把手の付く高さのところへ磨きの線が2本巡っている。内面は摩滅がひどいが部分的にハケ目調整が残り、底部には指押えの痕がみられる。底部の器壁はかなり薄くつくられている。胎土はb類。他に鍋の口縁部(216)が出土している。

第6層内

土師器(218~220)(第83図)

甕(218)は胴部中頃で張り出す体部に、口縁部が「く」の字形に外反し、端部を丸く納めたものである。肩部にヘラ圧痕文が無作為に施されている。体部外面にはハケ目、内面にはヘラ削り調整がみられる。

甕(219)は下ぶくれのする胴底部に、口縁部が内面に緩い稜をつくって外反するものである。外面には粗いハケ目、内面には板状の原体によるナデ調整がみられる。

鍋(220)は丸底から体部が大きく内湾しながら立ち上がり、口縁部が短く外反し、片口をもつものである。把手は断面が楕円形を呈し、体部のやや上部にほぼ水平に、挿入法により取り付けられている。外面には細かいハケ目、内面には摩滅気味であるがヘラ削り痕がみられる。

韓式系土器(221~224)(第83図、図版63~75)、(283)(図版66)

平底鉢(221)は胴部があまり張り出さないうで、口縁部が緩やかに外反し、端部に面をつくるものである。体部外面には縦位の平行タタキ目を施している。

甕(222)は肩部から丸く張り出す体部に口縁部が立ち上がり、端部のみが外反するものである。外面の胴部には縄蓆文タタキ目、内面には板状の原体によるナデ調整がみられる。外面には煤が付着している。

甗(223)は平底から体部が外向きに立ち上がって口縁部まで続き、上端部に面をつくるものである。体部の上半部に縄蓆文タタキ目を施している。内面は摩滅がひどいが、板状の原体によるナデの痕がみられる。把手は挿入法により牛角状に付けられている。把手の先端は面とりされているが削り痕を残している。下面には3~5個の棒状工具による刺し込みの痕がみられる。底部を欠くが、蒸気孔は中央に円孔を1個、その周囲に円形の孔を配したものと考えられる。底部から約3cmの幅をヘラ削りしている。

甗(224)は底部を欠くが平底に蒸気孔をもつものと考えられる。体部はわずかに外上方に拡がり、肩部近くで少し内湾し、口縁部は外反後、端部を短く外下方に折り面をつくっている。胴部外面には縦位の平行タタキ目を施しており、中央部に沈線が2本巡っている。内面には指ナデの痕がみられる。把手は挿入法により、上面からヘラで切り込みを入れている。胎土はc類。

平底鉢(283)は体部から口縁部が立ち上がり、端部の内面は強いナデにより凹面を呈したもので、口径16.8cmを測る。体部には格子目のタタキ目を施している。類例は八尾市渋川^{注9}廃寺にみられる。内面は焼成を受け黒褐色、外面は暗赤褐色を呈す。胎土はb類。

須恵器(225~230)(第83図、図版65)

把手付椀(225)は球形に近い体部に「く」の字形に外反する短い口縁部をもつものである。縦位の把手が剥離している。杯身(226)は深い身に口縁端部が内傾しているものである。杯身(227)はやや浅い身に口縁端部を丸く納めている。高杯(228)は平底に浅い身で口縁端部を尖り気味に納めている。脚部(230)は裾部が内湾しながら下端部まで降り、端部を丸く納めている。外面をかき目調整し、長方形の透しを穿っている。脚部(229)は裾部が段状になり、端部を尖り気味に納めている。外面を回転ナデ調整し、長方形の透しを穿っている。

第5層内

須恵器(207・209・231~247)(第81・84図、図版65)

器台(207)は逆漏斗状に大きく開く脚部で、裾端部に凹面をつくっている。受部は上半部を欠く。底部は丸底で下半部の体部には文様がなく、ナデ調整のみである。脚部には3条の凸帯を巡らせ、突帯の間に長方形の透し孔を4個ずつ配している。

壺(208)は口頸部に2条の凸帯を巡らし、その間を波状文で飾ったものである。

壺(209)は肩部のみ残存するもので、球形に近い体部をつくるものと考えられる。肩部には2条の沈線文を巡らし、その間に波状文を施している。

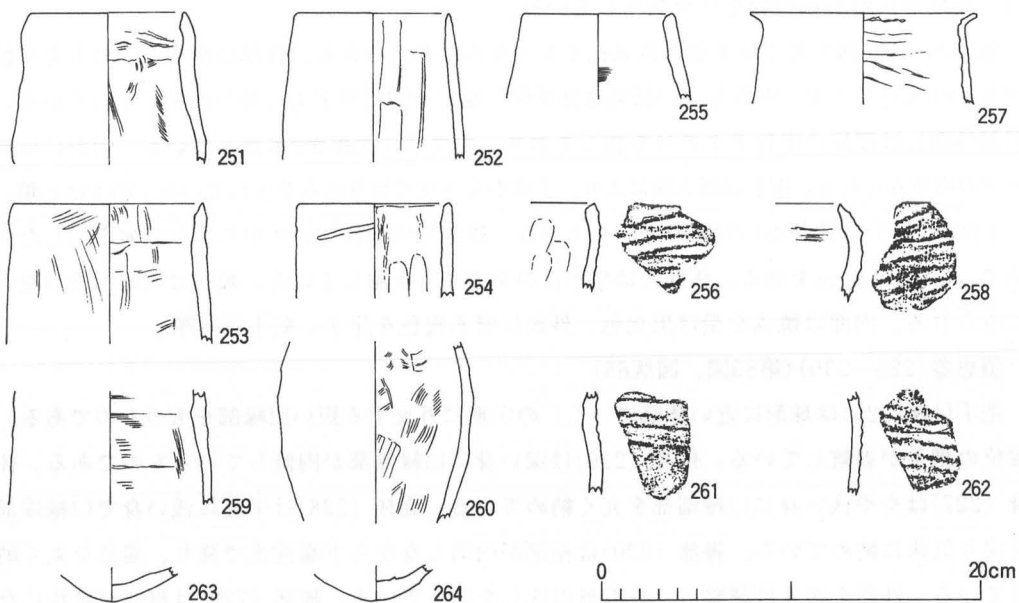
土師器(248・250)(第84図)

韓式系土器(249)(第84図、図版66)

甔(249)は厚手で外面に平行叩き目、内面に同心円状の当て具痕がみられる。内面に煤が付着している。

製塩土器(251~264)(第85図、図版67)

製塩土器(251~264)はE地区から小破片で5世紀中頃~6世紀初頭の須恵器、土師器と共伴して出土した。薄手につくられたもので、全形をうかがえるものはない。体部から口縁部が内湾し、端部は内方に薄くつくれたものが多い。(257)は口縁部が短く外反している。底部は丸底であるがやや尖り気味のものもみられる。口径は8~12cmを測る。厚みは器壁が2.5~5cm、底部の中心が5cm前後である。口縁部の内外面共にナデ調整^{註10}をしている。体部の破片に横方向のタタキ目で調整したものがみられる。才原金弘氏の分類によればAとDタイプ^{註10}のものが主流を占める。胎土はほとんどb・c類で(263)のみa類である。



第85図 D・E地区第5層内出土古墳時代中期製塩土器実測図

第4表 鬼虎川遺跡各遺構・包含層内出土古墳時代遺物法量表

*1 「-」は計測不明を表す

*2 「・」器高=口縁~底部まで計測できたもの

*3 特に記載のないものは土師器

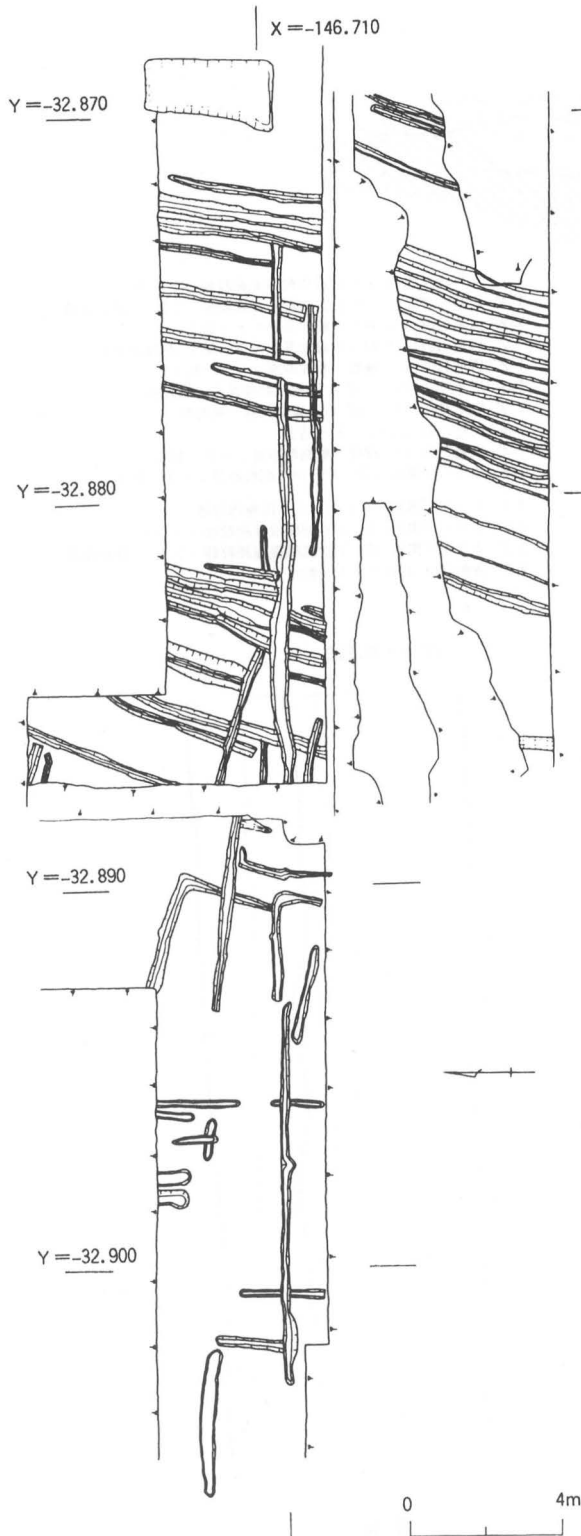
(単位cm)

挿図 図版	出 土 地			番号	器 形	口径	胴径	底径	器高 (現存)	備 考 (胎土)
	遺構名	層名	地区名							
81 63	土坑1		C-10	201	丸底甕	10.1	13.3	*1 -	*2 ・14.1	*3 (b)
81 63	土坑1		C-10	202	丸底甕	10.0	11.6	-	・11.6	(a)
81 63	土坑1		C-10	203	高杯	14.5	-	10.2	・12.1	(a)
81 63	土坑1		C-10	204	高杯	14.9	-	9.4	・11.8	(b)
81 63	土坑1		C-10	205	高杯	14.6	-	10.4	・12.6	(a)
81 63		6上面	C-7	206	甕	12.3	14.8	-	・15.9	外面に煤、内面にこげつき (a)
81 -		5	C-11.12	207	器台	-	-	24.2	19.6	須恵器 (-)
81 -		5	C-5.9.10	208	壺口縁部	12.0	-	-	5.6	須恵器 (-)
81 -			D-10	209	壺胴部	-	-	-	6.0	須恵器 (-)
82 -			E-8.7	210	甕	17.6	-	-	6.8	(c)
82 64		6上面	D-11	211	甕	20.6	19.6	12.2	・20.8	外面に煤、把手なし (a)
82 64		6上面	D-12	212	鍋	36.6	-	-	・21.3	韓式系 (b)
82 -		6上面	D-7	213	杯	10.6	11.2	-	4.0	(b)
82 -		6上面	D-12	214	高杯	14.0	-	-	5.2	(a)
82 -		6上面	D-12	215	甕底部	-	-	-	7.2	(a)
82 66		6上面	D-11	216	片口鍋	-	-	-	3.6	韓式系 (a)
82 64	土坑3		D-11	217	長胴甕	-	-	-	19.6	韓式系、煤付着 (a)
83 -		6d	E-6	218	甕	18.0	-	-	8.4	外面に少し煤 (a)
83 -		6	E-6.7	219	甕	14.9	23.0	-	22.4	内外面に煤 (c)
83 64		6d	E-2	220	鍋	24.4	26.0	-	・19.0	(a)
83 65		6	E-11	221	平底鉢	11.0	10.4	-	10.4	韓式系、内外面に煤付着(a)
83 63		6d	E-6	222	甕	16.6	29.3	-	25.2	韓式系、外面に煤付着 (a)
83 64			E-6	223	甕	27.7	-	14.0	21.7	韓式系、外面に煤付着 (a)
83 64		6a	E-3	224	甕	27.2	-	-	14.8	韓式系、把手に切り込み (c)
83 65		6	E	225	把手付壺	5.6	7.6	4.4	4.9	須恵器、把手の跡あり(-)
83 -		6	E-5.6	226	杯	10.2	-	-	4.4	須恵器 (-)
83 -		6a	E-4	227	杯	11.0	-	-	3.2	須恵器 (-)
83 -		6a	E-7	228	高杯	10.0	-	-	4.0	須恵器 (-)
83 -		6	E-7	229	脚部	-	-	11.8	5.2	須恵器 (-)
83 -		6a	E-6	230	脚部	-	-	8.6	4.8	須恵器 (-)
84 -		5c	E-5.6	231	甕	14.8	-	-	4.8	須恵器 (-)

第4表 続き

(単位cm)

挿図 図版	出土地			番号	器形	口径	胴径	底径	器高 (現在)	備考 (胎土)
	遺構名	層名	地区名							
84 —		5c	E-6	232	甕	16.8	—	—	3.2	須恵器 (-)
84 —		5c	E-6.5	233	甕	16.4	—	—	3.2	須恵器 (-)
84 —		5	E-3	234	甕	13.8	—	—	3.2	須恵器 (-)
84 —		5b	E-6	235	甕	16.6	—	—	2.4	須恵器 (-)
84 —		5	E-6.7	236	甕	15.0	—	—	3.6	須恵器 (-)
84 —		5c	E-1	237	甕	16.4	—	—	2.8	須恵器 (-)
84 —			E-5	238	甕	19.2	—	—	3.2	須恵器 自然釉 (-)
84 —		5c	E-6	239	杯	11.0	—	—	4.8	須恵器 (-)
84 —		5	E-1.2	240	杯	13.8	—	—	3.6	須恵器 (-)
84 —		5	E-1	241	壺	7.8	—	—	5.6	須恵器 (-)
84 —		5c	E-6	242	壺	8.2	—	—	4.8	須恵器 (-)
84 —		5c	E-6	243	壺	11.6	—	—	4.0	須恵器 (-)
84 —		5c	E-6	244	甕	26.6	—	—	4.8	須恵器 (-)
84 —		5c	E-6	245	摺鉢	24.0	—	—	8.4	須恵器 (-)
84 —		5c	E-6	246	甕	22.6	—	—	4.8	須恵器 (-)
84 —		5c	E-6	247	器台	—	—	—	8.4	須恵器 (-)
84 —		5c	E-6	248	杯	17.2	—	—	4.0	(c)
84 66		5c	E-7	249	甌	—	—	—	9.6	韓式系、内面に煤 (a)
84 —		5c	E-7	250	甌	—	—	—	6.4	(a)
85 67			E-5	251	製塩土器	4.0	—	—	4.0	くさり礫含む (c)
85 67		5c	E-6	252	製塩土器	4.0	—	—	4.0	二次焼成、内外面灰黒色 (c)
85 67		5c	E-6	253	製塩土器	5.0	—	—	3.8	(c)
85 67			E-6~10	254	製塩土器	4.0	—	—	2.6	(b)
85 67		5	D-7	255	製塩土器	4.0	—	—	2.4	くさり礫 (c)
85 67		5c	E-3	256	製塩土器	—	—	—	2.2	くさり礫 (b)
85 67			E	257	製塩土器	6.0	—	—	2.4	くさり礫 (c)
85 67		5c	E-7	258	製塩土器	—	—	—	2.8	二次焼成の痕 (b)
85 67		5c	E-5.6	259	製塩土器	—	5.2	—	3.0	二次焼成の痕 (b)
85 67			E-5	260	製塩土器	—	5.2	—	5.0	くさり礫 (c)
85 67		5c	E-6	261	製塩土器	—	—	—	2.8	(c)
85 67			E	262	製塩土器	—	—	—	2.6	(c)
85 67		5c	E-6	263	製塩土器	—	—	—	0.9	(a)
85 67		5c	E-6	264	製塩土器	—	—	—	0.9	二次焼成の痕 (c)



第86図 鋤跡実測図

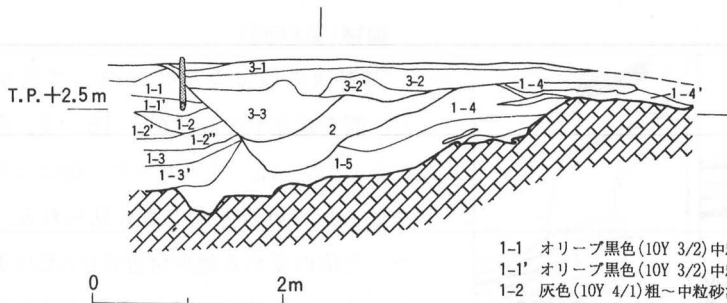
5. 歴史時代の遺構と遺物

鋤跡(第86図)

— 調査地のほぼ全域にわたって検出した。調査地北半のものがN-15°-E、南半のものがN-12°-Eであった。他にこの溝を切る形で東西方向の溝も見られる。また、方位の変わる地点付近にL字形に溝が曲がるものもあり、方位の変化は水田の区画、つまり耕作者の違いから来るものと思われる。溝の幅は30~35cmのものが一番多く、深さは5~10cmである。堆積土は灰色、暗オリーブ灰色、黒色(7.5Y 4/1 10Y 4/1 5GY 3/1 2.5GY 2/1)中粒砂~粗粒砂混じりシルト~粘土である。溝からは土師器、須恵器、瓦器、陶磁器などが出土しており、鎌倉時代のものと考えられる。

水路(第87図)

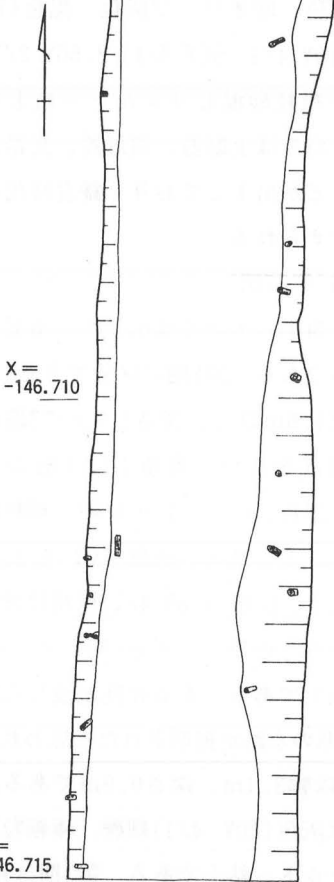
A地区西半において検出した。南北方向の水路である。3時期に区分できた。第1期は幅4.6m以上、深さ1.1mで3段に落ちる肩部をもつ。堆積土は下層からオリーブ黒色(10Y 3/1)中粒砂~細粒砂混じりシルト~粘土、灰色(10Y 4/1)シルト~粘土、灰色(7.5Y 4/1)極粗粒砂混じり中粒砂~細粒砂、灰色(10Y 4/1)シルト~粘土である。ある程度埋没した段階で第2期の水路が掘削されたと思われる。第2期は幅3.1m、深さ0.9mである。堆積土は灰色(10Y 4/1)細礫、極細粒砂混じりシルト~粘土である。第3期は幅2.3m、深さ0.6mで両護岸に直径5cm、長さ50cmぐらいの杭を調査地内だけで16本打ち込んでいる。堆積土は灰色(10Y 4/1)極細粒砂混じりシルト~粘土である。水



- 1-1 オリーブ黒色(10Y 3/2)中粒砂混細粒砂～シルト
- 1-1' オリーブ黒色(10Y 3/2)中粒砂混細粒砂～シルト(鉄分沈着)
- 1-2 灰色(10Y 4/1)粗～中粒砂混シルト～粘土
- 1-2' 灰色(10Y 4/1)粗～中粒砂混シルト～粘土(粘性が高い)
- 1-2'' 灰色(10Y 4/1)極粗～粗粒砂混シルト～粘土
- 1-3 灰オリーブ色(7.5Y 4/2)極細粒砂混中～細粒砂
- 1-3' 灰オリーブ色(7.5Y 4/2)極細粒砂～細粒砂
- 1-4 灰色(10Y 4/1)シルト～粘土
- 1-4' 灰色(10Y 4/1)細礫～極細粒砂混シルト～粘土
- 1-5 オリーブ黒色(10Y 3/1)中～細粒砂混シルト～粘土

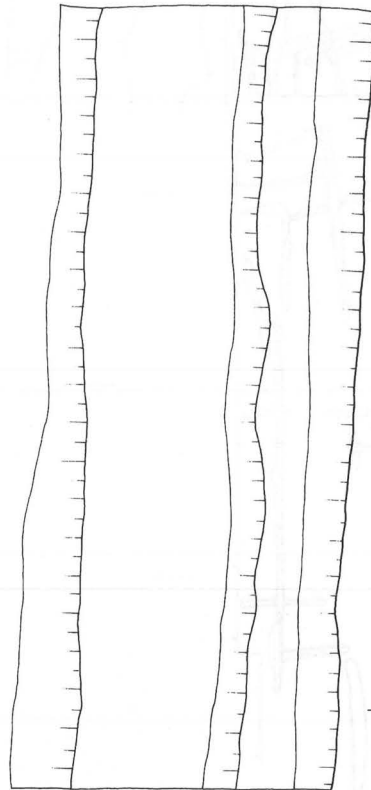
- 3-1 オリーブ黒色(5Y 3/2)シルト混極細粒砂
- 3-2 オリーブ黒色(10Y 3/2)細礫混極細粒砂～シルト
- 3-2' オリーブ黒色(10Y 3/2)細礫混極細粒砂～シルト(鉄分沈着)
- 3-3 灰色(10Y 4/1)シルト～粘土

X = -146.705
Y = -32.920



第3期

Y = -32.920



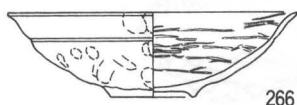
第1期

第87図 水路実測図

路内からは土師器、須恵器、瓦器、陶器、磁器が出土した。陶磁器から江戸時代後半と考えられる。

遺物(265・266)(第88図)

瓦器椀(265)は断面三角形のしっかりした高台がつく平底に、深い椀形の体部をつくり、口縁部に沈線を施している。体部内面には密に暗文を施しており、外面には体部の中ほどまで、粗いミガキがみられる。『神並遺跡I』で試みた分類によると「大和型」のA₂₋₁のタイプである。口径14.2cm、器高4.9cm、底径4.4cm、器高指数は34.5。



瓦器椀(266)は断面三角形の高台がつく平底に大きく口縁部まで広がる体部をつくり、口縁部を薄く尖らせたものである。体部内面には細い線による暗文を粗く施している。「和泉型」のB₂₋₂のタイプである。口径15.2cm、器高4.4cm、底径4.4cm、器高指数は28.9。

(265・266)は13世紀中頃のものと考えられる。



第88図 鎌倉時代
瓦器椀実測図

6. 石器(第89~91図、図版68・69)

調査区内から出土した石器は石匙・石鎌・尖頭器・石錐・楔形石器・敲打具・石庖丁形石器・削器などがある。以下まとめて記述するが、観察は主に肉眼と10倍のルーペによるもので、今後、石器から得られる情報をできる限り積み、更に細かい観察結果を表わせるよう努力をしたい。

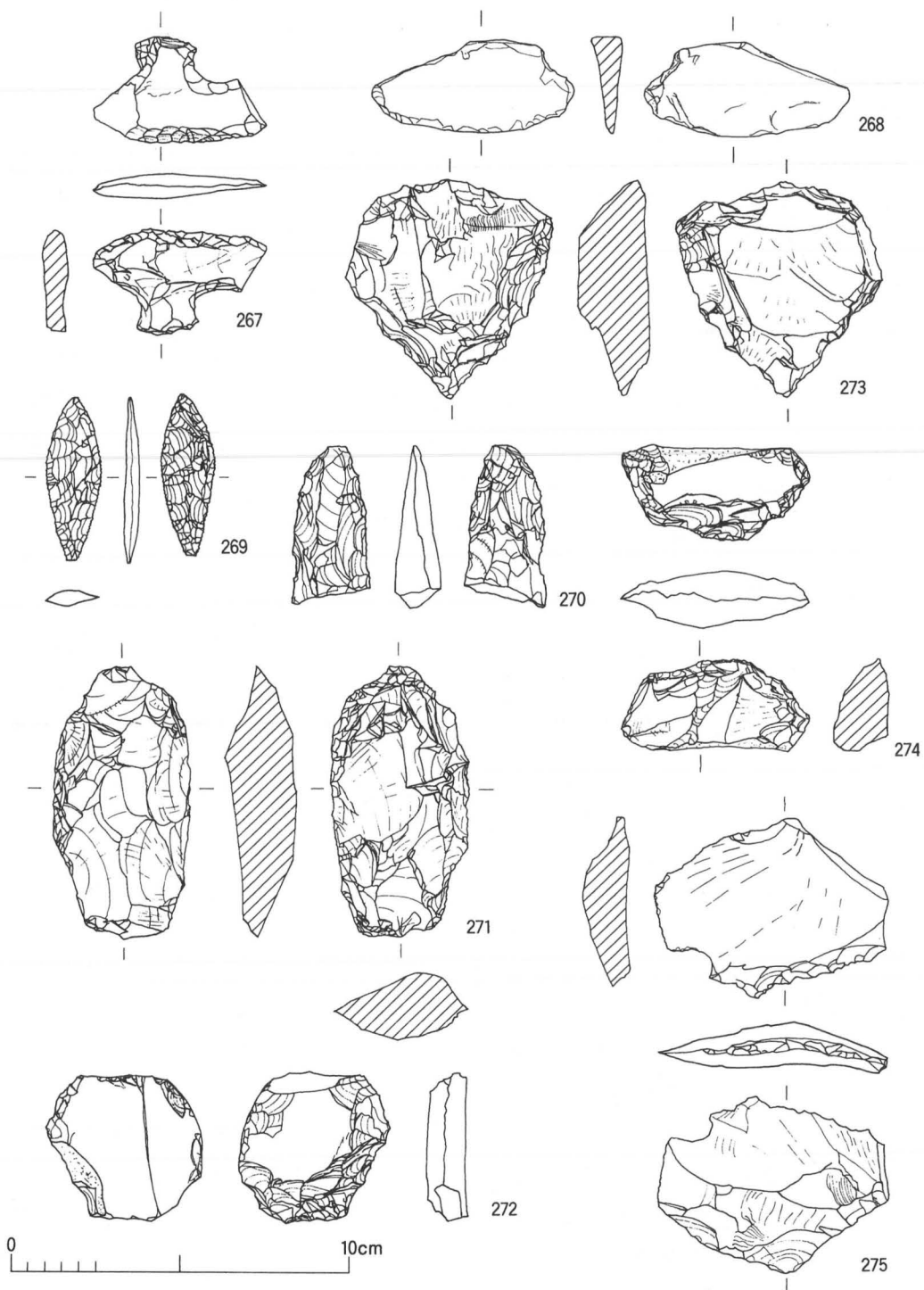
石匙(267)は裏面に主剥離面を残し、背面は身部に大剥離面を残している。両面の周縁を成形剥離の後、細部調整で粗い鋸歯状の刃部をつくりだしている。剥離はステップ状を呈する。一端部は折れている。最大長3.1cm、最大幅5.1cm、最大厚0.7cm、重量9.82g。(E-10地区)

石庖丁形石器(268)は上部がやや厚手で、刃部を薄く尖らせている。両面は平滑な面をなし、小型の石庖丁形に成形している。刃部付近に数本の条線がみられる。最大長2.8cm、最大幅6.2cm、最大厚1.0cm、重量12.54g。(C-7地区 第25号方形周溝墓周溝)

石鎌(269)は身部に大剥離面を残し、周縁を両面から微小な細部調整により鋸歯状につくっている。最大長4.8cm、最大幅1.6cm、最大厚0.4cm、重量2.88g。(A-10地区)

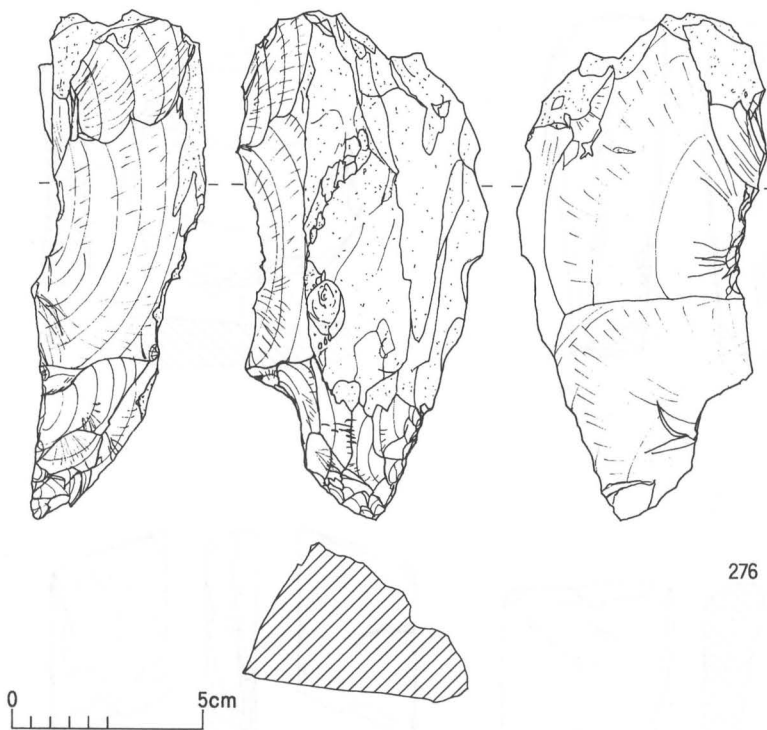
尖頭器(270)は基端部側を半分ぐらい欠く。一面の身部には大きな剥離面、他面の身部にはステップ状の剥離面を残している。先端部の折れ面と、周縁の刃部は白色を呈す。刃部にはステップ状の何重かの剥離痕がみられる。最大長4.5cm、最大幅2.4cm、最大厚1.5cm、重量13.14g。(C-12地区 第5層)

石核(271)は身部に大剥離面を残し、長縁辺の中央付近に幅3cmにわたり、密集したステップエンドの打撃痕がみられ、この対縁辺には剥離痕がある。他にも打撃痕は各角の部位に狭い範囲でみられる。最大長8.2cm、最大幅4.2cm、最大厚2.1cm、重量64.86g。(D-6地区 第10層)



第89図 各地区出土石器実測図

楔形石器(272)は裏面の上面に剥離打面をもち、主剥離面を残している。周縁は表面から成形剥離の後に細部調整を施している。表面には自然面を残し、2面の大きな剥離面で形成され、



第90図 第17層内出土石器実測図

縁辺の一部を細部調整している。周縁には刃部の稜線が摩滅した部分、折れ面、細かい傷による白色をなす箇所などがみられる。最大長 4.4 cm、最大幅4.6cm、最大厚 1.2cm、重量 29.56 g。(E-2地区 側溝)

276

石錐(273)は全体が三角形を呈し、一つの角は折れ面になっている。裏面には主剥離面を残している。表面には大剥離面を残し、錐部は

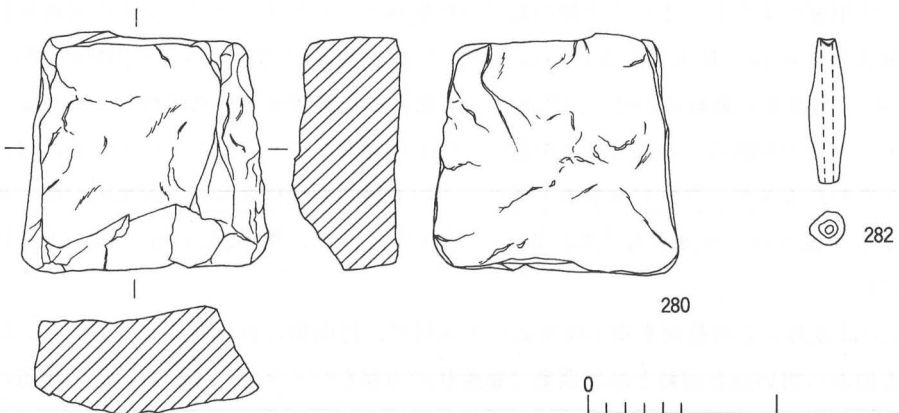
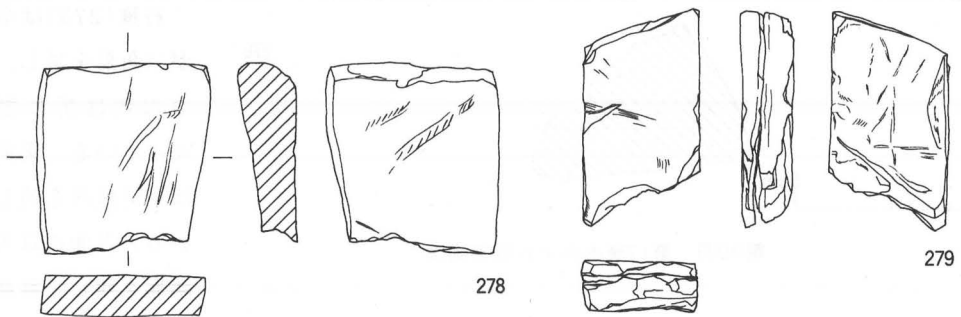
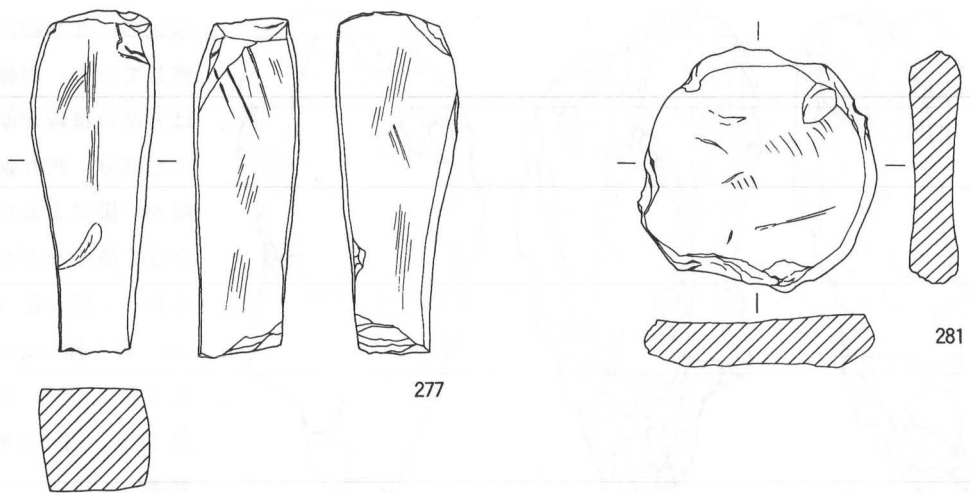
厚みのある身部と区別するためなのか階段状の剥離を施して薄くつくっている。錐部に通じる両縁辺には使用痕のような、また上辺部の端には打撃痕のようなステップエンドの剥離痕がみられる。最大長6.6cm、最大幅6.2cm、最大厚2.1cm、重量67.94 g。(E-2地区 第6層)

削器(274)は側面から裏面にかけて自然面を、裏面には主剥離面をそれぞれ残している。周縁にはステップ状の剥離による細部調整を施し、円形の刃部をつくりだしている。短い縁辺には打撃痕と思われるステップ状の剥離痕があり、この対縁辺の稜は摩滅し、刃部の一部と共に白色を呈する。最大長5.6cm、最大幅2.8cm、最大厚1.7cm、重量24.88 g。(E-6~10地区 第6a層)

削器(275)は裏面に主剥離面を残す横型剥片の素材で、打面側は折れ面になっている。縁辺の一部に表面から粗い成形剥離と細部調整で鋸歯状の刃部をつくりだしている。他の縁辺にも細部調整を施し刃部としている。最大長5.4cm、最大幅7.0cm、最大厚1.4cm、重量38.24 g。(C-2地区 第17層)

敲打具(276)は上端から長軸の一面にかけて自然面を残している。表面の下端部は尖り気味に剥離成形を施しており、敲打による使用の痕なのかステップ状の剥離がみられる。二枚の剥離面の交わる稜線には白色の打撃痕がみられる。最大長13.4cm、最大幅6.6cm、最大厚4.1 cm、重量280 g。(D-2 第17層)

他にB・C地区の第15~17層からサヌカイト片が出土している。石匙(267)と第17層から出



第91図 各地区出土砥石、円板、土錘実測図

土した削器(265)、敲打具(276)は縄文時代の時期に属すると考えられる。

石庖丁形石器(268)は第25号方形周溝墓の周溝内から出土しており、何らかの弥生時代の祭祀に使用されたものかもしれない。他の打製石器は包含層から出土したものであるが概ね弥生時代中期頃までに属するものと考えられる。サヌカイトの総重量は912.54gで、上記の石器の重量は531.32gである。

以上の石器以外に砥石などが数点出土している。

砥石(277)は上部が幅広のしゃもじ形を呈し、下部は折損している。断面は方形で、四面共が研砥面として使用した条線がみられる。最大長8.7cm、最大幅4.3cm、最大厚1.7cm。(D-12地区 第6層)

砥石(278)は表面上部の方が広く、中位から下部は破損している。側面の幅は狭く、四面共が研砥面で、内湾している。最大長4.9cm、最大幅4.3cm、最大厚1.7cm。(A-10地区 第4層)

砥石(279)は側面の上部が研砥のため斜めに磨り減っている。下部も斜めに折損し、全体が菱形になっている。側面は縦に割れ、上段はC-6・7地区の第5層内、下段はC-5地区の第2層内からそれぞれ分かれて出土している。最大長4.8cm、最大幅3.15cm、最大厚1.5cm。台形状石(280)は全体が台形を呈するもので、側面は面状を呈する。上面に傷痕がみられ、何らかの製作台であったかもしれない。最大長6.2cm、最大幅6.4cm、最大厚5.8cm。(E-7地区)

7. 土製品(第91図)

土製品は弥生時代の円板(84)の他に、時期不明の円板(281)、土錘(282)がある。

土錘(282)は中央部が最大径(0.9cm)をなし、両端に向かってすぼまるものである。孔径は0.3cm。(C-6・7地区 第5層)

V まとめ

1. 遺構について

西ノ辻遺跡第27次調査では弥生時代の河道、土器棺墓、土坑、古墳時代の河道、歴史時代の土坑、ピット、柵列、鋤跡を確認することができた。

鬼虎川遺跡第32次調査では縄文海進前の旧石器時代の河道、始良火山灰層、縄文時代の埋没海岸地形とその後これを埋積した縄文時代前期から晩期までの地層、弥生時代中期前半の大溝、方形周溝墓、中期中葉～後半の方形周溝墓、中期後半の土器棺墓、土壙墓、古墳時代の土坑、溝、方形周溝、歴史時代の鋤跡、水路などを確認することができた。以下、今回の調査によって得られた知見を列記してまとめとする。

1. 鬼虎川遺跡の火山灰

鬼虎川遺跡第32次調査出土の火山灰は、奈良教育大学西田史朗先生に分析していただいた。VAIS、EDX（エネルギー分散型マイクロアナライザー）分析で558個の火山灰と比較しその差異をID値として示し配列したもので、その結果始良火山灰と判明した。火山灰は調査地西端のA地区ではT.P. -2.4m前後、C・D地区の境界付近では-1.6m前後であり部分的にしか堆積していない。層として確認できたのはD-2地区からE-10地区のT.P. -1.25m～T.P. -0.96mにかけてで層の厚さは15cm前後である。

2. 鬼虎川遺跡の旧石器時代の河道

旧石器時代の旧河道は、B-6地区からA-6地区にかけて検出した。幅5～6m、深さ0.75～1.2mで、南南東から北北西へ向かいループを描いて北北東から南南西へ向かう。河道内の堆積物は中粒砂～粗粒砂である。¹⁴C放射性炭素による年代測定の結果31080±1530B.P.であった。

3. 縄文時代の埋没海岸地形

縄文時代の鬼虎川遺跡の調査地点は、内湾の奥まったところで泥底であったと考えられる。大阪湾地域では、縄文海進の最盛期は6000～5000年B.P.とされている。今回のデータにおいても、年代が5930～4640年B.P.とされておりほぼ一致している。

河内湾の海退期に入っており、激しい沖積作用と相まって堆積層が下から礫（おもに大礫～中礫）、砂礫混じりシルト、細粒砂～粗粒砂、砂混じりシルト～粘土、極細粒砂～粘土、シルトと変化していく。これは海退による波の営力の弱化、沿岸州の形成による静水域への変化が考えられる。堆積層中の木片による¹⁴C放射性炭素年代測定の結果、第17層は平均約5930±140年B.P.、第16層は約5700±110年B.P.、第15層は約4640±180年B.P.という年代が与えられた。地形では後浜（ストームビーチ）、波打ち際のビーチフェイスと呼ばれる平滑な斜面、前

浜を確認することができた。また、砂泥質の潮間帯にすんでいた生物の跡—生痕化石を多数検出した。調査ではシャミセンガイが多く検出されているため、主にこの生痕化石ではないかと思われる。

4. 弥生時代の墓

西ノ辻遺跡では旧河道の中から土器棺墓が1基見つかった。弥生時代中期後半＝畿内第IV様式の甕を身、鉢を蓋としたものである。西ノ辻遺跡では第17次調査^{注12}で土器棺墓が2基見ついている。いずれも河道の中州状のところから見つかっていて甕を身としている。1基は鉢を蓋としており、中から1歳前後の小児骨1体分が見つかった。もう1基は蓋がなく骨も残っていなかった。

第23次調査^{注13}では土器棺墓2基が旧河道内から見つかっている。1基は広口壺を身と蓋に使ったもので中に妊娠7カ月前後の胎児の骨が見つかっている。もう1基は甕を身に、甕と壺を蓋に使ったもので中に妊娠10カ月の胎児または新生児の骨が残っていた。第27次調査においても人骨が残っていた。1歳位の小児と鑑定^{注14}された。西ノ辻遺跡における弥生時代の方形周溝墓は第7次調査^{注15}で7基、第26次調査^{注16}で2基、第28次調査で2基の合わせて11基が見つかっている。いずれも弥生時代中期中葉から後半に属するものである。方形周溝墓の大部分が中世の削平を受けていて主体部の判明するものが少ないが溝の共有などから計画的に築造されていたと考えられている。第8号方形周溝墓^{注17}から木棺が、第4号方形周溝墓^{注18}から大型の甕と中型の甕を合口にした土器棺が見つかっている。一般に弥生時代中期中葉から後半になると土器棺に入れられる小児が目立つようになる。方形周溝墓内の土器棺と河道内の土器棺墓に階層差があったのかは明確ではないが西ノ辻遺跡では河道内に作られた土器棺墓が顕著である。

鬼虎川遺跡では弥生時代に属する遺構面を3面検出した。その内訳は第10層上面が中期初頭、第9層上面が中期中葉から後半、第8層上面が中期後半である。しかしながら、これらの遺構面は調査地全域にわたって検出したものではなく、D地区以西においてである。第10層上面では2基の方形周溝墓、第9層上面では7基の方形周溝墓、第8層上面では2基の土器棺墓と5基の土壙墓を検出した。

鬼虎川遺跡で墓が集中しているのは遺跡の北東端で東西約100m、南北約80m(国家座標では北端がX=-146.655、南端がX=-146.735、東端がY=-32.865、西端がY=-32.965である)の範囲にある。ただし現在までの調査成果によるものであり、鬼虎川遺跡全体を調査しているわけではないため墓地域がさらに広がる可能性もある。1966年当調査地より南300mの地点でII型の木棺の底板と側板が採集されているため別の墓地が存在する可能性もある。方形周溝墓は、今回の調査で27基を数える。このうち主体部が見つかり頭位が明確なものは16基21体である。頭位は北東方向をとるもの12体、南西方向のもの4体、南東方向のもの4体、東方向のもの1体となる。1墳丘の埋葬数は1~2基で3基以上のものはない。埋葬されている人骨の高さは当時の地形、墓壙の掘削の深さなどによって若干の変化は生じるが時期との関係で

多少の目安となるものと考えられる。鬼虎川遺跡で最も古いと考えられるのが第19号方形周溝墓の第2主体部人骨でT.P. +0.5mの高さにある。この主体部は木棺に収められず網代の上に自然木を組み合わせた箱型の中に収められている。第1主体部は長辺87cm、短辺23cmの底板の両側に小口板の大きさだけ抉りを入れ、小口板を墓壙底面より約10cm～15cm差し込んで組み合わせた木棺に収めている。小児用の木棺であるが転用材である。埋葬施設に定型のものが見られず試行錯誤の段階と考えられる。これは山賀遺跡に見られる中期初頭の木棺形式の多様性と酷似している^{注19}。第19号方形周溝墓周辺での主体部の人骨の高さは大体T.P. +1.1m前後である。東へ行けば高くなり第23号方形周溝墓第1主体部は1.95mを測る。ただ、今回の調査で方形周溝墓が2つの面に分れるのが確認できた。このことにより墓制の推移を考える資料になるものと思われる。埋葬の形式は最初は定型化したものがなかったがしだいに木棺形式^{注20}のIb型式が採用され中期後半になりII型式が出現する。中期中葉から後半になると土器棺による埋葬が増え、土壙墓へと移っていく。

方形周溝墓主体部の埋葬姿勢は第26号方形周溝墓第2主体部の人骨を除けば仰臥屈肢である。^{注21} 上肢は乗安和二三氏の分類によると第19号第2主体部がE E、第23号第1主体部がE E、第2主体部がE D、第24号主体部がD E、第25号第2主体部がB E、第26号第2主体部がA A、第9号土壙墓第1人骨がB C、第2人骨がC C、第10号土壙墓がE Eとなる。

今回の調査において合葬墓を初めて検出した。長径1.6m、短径1.2m、深さ0.2mの楕円形の墓壙に2人の死者を埋葬したもので2遺体の頭位方向が180度逆に置かれている。2体とも埋葬姿勢は仰臥屈肢で顔は双方とも南側を向いている。第1号人骨は男性で年齢20～40才、第2号人骨は成人女性又は12～13才の男性であった。下肢は脚を開き膝関節を軽く屈して菱形になるように置き、お互いの左脚(膝)が相手の首あるいは肩の上ののった形になっている。合葬墓については本間元樹氏^{注22}の論考があり、近畿地方周辺での合葬墓の検出は初めてのものである。既存の埋葬方法、形態とどのような意味があり位置づけられるのかはわからない。

埋葬の頭位や姿勢などは時代、地域、集団による差が大きく他界観と密接な関係がある。木棺の型式差の分析と合わせて考察することによってムラの構成の具体像に近ずき得るものと考えられるが今後の資料の増加を待ちたい。

第5表 鬼虎川遺跡方形周溝墓出土人骨一覽表

墓番号	人骨番号	性別	年 齡	埋 葬 状 態				
				頭 骨	胸 骨	右下肢骨	左下肢骨	下肢骨
2	1	女	成人	?	仰	伸	伸	屈
	2	?	小兒(3~4歳)	?	仰	屈(腹)	屈(腹)?	屈
4	3	?	小兒(4~5歳)	右下	?	?	?	?
5	4	男	熟年前半(40代)	底下	仰	屈(胸)	?	屈
	5	?	小兒(3~4歳)	底下	仰	?	?	屈
6	6	?	成人	?	?	?	?	屈
7	7	女	成人	左下	仰	屈	屈(腹)?	屈
8	8	?	壮年後半(30代)	?	?	?	?	?
11	9							
13	10							
18	11							
19	12	?	小兒?	?	?	?	?	?
	13	?	成人?	底下	仰	?	?	屈
20	14	?	6~10歳	底下	仰	屈(腹)?	?	屈
22	15	女	老年	右下	仰	屈(胸)	屈(胸)?	?
23	16	女	成人(20代後半)	右下	仰	?	?	屈
	17	男	壮年前半(20代)	底下	仰	屈	屈	屈
24	18		成人(30~40代)	左下	仰	屈	屈	屈
25	19	男	成人	?	?	?	?	屈
	20	女	壮年前半(30代)	右下	仰	屈(腹)	屈	屈
26	21	?	小兒(6歳未満)	?	?	?	?	?
	22	女	壮年後半(30代)	底下	仰	屈	屈	伸

第6表 鬼虎川遺跡方形周溝墓一覧表

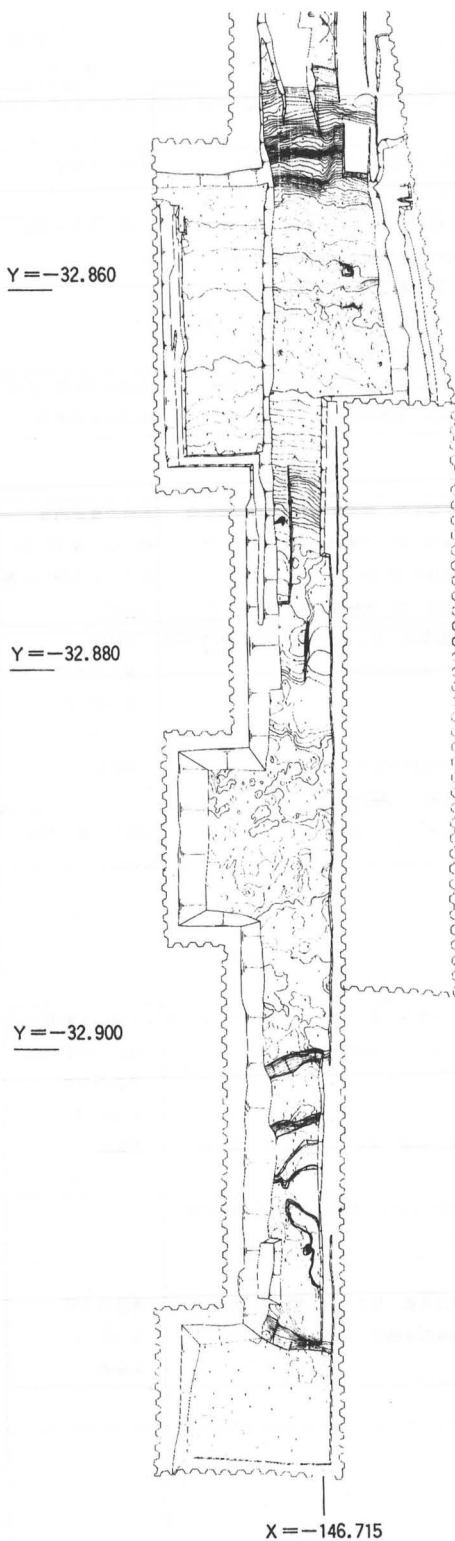
(単位m)

番号	墳丘形状	墳丘規模	高	墳丘主軸	周溝幅	深さ	主 体 部	備 考
1	隅丸長方形	6.2以上 3.6以上	0.2	N-55°-W N-40°-E	0.8	0.3~ 0.4		
2	隅丸長方形	3.5 4.3	0.28	N-50°-W N-30°-E	北東側 1.4 南東側 1.6	0.45 0.3	・第1主体部墓壙の長さ1.42 幅0.63 深さ0.05 長方形S-30°-W 木棺底板残存 ・第2墓壙主体部墓壙の長さ1.15 幅0.62 深さ0.4 で底面とし小口板の部分を幅0.1 深さ0.2 2段に掘る 長方形 S-19°-W 木棺は蓋、側板、小口板、底板が残る ・埋葬犬 墓壙の長さ0.81 幅0.41 深さ0.18 長方形S-38°-W 頭骨のみ残存	・人骨は仰臥屈肢 成人女性 ・人骨は頭骨大腿 骨が残存 仰臥屈肢 小児
3	隅丸長方形	5以上 3以上	0.16	N-50°-W N-35°-E	2.6	東0.5 西0.8		周溝北東側より壘、 甕、スコップ状鋤、 周溝北西側より鋤の 柄が出土
4	不明	3.2以上	0.3	N-57°-W	1.3	0.45	墓壙残存長0.6 幅0.5 深さ0.07 長方形 S-28°-W	人骨は頭骨のみ 成人
5	隅丸長方形	4.0 4.3	0.58	N-60°-W N-45°-E	0.95	0.3	・第1主体部墓壙の長さ1.5 幅0.6 深さ0.38 小口板の部分のみ幅0.21 深さ0.33で2段に掘 る 長方形 S-29°-W 木棺は蓋底板、小口板、底板が残る ・第2主体部墓壙の長さ0.8 幅0.4 深さ0.3 長方形S-37°-W 木棺は蓋のみ	人骨は仰臥屈肢 成 人男性 人骨は頭骨、大腿骨 仰臥屈肢 小児
6	隅丸長方形	4.3 3.8	0.3	N-60°-W N-35°-E	0.8	0.25	墓壙の長さ1.28 幅0.68 長方形 N-50°-E 木棺痕跡なし	人骨は胸部より 下半仰臥屈肢 南西側周溝より 甕出土
7	隅丸長方形	3.0以上 1.5以上	0.48	N-60°-W N-30°-E	2.0	0.28	墓壙の長さ1.72 幅0.91 深さ0.52 隅丸長方形N-46°-E 木棺は木口板の一部のみ	人骨は肋骨を除きほ ぼ残存 仰臥屈肢 成人女性
8	不明	1.5以上 3.2以上	0.68	N-60°-W N-30°-E	2.2	0.52	墓壙の長さ0.41以上 幅0.7 隅丸長方形 S-62°-E	人骨 頭骨のみ 30才代
9	不明	4.8以上 3.2以上		N-17°-W				
10	隅丸長方形	5.6 4.5	0.6	N-58°-E N-36°-W				
11	隅丸長方形	5.0 4.3		N-31°-E N-62°-E			中央北寄りに1体	
12	隅丸長方形	4 1.5以上		N-8°-W				
13	隅丸長方形	5.5 4.5以上					ほぼ中央に1体	
14	隅丸長方形	5 2	0.44	S-74°-E N-20°-E				
15	隅丸長方形	6.4 1.5	0.67	N-88°-W				
16	隅丸長方形	7.6 3.0	0.53	N-76°-E				

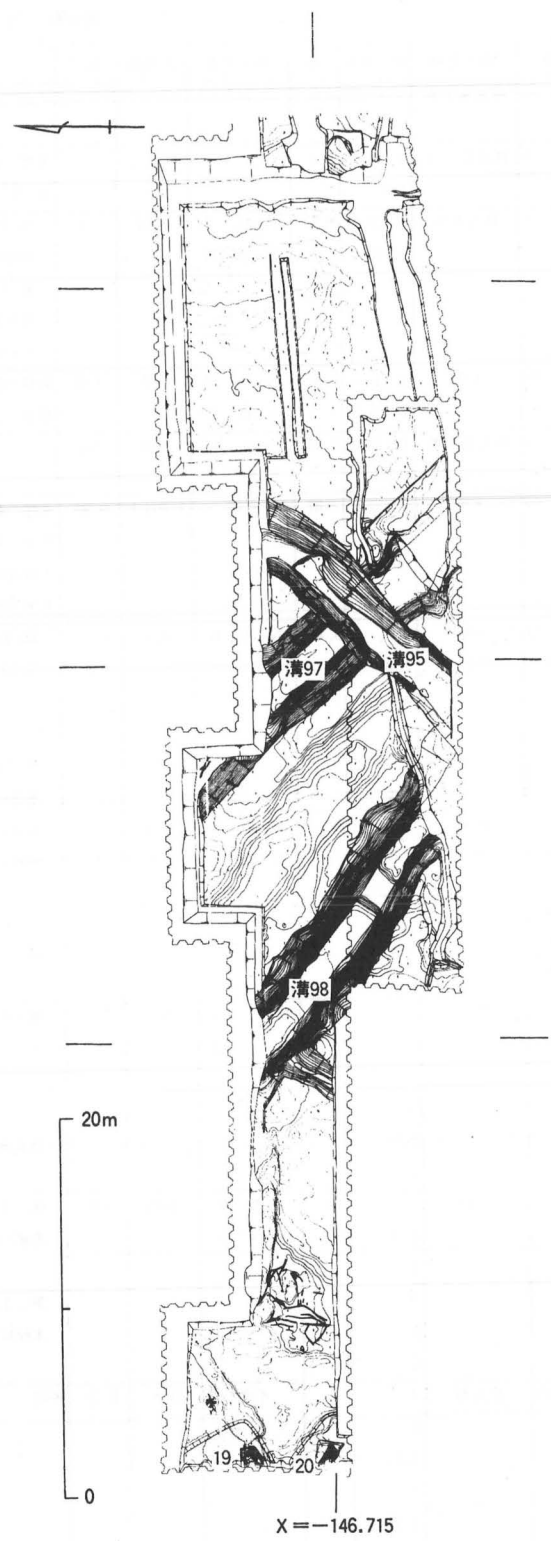
第6表 続き

(単位m)

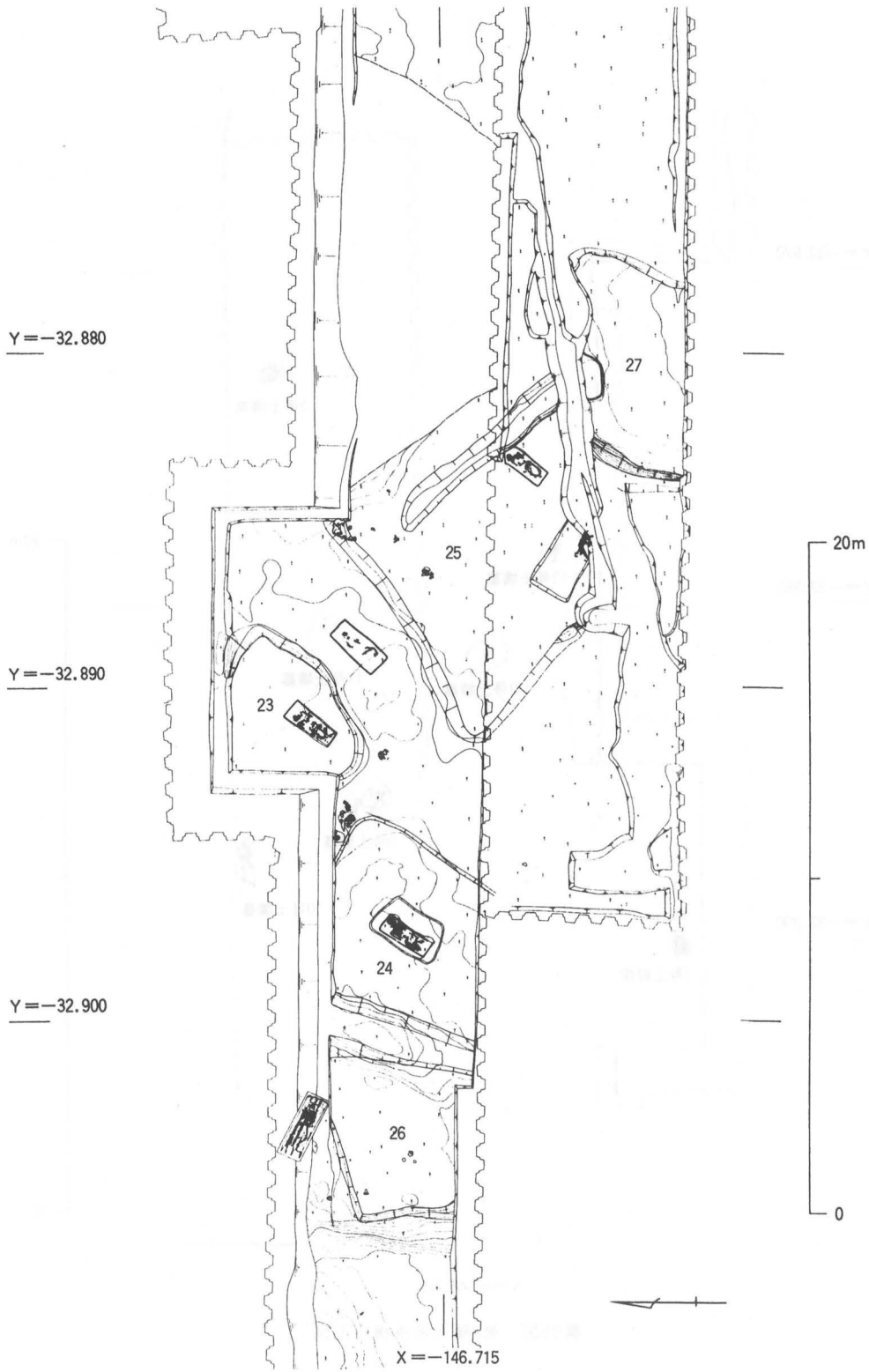
番号	墳丘形状	墳丘規模	高	墳丘主軸	周溝幅	深さ	主 体 部	備 考
17	隅丸長方形	3.0 1.5	0.2	N-85°-E				
18	隅丸長方形	3.0 1.3	0.5				木棺は蓋板、側板、小口板、底板が残る。 S-35°-W	人骨 大腿骨
19	隅丸方形	4.2以上 3.2以上	0.3	N-35°-E N-58°-W	不明	不明	・第1主体部墓壇の長さ0.95 幅0.42 木棺は長さ0.87 幅0.23の組み合わせ式 ・第2主体部墓壇の長さ1.8 幅1.0 深さ0.7 自然木を組み合わせた長さ1.3 幅0.7 深さ0.45の枠底面に綱代を敷く	人骨 小骨片のみ
20	不明	4.2以上 2.4以上	0.5	N-35°-W N-55°-E	不明	不明	墓壇の長さ1.35 幅0.7 組合式木棺で蓋板、側板、小口板、底板が残る。	人骨はほぼ完存 頭部 周辺に赤色顔料
21	隅丸長方形	1.5以上 6.6	0.35	N-5°-W N-85°-E	不明	不明		
22	不明	2.4以上	不明	不明	1.9以上	0.95	木棺の蓋板幅0.72 現存長1.05 南西側側板幅0.26 現存長0.98 南東側小口板上面幅0.41 下面幅0.33現存長0.28 北東側側板の一部 底板幅0.63 現存長0.97	木棺の推定内寸 幅0.56 深さ0.25 長さ1.4 木棺の主軸 S-36°-E
23	不明	上 3.8以上 4.5 下 4.2以上 5.4	0.68	N-50°-W N-35°-E	2.4	0.11	・第1主体部墓壇の長さ1.62 幅0.65 小口板の部分は2段に掘る 長方形 ・第2主体部墓壇の長さ1.75 幅0.78 木棺の長さ1.7 幅0.8	・仰臥位 遺体の方位 N-39°-E ・仰臥位
24	不明	上 5.0 5.5以上 下 5.1以上 5.6以上	0.5	N-60°-W N-35°-E	1~2	0.5	・墓壇の長辺2.0 N-30°-E 短辺1.2 N-70°-W ・木棺の長辺1.5 N-30°-E 短辺10.5 N-55°-W 北側側板のみ残存	人骨は全身が残る 仰臥位
25	不明	上 7.0 8.0 下 7.5 8.2	0.34	N-50°-W N-60°-E	3.7	0.3	・第1主体部墓壇 長辺0.95以上 幅0.5 深0.18 N-65°-W 木棺底板のみ残存 ・第2主体部墓壇 長さ1.3 幅0.53 深0.19	・人骨は大腿部以下 残存 仰臥屈肢 遺体の方位 S-30°-W ・仰臥位 N-37°-E
26	不明	上 4.9 4.9 下 5 5	0.1 0.5	N-5°-W N-70°-E	不明	不明	・第1主体部 ほぼ中央部で1歳ぐらいの乳児骨 墓壇不明 ・第2主体部墓壇 長さ2.03 幅0.75 深0.15 木棺は底板のみ残存 長さ1.9 幅0.6	・遺体の方位 S-36°-E 伸展葬
27	長方形	上 6 3以上 下 不明 3.5以上		不明 N-20°-E	0.8	0.35	不明	



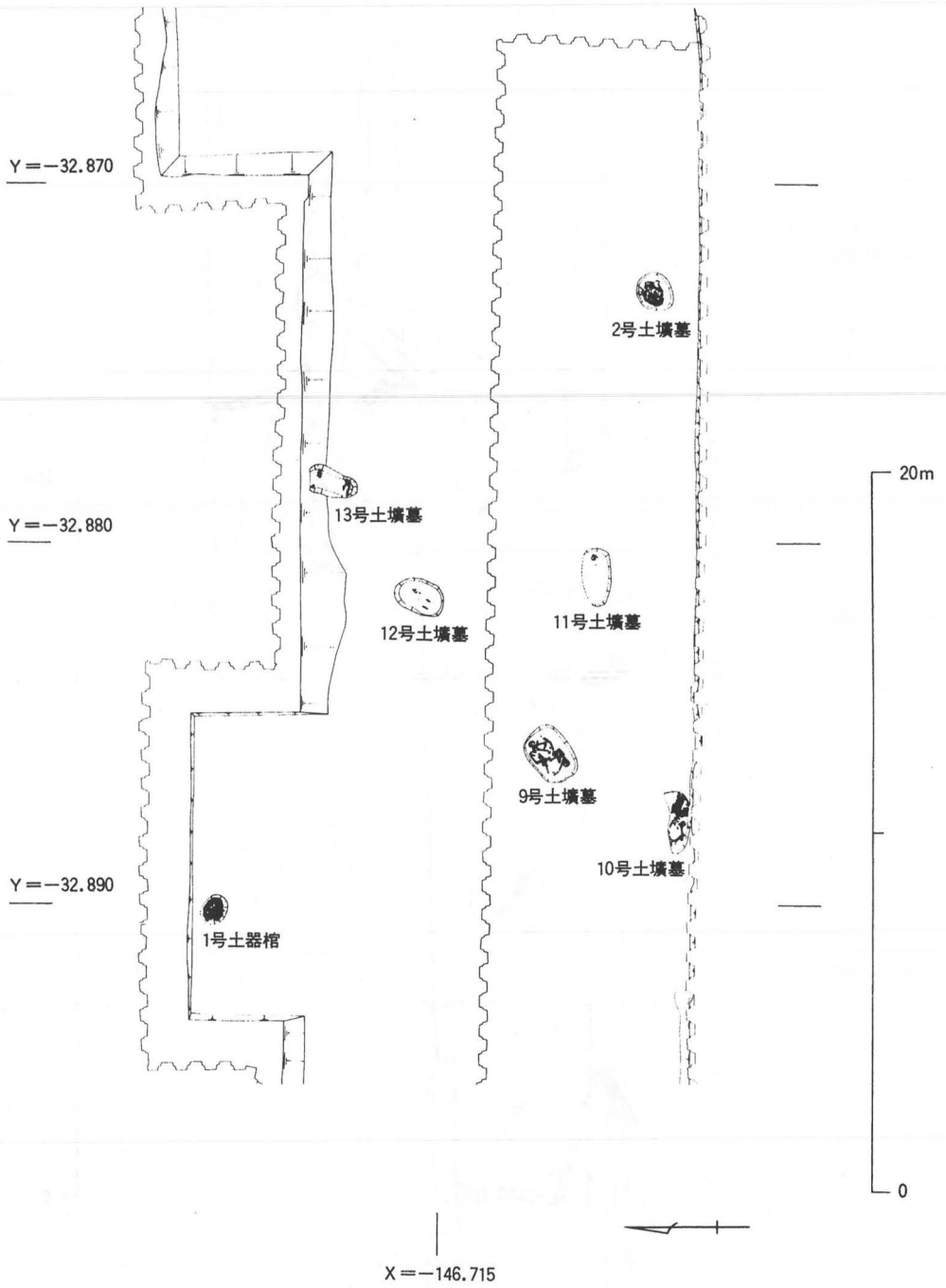
第92図 埋没海岸地形と
旧石器時代の河道



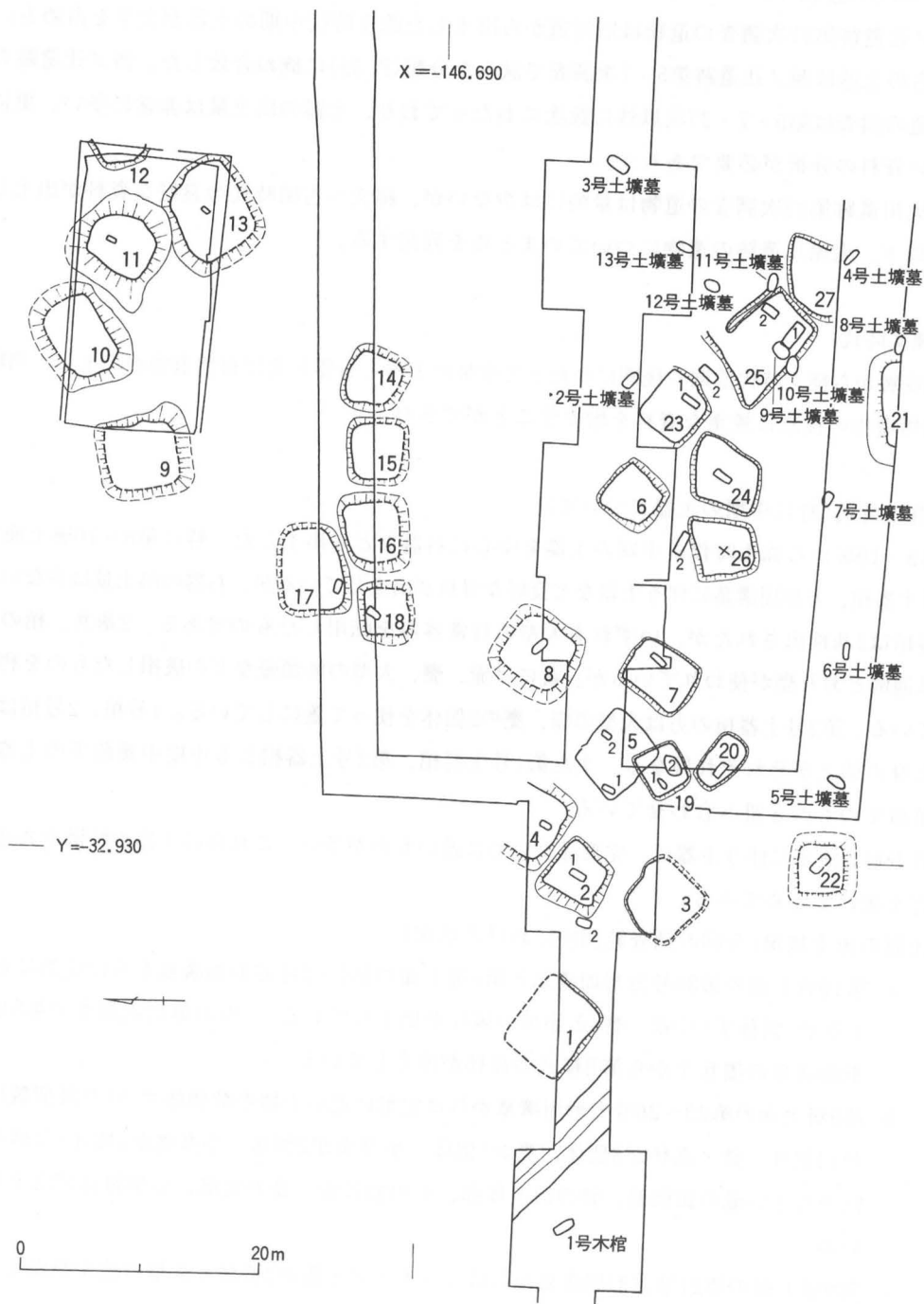
第93図 第10層上面遺構平面図



第94図 第9層上面遺構平面図



第95图 第8層上面遺構平面図



第96図 鬼虎川遺跡の墓の分布図

2. 出土遺物について

西ノ辻遺跡第27次調査の遺物は旧河道から出土した弥生時代中期の土器が大半を占める。これらの土器は西ノ辻遺跡第5・7次調査で試みた分類(P. 39)に概ね合致した。西ノ辻遺跡の旧河道の調査は第5・7・27次以外に数次にわたっており、土器の出土量は非常に多い。更に細かい資料の分析が必要であろう。

鬼虎川遺跡第32次調査の遺物は量的には少ないが、縄文～古墳時代の良好な資料が出土した。以下、鬼虎川遺跡の遺物についてのまとめを列記する。

1. 縄文時代

海成層から縄文時代前期～後期にわたって少量の土器・石器と共に自然遺物が出土し、当時の自然環境の復原に貴重な資料を増やすことができた。

2. 弥生時代(特に中期の土器について)

第8～10層から弥生時代の中期の土器を中心に石器なども出土した。特に第8～10層上面からは土器棺、方形周溝墓に伴う土器など良好な資料が出土しているが、石器の出土量は少ない。土器棺は2基検出されたが、いずれも大型の日常容器を転用したものである。2基共、棺の身には通例どおり甕が使われているが、蓋には壺、甕、大型の無頸壺などの破損したものを利用してしている。第2号土器棺の方は大型の壺、甕の2個体を使って蓋にしている。1号棺、2号棺は、蓋と身の胎土がそれぞれ異なる。また第1号土器棺、第2号土器棺とも中期中葉前半の土器と後葉前半のものを組み合わせている。

各方形周溝墓に伴う土器は、完形品や完形に近いものが多い。これらの土器の特徴や共通点などを次にまとめてみる。

土器の出土状況(今回の調査範囲内における状況)

- a. 第10層上面の第20号方形周溝墓と第9層上面の第5・7号方形周溝墓からは完形に近い土器が1個体ずつ(壺・甕)と少量の破片が出土している。(なお第12次調査で第5号方形周溝墓の墳丘上から第II様式の高杯が出土している。)
- b. 第9層上面の第23～26号方形周溝墓からは完形に近い土器が数個体ずつ(合計個数は壺が14個体、鉢・高杯が3個体、甕が1個体、小型壺が2個体、小型甕が1個体)と残存部位の大きい壺の頸胴部、鉢の口～体部、その他に壺・甕の底部、小型脚部が出土している。
- c. 第9層上面の第27号方形周溝墓からはミニチュア土器が2個体と少量の破片が出土している。
- d. 完形に近い土器には口縁部を打ち欠いたと考えられるものがある。
- e. 完形に近い土器や胴底部が残存する土器などに、焼成後の穿孔をもつ土器は11個体が確認できる。

f. 煮炊き用と考えられている甕以外の器種にも煤の付着がみられる。

完形に近い土器の器種、構成は第10層上面の方形周溝墓より第9層上面の方形周溝墓の方が多種多様になり、日常容器や、小型の壺、ミニチュア土器などがみられる。これらの土器にみられる口縁部の打ち欠き、胴底部への穿孔、残存部位が大きい土器への破砕行為は埋葬に伴う供献の意味をもつ儀礼、あるいは田代克己氏が述べられている「歌舞飲酒」の祭祀後に破棄するための行為などが考えられる。^{注23, 24}

その他の小破片の土器は少量であり、西ノ辻遺跡をはじめ他遺跡にみられるような、小破片が周溝内に一面に堆積している状況はない。

土器の時期

各方形周溝墓の時期を考えるために、出土遺物のなかでも出土量の多い壺A'0を中心に見ると、形態や施文などから、先に分類(P.39)を試みたものより更に壺A'0-1、A'0-2の2つに分けられる。

壺A'0-1(73・85・112)―縦長の胴部からくびれ部がはっきりしないまま頸部に続き口縁部が外反する。施文は頸部から胴部上半部まで直線文を施している。(73)は文様間をヘラ磨きし、(112)は文様帯の部位にハケ目調整がみられ、両方とも文様帯のすぐ下から底部までヘラ磨きで仕上げられている。内面の調整は(73)の頸部にはヘラ磨き、(112)の頸部にはハケ目を施している。(85)は不鮮明である。

壺A'0-2(101・102・108・112・121)―中頃で丸く張り出す胴部からくびれ部をはっきりつくり、長い頸部が続く。施文は口縁部端面と頸部から胴部半ばまで文様を施しており、A'0-1より施文部位が広く、直線文を中心に波状文、扇形文、簾状文が加わる。外面の調整は(112)と同じ手法である。文様のない(121)も、他の壺が文様を施す部位にハケ目、その下から底部までヘラ磨きを施している。内面の口縁部付近には横方向の粗いハケ目を施しており、「大和型」の甕の調整に似る。

櫛描き文をみると、施文原体の幅は1cm前後で直線文はA'0-1、A'0-2とも水平ではなく、波状になっているものが多い。直線文の繋ぎ目は段違注26いになって重複したものがみられる。

これらの特徴から壺A'0-1は弥生時代前期後半のb形態に続くものであり、壺A'0-2は次の段階に入るものと考えられる。更には口縁部の発達がみられる壺A'1(111・112)が続く。また壺A0(120)は壺A'0-2と同じぐらいの時期のもので、壺B1(100)、水差B(177)は壺A'1と前後する時期のものと考えられる。全体的に弥生時代中期前半から中葉にかけての土器が多いなかで、第26号方形周溝墓の直口壺(129)、台付鉢B2(132)は口縁部に軽いナデによる凹線文が施されており、弥生時代中期中葉から後半の時期のものと考えられる。更に第27号方形周溝墓の小破片のグループのなかに凹線文を多条に施すものがみられる。

第10層上面の溝95~98から出土した土器の中で完形に近い壺類をみると、溝95の壺A'0-1(58)、溝96の壺C0(64)、溝98の壺A'0-2(70)などは、先にみてきた第5・20号方形周溝墓と第23~25号方形周溝墓の間の時期ぐらいのものである。

第8層上面の第2号土器棺の甕B₀(158)と共伴した壺A'₀₋₁(159)は他の土器棺に使われたものより古い様相をもっている。

以上、各土器の属性をみてきたが、各遺構から出土した土器の時期は次のように考えられる。

- ・ 第20号方形周溝墓・溝95～98(第10層上面)、第5・7号方形周溝墓(第9層上面)
 - － 弥生時代中期初頭～中葉前半
- ・ 第23～25号方形周溝墓(第9層上面)－ 弥生時代中期中葉前半
- ・ 第26号方形周溝墓(第9層上面)－ 弥生時代中期中葉後半～中葉後半
- ・ 第27号方形周溝墓(第9層上面)－ 弥生時代中期中葉後半～後葉前半
- ・ 第1・2号土器棺墓・土墳墓(第8層上面)－ 弥生時代中期中葉前半～中期後葉前半

土器の胎土

土器の胎土は、西ノ辻遺跡第7次調査、第27次調査で出土した資料と比較すると、鬼虎川遺跡の方が生駒西麓産といわれる a 類の土器のなかに他地方産といわれる c 類の土器が目立つ。(全体の出土土器では a : b : c がだいたい 2 : 1 : 1 の割合である。因みに西ノ辻遺跡第27次調査の資料では 7 : 1 : 1 ぐらいになる)

各方形周溝墓毎に完形に近い土器、穿孔をもつ土器などを胎土別に第7表に示す。

方形周溝墓に伴う土器の胎土別の個数は、a 類 > c 類 > b 類の順になる。a 類の胎土の土器は壺類が多く、c 類の土器は多種類にわたる。因みに西ノ辻遺跡第7次調査の弥生時代中期中葉後半～中期後葉前半の方形周溝墓から出土した完形に近い「主な土器」の胎土は a 類が全体の 2/3 位を占めている。また、西ノ辻遺跡第5次調査で出土した土器のなかで、中期初頭～中葉前半の時期のものには c 類の胎土が目立っていた。本遺跡の弥生時代前期の土器は、出土量

第7表 方形周溝墓出土土器の胎土別分類表

胎土 方形周溝墓	a 類	b 類	c 類
第20号	壺A' ₀₋₁ (73)		
5	甕A ₁₋₀ (75)		
7			壺A' ₀₋₁ (85)
23	壺B ₁ (100) 壺A' ₀₋₂ (101・102)		
24	高杯B ₁ (106)	無類壺B ₁ (105)	
25 (C-3)		壺A' ₀₋₂ (108)	壺D ₁ (109)
25 (C-7)	壺A'(111) 壺胴部(115)	壺A' ₀₋₂ (112) 高杯A ₀₋₁ (119)	水差B(113)
25 (C-10)	壺A ₀ (120) 壺A' ₁ (122) 甕C(126)	壺A' ₀₋₂ (121)	壺C ₀ (123) 細頸壺C(124)
26	甕底部(135) 壺底部(136)	壺D ₁ (130) 甕A ₂₋₄ (131)	直口壺(129) 台付鉢B ₂ (132) 鉢A ₁ (133) 甕A底部(134)
27	ミニチュア鉢(141)		ミニチュア鉢(142)

が少ないものの、大部分が生駒西麓産の胎土のものである。中期前半の時期に他地域産の土器が増える(中葉以降にまた生駒西麓産の土器が大部分を占める)状況は、瓜生堂遺跡などにみられた、弥生時代前期末の大洪水などの自然環境の影響のために人々の交流が頻繁になったのか、新しく回転台を使う土器製作者と共に粘土も運ばれてきたのかなどの要因が考えられる。亀井遺跡では時期毎にかつ器種毎に、生駒西麓産のものと非生駒西麓産のもの出土比率が異なる事実をくわしく述べておられる。今後、更に検討をしていきたい。

3. 古墳時代(特に韓式系土器について)

今回の調査では包含層から韓式系土器の良好な資料が出土している。韓式系土器が出土した市内の遺跡は、現在までで10数カ所にのぼる。

器種は甑・鍋・平底鉢・長胴甕などがみられる。調整手法別にみると、外面に縄蓆文の叩き目を施した甑・甕・鍋、平行叩き目を施した平底鉢・甑、格子叩き目を施した長胴甕・平底鉢があり、叩き目の上に沈線が巡るものもある。甑・鍋の把手には切り込みが入っている。内面にはナデ、指押えのような調整がみられるが、亀田修一氏が論じておられる「無文の当て具」を使用した可能性もある。1点のみ同心円状の当て具痕がみられる。色調は弥生土器と同じく淡灰白、淡橙色、茶褐色などを呈し、胎土も芋本氏らの分類法によると a・b・c 類の3種類がみられる。なかには角閃石とくさり礫を多量に含むものがある。甕・平底鉢は煮炊き用の日常容器に使用されており、煤の付着がみられる。

いずれも古墳時代中頃までのものと考えられる。

注

1. 『西ノ辻遺跡・鬼虎川遺跡—西ノ辻遺跡第6次、第7次、第8次調査 鬼虎川遺跡第18次調査概要報告書—』東大阪市教育委員会 財団法人東大阪市文化財協会 1988年
2. 『鬼虎川遺跡第29・30次発掘調査報告』東大阪市教育委員会 財団法人東大阪市文化財協会 1988年
3. 佐原眞「畿内地方」『弥生式土器集成本編2』1968年
4. 芋本隆裕「出土遺物」・奥田尚「土器胎土の砂礫種とその採取地」『西ノ辻遺跡第23次発掘調査報告』財団法人東大阪市文化財協会 東大阪市教育委員会 1992年
5. 『鬼虎川遺跡第12次発掘調査報告』財団法人東大阪市文化財協会 東大阪市教育委員会 1987年
6. 前掲注2
7. 『鬼虎川遺跡第19次発掘調査報告』財団法人東大阪市文化財協会 東大阪市教育委員会 1988年
8. 福永伸哉「弥生時代の木棺墓と社会」『考古学研究』第32巻第1号 考古学研究会 1985年

9. 原田昌則「澁川廃寺」『韓式系土器研究 III』韓式系土器研究会 1991年
10. 才原金弘「東大阪市内の製塩土器 II」『紀要 I』財団法人東大阪市文化財協会 1985年
11. 曾我恭子「出土遺物」『神並遺跡 I』東大阪市教育委員会 財団法人東大阪市文化財協会 1986年
12. 下村晴文「鬼虎川遺跡出土の羽釜新資料」『協会ニュース』Vol.1 No.1
財団法人東大阪市文化財協会 1985年
13. 『神並・西ノ辻・鬼虎川遺跡発掘調査整理概要 II—東大阪市東石切町・西石切町所在—』
大阪府教育委員会 1985年
14. 大阪市立大学医学部解剖学第2講座 多賀谷 昭氏の鑑定による。
15. 『鬼虎川遺跡第7次発掘報告3—遺構編—』財団法人東大阪市文化財協会 1984年
16. 『神並・西ノ辻・鬼虎川遺跡発掘調査整理概要 III—東大阪市東石切町・西石切町所在—』
大阪府教育委員会 1986年
17. 「西ノ辻遺跡第26次発掘調査概報」『(財)東大阪市文化財協会概報集 1989年度』
財団法人東大阪市文化財協会 1990年
18. 前掲注1
19. 春成秀爾「弥生時代畿内の親族構成」『国立歴史民俗博物館研究報告』第5集
国立歴史民俗博物館 1985年
20. 前掲注8
21. 乗安和二三「西日本における弥生人の埋葬姿勢」『考古論集 潮見浩先生退官記念論集』
潮見 浩先生退官記念事業会 1993年
22. 本間元樹「弥生時代の合葬人骨」『考古論集 潮見浩先生退官記念論集』潮見 浩先生
退官記念事業会 1993年
23. 田代克己「いわゆる方形周溝墓の供献土器について」『鳥越憲三郎博士古希記念文集・
村落構造と他界観』雄山閣 1985年
24. 吉田秀則「滋賀県下の方形周溝墓の“供献土器”について」『紀要』第3号
財団法人滋賀県文化財保護協会 1990年
25. 前掲注1
26. 前掲注3
27. 田代克己、中西靖人他『瓜生堂遺跡 II』瓜生堂遺跡調査会 1973年
28. 広瀬和雄「弥生時代 A土器」『亀井(その2)』近畿自動車天理～吹田線建設に伴う埋
藏文化財発掘調査概要報告書 財団法人大阪文化財センター 1987年
29. 亀田修一「陶製無文当て具小考」『生産と流通の考古学』横山浩一先生退官記念論文集 I
横山浩一先生退官記念事業会 1989年
30. 前掲注4

VI 鬼虎川遺跡第32次調査出土の 弥生時代中期人骨について

大阪市立大学医学部解剖学第2講座 多賀谷 昭

土墳墓から3体、方形周溝墓から9体、計12体の人骨が出土している。いずれの個体も、残存部位は多いが、保存状態が不良であるため、骨、歯とも、取り上げて詳細な検討を行うことができなかった。大部分が成人(うち男性5体、女性3ないし4体)で、乳児はふくまれていない。男女ともほぼ北東を頭位とするものが多く、姿勢の判明しているものはすべて仰臥位で、膝をほぼ直角に曲げ、合葬された1・2号人骨以外は立て膝の状態である。

1号・2号人骨(第9号土墳墓)：頭位は1号が北東、2号が南西で、ともに顔面を南に向けて仰臥位で埋葬されている。2体ともほぼ全身にわたる骨が残るが、肋骨は痕跡的である。互いに左膝を相手の頰の付近の上に置いていることから、同時に埋葬されたことが明かである。他の人骨と異なり、屈した膝を左右に開いており、1号では左肘も体側から離れている。1号は右手を胸部、左手を腹部の上に置き、2号では、右手は右肩、左手は右肘付近にある。1号人骨は頑丈で成人男性と推定され、2号はやや小さく、未成年者あるいは小柄な成人女性と思われる。大腿骨の長さは1号が43cm程度、2号が36cm程度とみられ、これらから推定した身長は、1号が約162cm、2号が約143cmである。

3号人骨(第10号土墳墓)：ほぼ全身にわたる骨が残る。東を頭位とし、顔面を右に向けて仰臥位で埋葬されている。各骨の位置関係はほぼ埋葬時の状態を保っていると思われる、下顎も関節した状態にある。左右上腕は体幹に並行し、肘関節は全屈する。左右下肢は立て膝の状態であったと推定されるが、左下腿は回転して後面が上になっている。骨の大きさは成人のもので、大坐骨切痕は狭く、男性と判定される。

4号人骨(第24号方形周溝墓)：ほぼ全身にわたる骨が残る。頭位は北北東で顔面を左に向ける。下顎と下肢が原位置から多少動いているが、軟部の腐敗に伴うものとみられる。仰臥位で、上腕は体幹に並行し、右肘は直角に近く曲げ、左肘は全屈する。膝は約60度に屈曲し、立て膝の状態にあったものが左から先にくずれたものと推定される。全体に大きく、男性と推定される。右大腿骨最大長は約44cmで、推定身長は164cmとなる。年齢は、歯の咬耗から30ないし40代と推定される。

5号人骨(20号方形周溝墓)：残存部位は胸部から上のみで、変形が著しい。頭位は南南東で、顔面はやや左に向く。右下顎に釘植する歯は第1大臼歯と2本の乳臼歯とみられ、年齢は6から10歳と推定される。性別は判定できない。

6号人骨(23号方形周溝墓第1主体部)：北東を頭位とし、仰臥位で埋葬されている。残存部

位は全身にわたるが、胴骨はほとんど残っていない。下顎骨の位置から、埋葬時には顔面が上に向いていたと思われる。下肢骨の配置は、立て膝の状態で見られる。大坐骨切痕は広く、女性と判定できる。左上顎第2大臼歯には、第3大臼歯が隣接していたことを示す摩擦面がある。年齢は、歯の咬耗状態から20代後半と推定される。

7号人骨(第26号方形周溝墓第1主体部)：頭骨の破片のみが残存する。遊離した下顎乳切歯が存在するので、6歳未満の小児と推定される。性別は不明である。

8号人骨(第26号方形周溝墓第2主体部)：ほぼ全身にわたる骨が残る。東南東を頭位とし、仰臥位で埋葬され、いずれの骨もほぼ原位置にあるが、頭骨は底面が上に向き、顔面の元の向きは不明である。下肢では、右膝のみ伸びた状態にあるが、大腿骨、脛骨とも後面を上に向けているので、原位置から動いている可能性が大きい。釘植する右上下顎第2大臼歯の咬面には象牙質の露出が点状にみられ、年齢は30代と推定される。大坐骨切痕は広く、女性と判定される。

9号人骨(第19号方形周溝墓第2主体部)：網代の上に北東を頭位として仰臥位で埋葬されている。保存状態はきわめて不良で変形が著しい。下肢は残存しない。大きさからみて、年齢は思春期以上と推定される。性別は不明である。

10号人骨(第23号方形周溝墓第2主体部)：頭骨と四肢長骨だけが残存する。四肢骨はいずれも骨体の一部のみである。北東を頭位とする仰臥位で埋葬され、上肢は左右とも肘を全屈して手を肩の付近に置き、下肢は両膝を120度程度に屈して左方に傾けている。上下顎骨歯槽部が残存し、上顎左犬歯から第1大臼歯、下顎左第1、第2大臼歯が釘植する。大腿骨は頑丈で粗線が発達し、男性的である。第1大臼歯は象牙質が点ないし面状に露出しており、年齢は20代と推定される。

11号人骨(第25号方形周溝墓第2主体部)：頭骨と四肢骨が残存する。北東を頭位として仰臥位で埋葬され、顔面は右に向く。上肢は両肘をほぼ直角に曲げ、左手を胸部、右手を腹部の上に置く。下肢では、下腿骨の上に大腿骨が重なって検出されており、埋葬時には膝を60度程度に屈曲していたと推定される。歯は下顎左犬歯から第1大臼歯と上顎の切歯と思われるものが釘植して残存する。骨は全体にややきゃしゃで、壮年女性と推定される。

12号人骨(第25号方形周溝墓第1主体部)：下肢骨のみが検出されており、頭位は南東であったと推定される。残存する骨は、右寛骨の破片と左右大腿骨以下の下肢骨のほぼ全部で、右膝関節以外は接続した状態を保っている。左大腿骨と脛骨、腓骨は関節したままの状態ですぐに倒れ、その上に右腓骨、右脛骨、右大腿骨が順に重なっている。これらの位置関係から、埋葬時の姿勢は仰臥位で、膝を約60度に曲げてまっすぐに立てた状態であったと推定できる。大腿骨最大長は45cm以上で、推定身長は166cm以上となり、この骨の主は当時としてはやや大柄な成人男性であったと推定される。

VII 鬼虎川遺跡第32次調査出土 花粉及び珪藻分析報告

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

鬼虎川遺跡は東大阪市西石切街5丁目、7丁目、弥生町、宝町を中心に東西640m、南北850mと推定される縄文時代から江戸時代にかけての複合遺跡である。地形的には河内平野東端の沖積地から、その東側の海成段丘上にかけて位置する。今回の32次発掘調査では、縄文海進時に形成された波食崖が検出された。

今回の調査では、本遺跡における約2万年前以降の古環境復元を目的として、珪藻分析・花粉分析を実施する。各分析の目的は珪藻分析が地層の堆積環境の復元、花粉分析が遺跡周辺の古植生復元を行うことにある。なお、両分析の調査試料数はともに77点である。

1. 試料

試料は、調査区内の西側よりB・C・D地点から発掘調査担当者により採取された。各地点の堆積層の層相および試料採取層準を図1・2・3に示す。この際、調査地点の層序については発掘調査担当者の見解に基づいている。

B地点

本地点では低位段丘構成層の断面が観察された。標高-1.4 mより下位の堆積層が低位段丘構成層に相当し、その上位に不整合で縄文海進期の砂礫層が堆積する。低位段丘構成層は砂・シルトなどの細屑物で構成されている。この上部(試料番号1層準)には、約2.1~2.2万年前に九州の始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰(AT:町田ほか、1976)がブロック状に狭在する。分析試料は、AT層準から発掘調査低面にかけて層位試料として24点が採取された。

C地点

本地点では低位段丘構成層の上位に堆積する沖積層下部相当層の下半部の断面が観察された。堆積層の層相は砂・シルトといった細屑物から構成されており、数層に層序区分される。この上部には倒木や球果などの植物遺体を含む有機質堆積物を狭在する。本層は発掘調査時にpicea層準とよばれており、調査区内および東側に隣接する西ノ辻遺跡において面的に連続して確認されている。なお、本層中から出土した球果の種類はトウヒ・ヒメコマツに同定されている。試料はpicea層準から発掘調査低面にかけて層位試料として16点が採取された。

D地点

本地点では沖積層下部相当層上半部の断面が観察された。堆積層は礫・砂・シルトなど細屑物から構成されており、層相より数枚の堆積層に区分される。この堆積層中には少なくとも2

層準(標高0.75m・2.9m)に有機質堆積物の堆積が認められる。このうち、下位のもはC地点の上部で認められたpicea層準に相当する。また、本堆積層上部(標高3.85m)には1万数千年前に噴出したとされる阪手火山灰(吉川ほか、1986)を狭在する。試料は上位から下位にかけて層位試料として41点が採取された。

2. 珪藻分析

2-1. 分析方法

湿重約10gについて、過酸化水素水と塩酸により試料の泥化と有機物の分解・漂白を行う。分散剤を加えた後、蒸留水を満たし放置する。その後、上澄み液中に浮遊した粘土分を除去したうえで、珪藻殻の濃縮を行う。この操作を4~5回繰り返す。次に、L字形管分離で砂質分の除去を行い、検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下して乾燥させる。乾燥した試料上に封入剤のプリユラックスを滴下し、スライドガラスに貼り付け永久プレパラートを作製する。

検鏡は、油浸600倍または1000倍で行い、メカニカルステージを用い任意に出現する珪藻化石が200個体以上になるまで同定・計数した。なお珪藻殻が半分以上破損したものについては同定・計数は行っていない。珪藻の同定については、K.Krammer & Lange-Bertalot(1986・1988)などを参考にした。

2-2. 結果の表示方法

群集解析にあたり個々の産出化石は、まず塩分濃度に対する適応性により、海水生、海水~汽水生、汽水生、淡水生に生態分類し、さらにその中の淡水生種は、塩分、pH、水の流動性の3適応性についても生態分類し表に示した(第8~10表)。

堆積環境の変遷を考察するために珪藻化石が100個体以上も検出された試料について珪藻化石群集変遷図を作成した(第97~99図)。出現率は化石総数を基数とした百分率で表し、2%以上の出現率を示す分類群についてのみ表示した。(図中の●印は、総数が100個体以上産出した試料うち1%以下の種を、○印は総数100個体未満の場合の産出を示す)。図中には、海水生・汽水生・淡水生種の相対頻度と淡水生種を基数とした塩分・pH・流水の相対頻度について図示した。また、産出した珪藻化石が現地性かあるいは他の場所から運搬堆積した異地性の化石であるかを判断する基準の一つとして殻の破損していないものを完形殻、破損したものを非完形殻として表示した。

2-3. 結果

B地点

珪藻分析を行った18試料のうち、堆積環境の推定に必要なだけの量の珪藻化石が産出した試料は2試料(試料番号1および3)のみであり、他の試料は極めて少ないかまたは皆無であっ

た。

多産して試料の産出種群の特徴は、2試料とも比較的類似しており、陸生珪藻(小杉、1986)および流水不定性種が多産している点にある。

完形殻の出現率は、両試料とも50%以下であり、殻の保存状態は悪い。

C地点

分析を行った15試料のうち、豊富な産出量をみたものは、7試料である。そのうちの5試料は上部付近であり、他2試料最下部である。

産出種群の特徴は、全体にばらつきの大い混合群集であるが、すべての試料について流水不定性種が卓越し、上位では陸生珪藻が、下位では好流水性種が多産している傾向が認められる。

完形殻の出現率は、平均して50%以上であり、化石殻の保存状態としては良好といえる。

D地点

分析を行った44試料のうち珪藻化石が多産した試料は、4試料で他は少ないかまたは皆無であった。産出した珪藻化石は、すべて淡水生種である。

多産した4試料の種群の特徴は、流水不定性種が卓越する傾向にあるが、試料番号27については、陸生珪藻が多産している。

完形殻の出現率は、すべて50%以上であり、化石殻の保存状態としては良好といえる。

2-4. 考察

B地点

本地点は、分析層準の最上部で珪藻化石が多産し、なかでも陸生珪藻が卓越する傾向が認められた。これらは、水中や水底の環境以外のたとえばコケを含めた陸上植物の表面や岩石の表面、土壌の表層部など大気に接触した環境に生活する一群(小杉、1988)である。特に、本試料から産出した陸生珪藻は、離水した場所の中で乾燥に耐えうることのできる群集とされる(伊藤・堀内、1989・1991)。また、流水不定性種の2種(*Ropalodia gibberula*、*Amphora ovalis* var. *affinis*)が卓越して認められるが、これらは海成層から検出された例も多く認められる(安藤・南雲、1983; etc.)。また、田中(1987)によると、群馬県で発掘された古代水田からも本種が多産しており、当時の水田土壌に、多量に出現したことは、水田の水が塩類を豊富に含んでいたことを示しているとしている。さらに、奥平温泉(田中・中島、1985)、四万温泉(福島、1950)など塩類を多く含んだ温泉からの報告も多い。

以上、陸生珪藻および流水不定性種2種の多産と層相を考慮して、堆積当時の環境を推定すると、層相は砂混じりの有機質シルトであるため基本的には安定している水域で塩類濃度の高い湿地の環境であったと推定されるが、比較的乾くようなことがあったり、砂を含む点から流水の影響を受けることもあったことが考えられる。

C地点

下位の試料番号15・16付近では、好流水性種が多産し、層相をみても礫等を含む粗粒な堆積物であることから、河川の中あるいは洪水等によって流水の環境下で短期間に堆積したことが推定される。

上位については、陸生珪藻が多産していること、また層相がシルトおよび有機質の粘土で構成される層であることから下位に比較すれば静穏な湿地等の環境が推定される。

D地点

試料番号27については、陸生珪藻を主体とし流水不定性種を伴う群集であり湿地から沼沢地の環境が推定される。

試料番号37～40においては、流水不定性種が多産し、好流水性種を伴う群集である。層相については、シルトを主体とするものの材片や砂質分を多く含む堆積物である。

したがって、流水の影響を強く受ける沼沢地の環境が推定される。

3. 花粉分析

3-1. 分析方法

湿重約10gの試料について、HF処理、重液分離(ZnBr₂:比重2.2)、アセトリシス処理、KOH処理の順に物理・化学処理を施し、花粉・孢子化石を分離・濃集する。処理後の残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査しながら出現する種類(Taxa)の同定・計数を行う。

結果は、同定・計数結果の一覧表と花粉化石群集の層位分布図として示す。なお、図表中で複数の種類をハイフンで結んだものは、種類間の区別が困難なものである。また層位分布図中の各種類の出現率は、木本花粉が木本花粉総数、草本花粉・シダ類孢子が総花粉・孢子数から不明花粉を除いた数を基数として百分率で算出してある。

3-2. 結果

B地点

花粉分析の結果を第11表・第100図に示す。花粉分析を行った試料のうち、試料番号1以外の試料では花粉化石が少なく、わずかに検出された花粉化石の保存状態は悪い。

試料番号1の花粉化石群集は、木本花粉では針葉樹のモミ属・マツ属・ヒノキ型、落葉広葉樹のコナラ亜属、照葉樹のアカガシ亜属の産状が目立つ。このほかクマシデ属-アサダ属、トチノキ属などを伴う。草本花粉は低率であり、イネ科、ヨモギ属などがわずかに出現する。シダ類孢子は高率に出現する。

C地点

花粉分析の結果を第12表・第101図に示す。花粉分析を行った試料のうち、試料番号1～4からは花粉化石が良好に検出されたが、この他の試料では花粉化石が少なく、統計的に扱えるだけの化石が得られなかった。

試料番号4~1の花粉化石群集は層位的に大きく変化しない。木本花粉ではモミ属・ツガ属・トウヒ属・マツ属単維管束亜属などの針葉樹の種類が高率に出現する。特にトウヒ属の出現率が著しく高い。このほかカバノキ属・ハンノキ属・コナラ亜属・シナノキ属などの落葉広葉樹の種類を伴う。草本花粉ではカヤツリグサ科が3・2・1で比較的多産する。このほか、イネ科、フウロソウ属、ヨモギ属などが随伴ないし稀に出現する。

D 地点

花粉分析の結果を第13表・第102図に示す。花粉分析を行った試料のうち、試料番号14・15・36・38~40では花粉化石が比較的良好に検出されたが、この他の試料では花粉化石が少なく、統計的に扱えるだけの化石が得られなかった。

試料番号40~36の花粉化石群集は層位的に多少変化するものの急激な変化はしない。木本花粉ではモミ属・ツガ属・トウヒ属・マツ属(単維管束亜属を含む)などの針葉樹の種類が高率に出現する。特にトウヒ属・マツ属単維管束亜属の出現率が高い。このほかカバノキ属・ハンノキ属などの落葉広葉樹の種類をわずかに伴う。草本花粉は試料番号38でカヤツリグサ科が比較的多産する以外は低率であり、カラマツソウ属、キンボウゲ科、ヨモギ属などが随伴ないし稀に出現する。

試料番号15・14の花粉化石群集は、木本花粉では針葉樹のツガ属・トウヒ属・マツ属が高率に出現する。草本花粉はヨモギ属、カラマツソウ属がわずかに出現するだけである。シダ類胞子は高率に出現する。

3-3. 若干の考察

B・C・D各地点の堆積層では花粉化石が少ない層準がほとんどであった。このような花粉化石の産状の原因については不明であるが、堆積層の層相から堆積速度が速く取り込まれる化石が少なかったこと、わずかに検出される花粉化石の保存状態が悪いことから好氣的条件下における酸化や微生物活性などによる分解などの可能性が考えられる。したがって、ここでは花粉化石が良好に検出された層準に限って、当時の古植生について述べることにする。

・AT層準(B地点試料番号1)

花粉化石群集は、針葉樹のミモ属、落葉広葉樹のコナラ亜属、アカガシ亜属の多産が特徴である。ATが噴出した約2.1~2.2万年前の時期は最終氷期の中でも最も寒冷な時期に相当する。この時期の花粉化石群集は、兵庫県多紀群の板井・寺ヶ谷遺跡(大井ほか、1985)などで認められているようにトウヒ属・マツ属単維管束亜属など寒冷気候を示唆する種類の出現により特徴づけられる。本遺跡のA地点でもAT直上の花粉化石群集はトウヒ属・マツ属などの多産する群集が認められている。また、いずれも暖温帯常緑広葉樹林の主要素であるアカガシ亜属花粉は検出されていない。このことから、今回のAT層準の花粉化石群集は当時の森林植生を反映しているとは考えにくく、上位の沖積層からの落ち込みなどの影響を受けていると思われる。したがって、本層準に関しては再検討が必要である。

・ Picea層準およびその前後の層準(C地点試料番号1~4:D地点試料番号40~36)

花粉化石群集は、モミ属・ツガ属・トウヒ属・マツ属単維管束亜属などの針葉樹が高率に出現することが特徴である。これらの針葉樹の種類が、この時期の森林植生を構成していたとみられる。トウヒ属・マツ属単維管束亜属に含まれる種の多くは、現在では冷温帯上部~亜寒帯に分布の中心がある。このことから、当時の針葉樹林は亜寒帯性の森林であった可能性がある。Picea層準の堆積年代に関しては、現時点では不明であるため、周辺地域との比較は今後の検討課題とする。

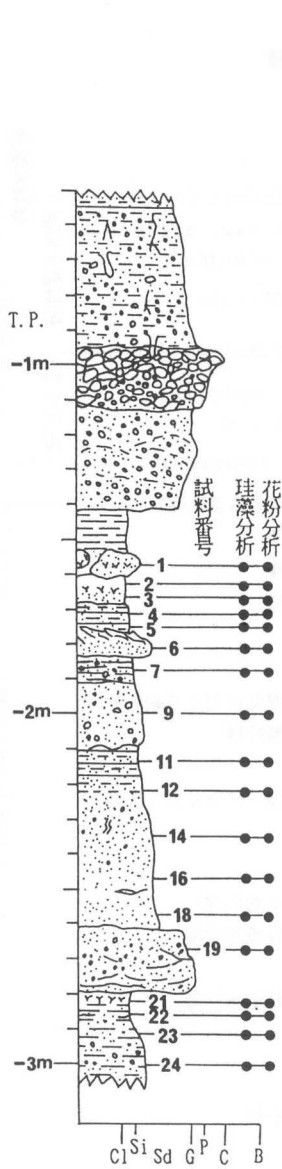
・ Picea層準と阪手火山灰の間の有機質堆積物(D地点試料番号14・15)

本層準の花粉化石群集の特徴は、Picea層準のそれと類似する。このことから、同様なトウヒ属・マツ属などの針葉樹から構成される森林植生が推定される。また、気候的には現在より寒冷であったことが示唆される。

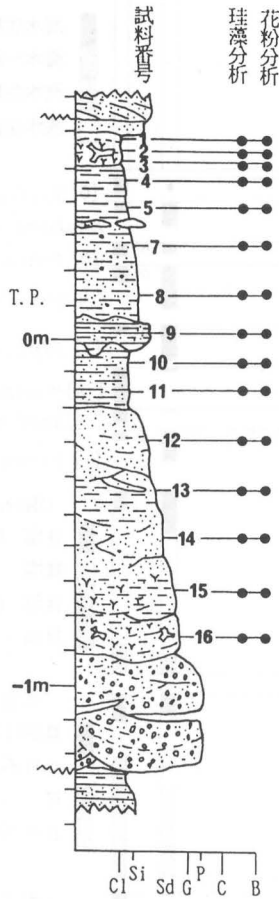
引用文献

- 安藤一男(1990)淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用。東北地理, Vol.42(1990), p.73~88, aNN.Tohoku Geogr.Assoc.
- 伊藤良永・堀内誠示(1989)古環境解析からみた陸生珪藻の検討——陸生珪藻の細分——。日本珪藻学会第10回大会講演要旨集, P.17.
- 伊藤良永・堀内誠示(1991)陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用。日本珪藻学誌, 6巻, p.23-44.
- 小杉正人(1986)陸生珪藻による古環境の解析とその意義—わが国への導入とその展望—。植生史研究, 第1号, p.9-44.
- Krammer, K., and H. Lange-Bertalot.(1986) Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2(1):p.1-876.
- Krammer, K., and H. Lange-Bertalot.(1988) Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2(2):p.1-596.
- 町田 洋・新井房夫(1976)広域に分布する火山灰——始良Tn火山灰の発見とその意義——。科学, Vol.46, No.6, p.339-347.
- 大井信夫・南木陸彦・能城修一(1985)2万年前後の埋没林——兵庫県多紀郡西紀町板井・寺ヶ谷遺跡。日本第四紀学会講演要旨集, 15, p.110-111.
- 吉川周作・那須孝悌・樽野博幸・古谷正和(1986)近畿地方中部に分布する後期更新世~完新世の火山灰層について。地球科学40巻1号, p.18-38.

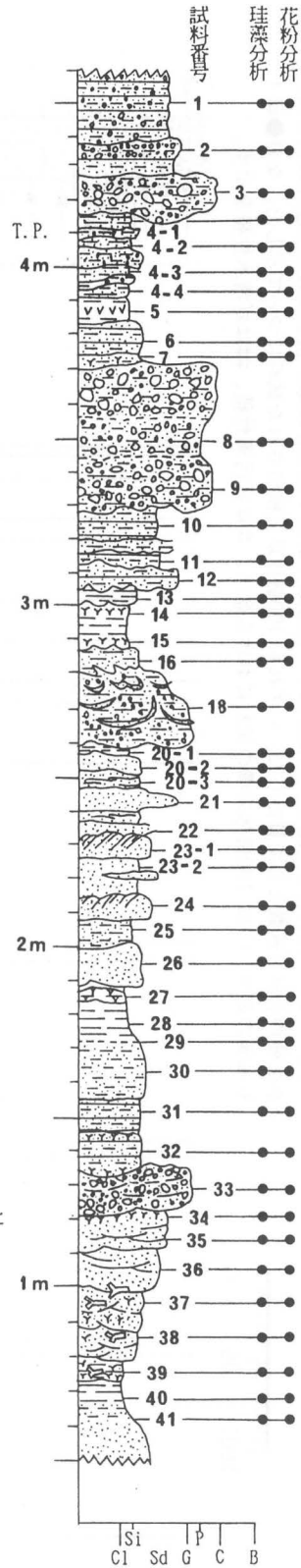
cl:粘土 Si:シルト Sd:砂
 G:細礫 P:中礫 C:大礫 B:巨礫



第97図 B地点の模式柱状図と
 試料採取層準



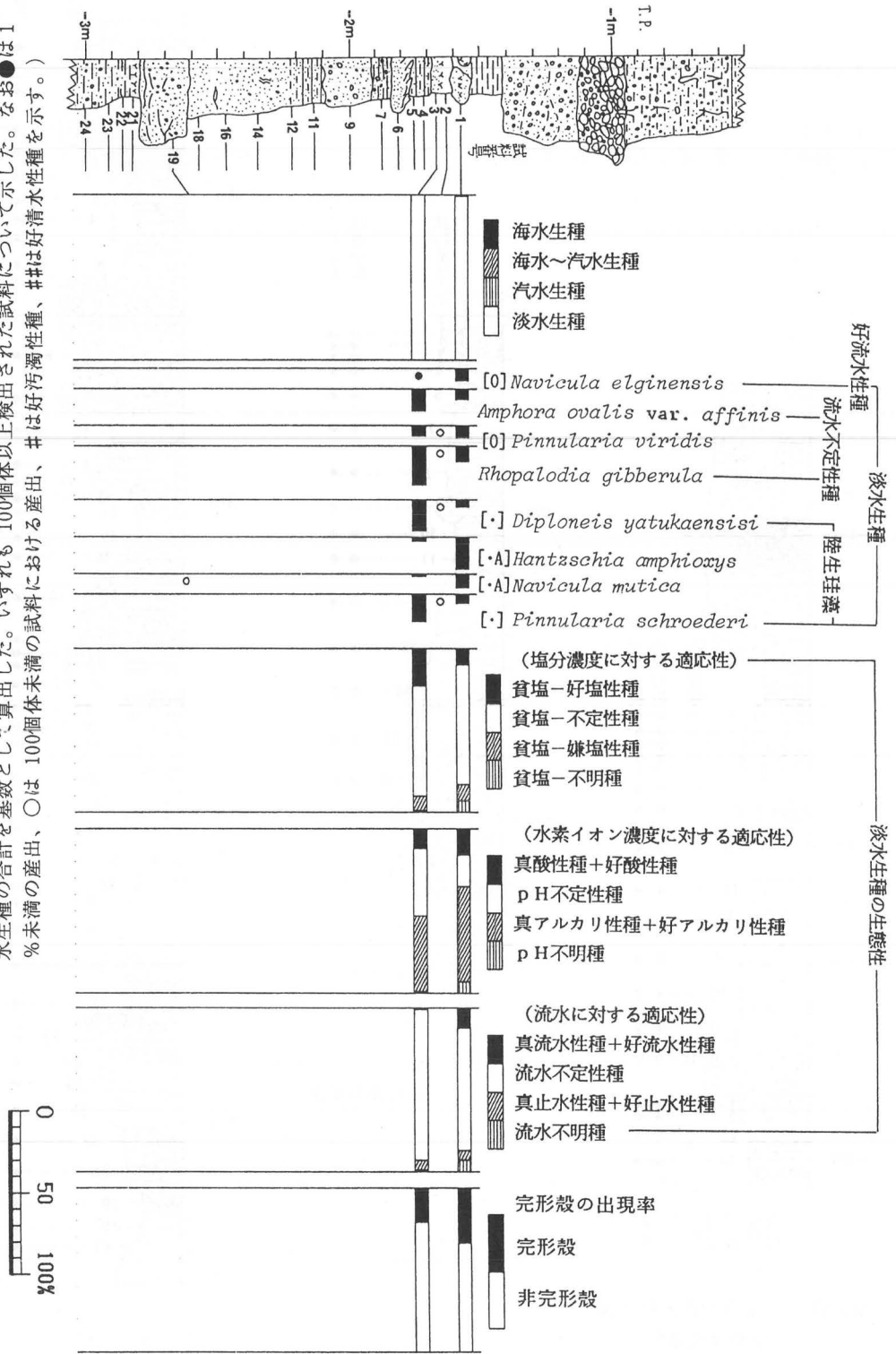
第98図 C地点の模式柱状図と
 試料採取層準



第99図 D地点の模式柱状図と試料採取層準

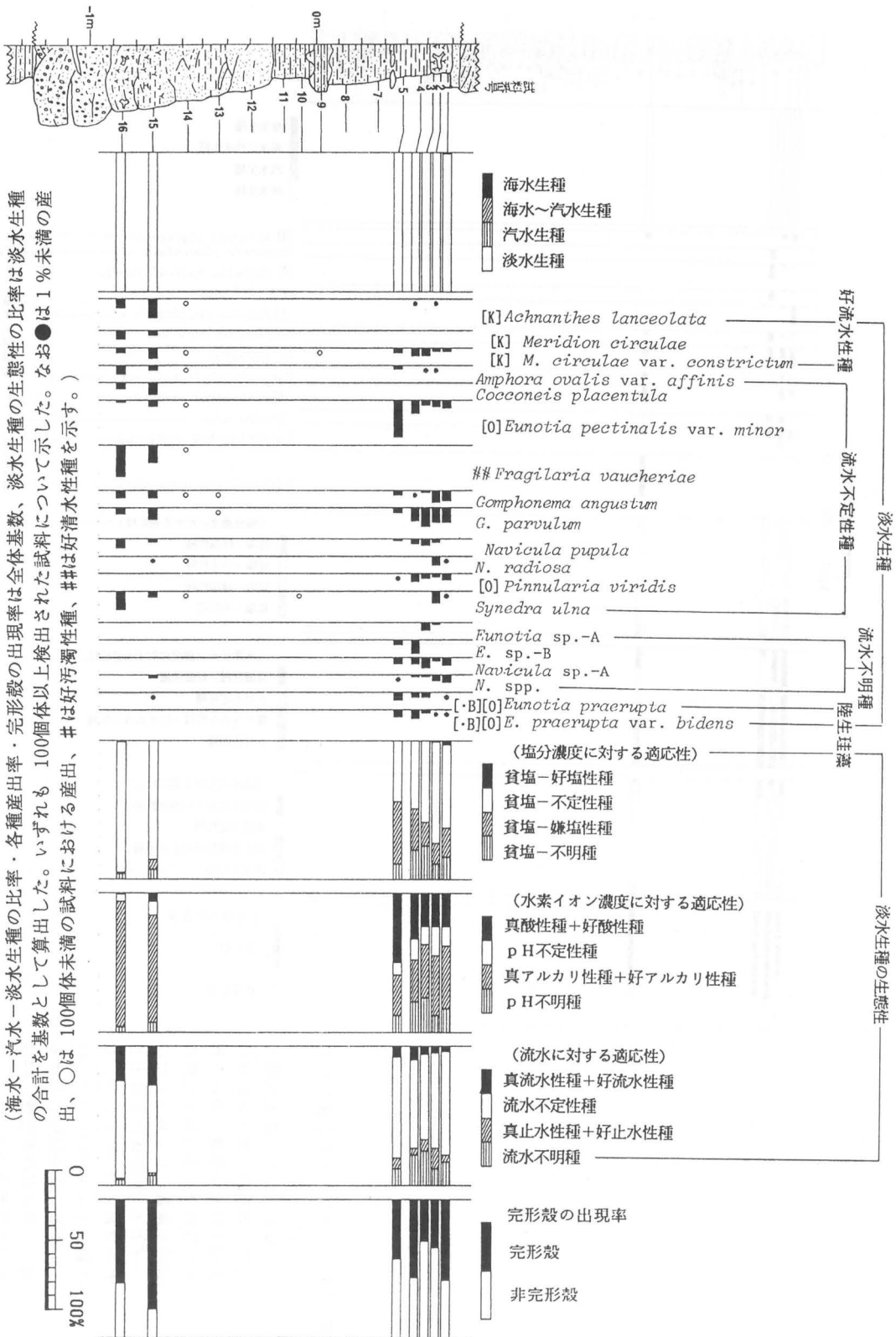
第100図 B地点の主要珪藻化石の層位分布

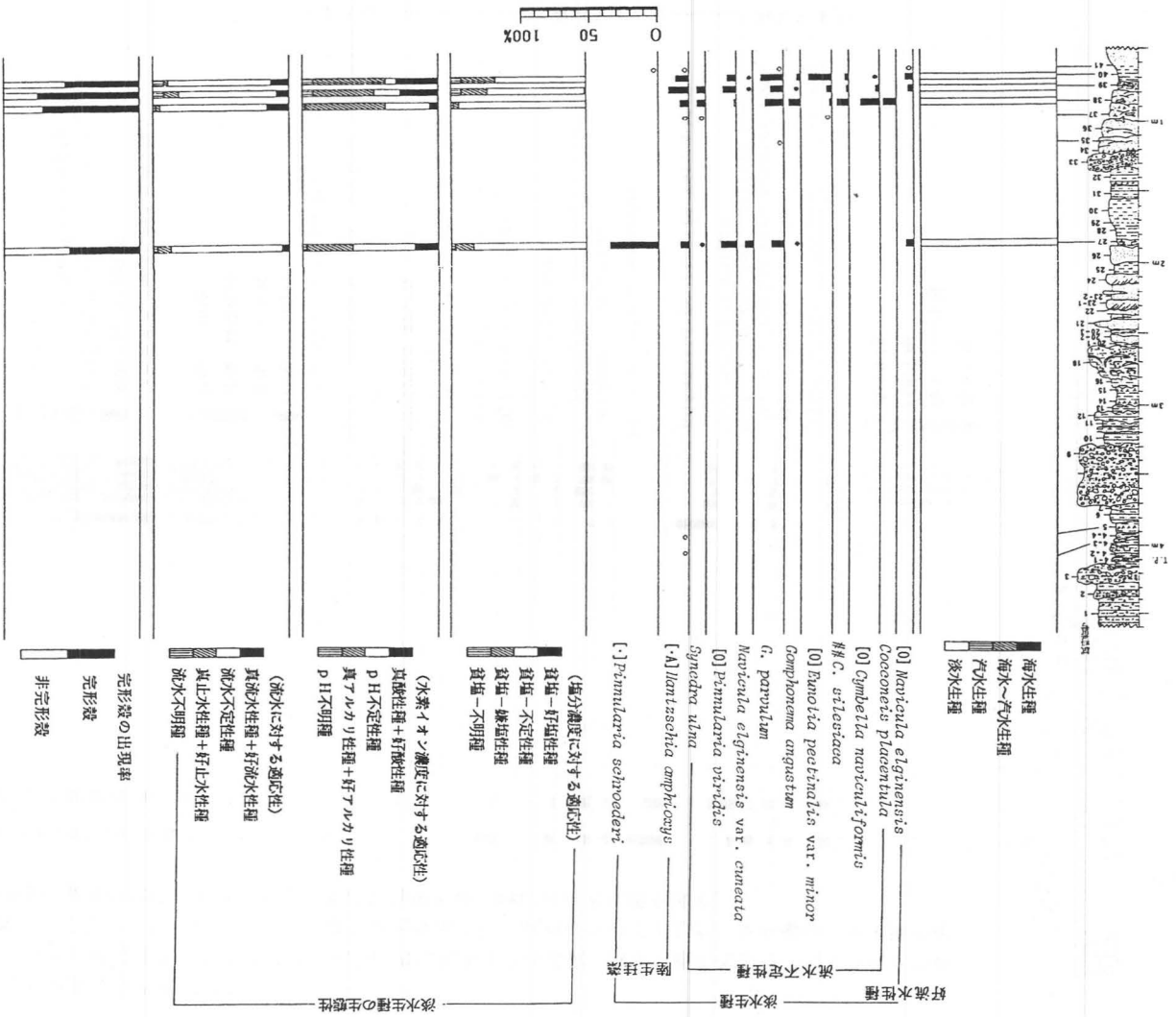
(海水-汽水-淡水生種の比率・各種産出率・完形殻の出現率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として算出した。いずれも100個体以上検出された試料に示した。なお●は1%未満の産出、○は100個体未満の試料における産出、#は好汚濁性種、##は好清水性種を示す。)



第101図 C地点の主要珪藻化石の層位分布

(海水-汽水-淡水生種の比率は全体基数・完形殻の出現率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示した。なお●は1%未満の産出、○は100個体未満の試料における産出、#は好汚濁性種、##は好清水性種を示す。)

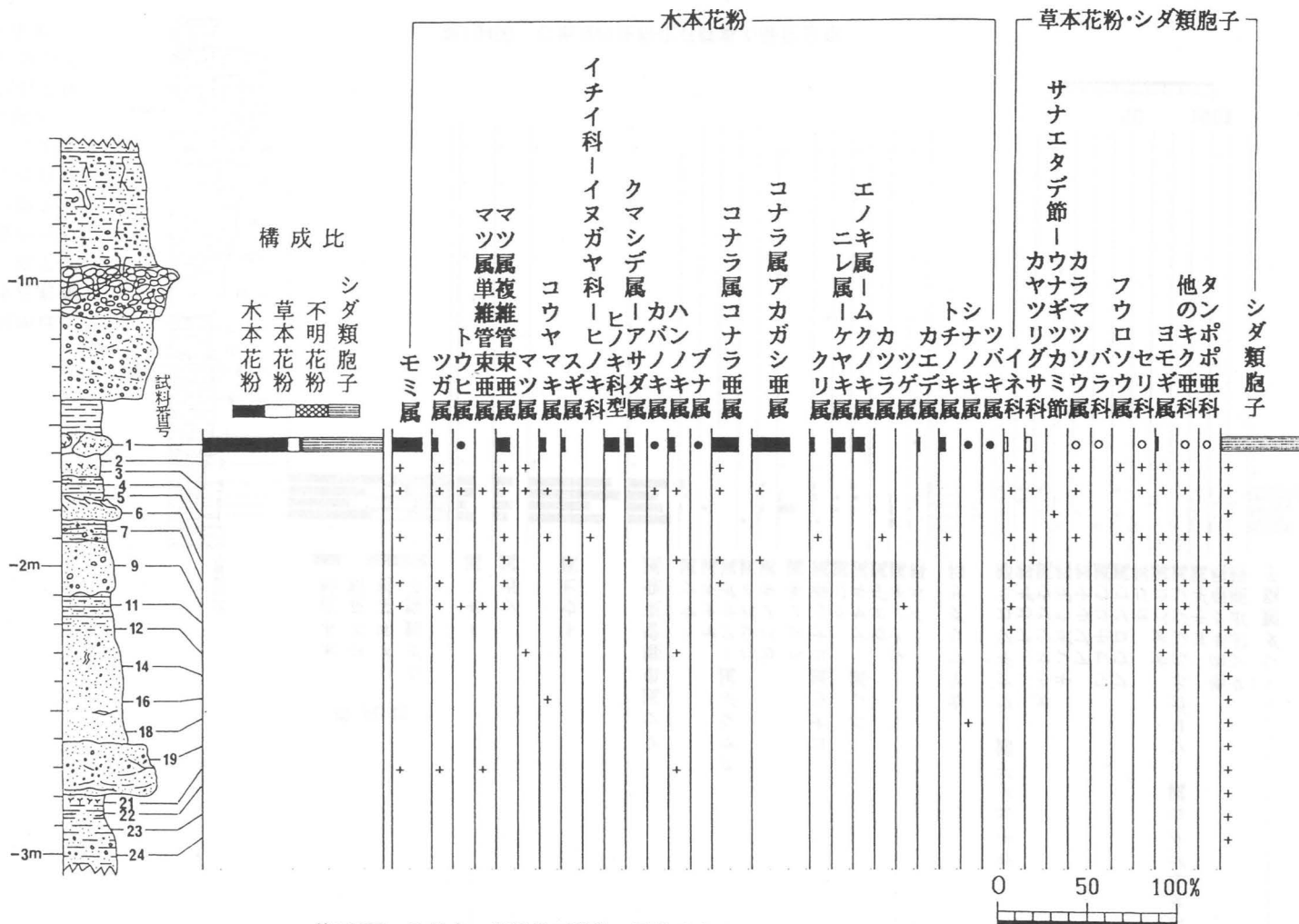




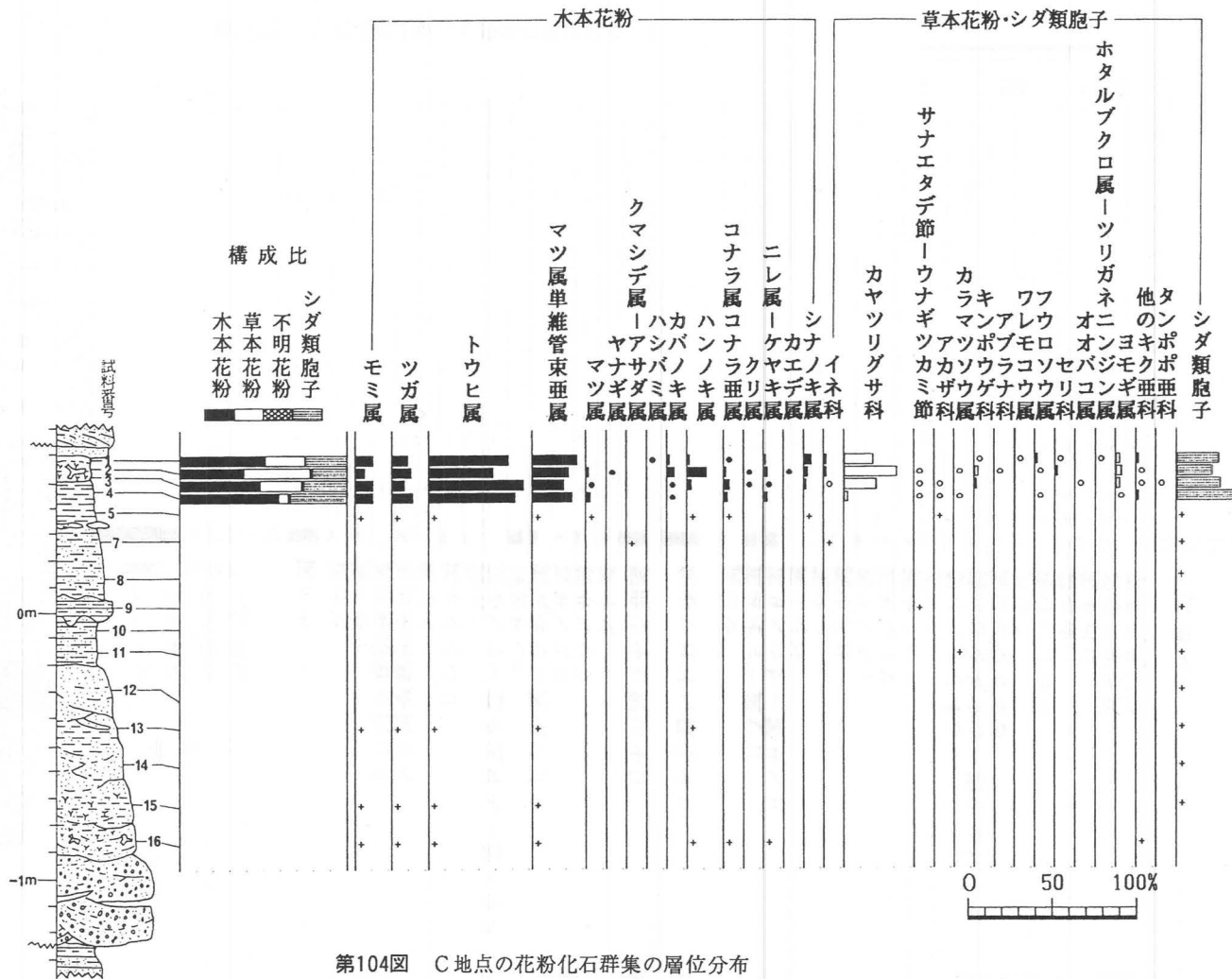
第102図 D地点の主要珪藻化石の層位分布

(海水-汽水-淡水生種の比率・各種産出率・完形殻の出現率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示した。なお●は1%未満の産出、○は100個体未満の試料における産出、#は好汚濁性種、##は好清水性種を示す。)

各種類の出現率は、木本花粉総数、草本花粉・孢子が総花粉・孢子数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数とした百分率で算出した。なお、●○は1%未満の出現、+は花粉化石の保存が悪い試料において出現した種類を示す。



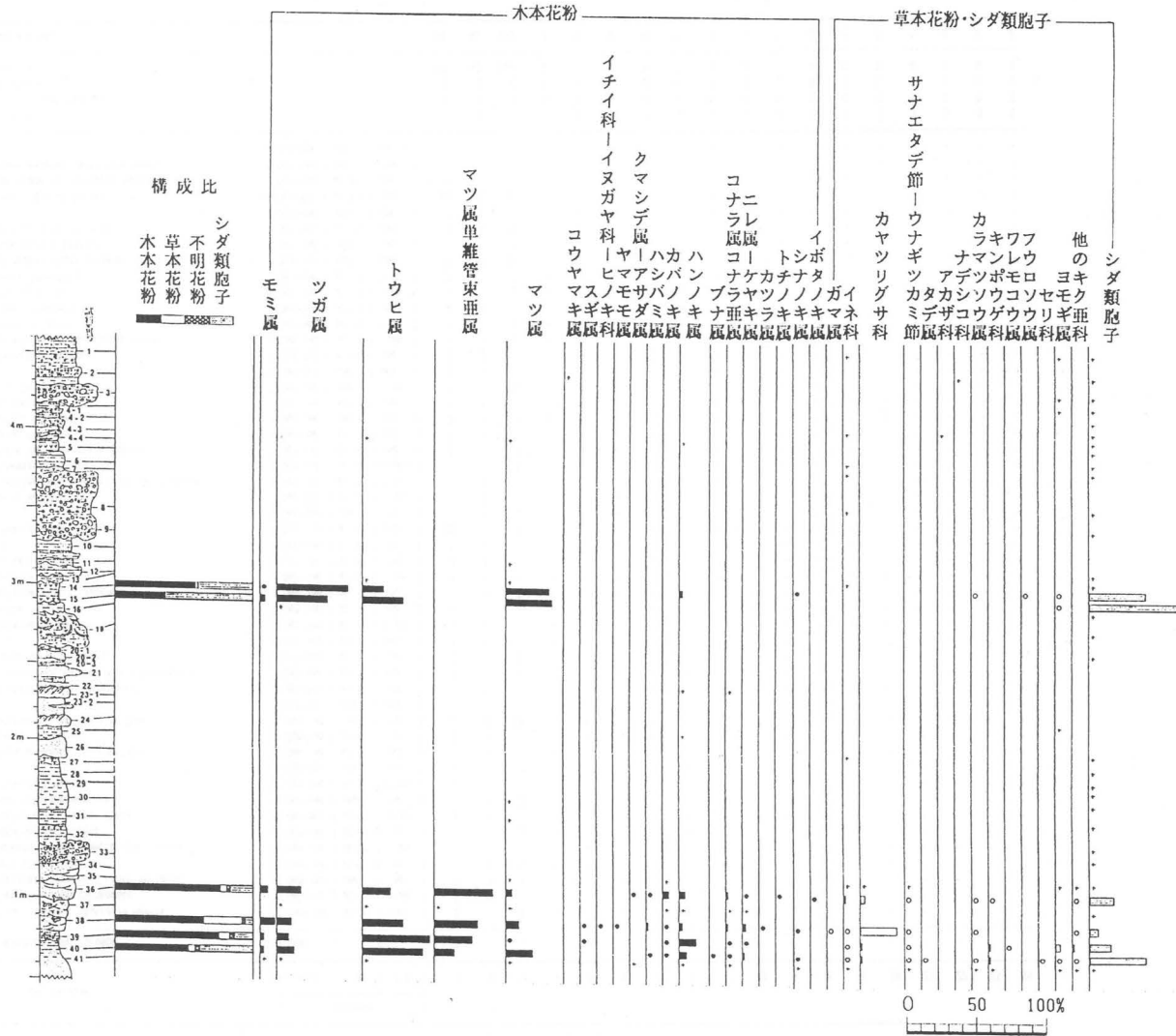
第103図 B地点の花化石群集の層位分布



第104図 C地点の花粉化石群集の層位分布

各種類の出現率は、木本花粉が木本花粉総数、草本花粉・孢子が総花粉・孢子数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数とした百分率で算出した。なお、●○は1%未満の出現、+は花粉化石の保存が悪い試料において出現した種類を示す。

第105図 D地点の花粉化石群集の層位分布
 各種類の出現率は、木本花粉が木本花粉総数、草本花粉・孢子が総花粉・孢子数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数とした百分率で算出した。なお、●○は1%未満の出現、+は花粉化石の保存が悪い試料において出現した種類を示す。



第8表 B地点の珪藻分析結果

Species Name	Ecology			1	2	3	4	5	6	7	9	11	12	14	16	18	19	21	22	23	24		
	H.R.	pH	C.R.																				
<i>Grammatophora oceanica</i> (Ehr.) Grunov	Euh			1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Amphora ovalis</i> var. <i>affinis</i> (Kuetz.) V. Heurck	Ogh-ind	al-bi	ind	6	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Caloneis bacillum</i> (Grun.) Mereschkowsky	Ogh-ind	al-il	r-ph	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
[- B] <i>Caloneis leptosoma</i> Kramer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	1	2	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Caloneis silicula</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
## <i>Cocconeis placentula</i> var. <i>lineata</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
## (O) <i>Cybella aspera</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Cybella heteropleura</i> var. <i>minor</i> Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(O) <i>Cybella naviculiformis</i> Auerwald	Ogh-ind	ind	ind	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
## (K) <i>Cybella sinuata</i> Gregory	Ogh-ind	al-il	r-ph	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Cybella</i> sp.	Ogh-unk	unk	unk	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Diploneis oblongella</i> (Naegeli) Cleve-Euler	Ogh-ind	al-il	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Diploneis ovalis</i> (Hilse) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
[-] <i>Diploneis yatukenis</i> Horikawa et Okuno	Ogh-ind	ind	ind	4	8	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Diploneis</i> sp.	Ogh-unk	unk	unk	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(O) <i>Eunotia pectinalis</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(O) <i>Eunotia pectinalis</i> var. <i>minor</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
[- B] (O) <i>Eunotia praerupta</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	ind	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Eunotia</i> sp.	Ogh-unk	unk	unk	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(O) <i>Gomphonema acuminatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Gomphonema angustum</i> Agardh	Ogh-ind	al-il	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Gomphonema angustum</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(O) <i>Gomphonema gracile</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-bi	l-ph	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Gomphonema parvulum</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Gyrosigma spencerii</i> (W. Smith) Cleve	Ogh-ind	al-bi	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
[- A] <i>Hantzschia amplopyx</i> (Ehr.) Grunov	Ogh-ind	al-il	ind	20	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Hantzschia</i> sp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Hydrosera triquetra</i> Wallich	Ogh-hil	al-il	r-ph	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
## (K) <i>Meridion circulae</i> var. <i>constrictum</i> (Ralfs) V. Heurck	Ogh-ind	al-il	r-bi	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(O) <i>Navicula elginensis</i> (Greg.) Ralfs	Ogh-ind	al-il	r-ph	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Navicula elginensis</i> var. <i>cuneata</i> H. Kobayasi	Ogh-ind	al-il	ind	2	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Navicula laevisima</i> Kuetzing	Ogh-ind	ac-il	ind	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
## (A) <i>Navicula mufica</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	9	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	
## <i>Navicula pupula</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Neidium ampliatum</i> (Ehr.) Kramer	Ogh-ind	ind	l-ph	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Neidium</i> sp.	Ogh-unk	unk	unk	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
[- B] <i>Nitzschia brevissima</i> Grunov	Ogh-hil	al-il	ind	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Pinnularia brevicostata</i> var. <i>sumatrana</i> Husted	Ogh-ind	ac-il	l-ph	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Pinnularia diversens</i> W. Smith	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(O) <i>Pinnularia gibba</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Pinnularia imoeratrix</i> Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(O) <i>Pinnularia nodosa</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	l-ph	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
[-] <i>Pinnularia schroederi</i> (Hust.) Kramer	Ogh-ind	ind	ind	5	5	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
[- B] <i>Pinnularia subcapitata</i> Gregory	Ogh-ind	ind	ind	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(O) <i>Pinnularia viridis</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	ind	7	3	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Pinnularia</i> sp.	Ogh-unk	unk	unk	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Rhopalodia gibberula</i> (Ehr.) O. Muller	Ogh-hil	al-bi	ind	10	6	37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Stauroneis lauenburgiana</i> fo. <i>angulata</i> Husted	Ogh-ind	al-il	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(O) <i>Stauroneis phoenicenteron</i> (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Stauroneis</i> sp.	Ogh-unk	unk	unk	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Marine Water Species				1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Marine to Brackish Water Species				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Brackish Water Species				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Fresh Water Species				105	42	160	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0
Total Number of Diatoms				106	42	160	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0

第9表 C地点の珪藻分析結果

Species Name	Ecology				1	2	3	4	5	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	H.R.	pH	C.R.																
<i>Nitzschia</i> spp.	Meh				2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
## <i>Achnanthes clevei</i> Grunov	Dsh-ind	al-il	l-ph		-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
CK <i>Achnanthes lanceolata</i> (Breb.)Grunov	Dsh-ind	al-il	r-ph		-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	16	8
C-B <i>Achnanthes minutissima</i> Kuetzing	Dsh-ind	al-il	ind		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes</i> sp.	Dsh-unk	unk	unk		-	1	5	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes</i> spp.	Dsh-unk	unk	unk		2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes indriensis</i> Kramer	Dsh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes ovalis</i> var. <i>affinis</i> (Kuetz.)V.Heurck	Dsh-ind	al-bi	ind		-	1	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4	8
<i>Caloneis bacillum</i> (Grun.)Mereschkowsky	Dsh-ind	al-il	r-ph		2	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C-B <i>Caloneis leptosoma</i> Kramer & Lange-Bertalot	Dsh-ind	ind	ind		-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
##CK <i>Cymbella sinuata</i> Gregory	Dsh-ind	ind	r-ph		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Caloneis silicula</i> (Ehr.)Cleve	Dsh-ind	al-il	ind		1	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis placentula</i> (Ehr.)Cleve	Dsh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
## <i>Cocconeis placentula</i> var. <i>lineata</i> (Ehr.)Cleve	Dsh-ind	al-il	r-ph		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
CK <i>Cymbella ehrenbergii</i> Kuetzing	Dsh-ind	al-il	l-bi		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
<i>Cymbella gracilis</i> (Rabh.)Cleve	Dsh-ind	ind	l-ph		-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella heteroleura</i> var. <i>minor</i> Cleve	Dsh-hob	ac-il	l-ph		-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
CK <i>Cymbella naviculiformis</i> Auerswald	Dsh-ind	ind	ind		-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
## <i>Cymbella silesiaca</i> Bleisch	Dsh-ind	ind	ind		-	7	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5
##CK <i>Cymbella sinuata</i> Gregory	Dsh-ind	al-il	r-ph		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Cymbella</i> sp.	Dsh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
##CK <i>Diatoma hiemale</i> var. <i>mesodon</i> (Ehr.)Grunov	Dsh-ind	al-il	r-ph		-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diploneis ovalis</i> (Hilse)Cleve	Dsh-ind	al-il	ind		1	-	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diploneis parva</i> Cleve	Dsh-ind	ind	ind		-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C-D <i>Diploneis yatakeensis</i> Horikawa et Okuno	Dsh-ind	ind	ind		-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C-A <i>Eunotia bigibba</i> Kuetzing	Dsh-hob	ac-bi	ind		-	-	-	2	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
CP <i>Eunotia exigua</i> (Breb.)Grunov	Dsh-hob	ac-bi	ind		4	4	2	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C-A <i>Eunotia fallax</i> A.Cleve	Dsh-hob	ac-bi	ind		-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia formica</i> Ehrenberg	Dsh-hob	ac-il	l-bi		-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia lunaris</i> (Ehr.)Grunov	Dsh-hob	ac-il	ind		7	9	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia lunaris</i> var. <i>subarctica</i> (Naeg.)Grunov	Dsh-hob	ac-il	ind		3	3	4	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
CK <i>Eunotia monodon</i> var. <i>tropica</i> Hustedt	Dsh-hob	ac-il	l-ph		-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia muscicola</i> var. <i>tridentata</i> Moerpel & Lange-Bertalot	Dsh-ind	unk	unk		1	1	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
CK <i>Eunotia pectinatis</i> (Kuetz.)Rabenhorst	Dsh-hob	ac-il	ind		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
CK <i>Eunotia pectinatis</i> var. <i>minor</i> (Kuetz.)Rabenhorst	Dsh-hob	ac-il	ind		8	8	7	20	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
C-BCK <i>Eunotia praerupta</i> Ehrenberg	Dsh-hob	ac-il	ind		1	-	6	7	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C-BCK <i>Eunotia praerupta</i> var. <i>bidens</i> Grunov	Dsh-hob	ac-bi	ind		1	2	4	12	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia septentrionalis</i> Desstrup	Dsh-unk	unk	unk		2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia</i> sp.-A(Small)	Dsh-unk	unk	unk		-	3	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia</i> sp.-B	Dsh-unk	unk	unk		-	-	-	19	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia</i> sp.	Dsh-unk	unk	unk		-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Eunotia</i> spp.	Dsh-unk	unk	unk		5	-	2	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fragilaria brevistriata</i> Grunov	Dsh-ind	al-il	l-ph		-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
## <i>Fragilaria construens</i> var. <i>venter</i> (Ehr.)Grunov	Dsh-ind	al-il	l-ph		-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fragilaria intermedia</i> Grunov	Dsh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
## <i>Fragilaria vaucheriae</i> (Kuetz.)Petersen	Dsh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
<i>Fragilaria virescens</i> Ralfs	Dsh-ind	ac-il	l-ph		-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
<i>Frustulia vulgaris</i> (Thwait.)De Toni	Dsh-ind	ind	ind		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30
CK <i>Gomphonema acuminatum</i> Ehrenberg	Dsh-ind	al-il	l-ph		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gomphonema angustum</i> Asardh	Dsh-ind	al-il	ind		11	17	3	2	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Gomphonema angustum</i> (Kuetz.)Rabenhorst	Dsh-ind	al-il	ind		1	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
## <i>Gomphonema clevei</i> Fricke	Dsh-ind	al-bi	r-ph		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
CK <i>Gomphonema gracile</i> Ehrenberg	Dsh-ind	al-bi	l-ph		1	7	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Gomphonema olivaceum</i> (Lynb.)Kuetzing	Dsh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>Gomphonema olivaceum</i> var. <i>minutissimum</i> Hustedt	Dsh-ind	al-il	ind		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Gomphonema parvulus</i> Kuetzing	Dsh-ind	al-il	ind		16	21	26	19	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
<i>Gomphonema truncatum</i> Ehrenberg	Dsh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Gomphonema</i> sp.	Dsh-unk	unk	unk		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Gomphonema</i> spp.	Dsh-unk	unk	unk		-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gyrosigma acuminatum</i> (Kuetz.)Rabenhorst	Dsh-ind	al-il	ind		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C-A <i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.)Grunov	Dsh-ind	al-il	ind		7	6	5	7	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
C-AD <i>Hantzschia roeseana</i> Rabenhorst	Dsh-ind	ind	ind		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
##CK <i>Heridium circulae</i> Asardh	Dsh-ind	al-il	r-bi		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
##CK <i>Heridium circulae</i> var. <i>constrictum</i> (Ralfs)V.Heurck	Dsh-ind	al-il	r-bi		3	5	10	10	6	-	-	1	-	-	-	-	-	-	4
<i>Navicula anglica</i> Ralfs	Dsh-ind	al-il	r-ph		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
<i>Navicula angusta</i> Grunov	Dsh-ind	ac-il	ind		1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
##-B <i>Navicula confervacea</i> (Kuetz.)Grunov	Dsh-ind	al-bi	ind		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
##-A <i>Navicula contenta</i> Grunov	Dsh-ind	al-il	ind		3	3	7	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>Navicula crypcephala</i> Kuetzing	Dsh-ind	al-il	ind		3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
CK <i>Navicula elginensis</i> (Geg.)Ralfs	Dsh-ind	al-il	r-ph		-	4	2	8	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Navicula elginensis</i> var. <i>cuneata</i> H.Kobayasi	Dsh-ind	al-il	ind		-	2	3	2	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Navicula elginensis</i> var. <i>neglecta</i> (Krass.)Patrick	Dsh-ind	al-il	r-ph		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
C-B <i>Navicula ignota</i> Krasske	Dsh-ind	ind	ind		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Navicula laevissima</i> Kuetzing	Dsh-ind	ac-il	ind		-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C- <i>Navicula lapidosa</i> Krasske	Dsh-ind	ind	ind		-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Navicula minima</i> Grunov	Dsh-ind	al-il	ind		1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
##-A <i>Navicula mutica</i> Kuetzing	Dsh-ind	ind	ind		4	2	4	9	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C- <i>Navicula placenta</i> Ehrenberg	Dsh-ind	ind	ind		2	1	2	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Navicula placenta</i> (Ehr.)Grunov	Dsh-ind	al-il	l-bi		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
## <i>Navicula pupula</i> Kuetzing	Dsh-ind	al-il	ind		-	5	9	6	3	-	-	-	-	-					

第9表 続き

Species Name	Ecology																		
	H.R.	pH	C.R.	1	2	3	4	5	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
[~]Navicula tridentula Kraske	I	Ogh-ind	al-bi	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula veneta Kuetzing	I	Ogh-hil	al-il	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula sp.-A	I	Ogh-unk	unk	unk	9	4	15	9	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula spp.	I	Ogh-unk	unk	unk	9	9	3	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-
Neidium ampliatum (Ehr.)Krammer	I	Ogh-ind	ind	l-ph	6	6	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
Neidium sp.	I	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2
Neidium spp.	I	Ogh-unk	unk	unk	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia angustata (W.Smith)Cleve	I	Ogh-ind	al-il	l-bi	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[~B]Nitzschia brevisissima Grunow	I	Ogh-hil	al-il	ind	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia frustulum (Kuetz.)Grunow	I	Ogh-ind	al-bi	ind	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia palea (Kuetz.)W.Smith	I	Ogh-ind	al-bi	ind	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia sp.	I	Ogh-unk	unk	unk	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Nitzschia spp.	I	Ogh-unk	unk	unk	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
Pinnularia acoricola Hustedt	I	Ogh-hob	ac-bi	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[O]Pinnularia acrosphaeria W.Smith	I	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[~A]Pinnularia borealis Ehrenberg	I	Ogh-ind	ind	ind	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[~A]Pinnularia borealis var. rectangularis Carlson	I	Ogh-ind	ind	ind	3	1	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia divergens W.Smith	I	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
[O]Pinnularia gibba Ehrenberg	I	Ogh-ind	ac-il	ind	1	2	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia imperatrix Mills	I	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia aff. braunii (Grun.)Cleve	I	Ogh-hob	ac-bi	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[P]Pinnularia microstauron (Ehr.)Cleve	I	Ogh-ind	ac-il	ind	3	1	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[~B]Pinnularia nolaris Grunow	I	Ogh-ind	ind	ind	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
[O]Pinnularia nodosa Ehrenberg	I	Ogh-ind	ac-il	l-ph	-	4	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia rivalaris Hustedt	I	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia rupestris Hantzsch	I	Ogh-ind	ind	ind	-	3	7	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
[~J]Pinnularia schroederi (Hust.)Krammer	I	Ogh-ind	ind	ind	-	2	1	-	5	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
Pinnularia stomatophora (Grun.)Cleve	I	Ogh-ind	ac-il	l-ph	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia streptosphaera Cleve	I	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[~B]Pinnularia subcapitata Gregory	I	Ogh-ind	ind	ind	2	3	2	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
[O]Pinnularia subcapitata var. paucistriata (Grun.)Cleve	I	Ogh-ind	ac-il	l-ph	-	10	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[O]Pinnularia viridis (Nitz.)Ehrenberg	I	Ogh-hob	ac-il	ind	7	5	6	11	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Pinnularia spp.	I	Ogh-unk	unk	unk	2	2	6	6	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[~K]Rhoicosphenia abbreviata (Ag.)Lange-Bertalot	I	Ogh-hil	al-il	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
Rhopalodia gibberula (Ehr.)D.Multer	I	Ogh-hil	al-bi	ind	2	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Stauroneis anceps Ehrenberg	I	Ogh-ind	ind	ind	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
[O]Stauroneis phoenicenteron (Nitz.)Ehrenberg	I	Ogh-ind	ind	l-ph	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Stauroneis phoenicenteron var. signata Meister	I	Ogh-ind	ind	ind	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Stauroneis smithii Grunow	I	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
[~B]Stauroneis tenera Hustedt	I	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
Stauroneis sp.	I	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Surirella angustata Kuetzing	I	Ogh-ind	al-il	r-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2
Surirella linearis W.Smith	I	Ogh-ind	ind	ind	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Surirella robusta Ehrenberg	I	Ogh-hob	ind	l-bi	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Surirella tenera Gregory	I	Ogh-hob	ind	l-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
Surirella sp.	I	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
Surirella spp.	I	Ogh-unk	unk	unk	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Synedra parasitica (W.Smith)Husted	I	Ogh-ind	al-il	ind	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
Synedra ulna (Kuetz.)Ehrenberg	I	Ogh-ind	al-il	ind	1	18	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	5	18
Marine Water Species					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Marine to Brackish Water Species					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Brackish Water Species					2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Fresh Water Species					166	215	207	213	204	0	1	2	1	0	0	9	32	127	139
Total Number of Diatoms					168	215	207	213	204	0	1	2	1	0	0	9	32	127	139

第10表 D地点の珪藻分析結果

Species Name	Ecology			1	2	4	4-1	4-2	4-3	4-4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	18
	H.R.	pH	C.R.																				
##Achnanthes clevei Grunov	Ogh-ind	l at-il	l l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[K]Achnanthes lanceolata (Breb.)Grunov	Ogh-ind	l at-il	l r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Achnanthes spp.	Ogh-unk	l unk	l unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Aphora ovalis var. affinis (Kuetz.)V.Heurck	Ogh-ind	l at-bi	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Caloneis bacillum (Grun.)Mereschkovsky	Ogh-ind	l at-il	l r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[-B]Caloneis leptosoma Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	l ind	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Caloneis silicula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	l at-il	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[J]Ceratoneis arcus var. hattoriana Meister	Ogh-ind	l ind	l r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Cocconeis placentula (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	l at-il	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
##Cocconeis placentula var. lineata (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	l at-il	l r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
##[O]Cymbella aspera (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	l at-il	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[O]Cymbella naviculiformis Auersvald	Ogh-ind	l ind	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Cymbella pusilla Grunov	Ogh-hil	l ind	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
##Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh-ind	l ind	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
##[K]Cymbella sinuata Gregory	Ogh-ind	l at-il	l r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[O]Cymbella subaequalis Grunov	Ogh-ind	l at-il	l l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
##[K]Diatoma hiemale var. mesodon (Ehr.)Grunov	Ogh-ind	l at-il	l r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Diploneis finnica (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	l ind	l l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Diploneis ovalis (Hilse)Cleve	Ogh-ind	l at-il	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[-]Diploneis yutakaensis Horikawa et Okuno	Ogh-ind	l ind	l ind	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Diploneis spp.	Ogh-unk	l unk	l unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	2	-	-
Epithemia turgida (Ehr.)Kuetzing	Ogh-ind	l at-il	l l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[-A]Eunotia bigibba Kuetzing	Ogh-hob	l ac-bi	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[P]Eunotia exigua (Breb.)Grunov	Ogh-hob	l ac-bi	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Eunotia lunaris (Ehr.)Grunov	Ogh-hob	l ac-il	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[O]Eunotia monodon Ehrenberg	Ogh-hob	l ac-il	l l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[O]Eunotia monodon var. tropica Hustedt	Ogh-hob	l ac-il	l l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[O]Eunotia pectinalis var. minor (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-hob	l ac-il	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[-B][O]Eunotia praerupta Ehrenberg	Ogh-hob	l ac-il	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[-B][O]Eunotia praerupta var. bidens Grunov	Ogh-hob	l ac-il	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[-B]Eunotia tenella (Grun.)Hustedt	Ogh-hob	l ac-il	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Eunotia spp.	Ogh-unk	l unk	l unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
##Fragilaria vaucheriae (Kuetz.)Petersen	Ogh-ind	l at-il	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Fragilaria virescens Ralfs	Ogh-ind	l ac-il	l l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Frustulia vulgaris (Thwait.)De Toni	Ogh-ind	l ind	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Gomphonema angustum Agardh	Ogh-ind	l at-il	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Gomphonema angustatum (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	l at-il	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Gomphonema clavatum Ehrenberg	Ogh-ind	l at-il	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[O]Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	l at-bi	l l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-ind	l at-il	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Gomphonema spp.	Ogh-unk	l unk	l unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Gyrosigma scalpoides (Rabh.)Cleve	Ogh-ind	l at-bi	l r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[-A]Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunov	Ogh-ind	l at-il	l ind	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[-A]Melosira roeseana Rabenhorst	Ogh-ind	l ind	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
##[K]Meridion circulae var. constrictum (Ralfs)V.Heurck	Ogh-ind	l at-il	l r-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula angusta Grunov	Ogh-ind	l ac-il	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula bacillum Ehrenberg	Ogh-ind	l at-il	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
##[-A]Navicula contenta Grunov	Ogh-ind	l at-il	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[O]Navicula elginensis (Greg.)Ralfs	Ogh-ind	l at-il	l r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula elginensis var. cuneata H.Kobayasi	Ogh-ind	l at-il	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula elginensis var. neglecta (Krass.)Patrick	Ogh-ind	l at-il	l r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
[-]Navicula hambergii Hustedt	Ogh-ind	l ind	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Navicula laevissima Kuetzing	Ogh-ind	l ac-il	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
##[-A]Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	l ind	l ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第10表 続き

Species Name	Ecology			1	2	4	4-1	4-2	4-3	4-4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	18
	H.R.	pH	C.R.																				
<i>C. Navicula placenta</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Navicula pupula</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Navicula radiosa</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Navicula</i> sp.-A	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Navicula</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Heidium ampliatum</i> (Ehr.)Kramer	Ogh-ind	ind	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C-B)Nitzschia brevissima</i> Grunov	Ogh-hil	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Nitzschia</i> sp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C)Pinnularia acrosphaeria</i> W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C-A)Pinnularia borealis</i> var. <i>rectangularis</i> Carlson	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia divergens</i> W.Smith	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C)Pinnularia gibba</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia taperatrix</i> Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>#Pinnularia interrupta</i> W.Smith	Ogh-ind	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia mesolepta</i> (Ehr.)W.Smith	Ogh-ind	ind	ac-il	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>#Pinnularia microstauron</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C-B)Pinnularia molaris</i> Grunov	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia rivularis</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia rupestris</i> Hantzsch	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C-)Pinnularia schroederi</i> (Hust.)Kramer	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia stomatophora</i> (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C-B)Pinnularia subcapitata</i> Gregory	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C)Pinnularia subcapitata</i> var. <i>paucistriata</i> (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C)Pinnularia viridis</i> (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinnularia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Rhopalodia gibberula</i> (Ehr.)O.Müller	Ogh-hil	al-bi	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis acuta</i> W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis anceps</i> Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis lauenburgiana</i> fo. <i>angulata</i> Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>C)Stauroneis phoenicenteron</i> (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> var. <i>signata</i> Meister	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis smithii</i> Grunov	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Stauroneis</i> sp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Surirella angustata</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Surirella ovata</i> var. <i>pinnata</i> (W.Smith)Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Surirella robusta</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ind	l-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Synedra ulna</i> (Kuetz.)Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Marine Water Species				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Marine to Brackish Water Species				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Brackish Water Species				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Fresh Water Species				0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	9	3	0	0
Total Number of Diatoms				0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	9	3	0	0	0

第10表 続き

Species Name	Ecology			20-1	20-2	20-3	21-1	22	23-1	23-2	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41			
	H.R.	pH	C.R.																												
## <i>Achnanthes clevei</i> Grunov	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-			
[K] <i>Achnanthes lanceolata</i> (Breb.)Grunov	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	4	-			
<i>Achnanthes</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-			
<i>Amphora ovalis</i> var. <i>affinis</i> (Kuetz.)V.Heurck	Ogh-ind	al-bi	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-			
<i>Caloneis bacillum</i> (Grun.)Mereschkovskiy	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3			
[-B] <i>Caloneis leptosoma</i> Kramer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
<i>Caloneis silicula</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
[J] <i>Ceratonais arcus</i> var. <i>hattoriana</i> Meister	Ogh-ind	ind	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-			
<i>Cocconeis placentula</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	-	-			
## <i>Cocconeis placentula</i> var. <i>lineata</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-			
##[O] <i>Cymbella aspera</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
[O] <i>Cymbella naviculiformis</i> Auersvald	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	4	1	-			
<i>Cymbella pusilla</i> Grunov	Ogh-hil	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-			
## <i>Cymbella silesiaca</i> Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	3	4	-			
##[K] <i>Cymbella sinuata</i> Gregory	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	1	-			
[O] <i>Cymbella subaequalis</i> Grunov	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-			
##[K] <i>Diatoma hemale</i> var. <i>mesodon</i> (Ehr.)Grunov	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-			
<i>Diploneis finnica</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ind	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
<i>Diploneis ovalis</i> (Hilse)Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-			
[-] <i>Diploneis yalukaensis</i> Horikava et Okuno	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
<i>Diploneis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
<i>Epithemia turgida</i> (Ehr.)Kuetzing	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-			
[-A] <i>Eunotia bigibba</i> Kuetzing	Ogh-hob	ac-bi	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-			
[P] <i>Eunotia exigua</i> (Breb.)Grunov	Ogh-hob	ac-bi	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	2			
<i>Eunotia lunaris</i> (Ehr.)Grunov	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-			
[O] <i>Eunotia monodon</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-			
[O] <i>Eunotia monodon</i> var. <i>tropica</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	6	32		
[O] <i>Eunotia pectinalis</i> var. <i>minor</i> (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-		
[-B][O] <i>Eunotia praeurupta</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
[-B][O] <i>Eunotia praeurupta</i> var. <i>bidens</i> Grunov	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
[-B] <i>Eunotia tenella</i> (Grun.)Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Eunotia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	3	-		
## <i>Fragilaria vaucheriae</i> (Kuetz.)Petersen	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-		
<i>Fragilaria virescens</i> Ralfs	Ogh-ind	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Frustulia vulgaris</i> (Thwait.)De Toni	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	3	-	-		
<i>Gomphonema angustum</i> Asard	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	2	4		
<i>Gomphonema angustum</i> (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	-		
<i>Gomphonema clavatum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
[O] <i>Gomphonema gracile</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-bi	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-		
<i>Gomphonema parvulum</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	
<i>Gomphonema</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-		
<i>Gyrosigma scalproides</i> (Rabh.)Cleve	Ogh-ind	al-bi	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
[-A] <i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.)Grunov	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	12	30	18	1		
[-A] <i>Melosira roeseana</i> Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
##[K] <i>Meridion circulata</i> var. <i>constrictum</i> (Ralfs)V.Heurck	Ogh-ind	al-il	r-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4	1	
<i>Navicula angusta</i> Grunov	Ogh-ind	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	
<i>Navicula bacillum</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
##[-A] <i>Navicula contenta</i> Grunov	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
[O] <i>Navicula elginensis</i> (Grø.)Ralfs	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	11	1	
<i>Navicula elginensis</i> var. <i>cuneata</i> H.Kobayasi	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	
<i>Navicula elginensis</i> var. <i>neglecta</i> (Krass.)Patrick	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	3	-	
[-] <i>Navicula habbergii</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	
<i>Navicula laevisima</i> Kuetzing	Ogh-ind	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-
##[-A] <i>Navicula mutica</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	

第10表 続き

Species Name	Ecology			20-1	20-2	20-3	21-1	22	23-1	23-2	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	
	H.R.	pH	C.R.																										
[C]Navicula placenta Ehrenbers	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
#Navicula pupula Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Navicula radiosa Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	
Navicula sp.-A	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	6	-	
Navicula spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4	-	
Heidium ampliatum (Ehr.)Kramer	Ogh-ind	ind	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	1	-	
[C-B]Nitzschia brevissima Grunov	Ogh-hil	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	
Nitzschia sp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
[O]Pinnularia acrosphaeria W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
[C-A]Pinnularia borealis var. rectangularis Carlson	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Pinnularia divergens W.Smith	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
[O]Pinnularia gibba Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	
Pinnularia imperatrix Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
#Pinnularia interrupta W.Smith	Ogh-ind	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	
Pinnularia mesolepta (Ehr.)W.Smith	Ogh-ind	ind	ac-il	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
#Pinnularia microstauron (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	8	
[C-B]Pinnularia nolaris Grunov	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Pinnularia rivularis Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Pinnularia rupestris Hantzsch	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	4	-	
[C]Pinnularia schroederi (Hust.)Kramer	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	44	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Pinnularia stomatophora (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	1	
[C-B]Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
[O]Pinnularia subcapitata var. paucistriata (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
[O]Pinnularia viridis (Nitz.)Ehrenbers	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	18	12	
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Rhopalodia gibberula (Ehr.)D.Muller	Ogh-hil	al-bi	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
Stauroneis acuta W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Stauroneis anceps Ehrenbers	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	
Stauroneis laueburgiana fo. angulata Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
[O]Stauroneis phoenicenteron (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Stauroneis phoenicenteron var. signata Meister	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Stauroneis swithii Grunov	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Stauroneis sp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Surirella angulata Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Surirella ovata var. pinnata (W.Smith)Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Surirella robusta Ehrenberg	Ogh-hob	ind	l-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Synedra ulna (Kuetz.)Ehrenbers	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	13	13	
Marine Water Species				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Marine to Brackish Water Species				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Brackish Water Species				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Fresh Water Species				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	124	0	0	0	0	0	10	0	3	2	5	208	207	201	5	
Total Number of Diatoms				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	124	0	0	0	0	10	0	3	2	5	208	207	201	5		

第11表 B地点の花粉分析結果

種類(Taxa)	試料番号	1	2	3	4	5	6	7	9	11	12	14	16	18	19	21	22	23	24
木 本 花 粉																			
モミ属	43	8	18	-	11	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
ツガ属	7	9	11	-	4	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
トウヒ属	2	-	4	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マツ属 単維管束亜属	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
マツ属 複維管束亜属	18	10	20	-	3	5	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マツ属 (不明)	-	8	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
コウヤマキ属	7	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
スギ属	4	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イテイ科 - イヌガヤ科 - ヒノキ科	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヒノキ科 型	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クマシラ属 - アサダ属	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カバノキ属	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハンノキ属	7	-	3	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
ブナ属	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属 コナラ亜属	36	2	2	-	-	16	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属 アカガシ亜属	53	-	3	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クリ属	4	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニレ属 - ケヤキ属	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エノキ属 - ムクノキ属	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カツラ属	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツゲ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カエデ属	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トチノキ属	8	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シナノキ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ツバキ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
草 本 花 粉																			
イネ科	13	16	9	-	1	15	3	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カヤツリグサ科	15	9	171	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サナエタデ節 - ウナギツカミ節	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カラマツソウ属	1	4	11	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
バラ科	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
フウロソウ属	-	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
セリ科	1	2	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヨモギ属	6	6	16	-	19	50	27	20	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
他のキク亜科	1	1	1	-	3	-	3	6	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
タンポポ科	1	-	-	-	3	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明花粉	3	3	4	2	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	3	-	-	-
シダ類 胞子																			
シダ類 胞子	248	518	326	92	57	207	38	60	8	2	2	3	1	18	29	2	2	7	
合 計																			
木 本 花 粉	262	37	69	0	35	36	7	11	0	2	0	1	1	0	6	0	0	0	
草 本 花 粉	39	41	212	3	34	66	34	28	8	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
不 明 花 粉	3	3	4	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	
シ ダ 類 胞 子	248	518	326	92	57	207	38	60	8	2	2	3	1	18	29	2	2	7	
總 計	552	599	611	97	126	309	80	99	16	7	3	4	2	18	38	2	2	7	

第12表 C地点の花粉分析結果

種類(Taxa)	試料番号	1	2	3	4	5	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
木 本 花 粉																
モミ属		24	10	21	19	2	-	-	-	-	-	-	3	-	2	2
ツガ属		22	22	14	23	3	-	-	-	-	-	-	4	-	1	2
トウヒ属		114	80	118	101	15	-	-	-	-	-	-	40	-	4	4
マツ属単維管束亜属		63	44	37	45	5	-	-	-	-	-	-	4	-	1	2
マツ属(不明)		-	3	1	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヤナギ属		-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クマシデ属-アサダ属		-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハシバミ属		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カバノキ属		3	9	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハンノキ属		3	22	5	-	2	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1
コナラ属コナラ亜属		1	3	6	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
クリ属		-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニレ属-ケヤキ属		3	5	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
カエデ属		-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シナノキ属		10	5	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
草 本 花 粉																
イネ科		5	7	4	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カヤツリグサ科		83	167	81	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サナエタデ節-ウナギツカミ節		-	1	4	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
アカザ科		-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カラマツソウ属		-	3	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
キンボウゲ科		3	10	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アブラナ科		-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ワレモコウ属		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
フウロソウ属		5	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
セリ科		2	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オオバコ属		-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ホタルブクロ属-ツリガネニンジン属		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヨモギ属		8	15	7	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
他のキク亜科		6	4	3	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
タンポポ科		-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明花粉		2	4	4	3	4	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
シダ類胞子																
シダ類胞子		119	111	114	111	24	19	14	22	-	25	11	32	6	6	-
合 計																
木 本 花 粉		244	208	209	198	32	1	0	0	0	0	0	53	0	8	17
草 本 花 粉		114	216	108	19	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	2
不 明 花 粉		2	4	4	3	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
シダ類胞子		119	111	114	111	24	19	14	22	0	25	11	32	6	6	0
総 計		479	539	435	331	61	21	14	23	0	26	11	86	6	14	19

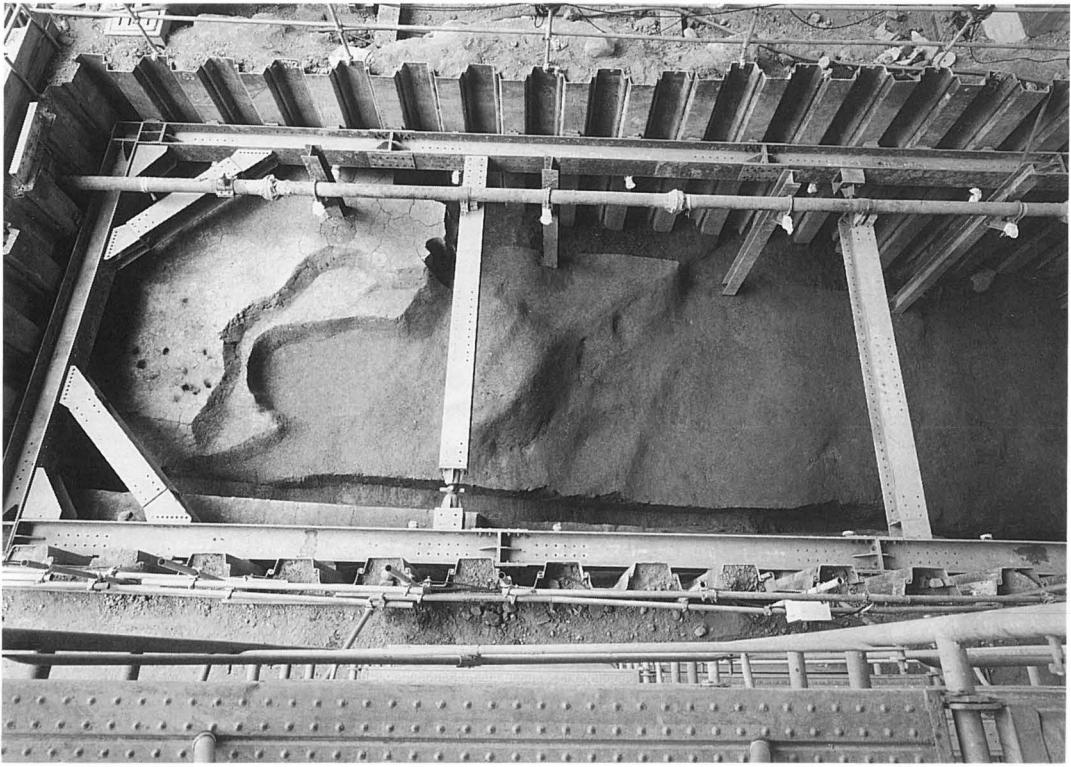
第13表 D地点の花粉分析結果

種類(Taxa)	試料番号	1	2	3	4-1	4-2	4-3	4-4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	18	20-1	20-2	20-3	21		
木 本花粉																											
モミ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	
ツガ属		-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	61	38	1	-	-	-	-	-	-	
トウヒ属		-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	18	31	-	-	-	-	-	-	
マツ属単維管束亜属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マツ属(不明)		-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	2	37	35	-	-	-	-	-	-	-	
コウヤマキ属		-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
スギ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヤマモモ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クマシデ属-アサダ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ハシバミ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
カバノキ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ハンノキ属		-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ブナ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
コナラ属-コナラ亜属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ニレ属-ケヤキ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
カツラ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
トチノキ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
シナノキ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
イボタノキ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
草 本花粉																											
ガマ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネ科		1	-	-	-	-	3	-	-	1	1	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
カヤツリグサ科		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
サナエタデ節-ウナギツカミ節		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
タデ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アカザ科		-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ナデシコ科		-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
カラマツソウ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
キンボウゲ科		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ワレモコウ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
フウロソウ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
セリ科		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヨモギ属		1	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	
他のキク亜科		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
不明花粉		2	1	1	2	2	-	-	-	-	-	-	-	3	1	1	3	-	-	-	2	1	1	1	1		
シダ類孢子		3	5	5	3	3	5	6	3	3	2	2	2	-	-	2	18	82	188	2	1	1	-	-	-		
合計		0	1	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	1	0	3	120	107	1	0	0	0	0	0		
木 本花粉		2	1	1	2	0	4	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	4	1	0	0	0	0	0	0		
草 本花粉		2	1	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	3	1	1	3	0	0	0	2	1	1	1	1		
シダ類孢子		3	5	5	3	3	5	6	3	3	2	2	2	0	0	2	18	82	188	2	1	1	0	0	0		
合計		7	8	7	7	5	9	13	3	4	3	3	2	3	2	3	25	206	296	3	3	2	1	1	1		

第13表 続き

種類(Taxa)	試料番号	22	23-1	23-2	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
木 本花粉		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	22	4	5	1
モミ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	35	2	22	18	26	10
ツガ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41	2	65	109	91	8
トウヒ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	88	15	69	61	30	-
マツ属 単維管束亜属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8	1	19	1	40
マツ属 (不明)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	40	9
コウヤマキ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スギ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
ヤマモミ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
クマシラ属-アサダ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
ハシバミ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2
カバノキ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9	2	2	2	1	-
ハンノキ属		2	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	1	4	27	11	5	-
ブナ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
コナラ属-コナラ亜属		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	3	2	2	1	-
ニレ属-ケヤキ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	5	1	3	-	-
カツラ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
トチノキ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
シナノキ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	1
イボタノキ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
草 本花粉		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
ガマ属		-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	5	3	-	1	1	1	1
イネ科		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	7	-	89	3	5	-
カヤツリグサ科		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	1	-	1	2	2	1
サナエタデ節-ウナギツカミ節		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
タデ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アカザ科		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ナデシコ科		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カラマツソウ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	1	-
キンボウゲ科		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	4	5
ワレモコウ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
フロソウ属		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
セリ科		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
ヨモギ属		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	8	2	3
他のキク亜科		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	2	4	3	6	-
不明花粉		1	1	1	-	2	1	1	-	-	-	1	-	-	1	5	5	-	8	8	10	8
シダ類 胞子		-	-	-	-	1	1	2	3	12	35	99	2	-	4	46	4	21	43	156	268	-
合計		3	0	0	0	3	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	208	25	221	226	212	37
木 本花粉		0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	17	14	0	95	23	21	17
草 本花粉		1	1	1	0	2	1	1	0	0	1	0	0	1	5	5	0	8	8	8	10	8
不明花粉		0	0	0	0	0	1	1	2	3	12	35	99	2	0	4	46	4	21	43	156	268
シダ類 胞子		4	1	1	1	5	3	2	2	3	13	37	99	2	1	28	273	29	345	300	399	330

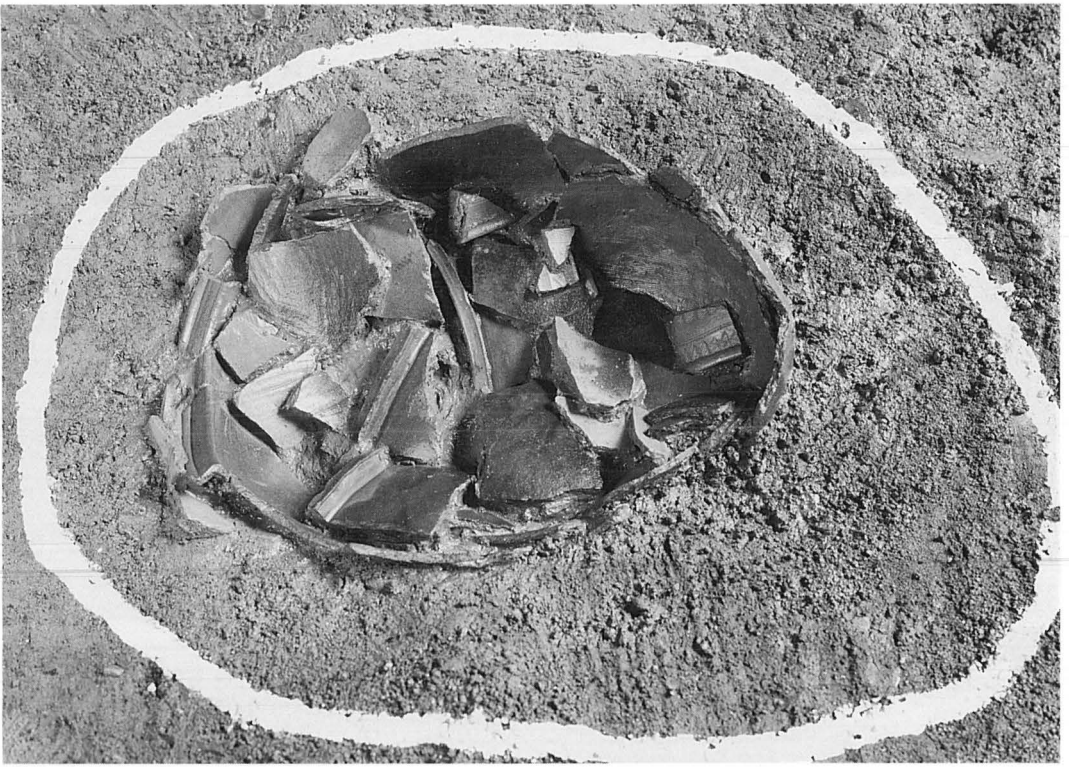
図 版



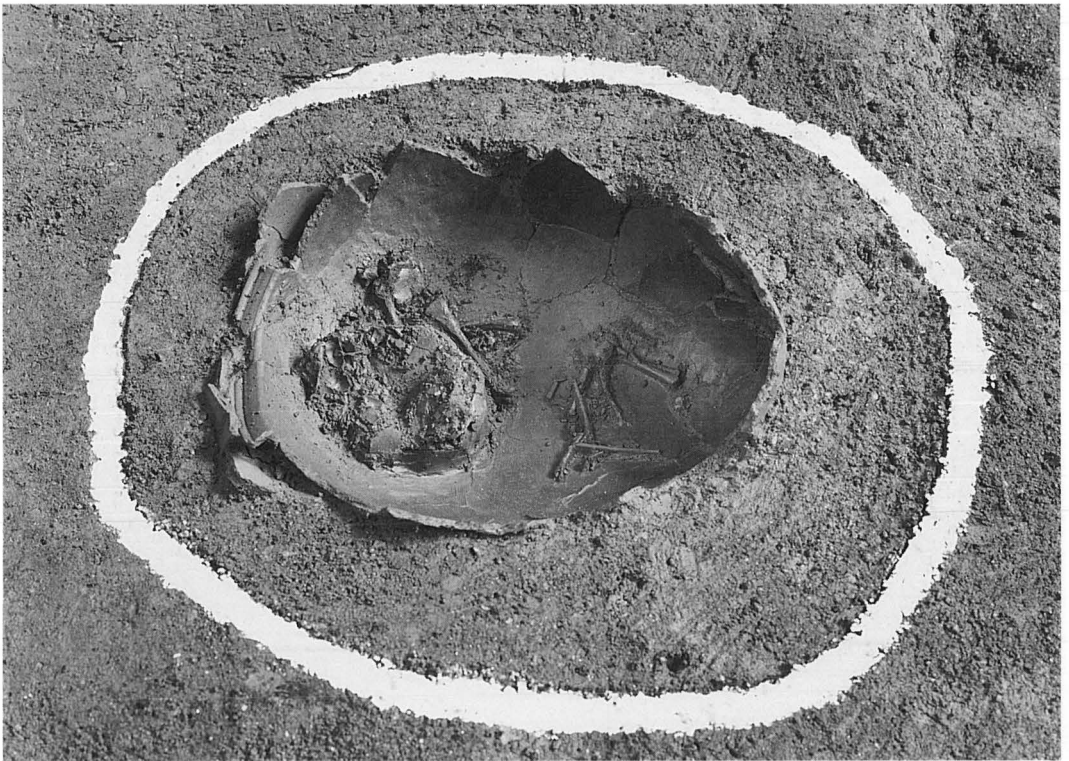
旧河道VI



旧河道VI



A~C地区 土器棺



A~C地区 土器棺



旧河道IV-3 遺物出土状況



旧河道III-3 遺物出土状況

図版四 西ノ辻遺跡第27次調査 遺構

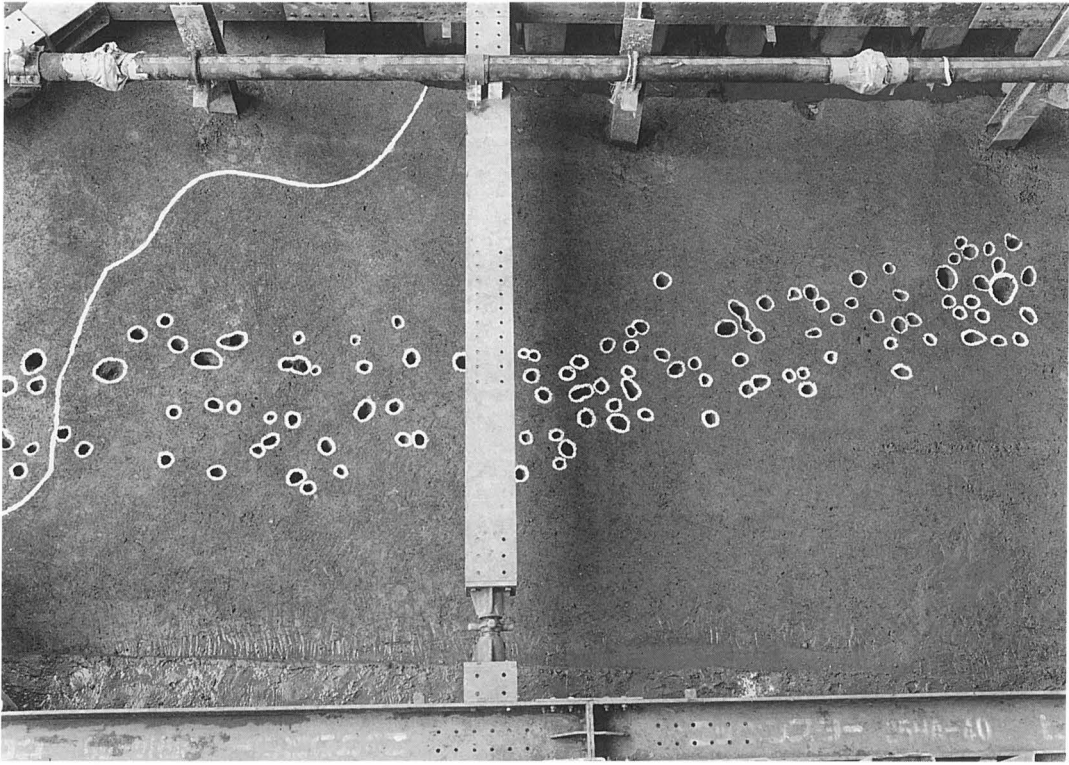


旧河道II

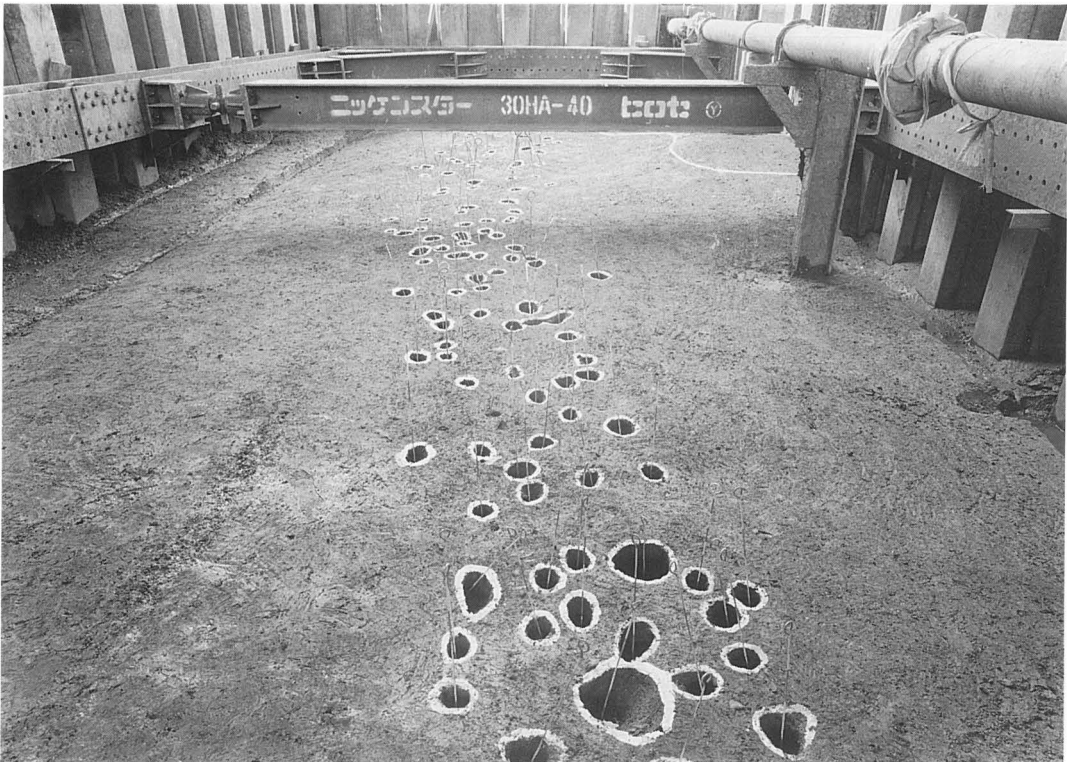


旧河道II

図版五 西ノ辻遺跡第27次調査 遺構



柵列

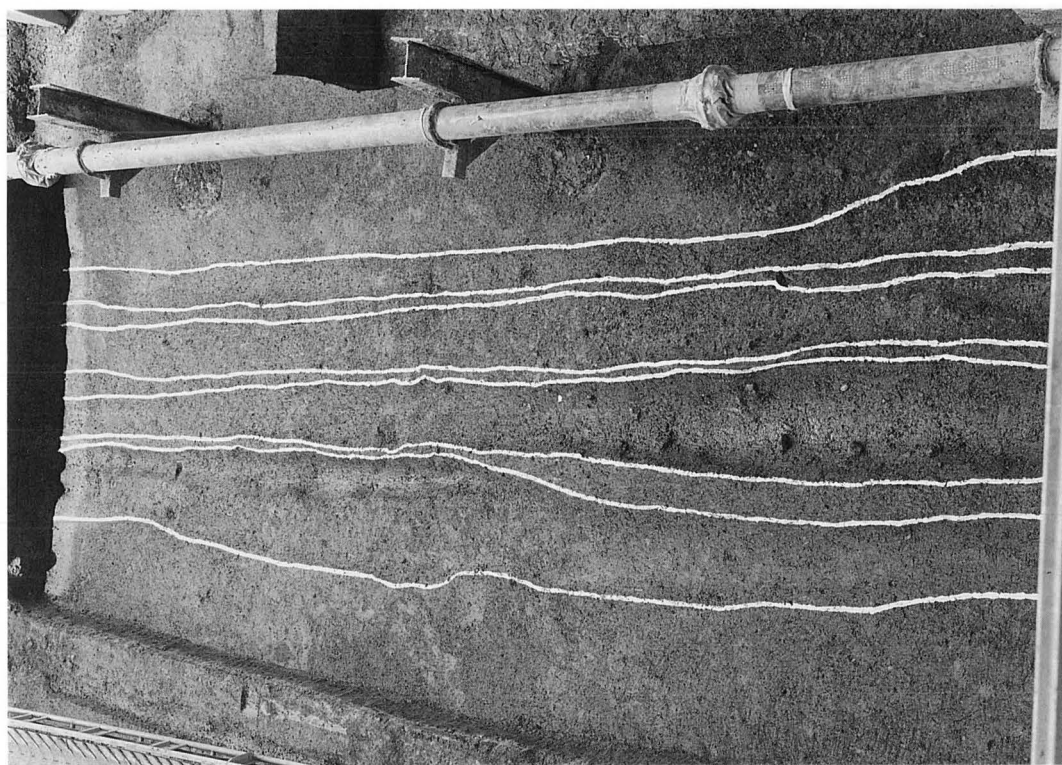


柵列

図版六 西ノ辻遺跡第27次調査 遺構



土坑1



鋤跡



旧河道IV-3 土器棺 身(235)、蓋(234)



旧河道V-2(54・64)、V-1(96)、IV-3(187・250)、III-2(299) 弥生土器



163



166



160



167



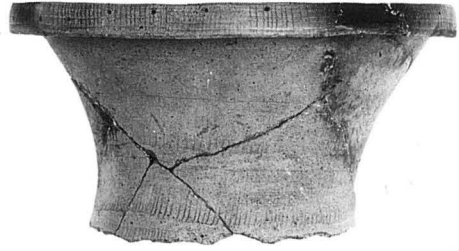
9



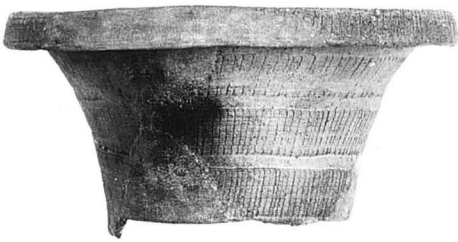
179



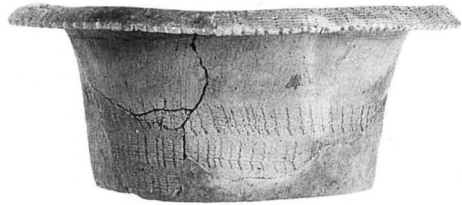
161



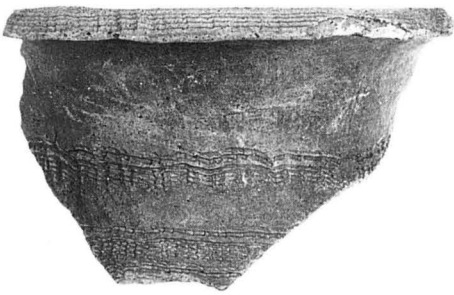
176



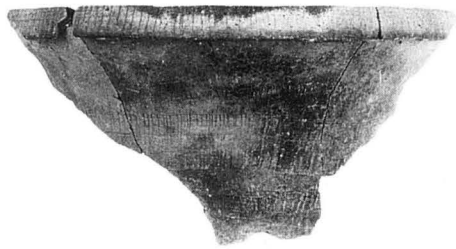
259



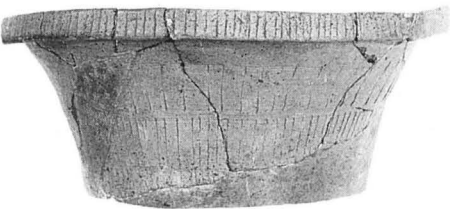
256



329



174



159



137



197



200

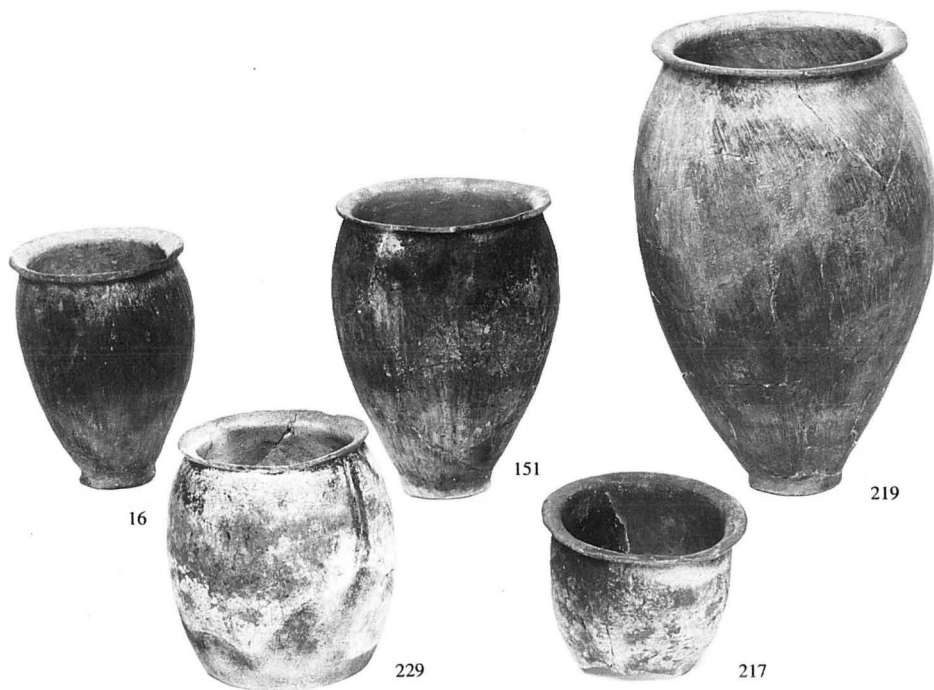


202



199

旧河道IV-3 (197・199・200・202) 弥生土器



16

151

219

229

217

旧河道IV-1 (16)、IV-4~5 (151)、IV-3 (217・219・229) 弥生土器



60



118



60'



118'



152



61

図版二二 西ノ辻遺跡第27次調査 遺物



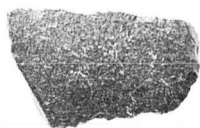
332



333



338



346



334



336



335



344



337



339



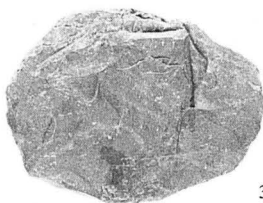
343



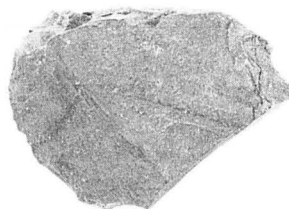
342



345



340



341

各地区出土 打製石器表面



332'



333'



338'



346'



334'



336'



335'



344'



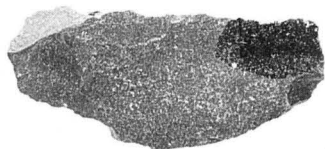
337'



339'



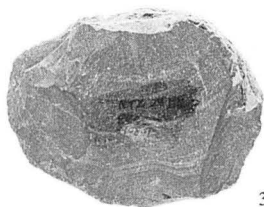
343'



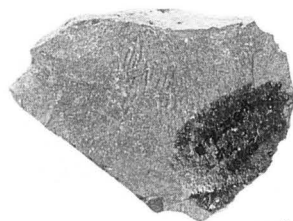
342'



345'



340'

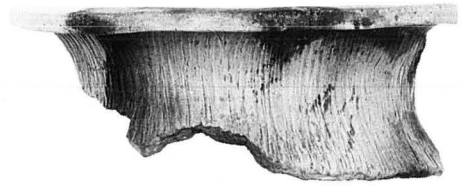


341'

各地区出土 打製石器裏面



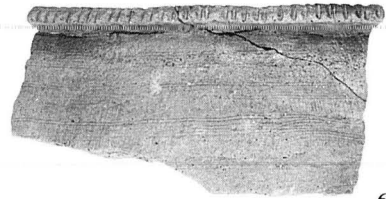
198



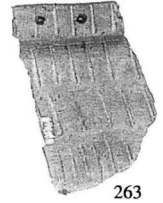
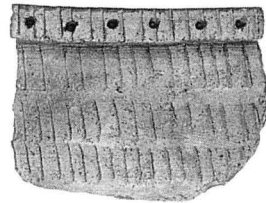
113



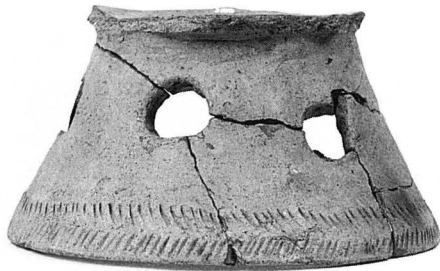
198'



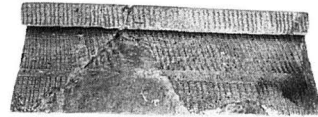
69



263



141



191



147



282

旧河道V-2 (69)、IV-5 (113)、IV-4~5 (141・147)、IV-3 (191・198)
IV-2 (263)、IV-1 (282) 弥生土器



C-2~6地区 始良火山灰とそれ以前の地層

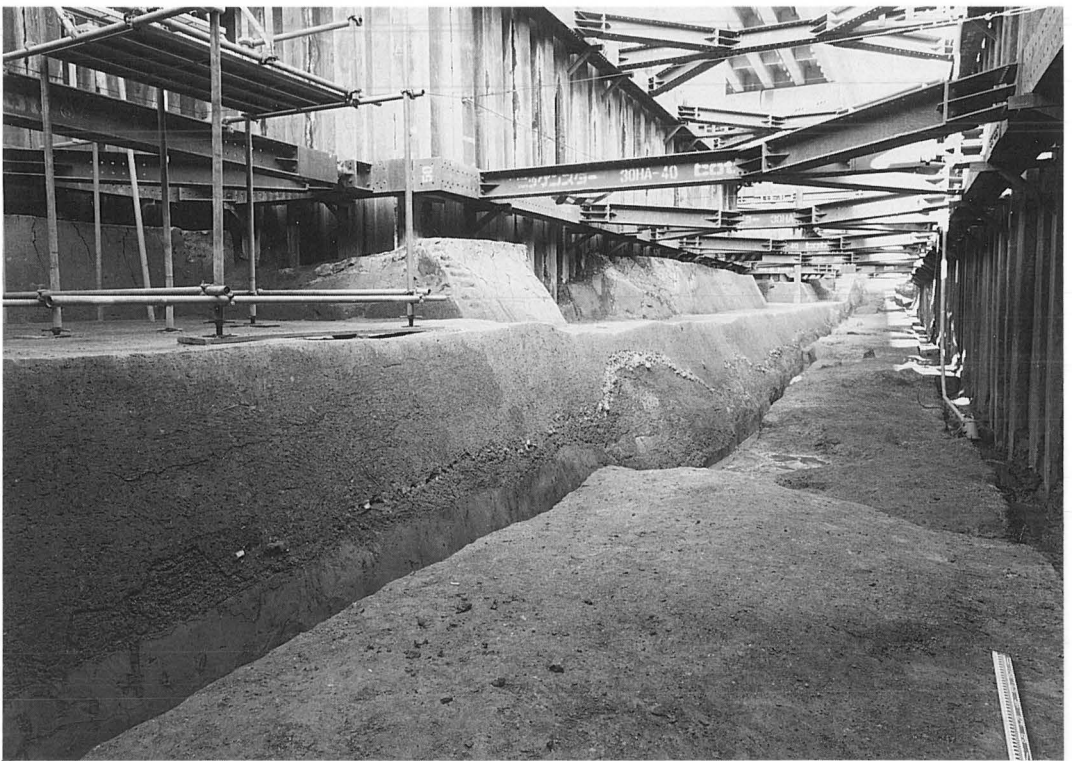


C-3・7地区 海底面と始良火山灰

図版十六 鬼虎川遺跡第32次調査 遺構



A-10~B-6地区 海進以前の旧河道



A~D地区 海底面と海成堆積物



E-10・11地区 海食崖



A~D地区 海成堆積物 (16・17層)



A-2~6地区 海底面付近の生痕化石



A-10地区 17層 生痕化石

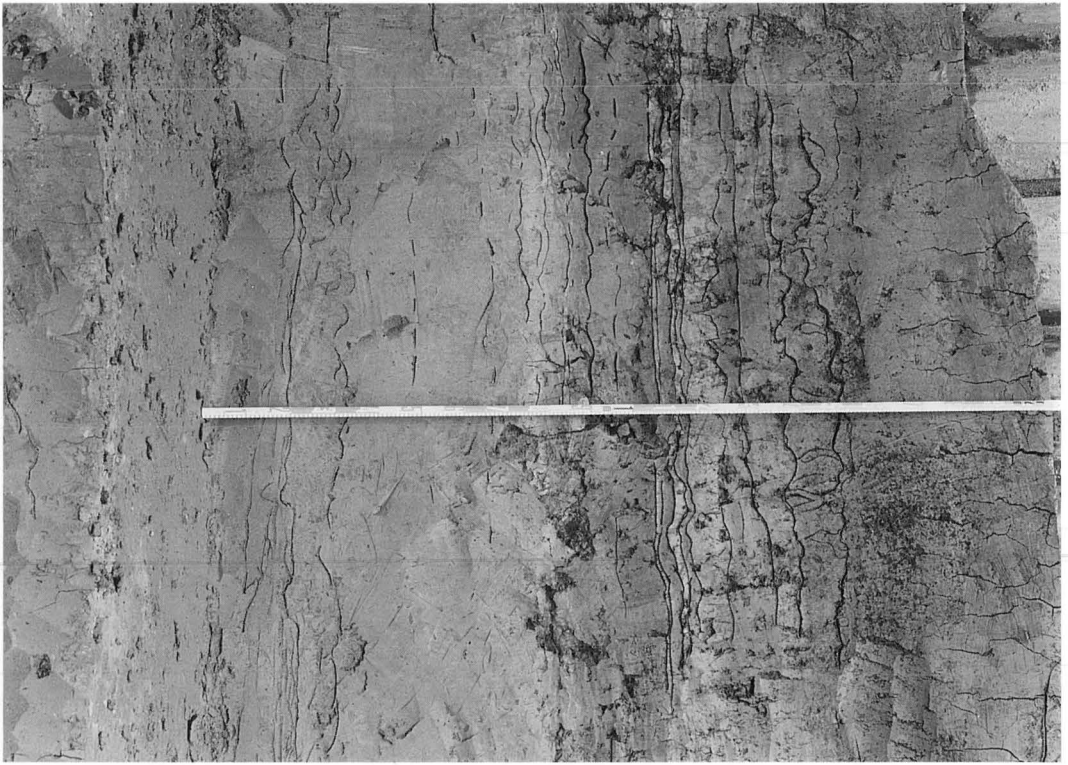


C-2・6地区 16・17層

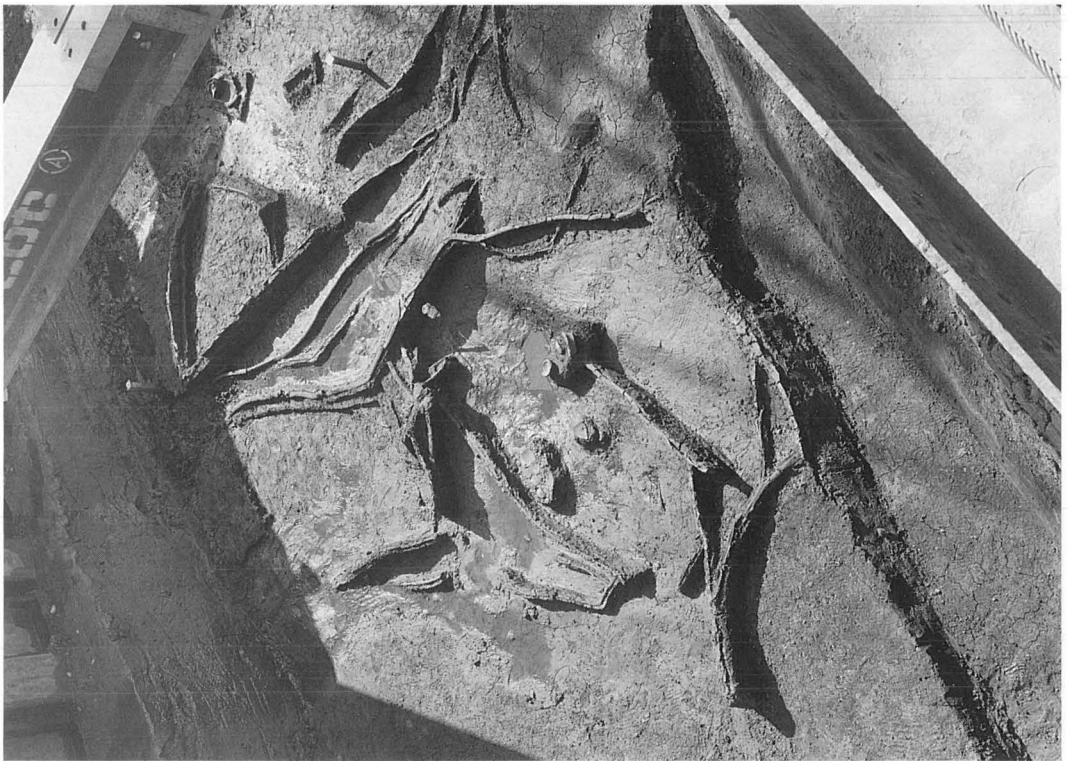


D地区 15~17層

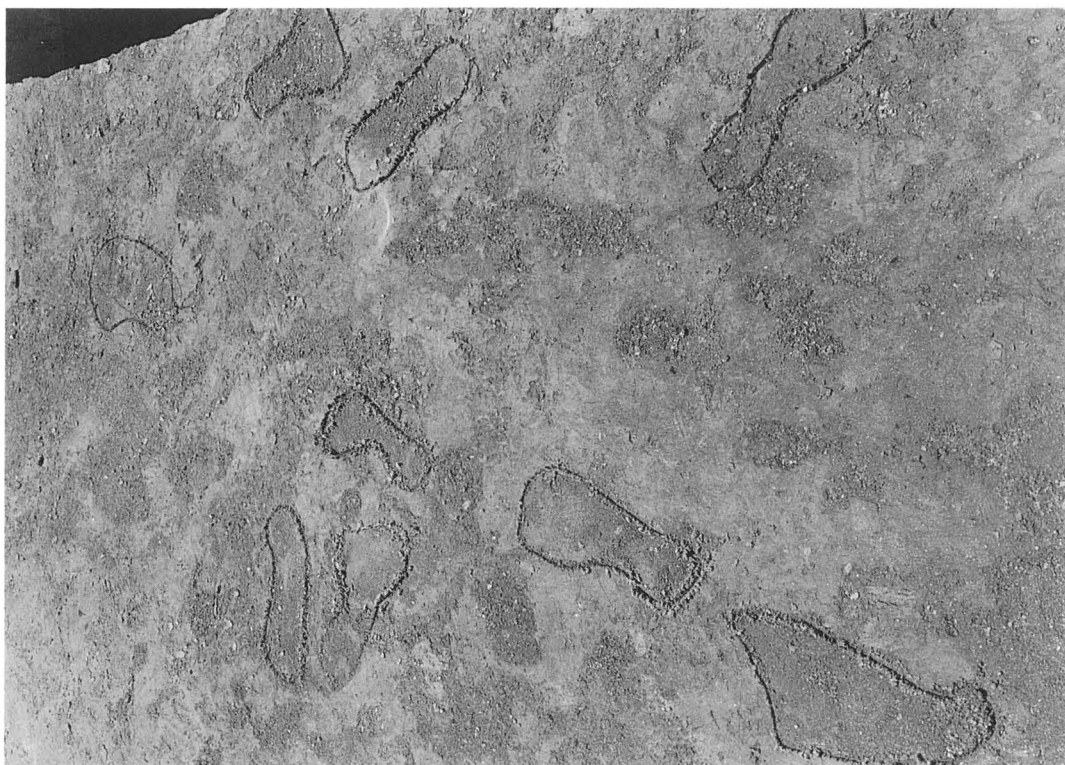
図版二〇 鬼虎川遺跡第32次調査 遺構



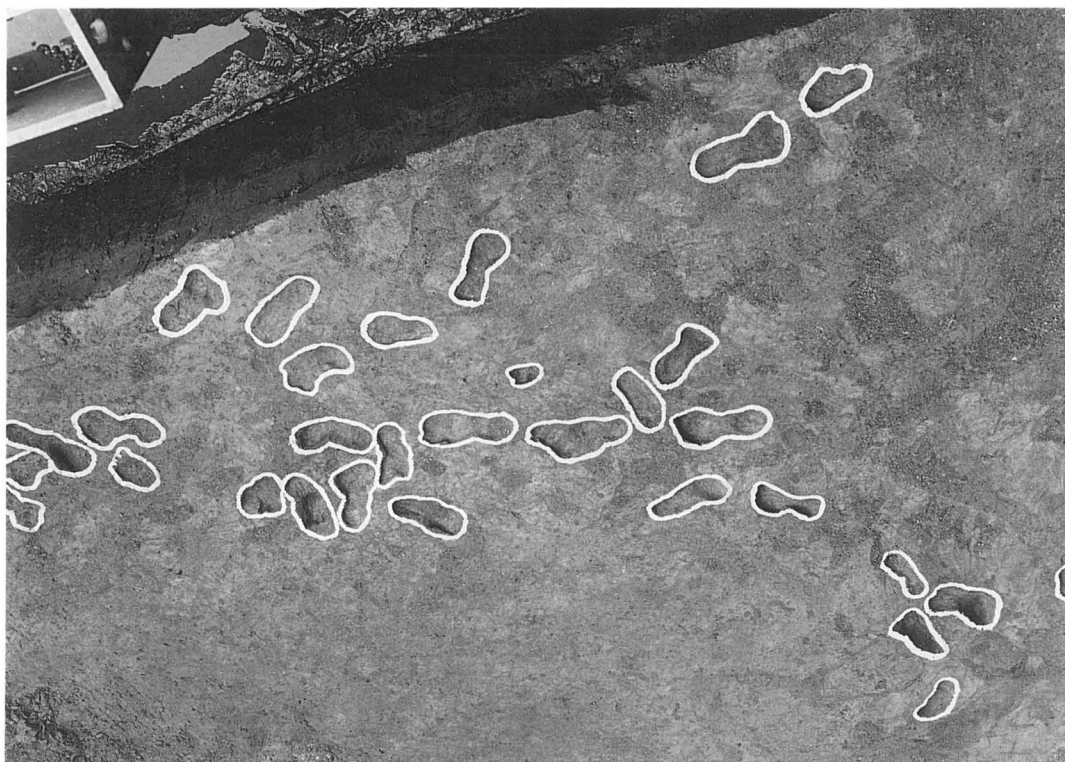
C-1地区 10~14層



B地区 10層中の植物遺体



D-10地区 足跡

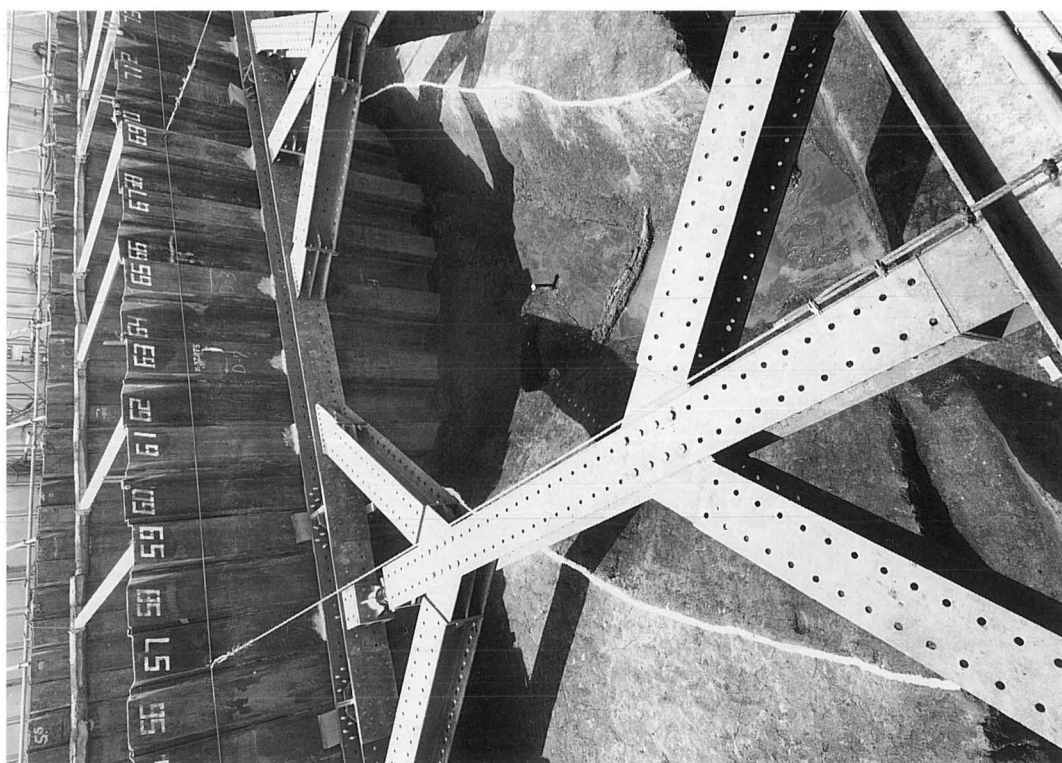


D-9・10地区 足跡

図版三二 鬼虎川遺跡第32次調査 遺構



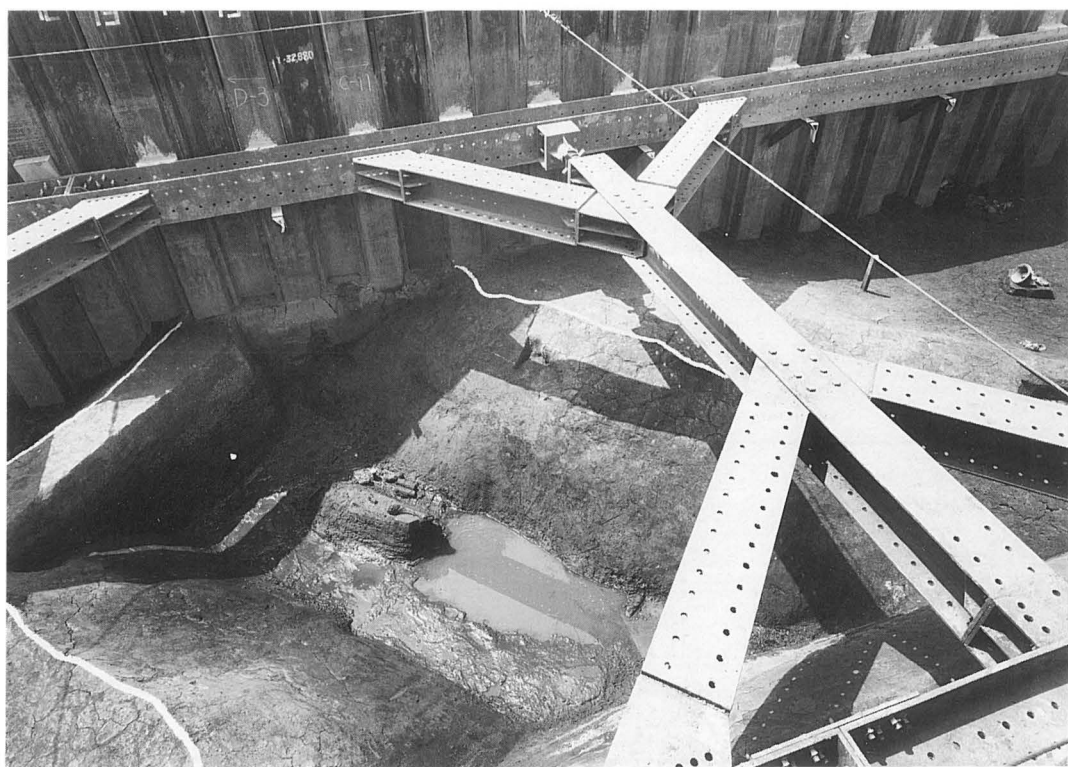
D-6・7地区 溝95



D-2~7地区 溝95

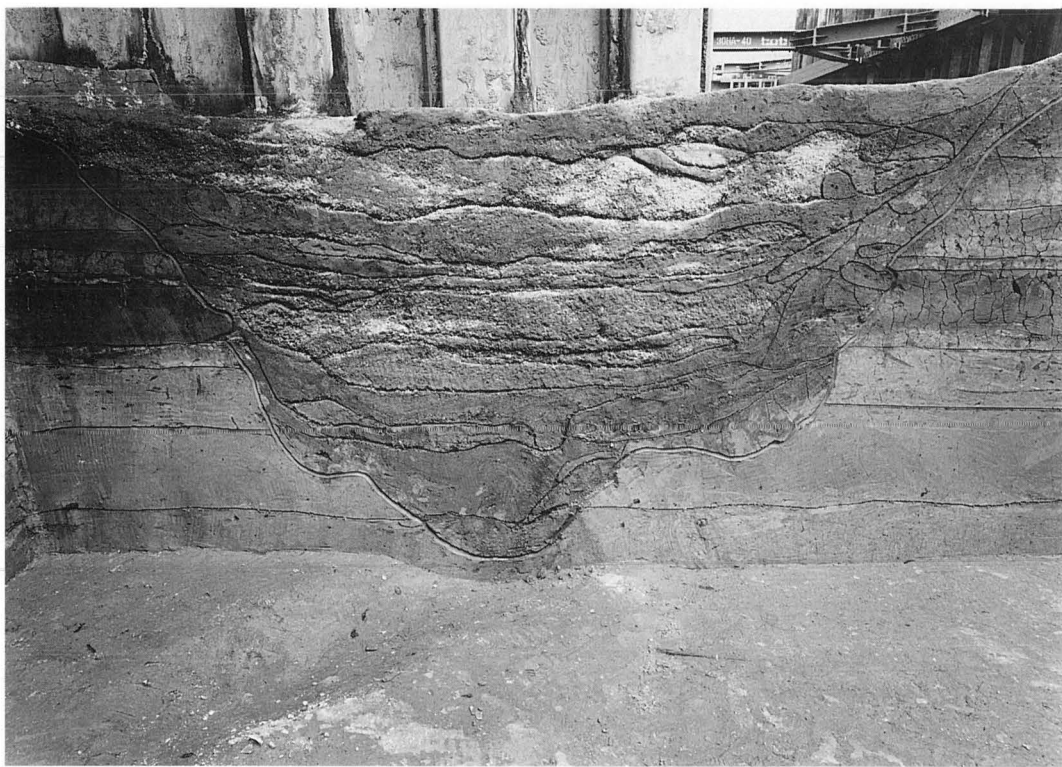


C-10地区 溝97

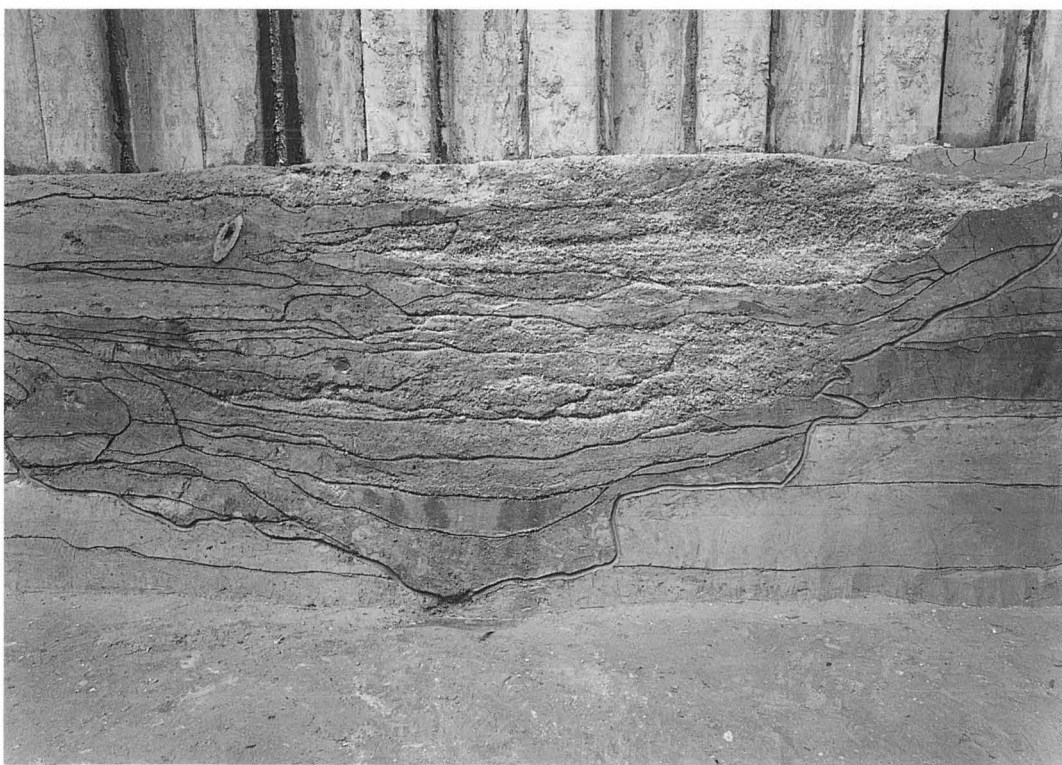


C-10・11、D-3・2地区 溝97

図版二四 鬼虎川遺跡第32次調査 遺構



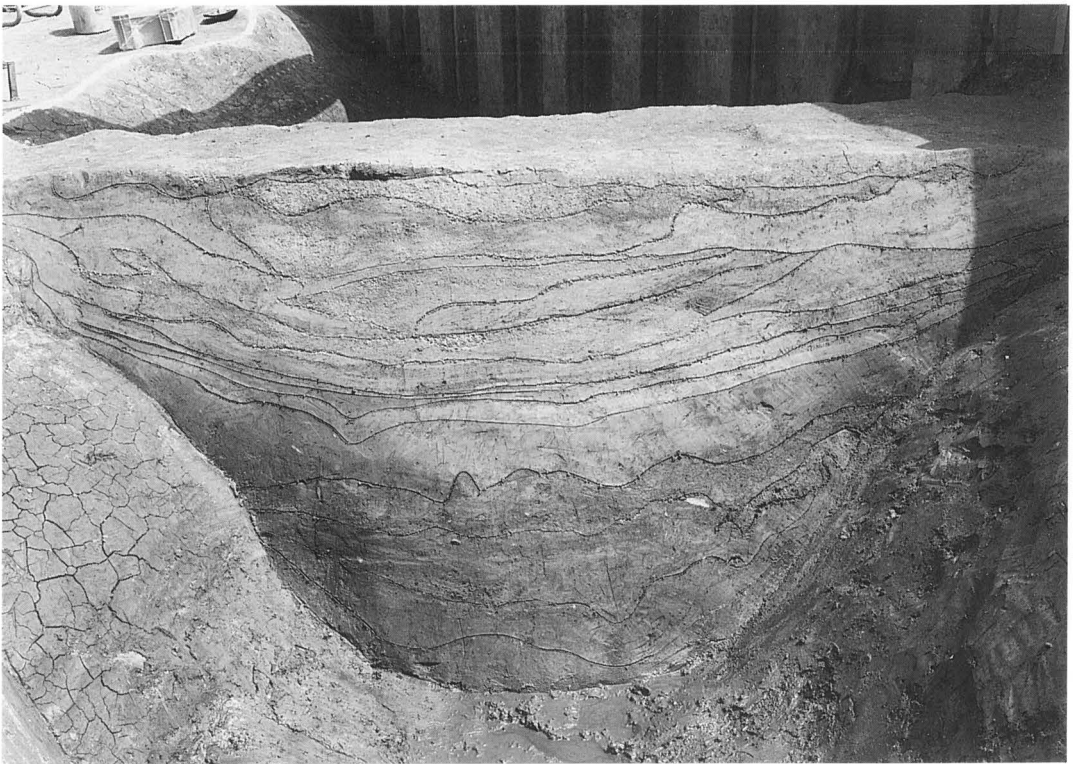
C-5・9地区 溝97 断面



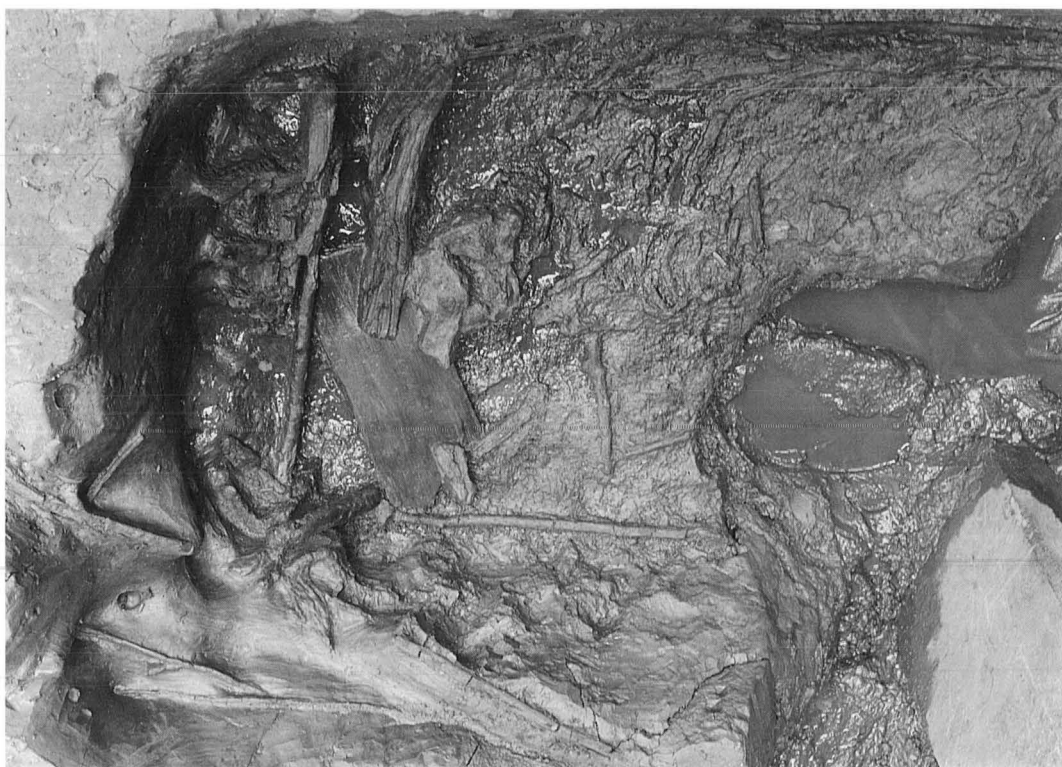
C-9・10地区 溝97 断面



B-10・11、C-2・3地区 溝98



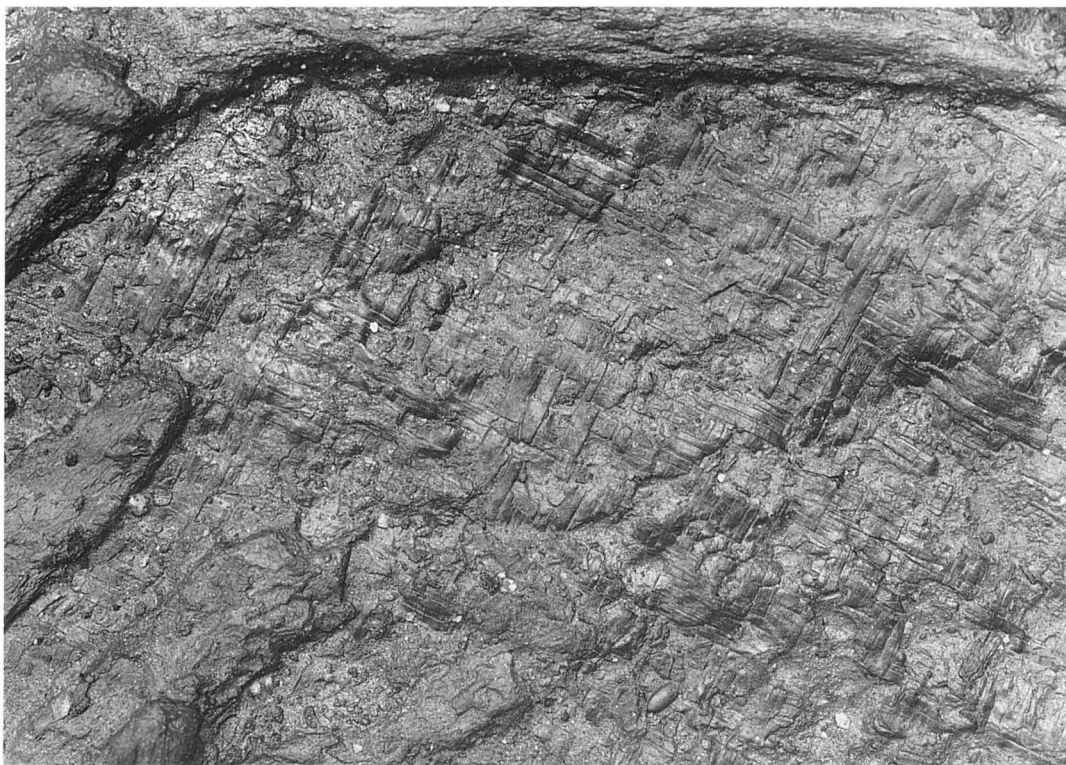
B-10地区 溝98 断面



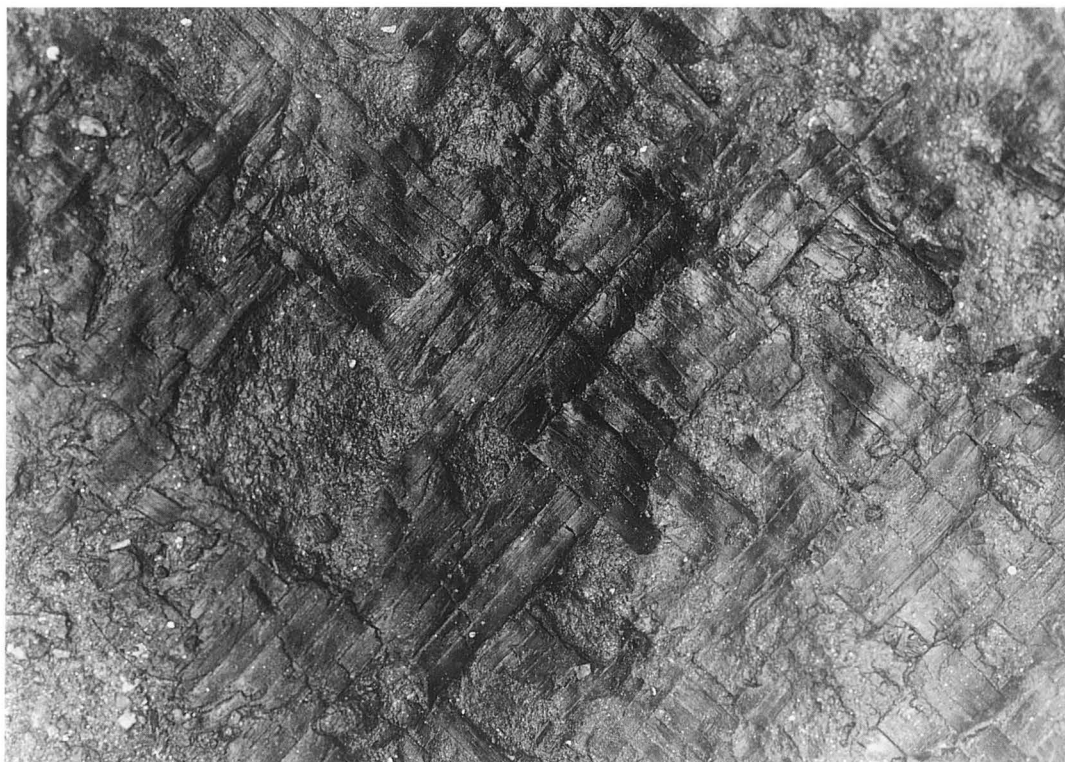
A-1・2地区 第19号方形周溝墓第2主体部



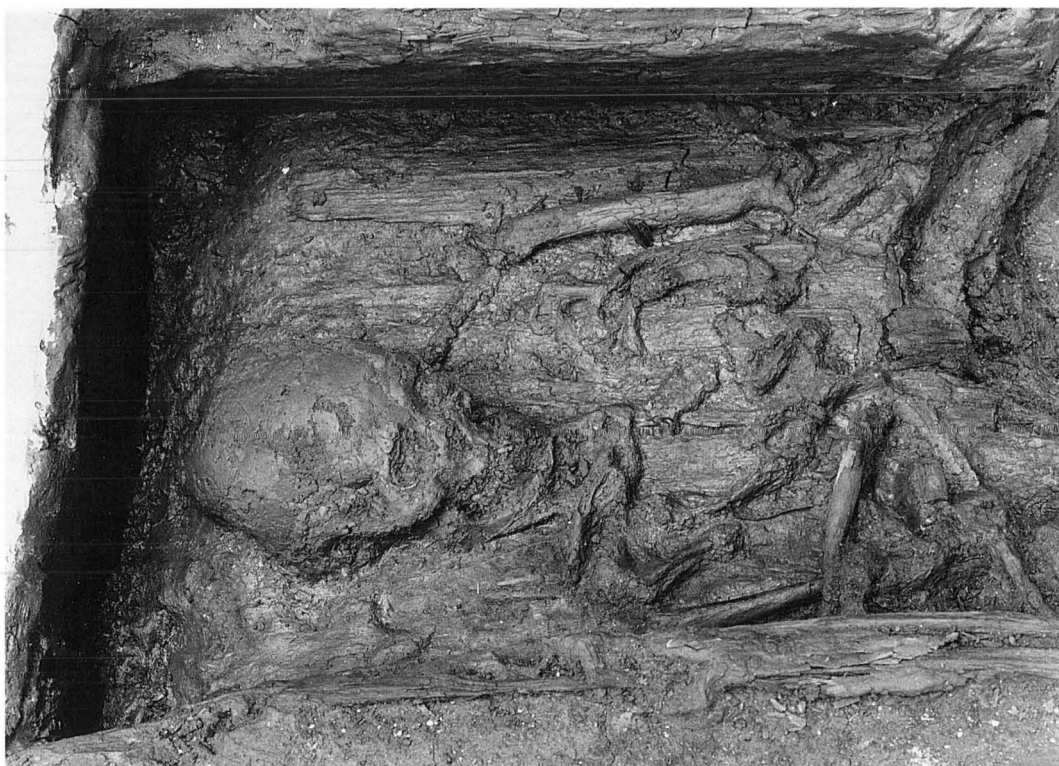
A-1・2地区 第19号方形周溝墓第2主体部



A-2地区 第19号方形周溝墓第2主体部の網代



A-2地区 第19号方形周溝墓第2主体部の網代



A-2地区 第20号方形周溝墓主体部



A-6地区 第20号方形周溝墓供献土器

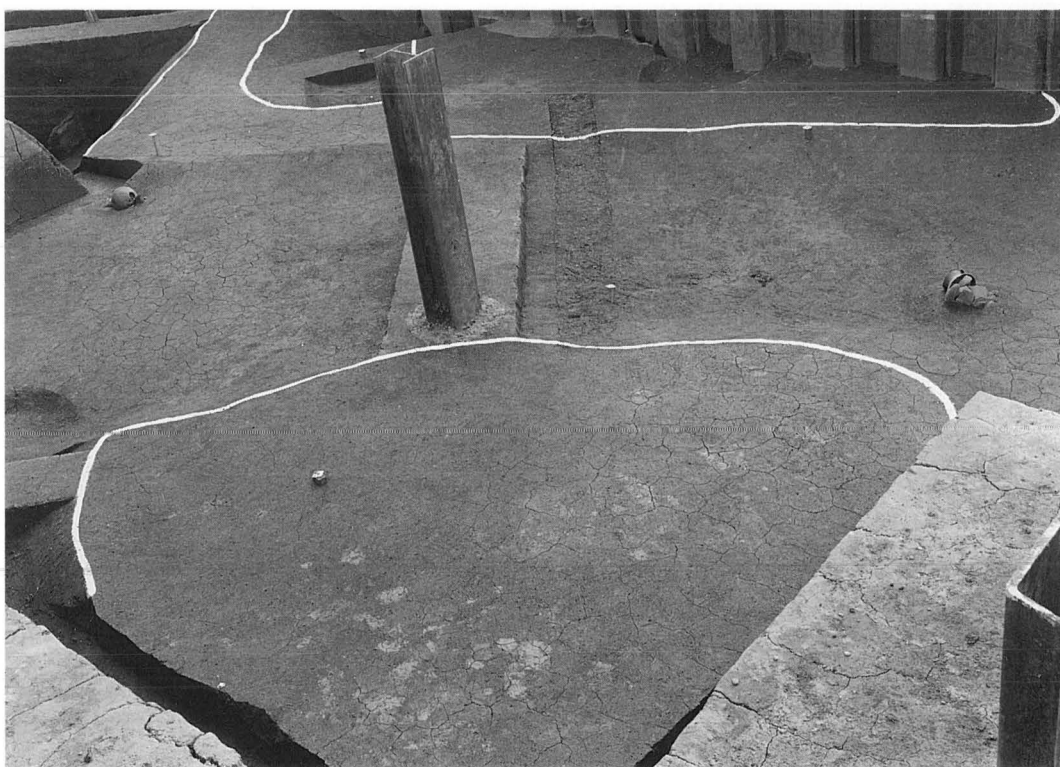


A-1~5地区 第5号方形周溝墓墳丘

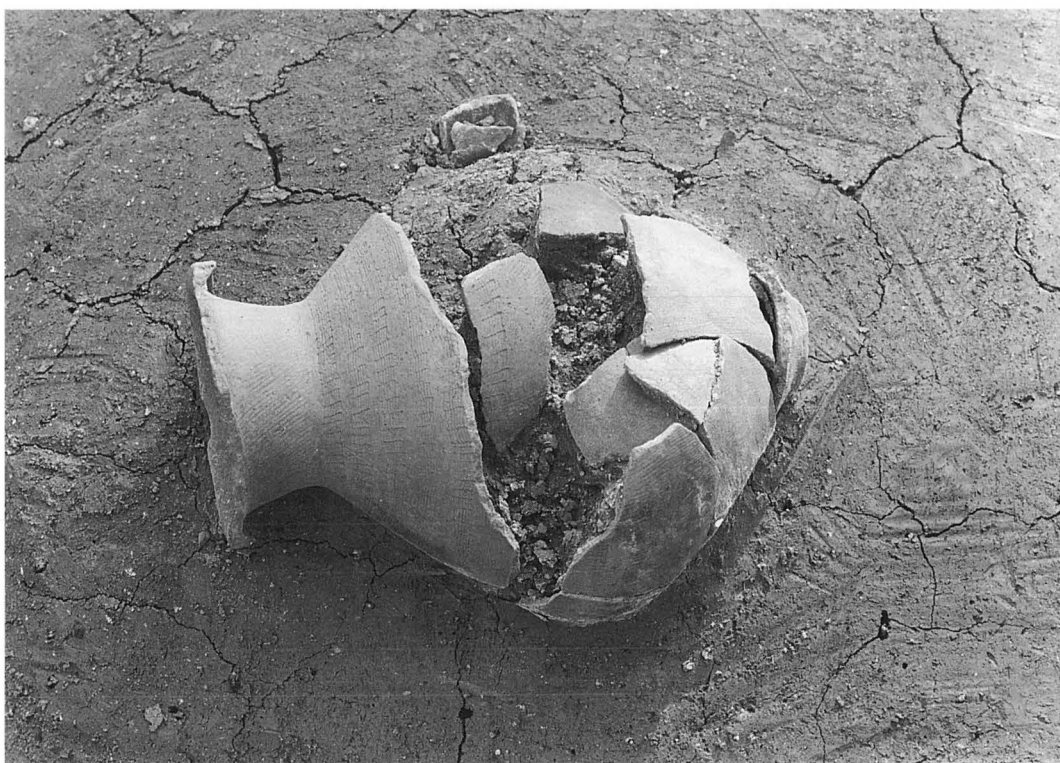


A-6地区 第7号方形周溝墓供献土器

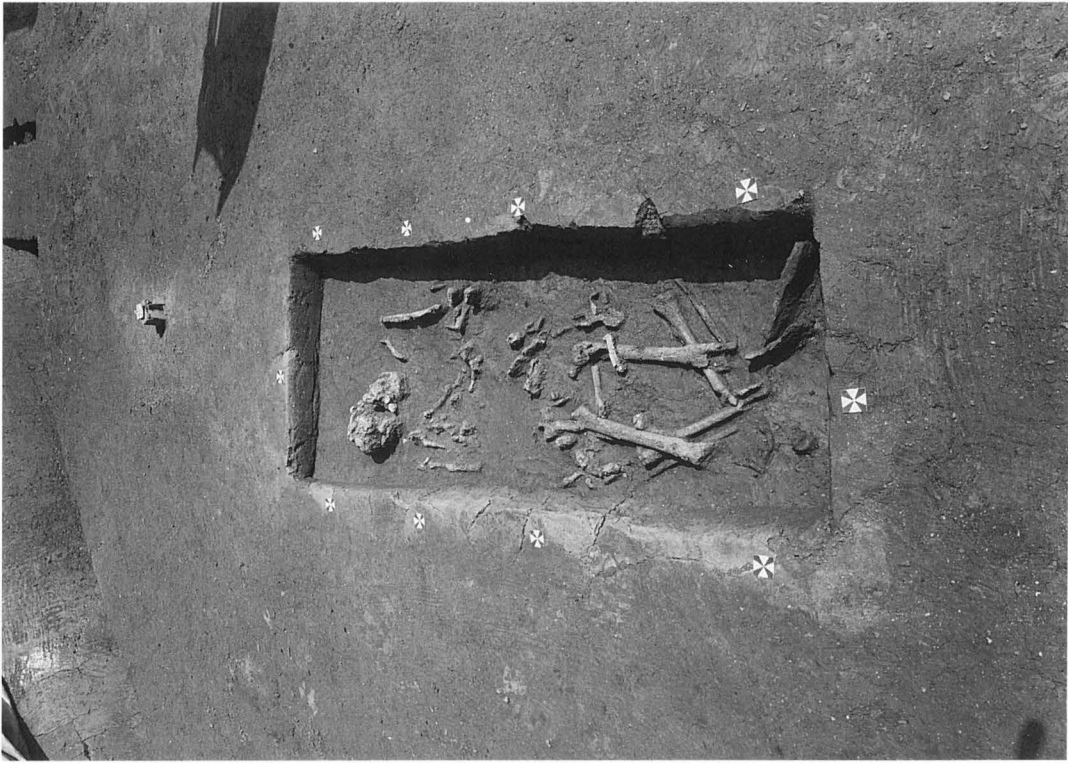
図版三〇 鬼虎川遺跡第32次調査 遺構



C-1~6地区 第23号方形周溝墓墳丘



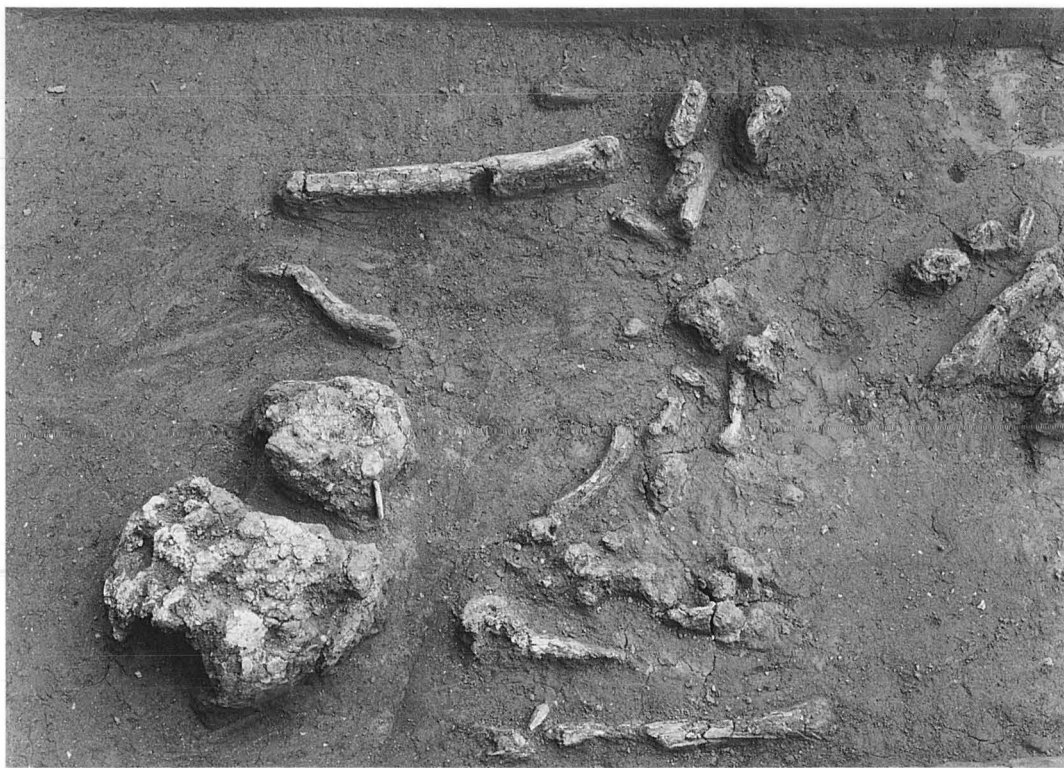
C-2地区 第23号方形周溝墓供献土器



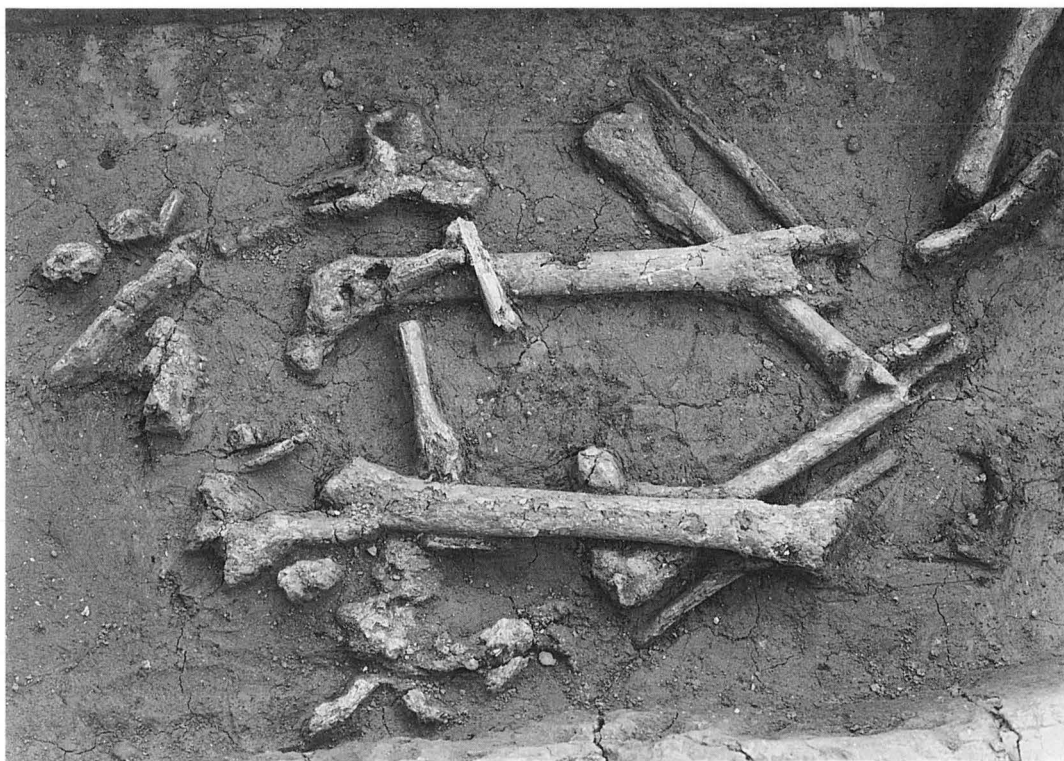
C-2地区 第23号方形周溝墓第1主体部



C-2地区 第23号方形周溝墓第1主体部



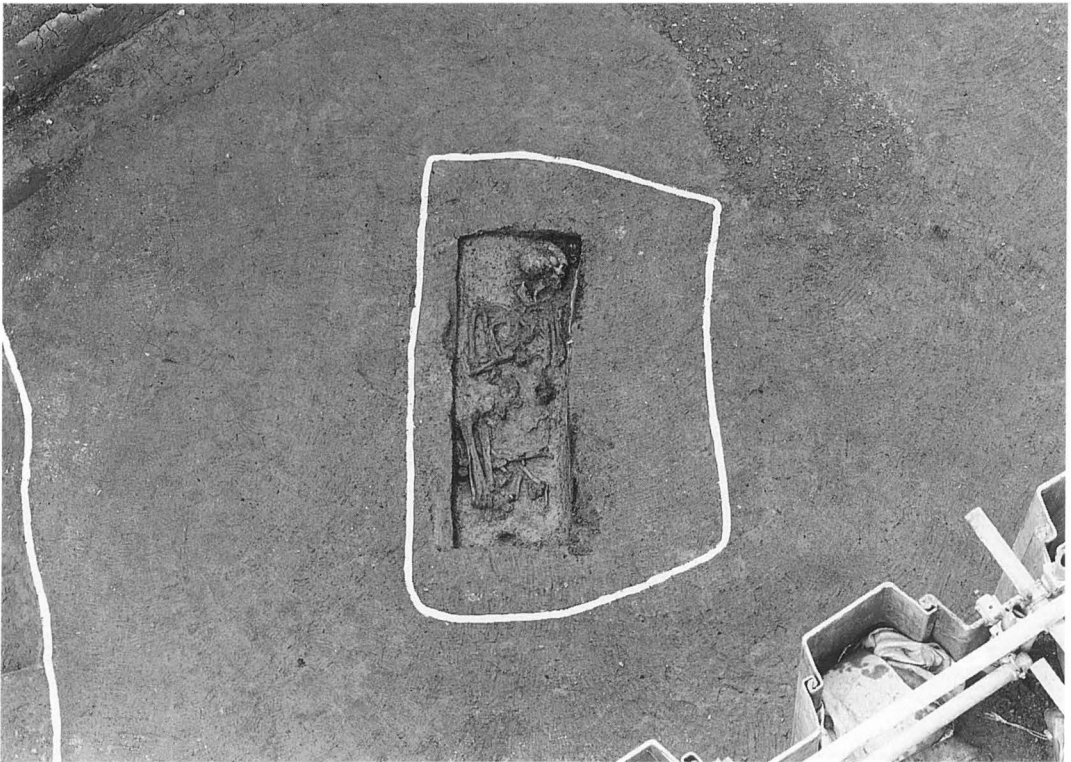
C-2地区 第23号方形周溝墓第1主体部 人骨上半部



C-2地区 第23号方形周溝墓第1主体部 人骨下半部



C-6地区 第23号方形周溝墓第2主体部



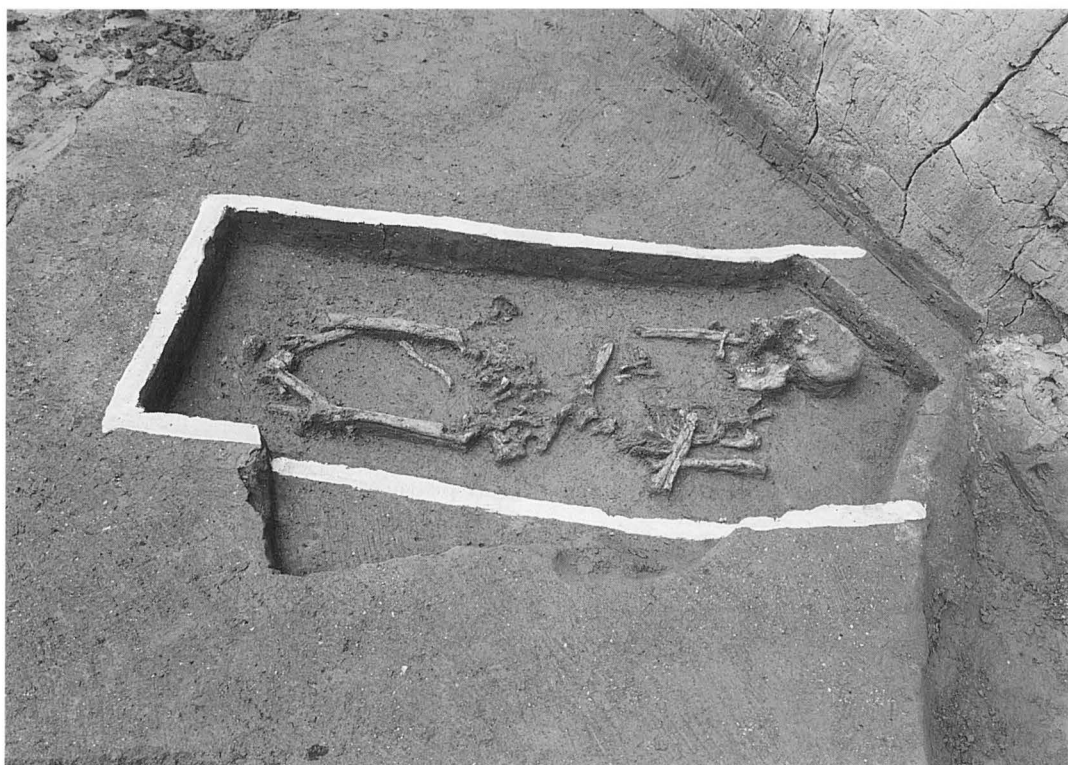
B~10地区 第24号方形周溝墓主体部



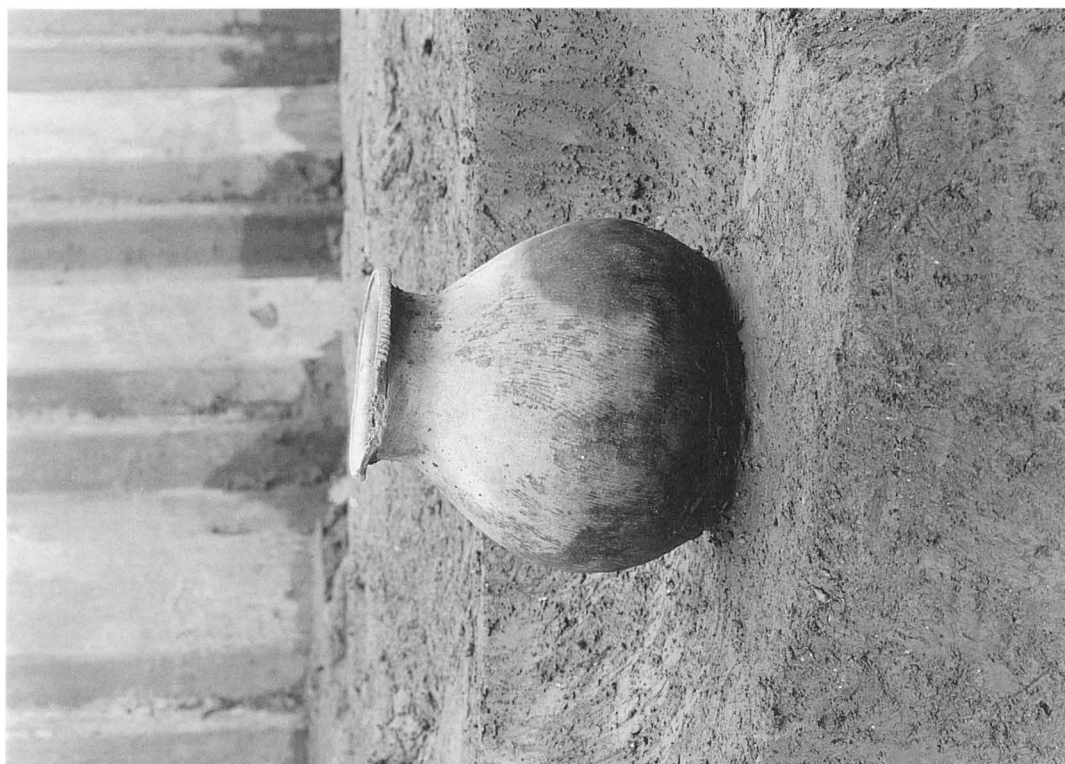
C-7地区 第25号方形周溝墓第1主体部と第9号土壙墓



C-7地区 第25号方形周溝墓第1主体部



C-9地区 第25号方形周溝墓第2主体部



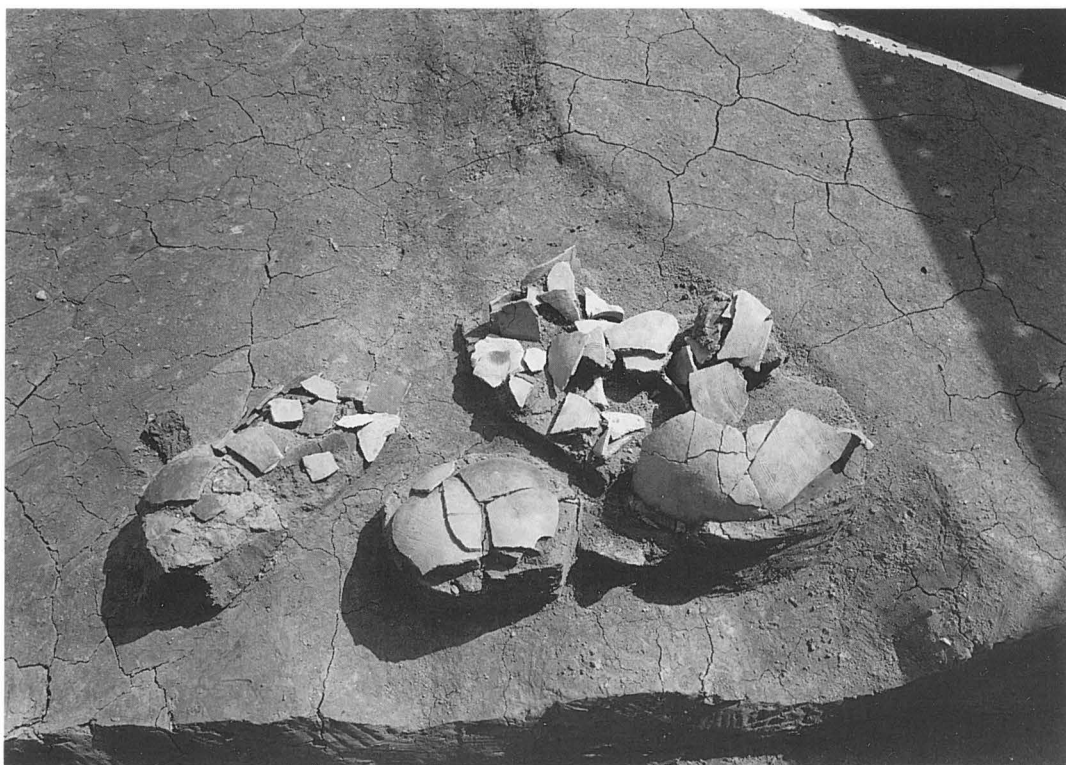
C-3地区 第25号方形周溝墓供献土器



C-10地区 第25号方形周溝墓供献土器



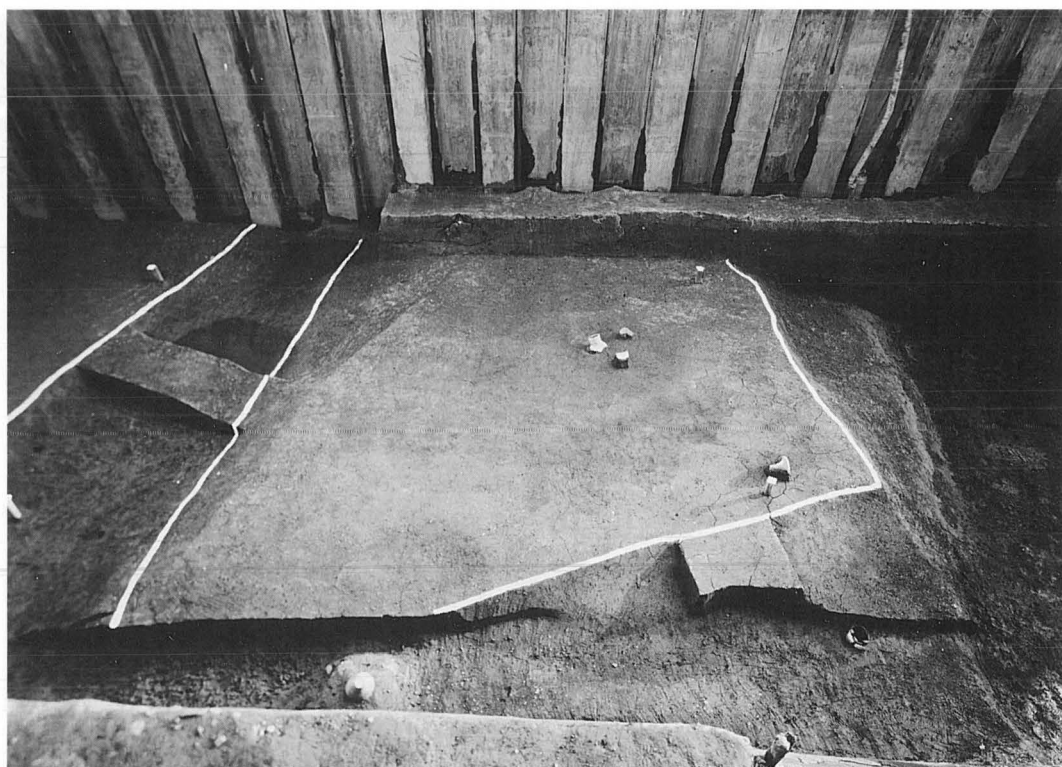
C-6地区 第25号方形周溝墓供献土器



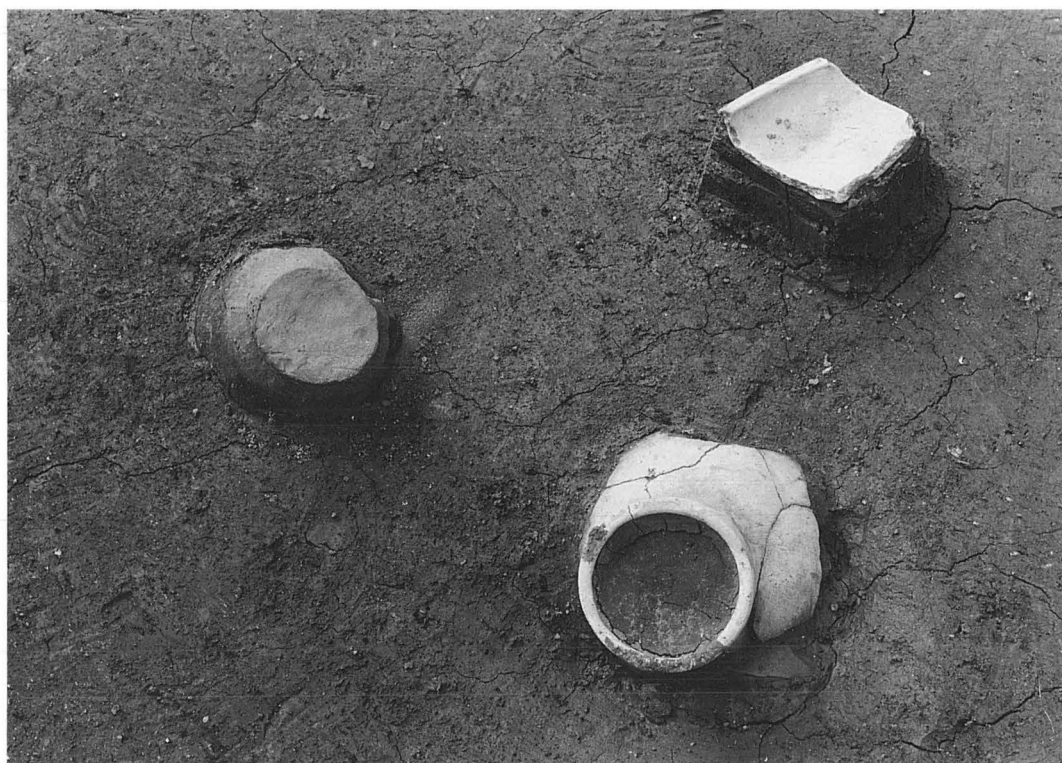
C-7地区 第25号方形周溝墓供献土器



C-6地区 第25号方形周溝墓供献土器



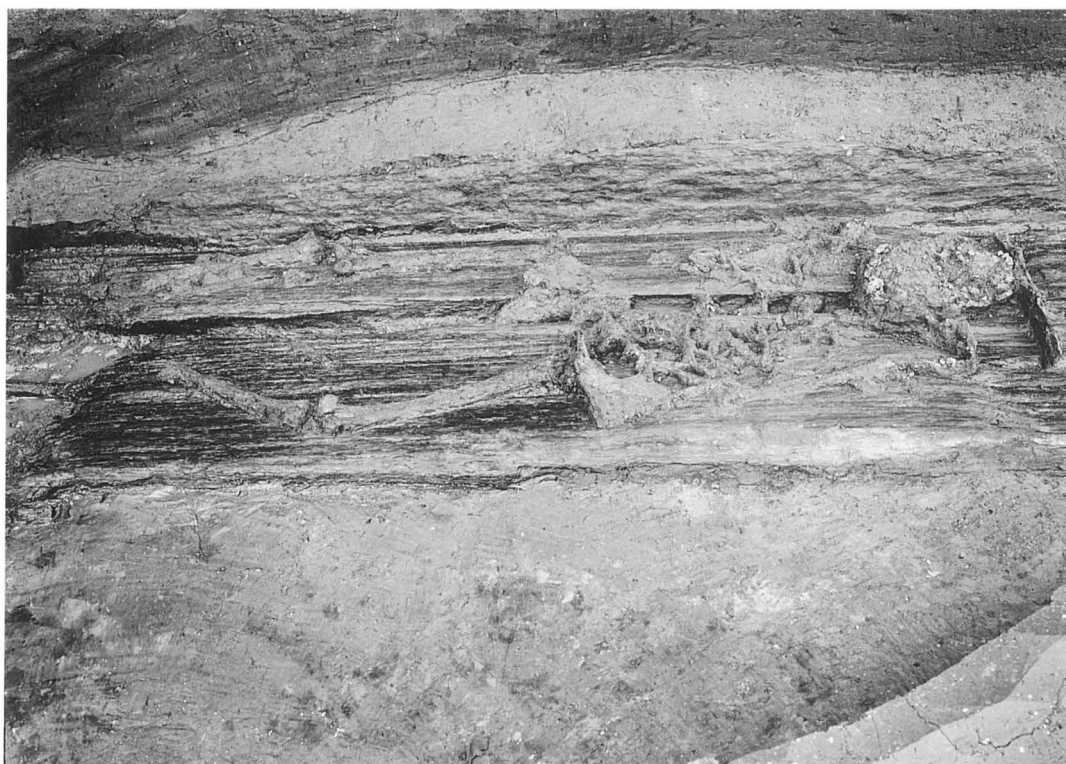
B-6地区 第26号方形周溝墓供献土器



B-6地区 第26号方形周溝墓供献土器

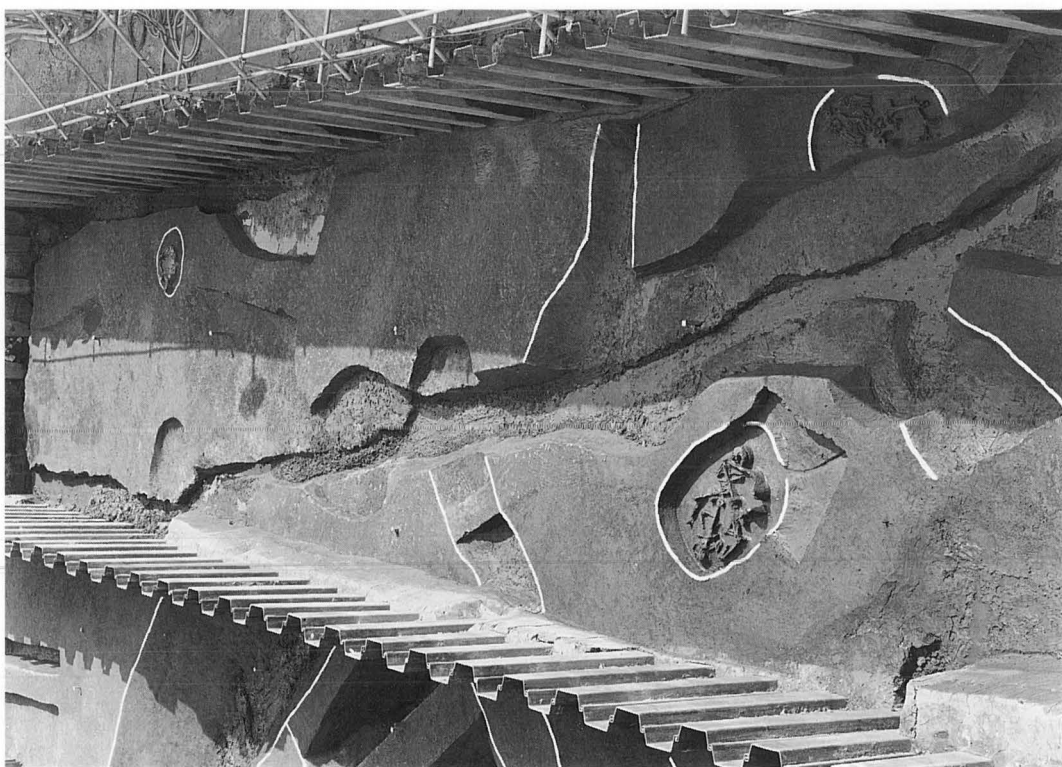


B-6地区 第26号方形周溝墓墳丘内出土土器



B-5・6地区 第26号方形周溝墓第2主体部

図版四〇 鬼虎川遺跡第32次調査 遺構



C-3~D-12地区 全景



C-7~11地区 第9号土墳墓



C-7~11地区 第9号土壇墓



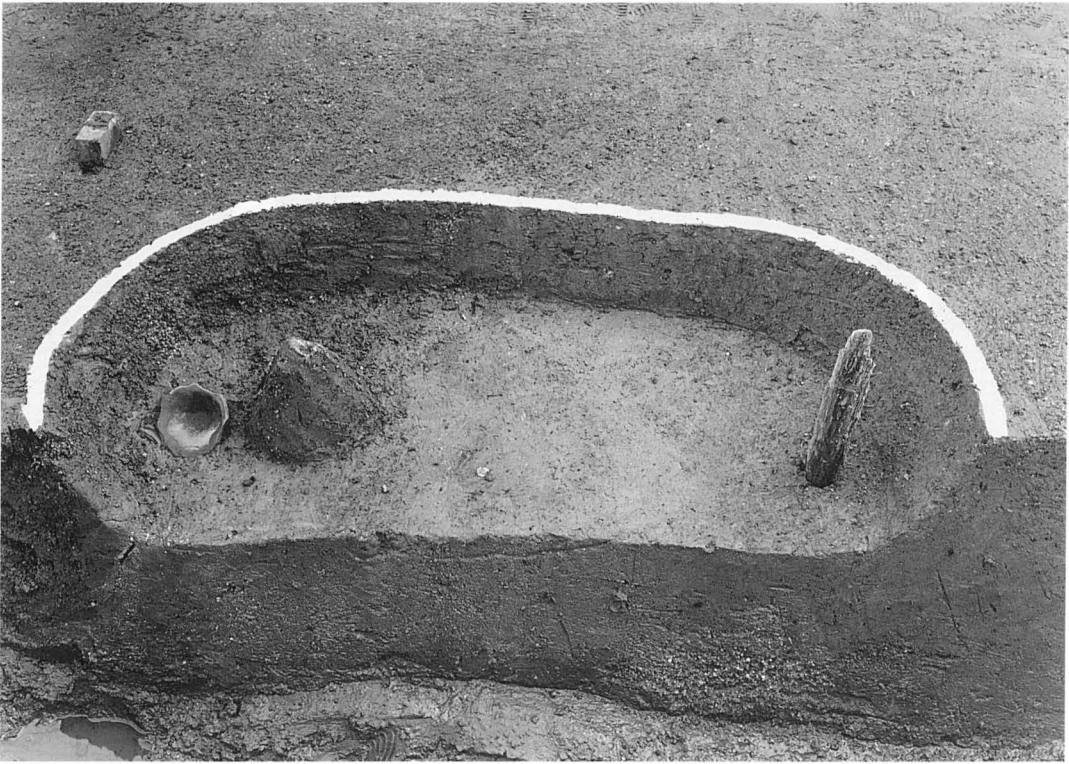
C-7~11地区 第9号土壇墓



C-8地区 第10号土壇墓



C-7~11地区 第10号土壇墓

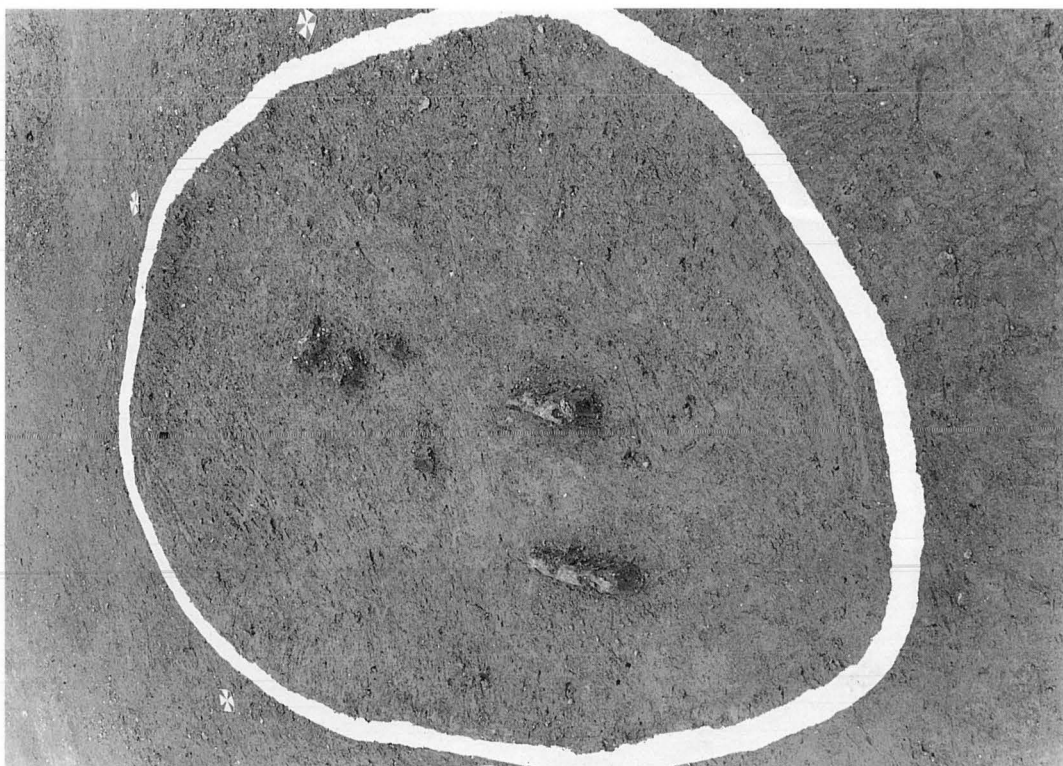


C-11地区 第11号土壇墓

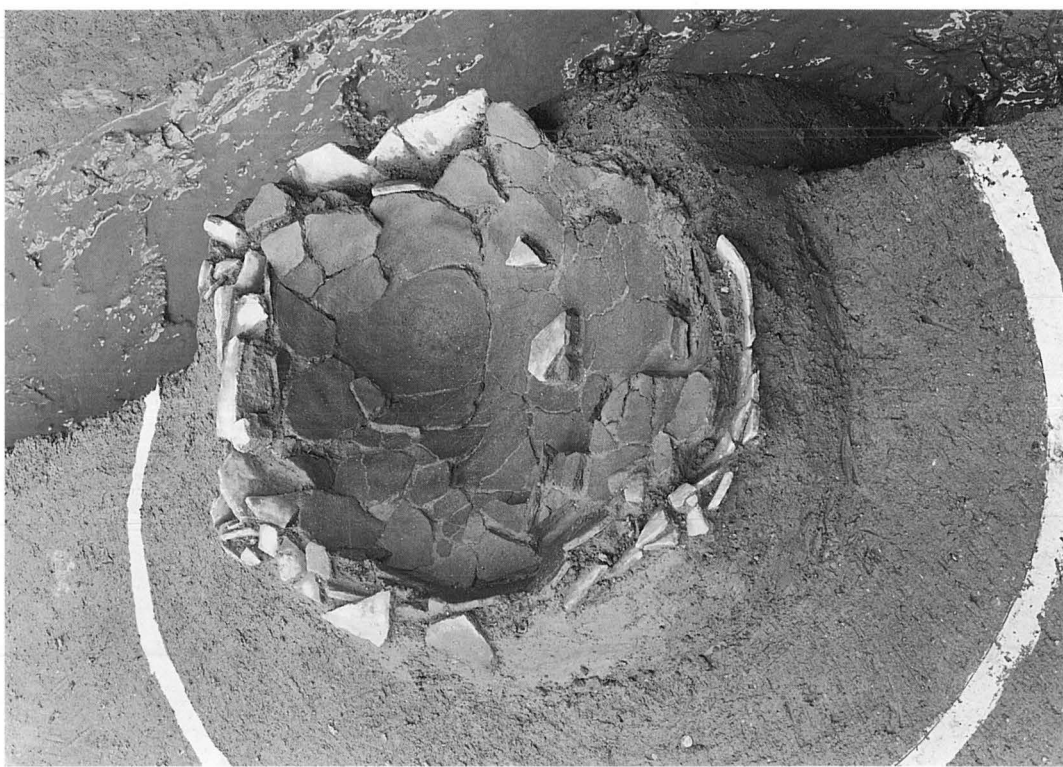


C-10地区 第12号土壇墓

図版四四 鬼虎川遺跡第32次調査 遺構



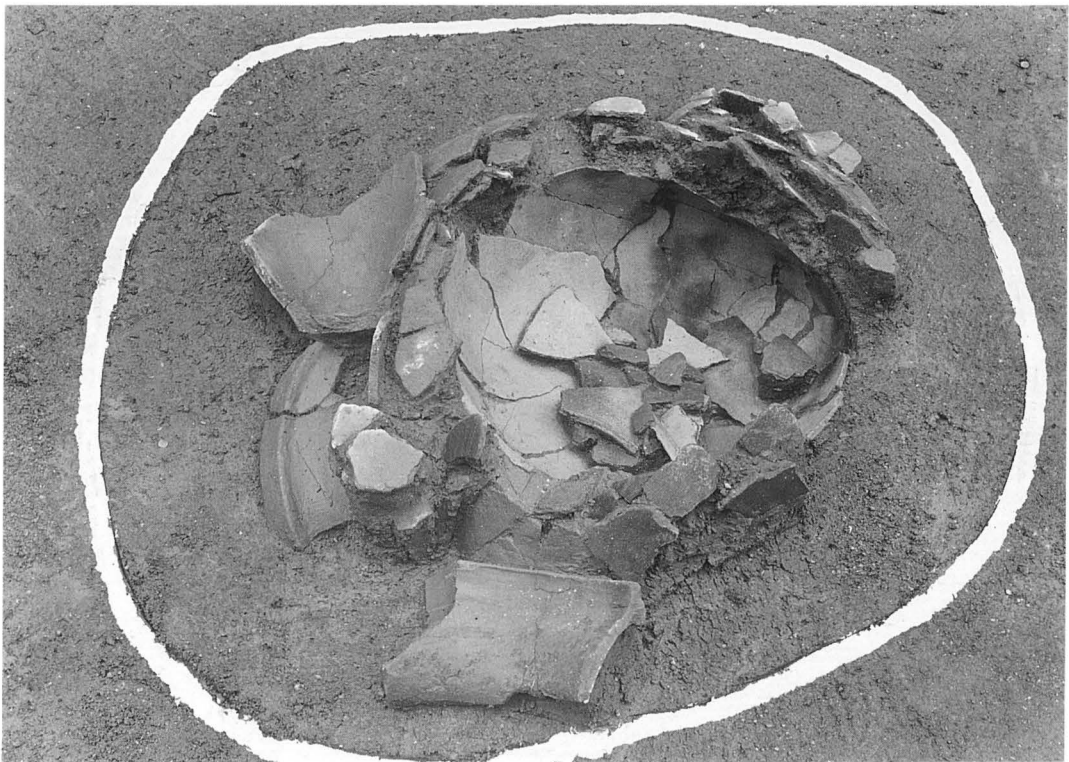
D-2地区 第13号土壇墓



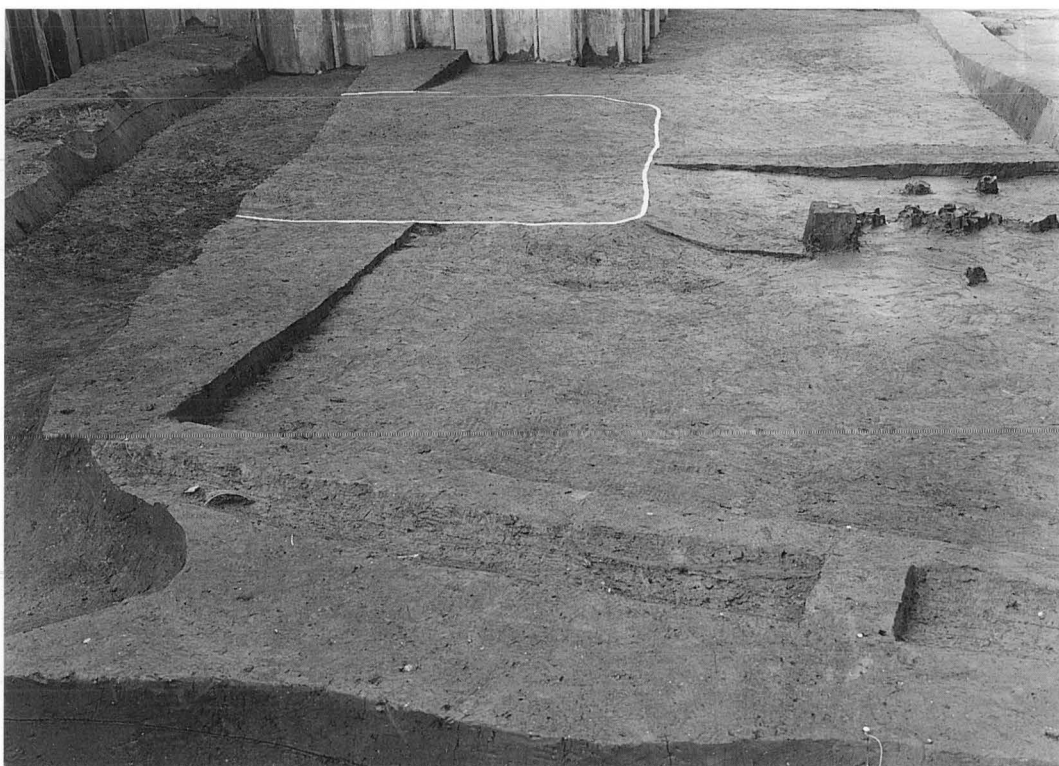
C-1地区 第1号土器棺



D-8地区 第2号土器棺



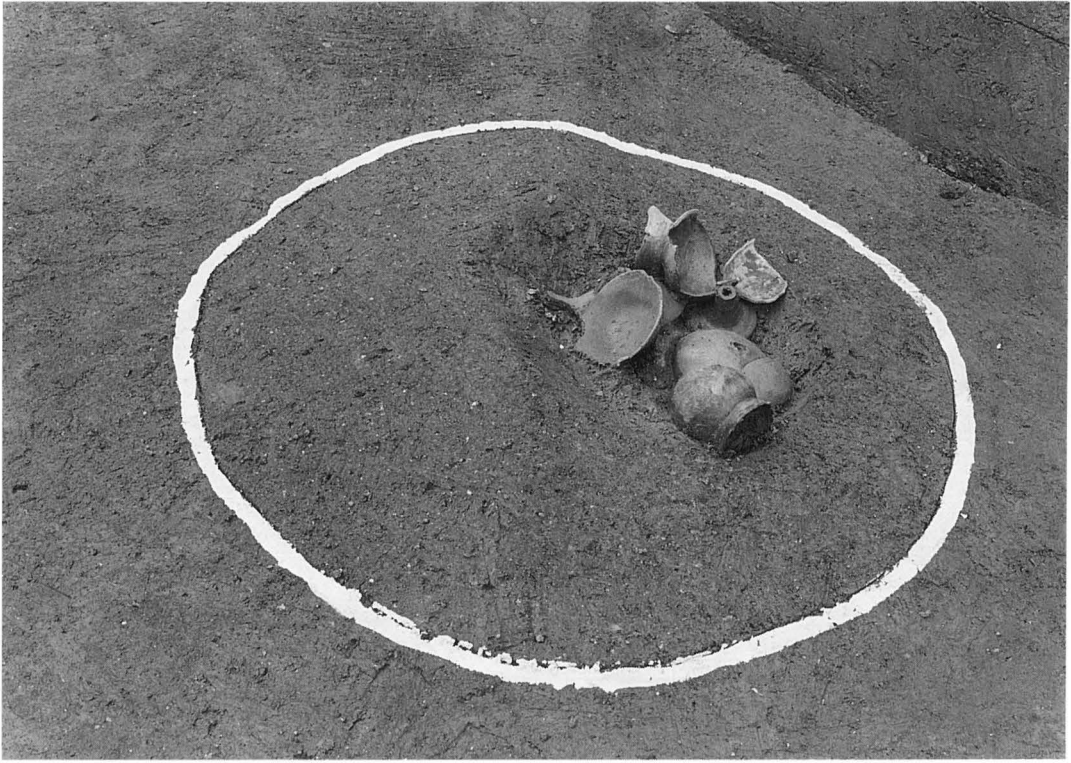
D-8地区 第2号土器棺



E-3地区 方形周溝



E-3地区 方形周溝の土器



C-10地区 土坑1



D-3地区 土坑2

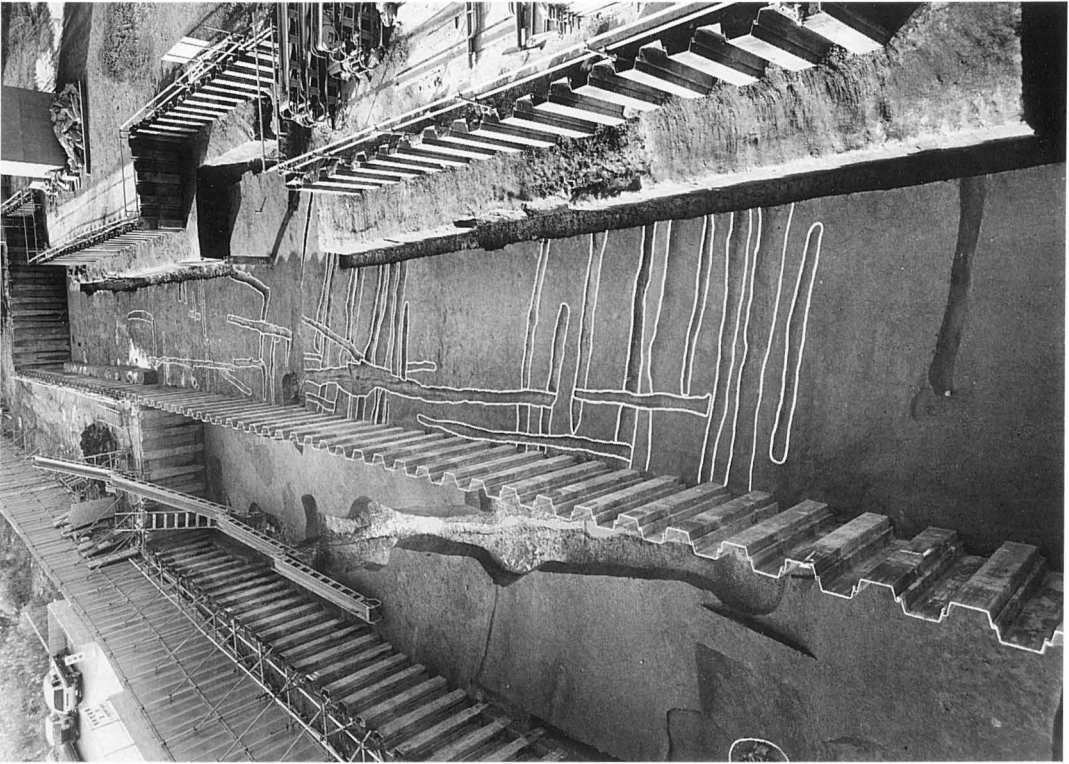
図版四八
鬼虎川遺跡第32次調査
遺構



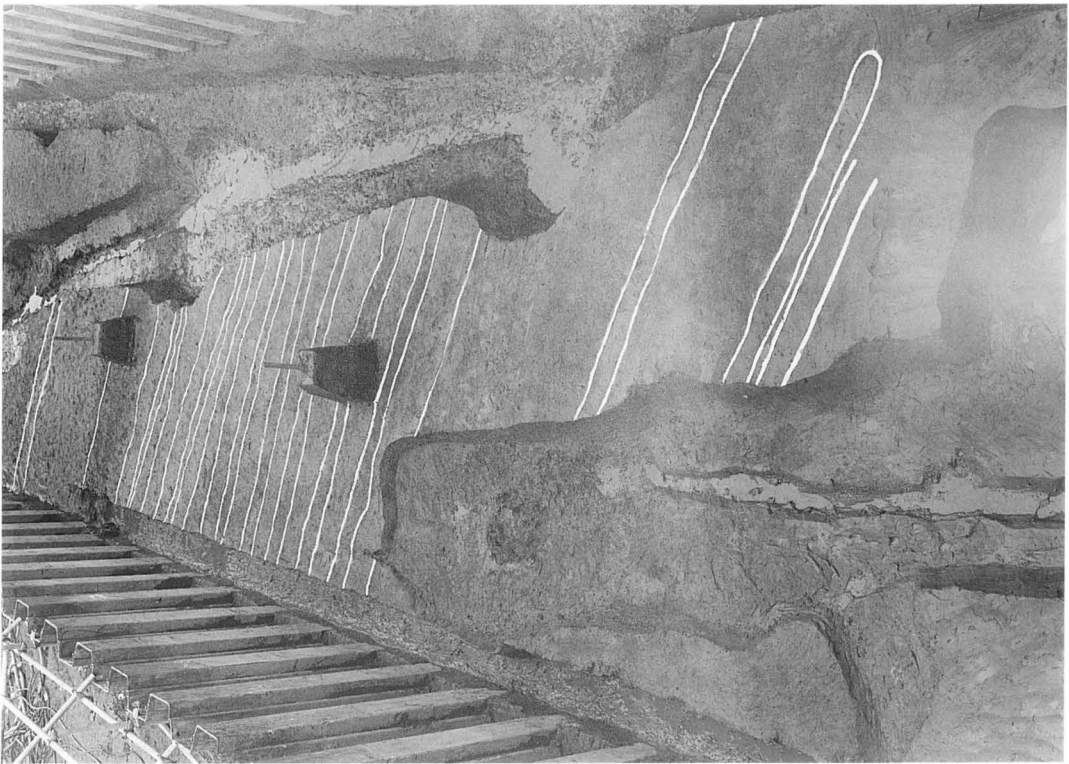
D-11地区 土坑3



D-11地区 土坑3



A～D地区 鋤跡



B～D地区 鋤跡

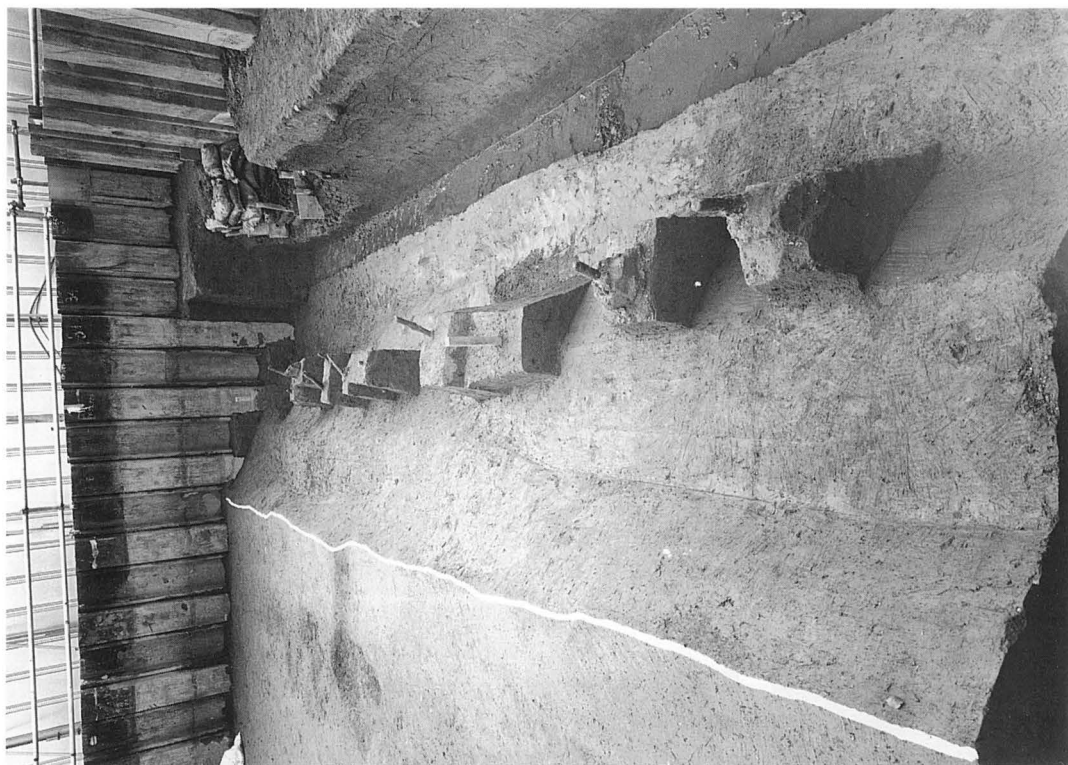
図版五〇 鬼虎川遺跡第32次調査 遺構



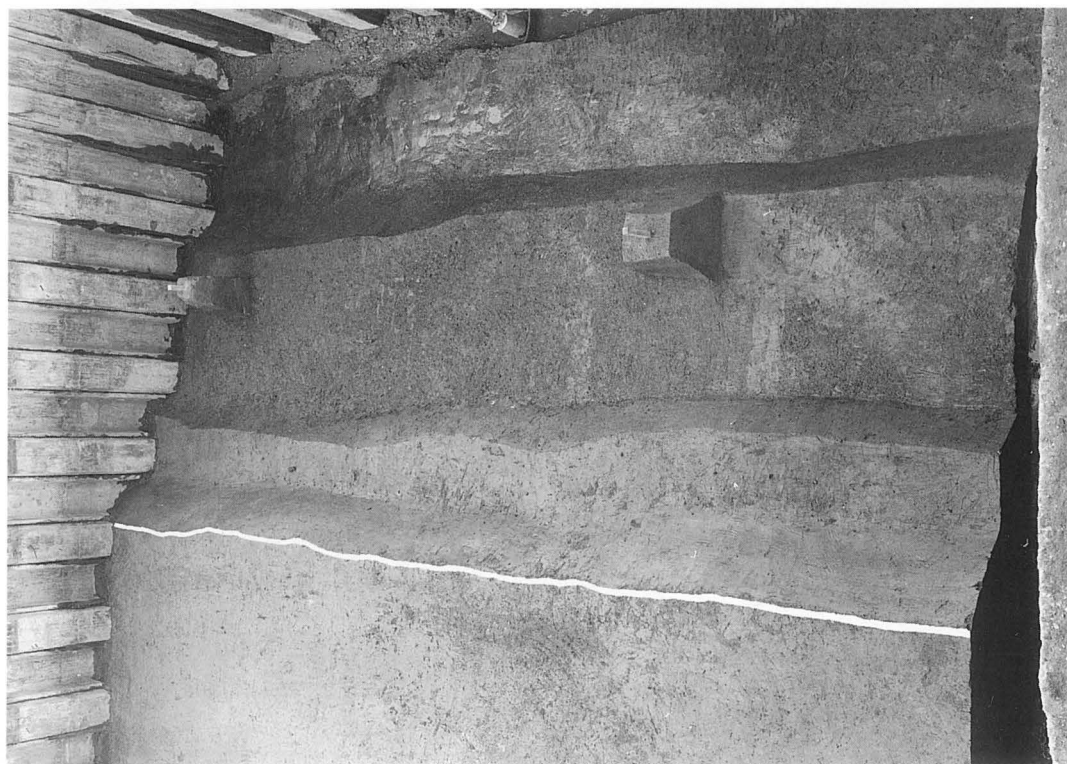
A-1~3地区 水路 第1期



A-1~3地区 水路 第2期



A-1~3地区 水路 第2期



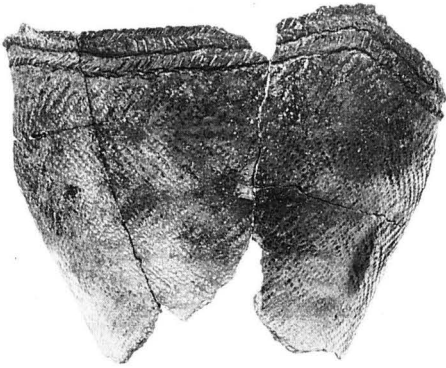
A-1~3地区 水路 第3期



2



2'



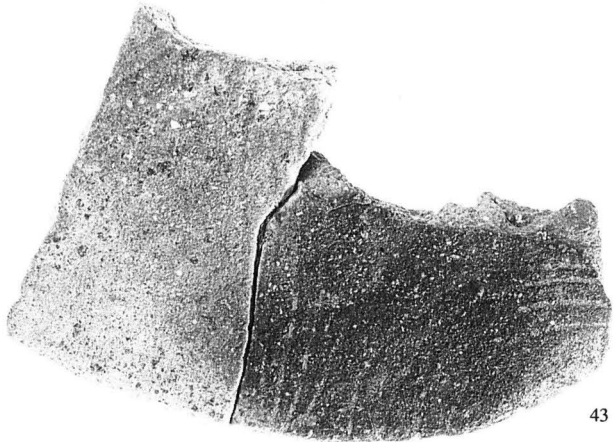
1



187



29

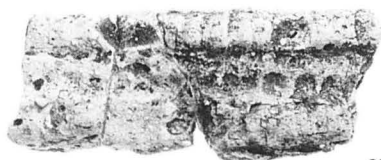


43

第17層出土(1・2) 縄文土器、溝100出土(43)、第6 a層出土(29)、E-6地区出土(187) 弥生土器



13



20



14



9



7



8



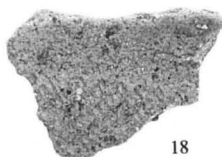
10



11



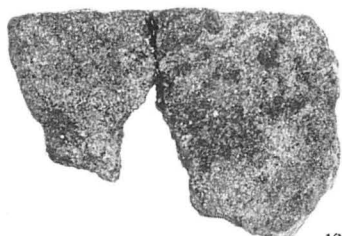
16



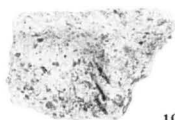
18



15



12



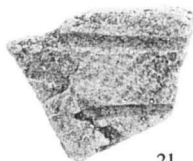
19



24



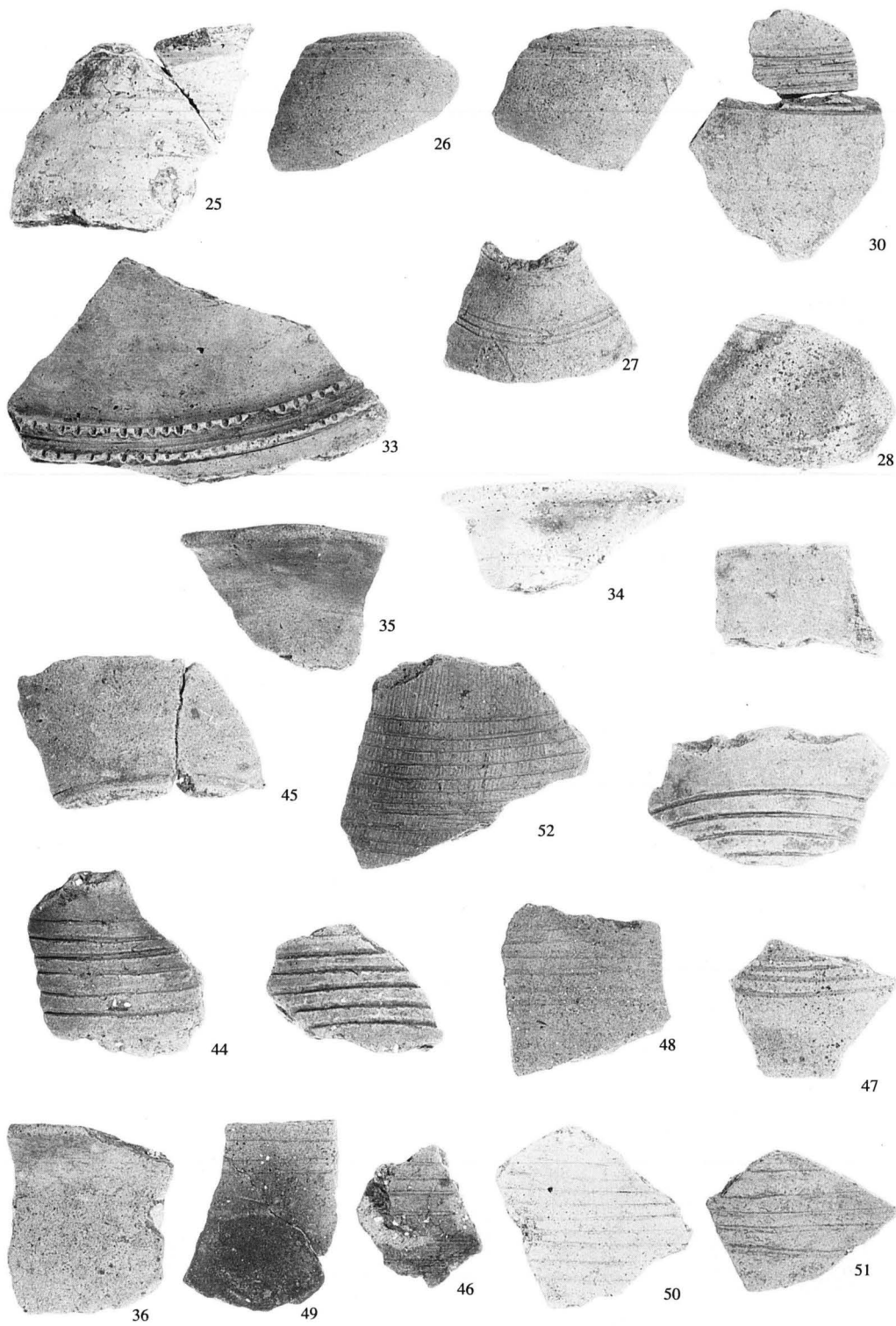
23



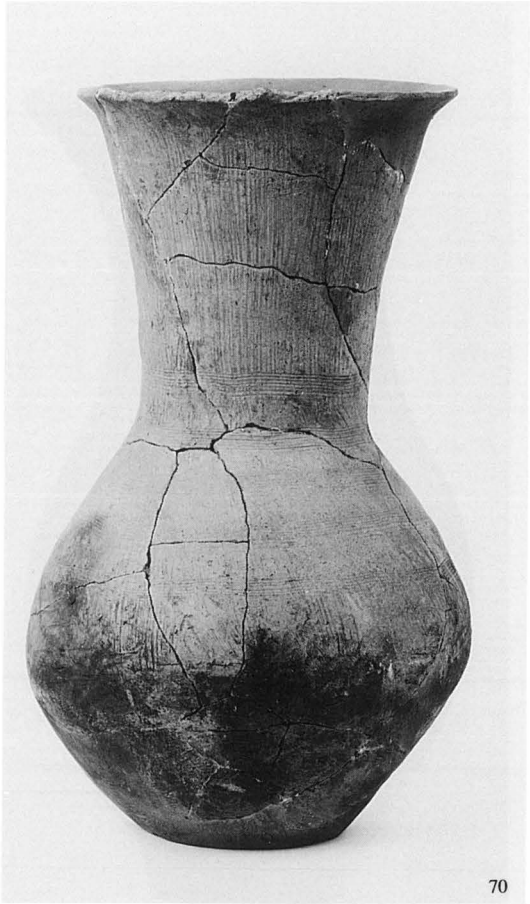
21



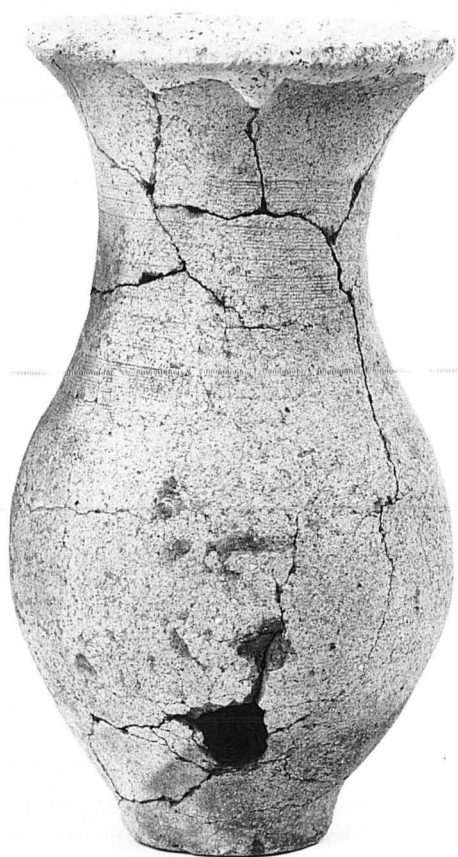
22



第6~12層出土 弥生時代前期土器



溝95出土(58)、溝98出土(70)、第5号方形周溝墓周溝内出土(75)、A-10・B-2地区出土(167)
弥生土器



85



73



64

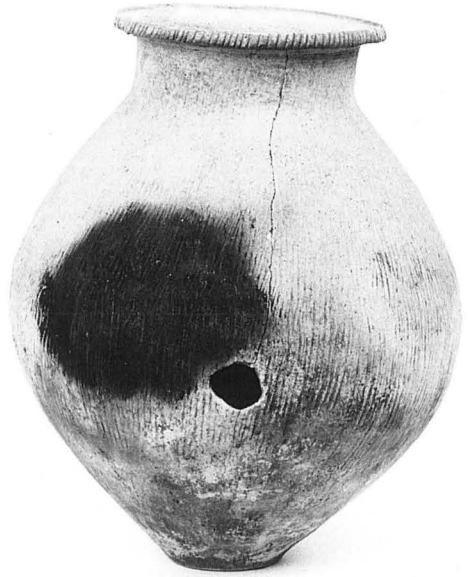


72

第7号方形周溝墓周溝内出土 (85)、第20号方形周溝墓出土 (73)、溝 (96) 出土 (64)、溝98出土 (72) 弥生土器



105



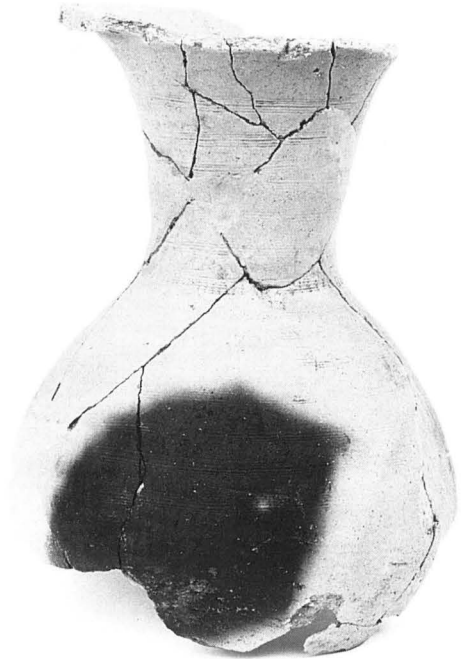
109



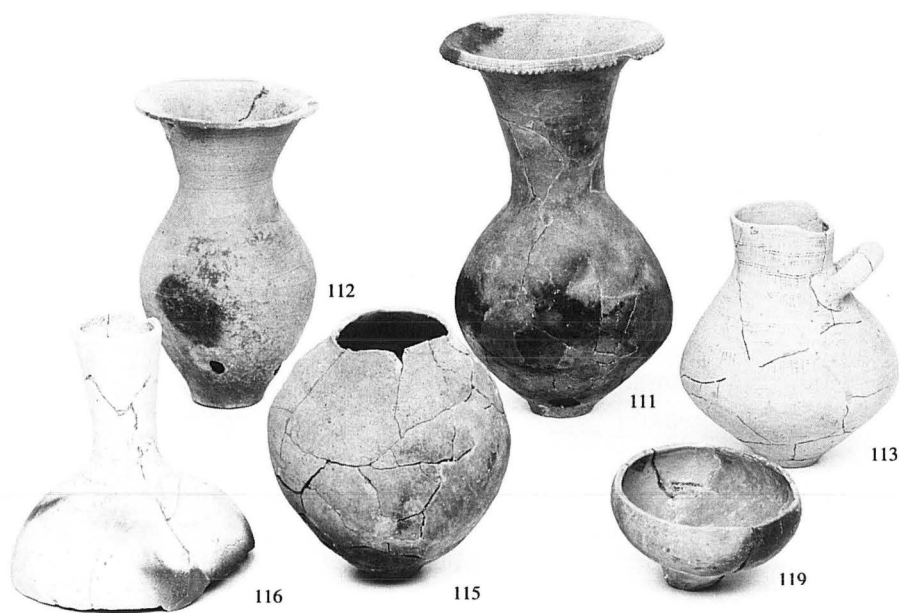
106



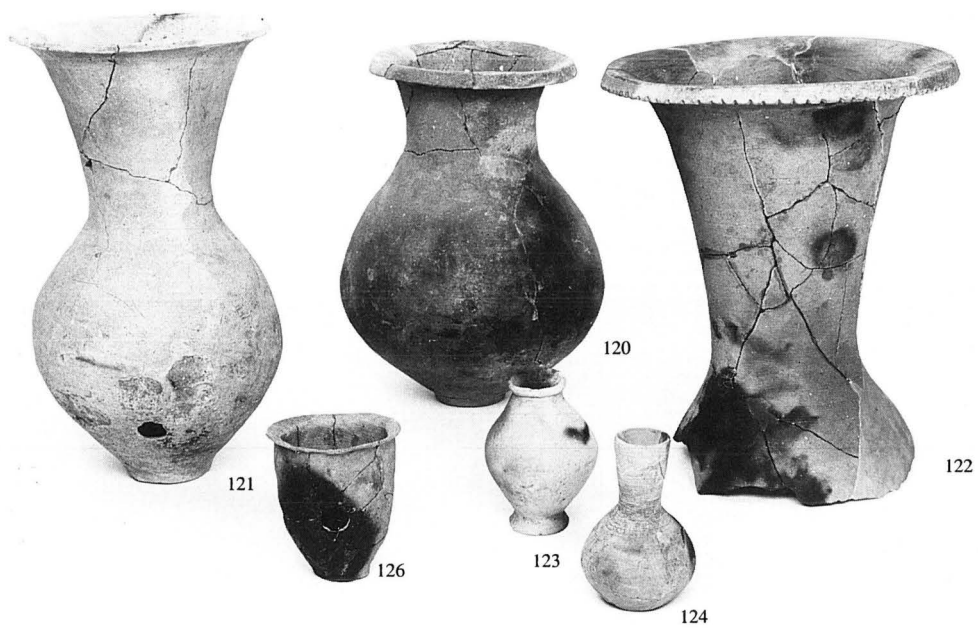
114



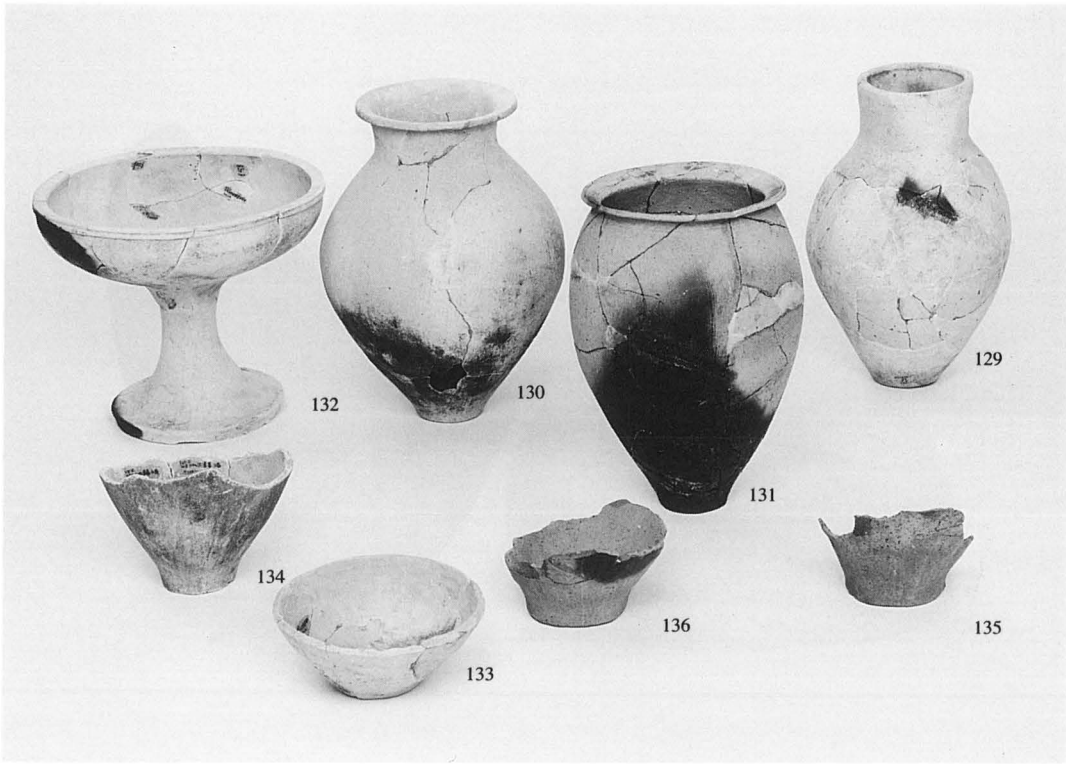
108



第25号方形周溝墓北側周溝内出土 弥生土器



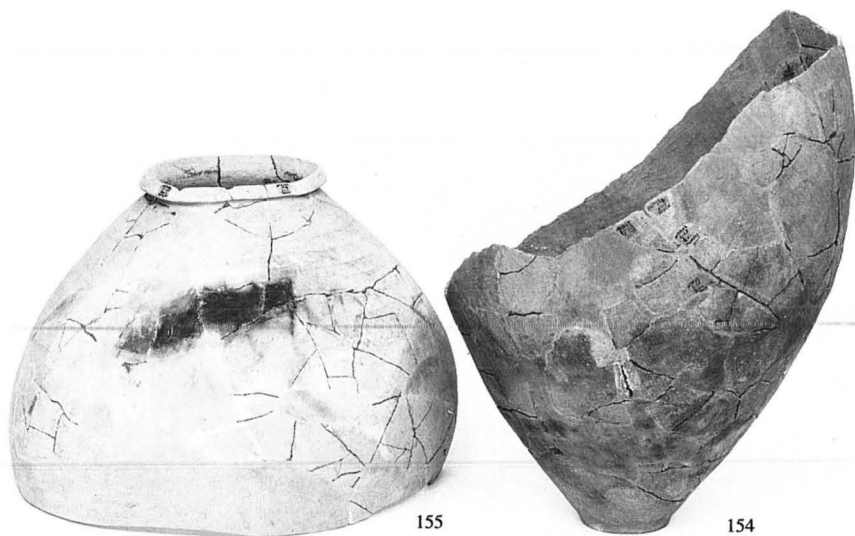
第25号方形周溝墓東側墳丘内地区出土 弥生土器



第26号方形周溝墓出土 弥生土器



D-3地区第8層出土(180)、C-10・D-6地区出土(127) 弥生土器



C-1・5地区出土 第1号土器棺の身(154)、蓋(155)



D-8地区出土 第2号土器棺の身(156)、蓋(157・158)、共伴土器(159)



161



102



166



142



160

A-6地区第7層出土(161)、A-10地区第6層出土(166)、第27号方形周溝墓出土(142)、
C-5地区第8層出土(102)、A-6・7・10・11地区出土(160) 弥生土器



172



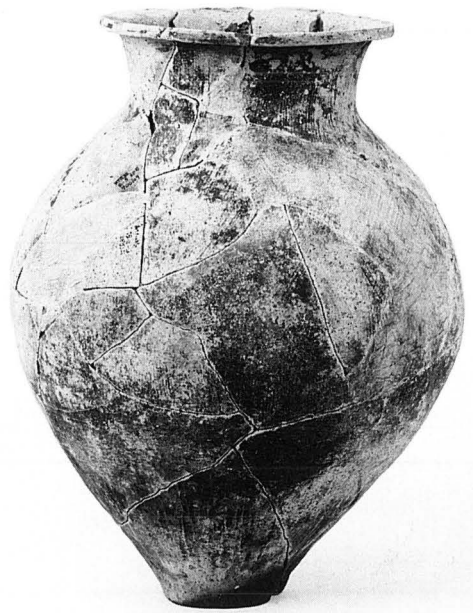
197



175



174



199

土壙墓3出土(172)、土坑出土(174・175)、C-2地区出土(197)、E-6地区第8層出土(199) 弥生土器



204



205



201



203

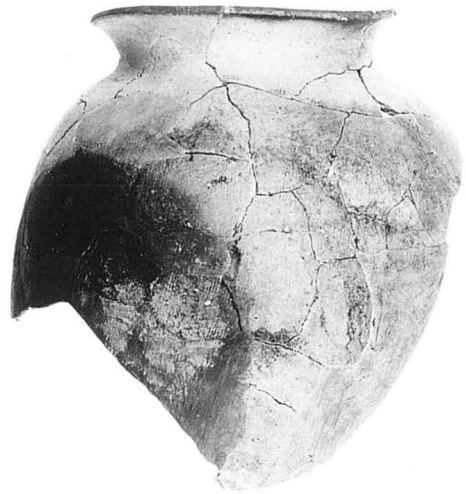


202

C-10地区土坑1出土 土師器



206



222

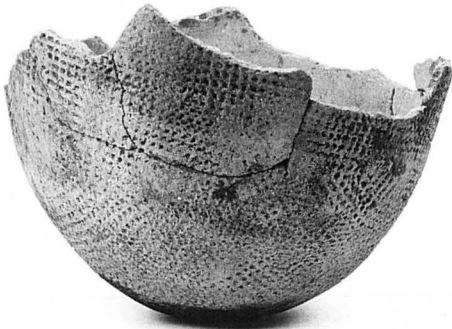
C-7地区出土(206) 土師器、E-6地区6d層出土(222) 韓式系土器



220



212



217



224



223



211

E-2地区第6d層出土(220)、D-11地区第6層出土(211) 土師器、土坑3出土(217)、
D-12地区第6層出土(212)、E-6地区出土(222)、E-3地区第6a層出土(223) 韓式系土器



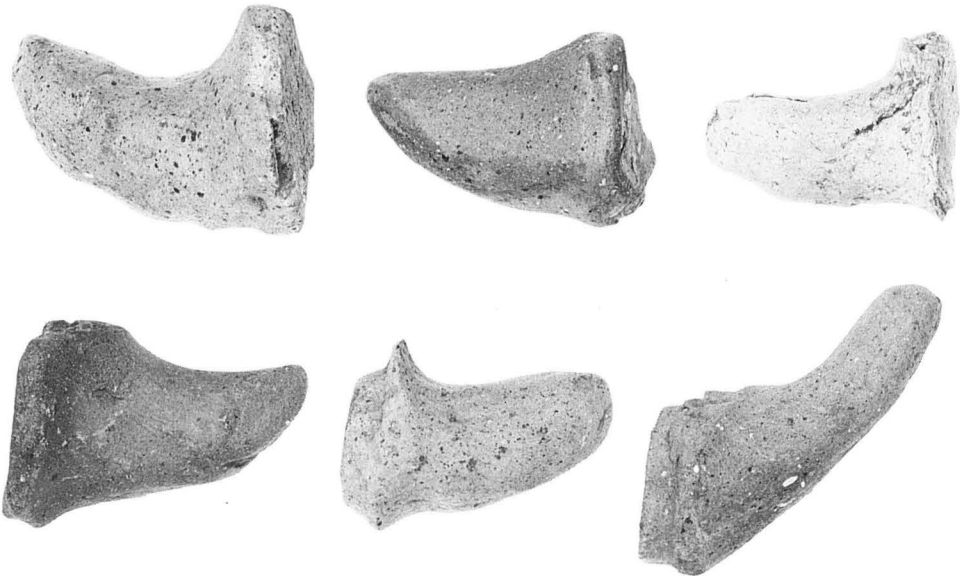
221



225

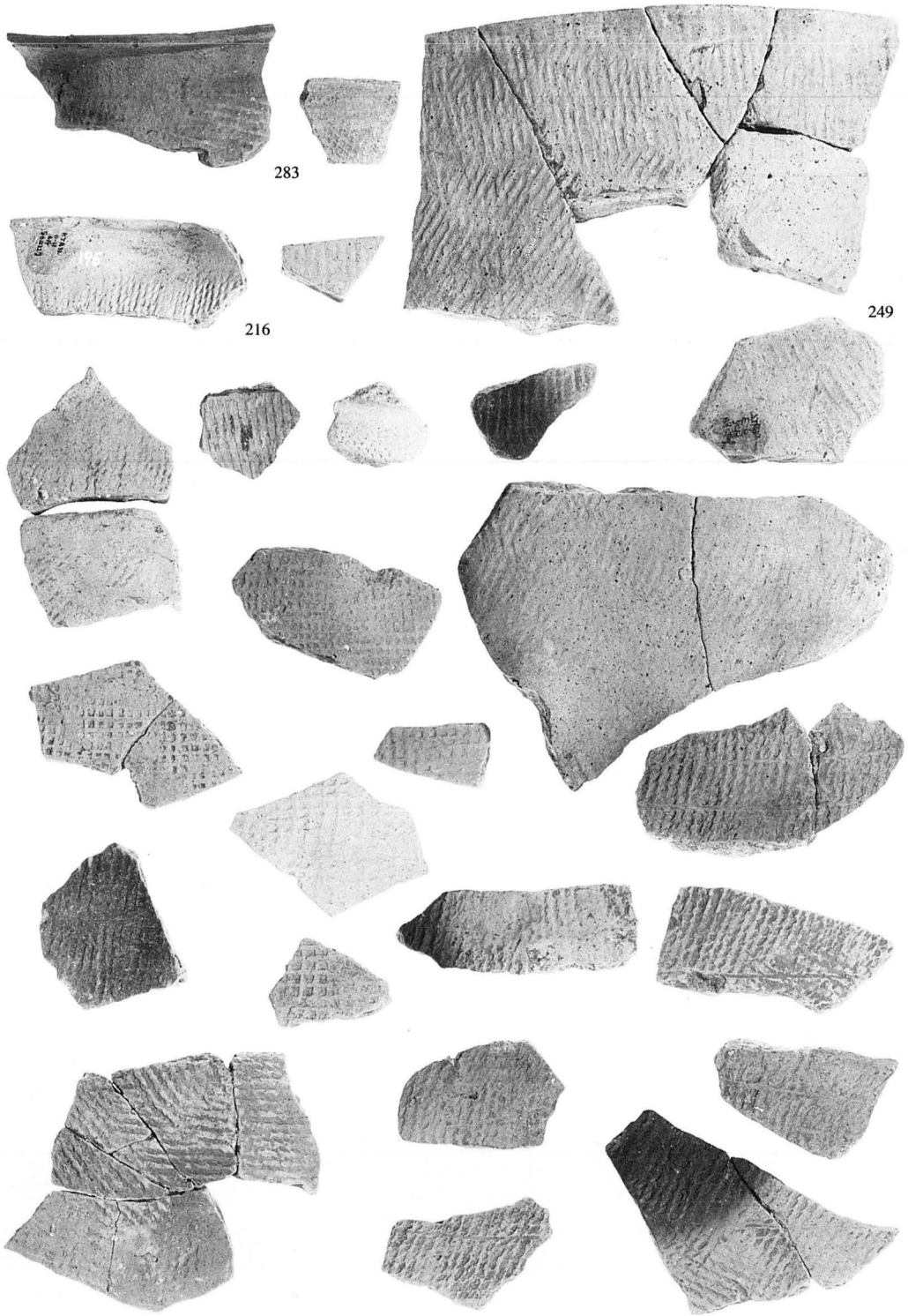


207

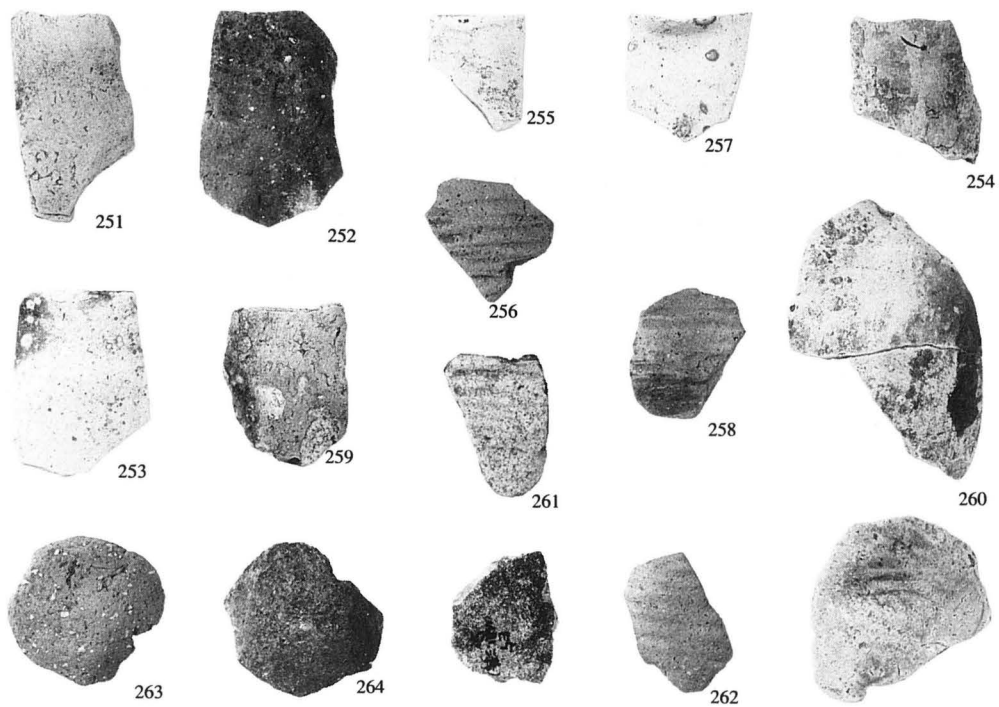


E-11地区第6層出土(221) 韓式系土器、C-11・12地区第5層出土(207)、包含層出土(225) 須恵器、D・E地区第4~6層出土 把手

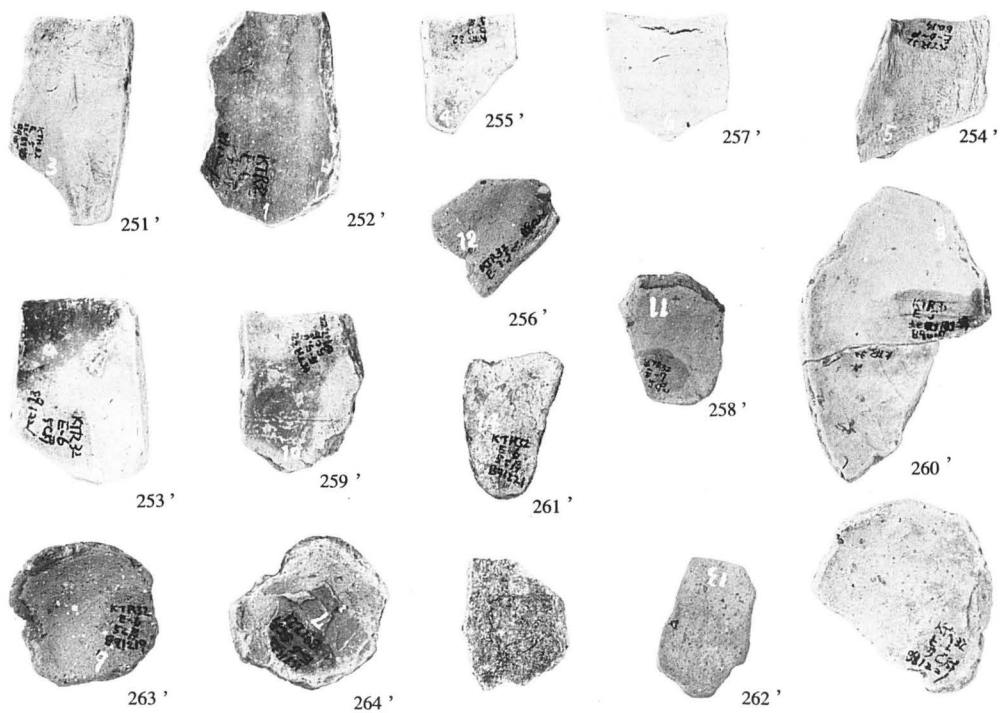
図版六六 鬼虎川遺跡第32次調査 遺物



E地区第5・6層出土 韓式系土器

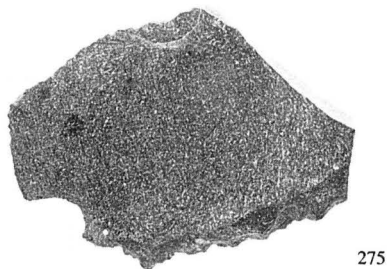
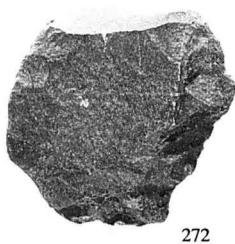
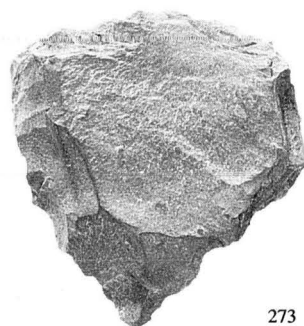
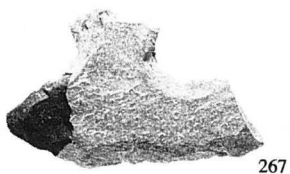


D・E地区第5層出土 製塩土器外面



D・E地区第5層出土 製塩土器内面

図版六八 鬼虎川遺跡第32次調査 遺物



各地区出土 打製石器表面



267'



269'



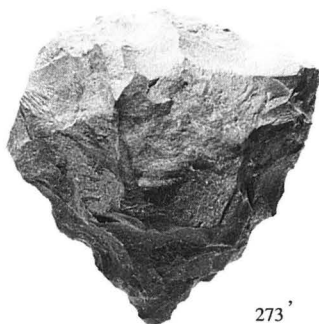
268'



270'



274'



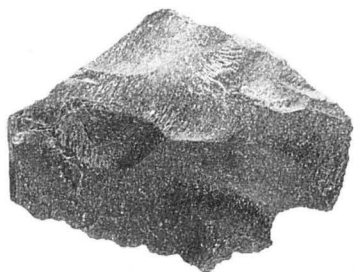
273'



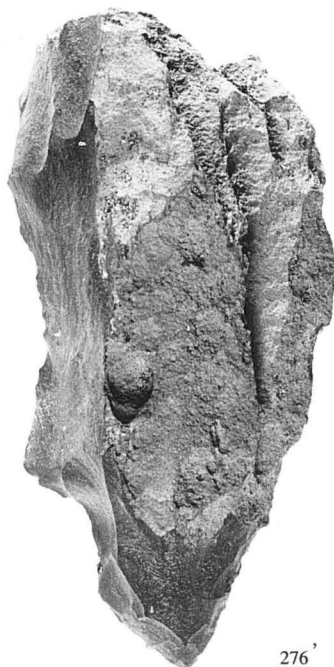
271'



272'



275'



276'

西ノ辻遺跡第27次・鬼虎川遺跡第32次発掘調査報告書
1994.3.31

発行 財団法人 東大阪市文化財協会
東大阪市荒川3丁目28-21 06-736-0346
印刷 (株)近畿印刷センター